

文部科学省 採択事業

『確かな学力の育成に係る実践的調査研究』

言語活動を重視した

**課題解決能力の獲得を可能とする
プロジェクト学習とポートフォリオ**

による授業の実践事例の調査研究及び

教員研修プログラムの開発

コーチング指導による「コンピテンシー育成」を目指して

報 告 書

2011年3月

シンクタンク未来教育ビジョン

はじめに



～「意志ある学び」のために～

未来教育-プロジェクト学習は、「意志ある学び」を理念とし、子どもたちが“自ら課題を発見し、目標へ向かい情報を集め、自分の考えを他者に伝えていく”ことで、課題解決していく力が身につく、新しい教育手法です。

ポートフォリオは、自らの目標への軌跡を一元化し、思考プロセスを可視化できるファイルであり、自分で自分を成長させることを叶えるツールです。

「意志ある学び」を叶える手法として、このプロジェクト学習とポートフォリオを全国の学校へ提唱、指導し続け、10年以上が経ちました。

現在、いくつかの学校や地域では継続的に実践され、新しい学力、コンピテンシー育成へ効果をあげています。

小学校においては平成23年度から、中学校においては平成24年度から新学習指導要領が全面実施となります。今回の改訂では、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスが重視され、言語活動を充実させることとされています。

そのためにプロジェクト学習やポートフォリオの導入を検討している教師たちのために、今回、文部科学省「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」採択事業として各地の学校や教育委員会と連携しつつ、

1. ポートフォリオ、プロジェクト学習の実践事例の収集と共有
 2. 全国7カ所におけるコンピテンシー育成への試行的教員研修の実施
 3. 汎用性のある教員研修プログラムの開発
 4. 各教科等で言語活動のクオリティをあげるコーチングカード等の開発
- の4つを実施しました。

今回の成果が、子どもたちに自らの目標や夢を叶える力を身につけてほしいと願っている全国の教師たちに役立つことを願っています。

新しい時代を生きる力は、現実と対峙する意志ある学びにこそ芽吹くことでしょう。

平成23年3月

シンクタンク未来教育ビジョン

代表 鈴木 敏 恵

目 次

報告書の全体俯瞰図	1
I. ポートフォリオとプロジェクト学習について	3
i) ポートフォリオとプロジェクト学習とは	
ii) ポートフォリオとプロジェクト学習の実践事例一覧	
iii) ポートフォリオとプロジェクト学習のこれまでの成果	
II. 各教科等で言語活動の質をあげるコーチングシートの開発	23
III. 新学習指導要領に対応する『教員研修プログラム』 PISA 型学力ー思考力・表現力・活用力の育成へ	39
IV. コンピテンシー育成への試行的教育研修の実施	55
i) 試行的教員研修の意義	
ii) 教員研修リスト	
iii) ワークショップ手法による「教員研修」の基本展開と結果	
iv) 教員研修実施後の考察と評価	
V. プロジェクト学習手法による授業の実践事例の報告 岐阜県瑞穂市立西小学校の指導計画書	103

【参考資料】

1. ポートフォリオとプロジェクト学習の実践事例
2. 試行的教員研修会の配布資料
3. 各会場の運営担当者とファシリテーターからの報告

シンクタンク未来教育ビジョンメンバーとネットワークメンバー

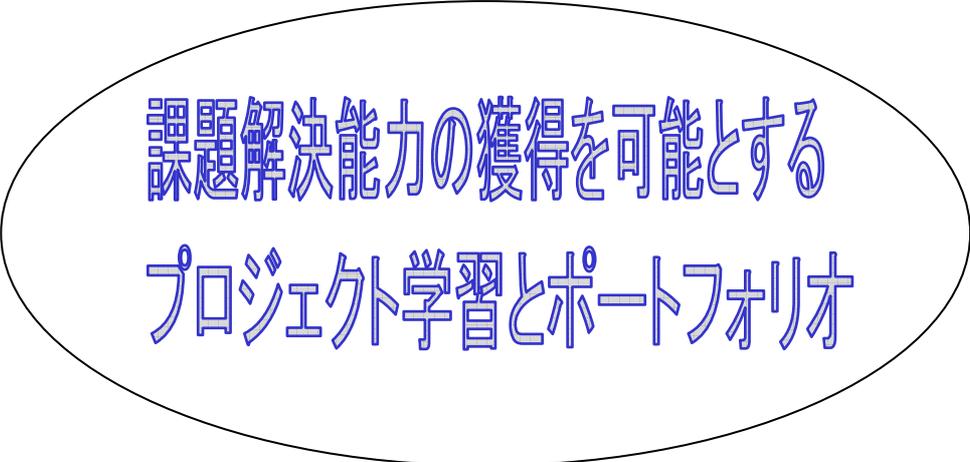
当報告書の第 I ～ III 章の内容は、鈴木敏恵の以下、著作物より抜粋しています。

- ・『ポートフォリオ評価とコーチング手法』医学書院
- ・『言語活動を高めるコーチングー思考力・表現力・活用力（仮）』
- ・『新しい学力／コンピテンシーを叶えるプロジェクト学習
～PISA型学力向上に有効な教育手法（仮）』
- ・『実践力と課題解決力を実現する!ポートフォリオとプロジェクト学習』医学書院
- ・『これじゃいけなかったの!?総合的な学習』学習研究社
- ・『未来教育ポートフォリオ解説書(全3巻)』教育同人社

報告書の全体俯瞰図

I. ポートフォリオとプロジェクト学習について

II. 各教科等で言語活動の質を上げるコーチングシートの開発



課題解決能力の獲得を可能とする
プロジェクト学習とポートフォリオ

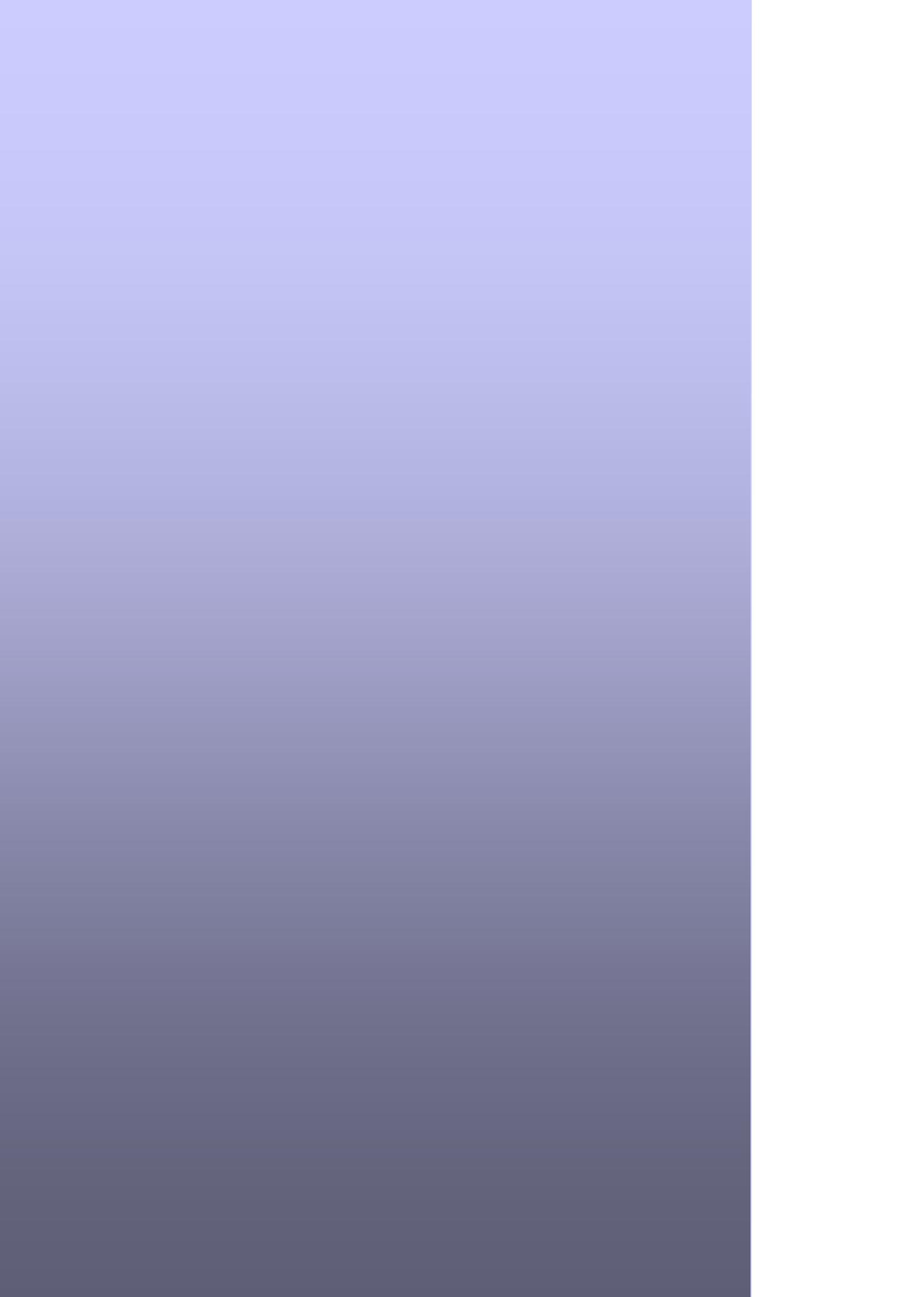
III. 新学習指導要領に対応する『教員研修プログラム』

IV. コピテツク育成への試行的教員研修の実施

V. プロジェクト学習手法による授業の実践事例の報告

参 考 資 料

第 I 章 ポートフォリオとプロジェクト学習について



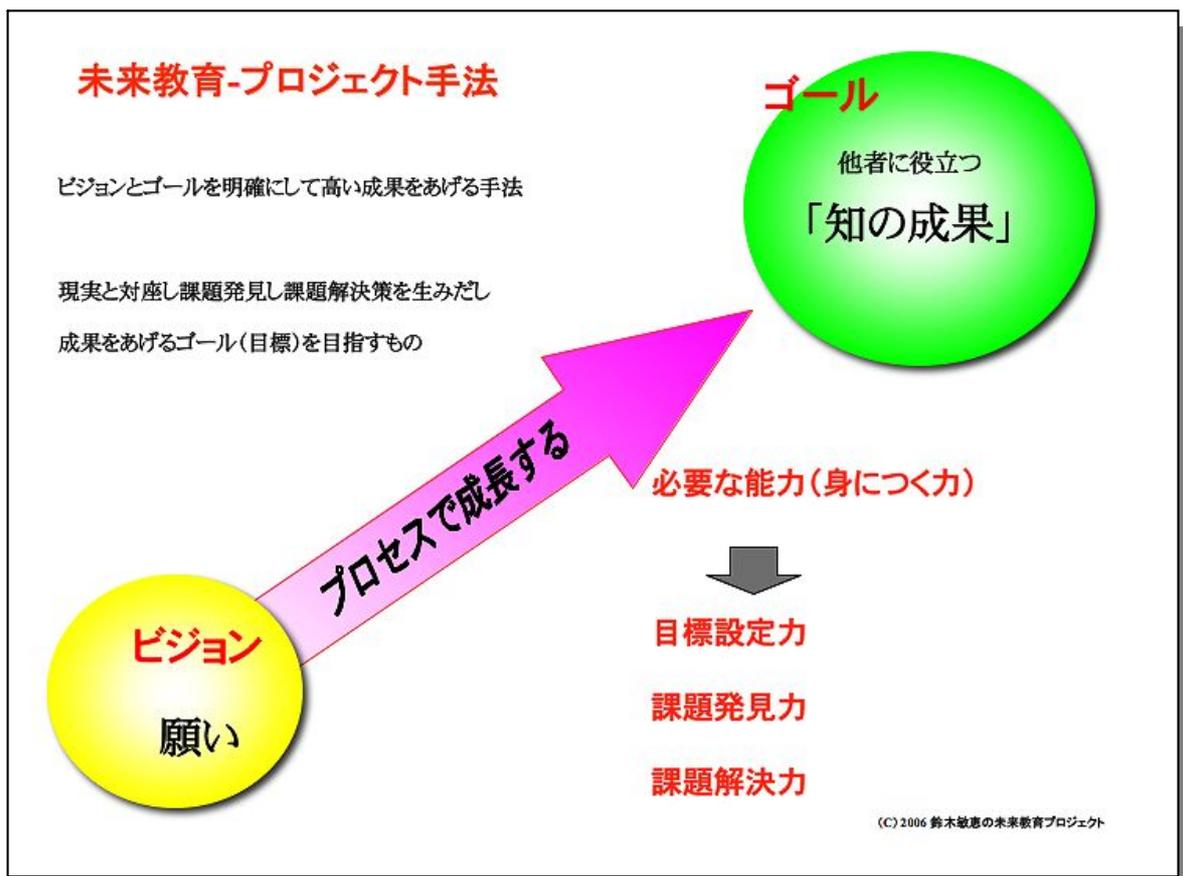
第 章 ポートフォリオとプロジェクト学習について

）ポートフォリオとプロジェクト学習とは

未来教育の価値—知の成果物

未来教育とは意志ある学びを哲学とし、プロジェクトの考え方やセオリーを学習に取り入れたものです。ビジョン（何のために）とゴール（何をやり遂げたいのか）を明確にして、常に意識しながら向かいます。プロジェクト学習は、意志ある学びを叶える新しい教育手法のプラットフォームとして教育界、医療界、自治体などの課題解決力の人材育成や目標実現手法として広く実践されています。

最後に、発表やプレゼンテーションで终えずに、これまでの活動や情報を一元化したファイル＝「元ポートフォリオ」を再構築して他者に役立つ「知の成果物」を生み上げます。それは提案書やガイドブックのように実際に他者へ活きるものです。「他者の役に立つ成果物」を学習の成果として作成する経験で、根拠ある情報を生かし「知」を構築する力を高めます。さらに他者の役に立つ成果物なので、学習者は意志を胸に、モチベーションをもってゴールへ向かっていくことを叶えます。

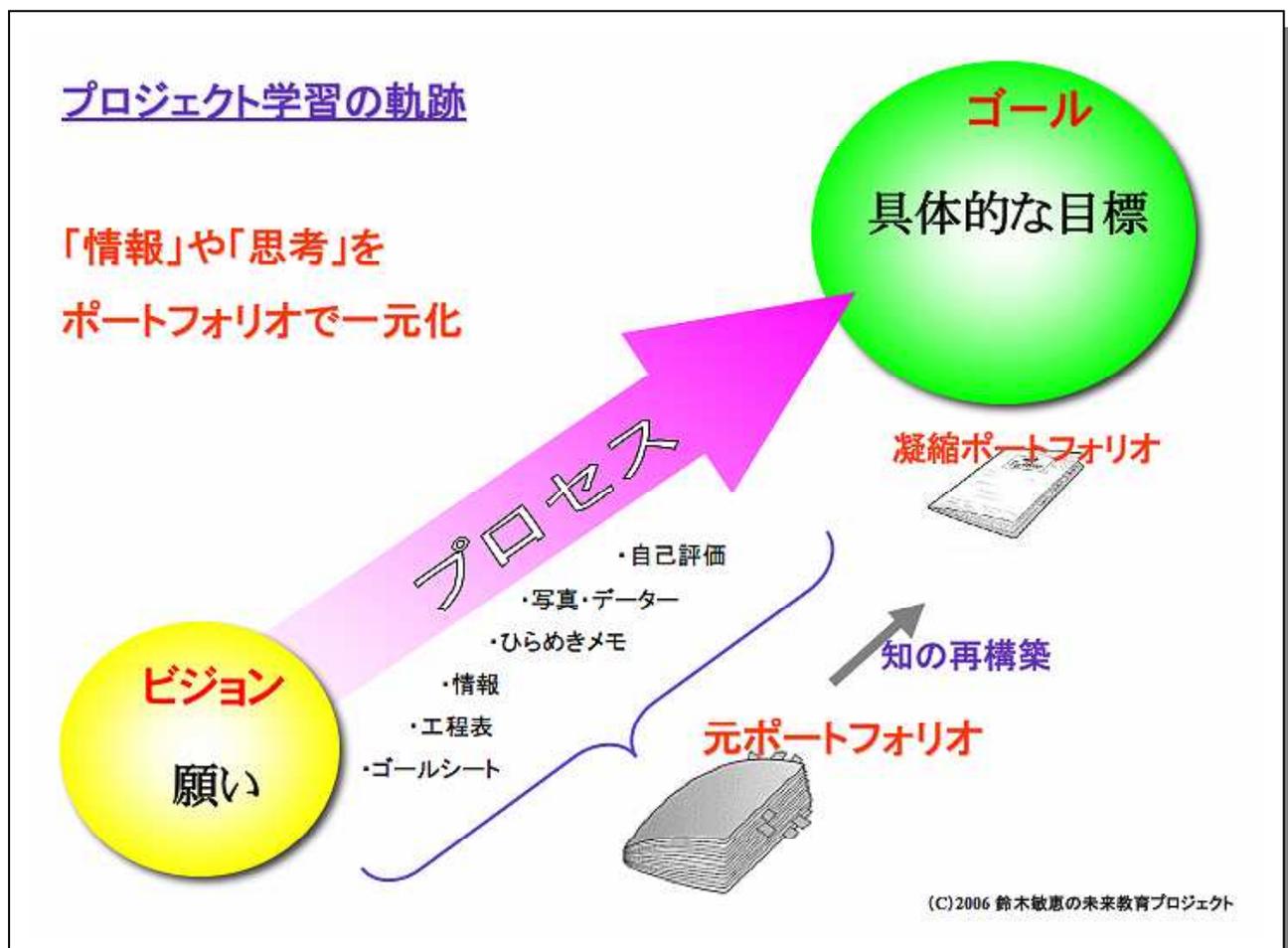


■ ポートフォリオとプロジェクト学習の関係

プロジェクト学習はポートフォリオと両輪で意志ある学びを果たします。学習者はゴールへ向かうプロセスでうまれたものや手に入れたものなど学習の軌跡をポートフォリオファイルに一元化していきます。ゴールシート(目標を書いた紙)やインターネットから得た情報、自分が考えた課題解決策などなどです。それらを散逸することなくポートフォリオにどんどん入れながらゴールへ向かうのです。

目標に至る軌跡が一元化されたポートフォリオが存在すること俯瞰しながら戦略的に進めることができます、それはクオリティの高い目標達成を叶えます。

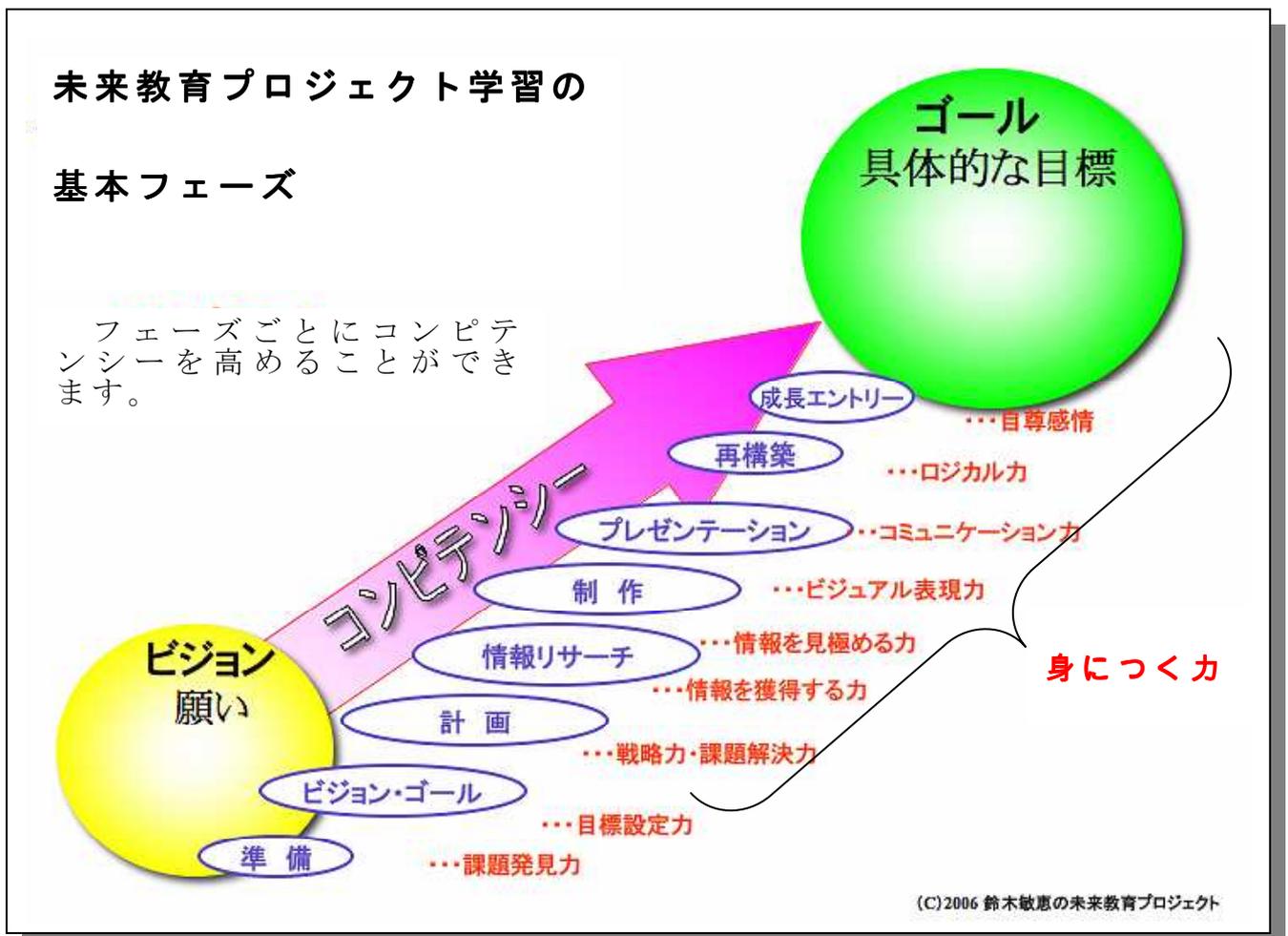
ポートフォリオで目標への進捗が見えることも果たします、またやりっぱなしで終えず最後に確実な成果(凝縮ポートフォリオ)を生むことができます。ポートフォリオには、課題発見から課題解決までが時系列で入っていますので思考プロセスを可視化することもできます。



■ プロジェクト学習の「基本フェーズ」と「身につく力」

未来教育プロジェクト学習は、ゴールに至るプロセスに明快なフェーズをもっています。「準備」「ビジョン・ゴール」「計画」「情報リサーチ」「制作」「プレゼンテーション」「成長エントリー」というフェーズの一つひとつで、新しい学力ともいえるコンピテンシーを習得することができます。

各フェーズでは、「準備」では目の前の現実から課題を見いだす力（課題発見力）、「ビジョン・ゴール」では、自分の目標を決めることができる設定力、「計画」では目標到達を叶える戦略力、「情報リサーチ」では情報を見極め獲得できる力と、その情報をもとに自ら考え、課題を解決する力、「制作」「プレゼンテーション」では多様なメディアで表現する力とコミュニケーション力、そして「成長エントリー」では自らの成長を自覚することとなり、自尊感情も高まります。



プロジェクト手法による-課題発見と課題解決の手順-

準備

1. その題材を意識する

↓

ビジョン
ゴール

2. 「課題」が浮上する

↓ 「課題」=○○は問題だ

3. 「課題」をビジョンとゴールに昇華させる

↓ 「目的(ビジョン)」=○○にしよう

「目標(ゴール)」=○○を提案する!

計画

4. 目標到達の戦略を考える

↓ どのような情報を獲得する必要があるか

5. 「課題解決」に必要な「原因究明」のための情報獲得する

原因を明確化して解決への探りを得る

《一般情報》を集める

・基本知識、類似事例、過去事例など得る

《固有情報》を獲得する

・なぜそれが起きるのか現場を観察する

《反応情報》行動して情報を獲得する

・対応しながら情報を得る

情報リサーチ

6. ポートフォリオにいった情報を俯瞰する

↓ ・獲得知を総合化する→「課題」の解決策が見えてくる

7. 課題解決策-アイデアをすべて出し切る(拡散)

↓ ・可視化、多面的、こうしてみたら、ああいうことも

8. 課題解決策-具体性ある策に絞り込む(収束)

↓ ・その状況下で出来る最も有効な解決策を決める

10. 課題解決策をプレゼンテーションする

↓ ・方法、エビデンスを添える

制作

11. 課題解決策を伝える提案書を作成する

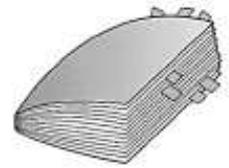
↓ ・プロジェクトの成果物「凝縮ポートフォリオ」

プレゼン

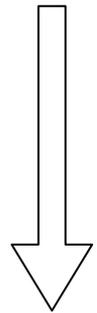
12. 成長確認(自己評価.他者評価)

・能力、考え方、スキル等

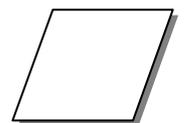
成長確認



元ポートフォリオ



凝縮ポートフォリオ



成長エントリー

■ 「ポートフォリオ」で思考プロセスが見える

ポートフォリオ (portfolio) を辞書で引けば、「紙ばさみ、書類鞆、あるいは作品集」とあります。そこに共通しているのは、バラバラの情報を一元化するもの (こと=概念) です。情報は一元化すると「価値」を生じます。

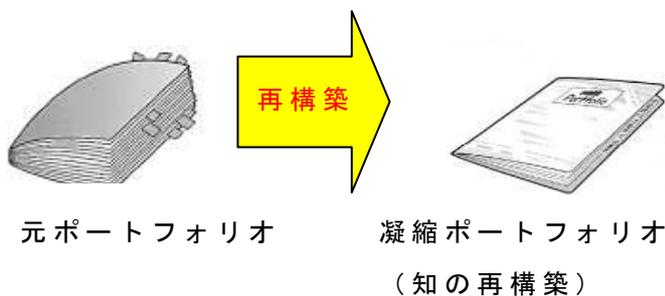
例えば、建築家やカメラマンなどがもっている作品集には、これまでの成果や実績、やってきたことがわかる写真や資料などが入っていますので、それを見ればその人の能力やセンス、個性、考え方などがあらわれます。

そこに、作品スケッチの習作や原案の下書きなども入っていれば、どんな考え方の変化で今日の作品へとたどり着いたのか、その思考プロセスも見ることができます。

■ ポートフォリオで「知の再構築」

プロジェクトの最後に「元ポートフォリオ」を再構築して「凝縮ポートフォリオ」をつくります。

そのとき、「情報の取捨選択力」「考えを論理的にまとめる力」「図、グラフ、ビジュアル文章などで思考を表現する力」などが身につきます。



< 再構築の3条件 >

1. 自分自身の考えであること
2. 根拠ある情報と概念図を含むこと
3. 現実に、こうすれば実行できるという「具体的な提案」であること

◆ 凝縮ポートフォリオ=他者に役立つ「成果物」

プレゼンテーションで終えず、最後に「他者へ役立つアウトカム」を生み出すということが未来教育の理念であり最も特徴的な点です。それは例えば、「防災ガイドブック」や「健康への具体的提案集」「こうすればものを大切に使いきれぬアイデア集」など提案型のアウトカムです。

人は他者のために働くとき、使命感や責任感を立ち上げ、成長します。

子どもたちも学習の成果として、貢献性のあるアウトカムを生むとき、高い知性や共感性を立ち上げ、能力も人間性も成長します。

■ ポートフォリオの効果と価値

ポートフォリオの効果は、資料の記録や保存にとどまるものではなく、これまでしてきたことを未来に活かす機能を持ち、学習や仕事の成果を上げるだけでなくより高い成長に役立ちます。

ポートフォリオはプロセスの可視化を叶えます。その人のコンピテンシーや人柄なども見出すことができます。

仕事や学習をしていく中で、日々の考えや獲得した情報などをポートフォリオに入れ、俯瞰しながら目標へ向かうことでよりクオリティの高いアウトカムを生むことができます。

これらの機能を活かすことで、人材育成、目標管理、知の共有などに役立ちます。

<ポートフォリオが果たす効果>

- | | |
|------|---|
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none">○ 確実な目標達成をかなえる○ クオリティの高い成果を生み出せる |
| 評 価 | <ul style="list-style-type: none">○ 自己評価、多面的評価がかなう○ プロセスが見え具体的な評価や支援ができる○ 数値化できないコンピテンシー評価が可能 |
| 俯 瞰 | <ul style="list-style-type: none">○ 自分がしていることや学び全体を俯瞰できる○ 自分の成果や成長を客観的に見ることができる○ 全体をみる意識が身につき翻弄されない己をもてる |
| 可視化 | <ul style="list-style-type: none">○ 課題発見から課題解決の思考プロセスが可視化できる○ 「思考特性」や「行動特性」を見出すことができる○ 「知」を共有し「全体知・統合知」にできる |
| 再構築 | <ul style="list-style-type: none">○ やりっ放しで終えず、確実にアウトカムを生める○ 部分知を全体知にでき、「知」の体系化ができる |
| 自己認識 | <ul style="list-style-type: none">○ 自己管理、自尊感情、自己肯定感に有効○ 自分のビジョンを相手に伝えることができる。 |

ii) ポートフォリオとプロジェクト学習の実践事例一覧

全国各地で実施されている、未来教育プロジェクト学習（プロジェクト学習、ポートフォリオ活用の手法で）の実践事例をできる限り一元化しました。未来教育プロジェクト学習の大きな特徴でもある「凝縮ポートフォリオ」の写真を添えました。

これからスタートしたい先生たちが自分の学校や子どもたちの状況にあった「題材」を考えやすいように以下のような多様な題材に分類して一覧できるようにしました。

A:防災	B:食	C:健康・体
D:環境	E:地域	F:伝統・文化
G:情報・メディア	H:国際	I:福祉
J:キャリア(仕事)	K:施設・建築	L:生活・暮らし
M:教科	N:その他	

なお上の一覧リストの一部情報に関しては、以下の URL で公開しています。

<http://pbl21.heteml.jp/vision/>

この他にも、ポートフォリオとプロジェクト学習実践事例フォーマットに沿って、実践者に記入を依頼したものを「参考資料」に含めました。

ポートフォリオとプロジェクト学習の実践事例一覧表

題材 A:防災、 B:食、 C:健康・体、 D:環境、 E:地域、 F:伝統・文化、 G:情報・メディア、 H:国際、 I:福祉、 J:キャリア(仕事)、 K:施設・建築、 L:生活・暮らし、 M:教科、 N:その他

2001年度～現在
までの実施実績

番号	題材	プロジェクト名	凝縮ポートフォリオ(提案集)の表紙写真	学校・学年	関連教科等
A-01	防災	集中豪雨のとき、こうすれば助かる！ プロジェクト		多賀小学校6年	国語、社会、生活、総合
A-02	防災	一中防災ハンドブック		茅ヶ崎市立第一中学校1年	国語、社会、生活、総合
A-03	防災	防災ハンドブック		箱根明星中学校3年	国語、社会、生活、総合
A-04	防災	こうすれば助かる！地震対策アイデア集 6		華陽小学校6年	国語、社会、生活、総合
A-05	防災	今すぐ実行！！地震対策提案集		西小学校5年	国語、社会、生活、総合
A-06	防災	大地震対策アイデア集		新河岸小学校6年	国語、社会、生活、総合
A-07	防災	地震対策パンフレット集		西小学校5年	国語、社会、生活、総合
A-08	防災	災害につよい岐阜をつくろう 防災提案集		梅林小学校3年	国語、社会、生活、総合
A-09	防災	いぶき野地震対策ハンドブック		いぶき野小学校6年	国語、社会、生活、総合

A-10	防災	志村を災害に強い町にしよう 子どもたちからの提案		志村小学校5年	国語、社会、 生活、総合
A-11	防災	『とび出せ！くらし守り隊』 防災アイデア集		三保小学校4年	国語、社会、 生活、総合
A-12	防災	大津を災害に強いまちにしたい		大津小学校6年	国語、社会、 生活、総合
A-13	防災	災害につよい岐阜をつくろう 防災提案集		梅林中学校3年	国語、社会、 生活、総合
A-14	防災	あなたにも役立つ地震対策知恵集		小松小学校6年	国語、社会、 生活、総合
A-15	防災	みんなが助かる 地震対策提案集		大町小学校6年	国語、社会、 生活、総合
B-01	食	生活発見プロジェクト 楽しく食べる 10年計画 ～食べ物をえらんで 作れる自分になろう～		下山門小学校 3年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合
B-02	食	「食」プロジェクト 提案書		妻田小学校5年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合
B-03	食	わたしを支える食べ物 ～わたしたちと食べ物の未来を明 るくする～		愛宕小学校5年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合
B-04	食	小学生必見！健康・安心・楽しい おやつアイデア集		華陽小学校5年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合
B-05	食	食のハンドブック		麻里布小学校 4年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合

B-06	食	安全で健康な食生活を実現しよう 食生活改善レポート		梅林中学校2年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合
B-07	食	中学生からの「食」に対する提言 人々を「食」の危険から守り、健康 で安全な食生活を実現しよう！		横浜国立大学 附属中学校 2, 3年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合
B-08	食	安心して健康な食生活を実現しよう ～家族やみんなのために～		岩小学校6年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合
C-01	健康・ 体	健康によい おやつプロジェクト		加茂小学校3年	理科、国語、 生活、家庭 科、社会、総 合
C-02	健康・ 体	むし歯ゼロプロジェクト		鴨田小学校3年	総合的な学習 の時間・保健・ 国語・道徳(算 数)
C-03	健康・ 体	健康ハンドブック		加茂小学校5年	理科、国語、 家庭科、総合
C-04	健康・ 体	朝から元気でいようプロジェクト！ 「朝から元気でいられるコツ(ひみつ)」ブック		丹原小学校4年	理科、国語、 家庭科、総合
C-05	健康・ 体	体・健康プロジェクト 健康ガイドブック		入谷小学校 5, 6年	理科、国語、 家庭科、総合
C-06	健康・ 体	歯の健康について		美和小学校 3, 4年	理科、国語、 家庭科、総合
C-07	健康・ 体	みんなが健康で長生きするための 健康辞典		大川内小学校 5年	理科、国語、 家庭科、総合
C-08	健康・ 体	自分の体は自分でつくる ～わたしたちの提案25～		下山小学校4年	理科、国語、 家庭科、総合

D-01	環境	下府川の魅力PRプロジェクト		宇野小学校 4～6年	理科、国語、 家庭科、総合
D-02	環境	EM菌ビデオプロジェクト		竹岡小学校5年	理科、国語、 家庭科、総合
D-03	環境	もったいないプロジェクト		鴨田小学校4年	総合的な学習 の時間・社会 科・国語・道徳
D-04	環境	EM農法不思議発見！		竹岡小学校4年	理科、国語、 社会、総合
D-05	環境	未来につながるすごしやすい暮らし をつくるためにものを大切にできる アイデア集		瑞穂 西小学校 4年	理科、国語、 社会、総合
D-06	環境	地域の人や未来の梅中生のため の岩戸川を美しくする提案書		梅林中学校2年	理科、国語、 社会、総合
D-07	環境	環境を守るためにものを大切にで きる身近なアイデア集		西小学校4年	理科、国語、 社会、総合
D-08	環境	わたしたちの地球を守ろうプロジェ クト		東宮下小学校	理科、国語、 社会、総合
D-09	環境	相知町の田んぼ未来予想図パー フェクトブック！		田頭小学校 5年	理科、国語、 社会、総合
E-01	地域	すてきがいっぱいわたしたちの町 プロジェクト		東宮下小学校	理科、国語、 社会、総合
E-02	地域	地元の和洋菓子店をPRしよう		新居浜高専4年	数学、社会

E-03	地域	内野のお宝ガイドブック		内野小学校5年	国語・道徳・社会・総合
F-01	伝統・文化	朝霞・埼玉・日本を良くするための江戸しぐさを広めよう。「江戸しぐさ」かわら版		朝霞第七小学校6年	国語・道徳・社会・総合
F-02	伝統・文化	遊びの達人		下山門小学校3年	国語・道徳・社会・総合
F-03	伝統・文化	町切水車生き残りブック		田頭小学校4年	国語・道徳・社会・総合
F-04	伝統・文化	身近な外国の方に岐阜のよさを知ってもらおう		関養護学校3年	国語・道徳・社会・総合
F-05	伝統・文化	身近な外国の方に岐阜のよさを知ってもらおう		関養護学校2年	国語・道徳・社会・総合
F-06	伝統・文化	観光プロジェクト学習 BIT☆GUIDE 2006 箱根コース 再構築集		箱根明星中学校3年	国語・社会・総合
F-07	伝統・文化	BIT☆GUIDE 箱根コース 観光ガイドブック		箱根明星中学校3年	国語・社会・総合
F-08	伝統・文化	よりよい箱根町への提案		箱根明星中学校3年	国語・社会・総合
F-09	伝統・文化	伝えよう！『巢南のほこり』		西小学校5年	国語・社会・総合
F-10	伝統・文化	落語プロジェクト		竹岡小学校	国語・社会・総合

F-11	伝統・文化	「民話の里」の紹介にロボットを登場させて地元を活性化しよう		新居浜高専4年	数学、社会
F-12	伝統・文化	地元の民話の1場面を表すロボットモニュメントをつくりまちを活性化しよう		新居浜高専4年	数学、社会
F-13	伝統・文化	竹岡むかしばなしプロジェクト		竹岡小学校	国語
F-14	伝統・文化	ことばあそびにこにこプロジェクト		竹岡小学校	国語、社会、生活、総合
G-01	情報・メディア	テレビの見方プロジェクト		宇野小学校 3～6年	総合的な学習の時間・社会科・国語・道徳
G-02	情報・メディア	ケータイをこれから使う人が安全に便利に使えるようにする！		鈴谷小学校4年	国語・道徳・総合
G-03	情報・メディア	いろいろな教科でTwitterを活かすアイデア集		千葉大学 2～4年	情報・教養
G-04	情報・メディア	頭と体と心によいテレビの見方ガイドブック		華陽小学校4年	社会・国語・総合
G-05	情報・メディア	テレビの見方ガイドブック		麻里布小学校 5年	社会・国語・総合
G-06	情報・メディア	小学生がつくるテレビの見方・生かし方マニュアル		本町小学校5年	社会・国語・総合
G-07	情報・メディア	情報社会を生きるための提案書		千葉大学 1～4年	情報・教養

G-08	情報・メディア	ケータイプロジェクト		東宮下小学校	社会・国語・総合
G-09	情報・メディア	ケータイガイドBOOK		広島大学附属 東雲中学校2年	社会・国語・総合
G-10	情報・メディア	テレビの見方・生かし方マニュアル		本町小学校	社会・国語・総合
G-11	情報・メディア	21世紀のテレビはこうなってほしい！ ～意見・感想～		旭東小学校6年 保護者チーム	社会・国語・総合
G-12	情報・メディア	22世紀のテレビはこうなってほしい！ ～私たちの願い～		旭東小学校6年	社会・国語・総合
G-13	情報・メディア	ケイタイマニュアルを作成し、よりよい情報社会を実現しよう！ 一人々を危険から守り、利用者の役に立とう！		横浜国立大学 教育人間科学部 附属中学校 2,3年	社会・国語・総合
G-14	情報・メディア	大学生に役立つ”メディア・情報”を有効活用し成長するための実践提案集		千葉大学 1～4年	情報・教養
G-15	情報・メディア	メディアを活かし考える力が身につく教育提案書		千葉大学 1～4年	情報・教養
G-16	情報・メディア	子どもたちを守るケータイ活用ガイドブック		千葉大学 1～4年	情報・教養
H-01	国際	世界は友だちガイドブック		華陽小学校6年	社会・国語・道徳・総合
H-02	国際	おとなにも 子どもにも役に立つ 国際貢献ハンドブック		小松小学校6年	社会・国語・道徳・総合

H-03	国際	私たちにもできる国際ボランティア をしてみませんか？		志村小学校6年	社会・国語・道徳・総合
H-04	国際	世界は友だち ガイドブック		華陽小学校6年	社会・国語・道徳・総合
I-01	福祉	ほきが峰をみんなが安心して楽しめる森にしよう！ ～ユニバーサルデザインの森づくり～		鴨田小学校4年	総合的な学習・保健・国語・道徳(算数)
I-02	福祉	バリアフリー宣言書！ ～大川内町すべての人の心がバリアフリーになりますように～		大川内小学校6年	国語・社会・道徳・総合・生活
I-03	福祉	「障害のある方とともにくらそうプロジェクト」		東宮下小学校	国語・社会・道徳・総合・生活
J-01	キャリア・仕事	未来を輝かせるハローワーク		西小学校6年	社会・総合
J-02	キャリア・仕事	14歳のハローワーク		松浪中学校2年	社会・情報・総合
J-03	キャリア・仕事	中学生による自分たちと後輩のための 箱根明星中学校 14歳のハローワーク集		箱根明星中学校2年	社会・情報・総合
J-04	キャリア・仕事	小学生の未来につながるハローワーク		西小学校6年	社会・総合
J-05	キャリア・仕事	14歳のハローワーク		松浪中学校2年	社会・情報・総合
J-06	キャリア・仕事	西小オリジナル 『12歳のハローワーク』		西小学校6年	社会・総合

J-07	キャリア・仕事	未来の自分		麻里布小学校	社会・総合
J-08	キャリア・仕事	余暇充実プロジェクト		郡上特別支援学校	国語・社会・道徳・生単・総合
J-09	キャリア・仕事	自立プロジェクト		郡上特別支援学校	国語・社会・道徳・生単・総合
J-10	キャリア・仕事	ポートフォリオによる経験の棚卸し		白陵高等学校3年	総合的な学習の時間
J-11	キャリア・仕事	ポートフォリオを作って「未来の自分」を描こう！		麻里布小学校6年	総合的な学習（国語科：物語「海の命」、詩「生きる」、道徳「ぼくの仕事は場所掃除」）
J-12	キャリア・仕事	自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成を目指した生き方指導～キャリア教育プロジェクト学習を通して～		箱根明星中学校	総合・国語・道徳
J-13	キャリア・仕事	小学生の将来につながるハローワーク		西小学校6年	総合・国語・社会
K-01	施設・建築	アイデア集 みんなが喜ぶ公園はこれだ！！		西小学校3年	社会・総合・国語・道徳
K-02	施設・建築	みんなが楽しく過ごせる公園にしよう！		西小学校3年	社会・総合・国語・道徳
K-03	施設・建築	アイデア集 みんなが喜ぶ公園はこれだ！！		華陽小学校3年	社会・総合・国語・道徳
K-04	施設・建築	”銅”物園をつくろう		新居浜高専4年	数学・社会

K-05	施設・ 建築	からくり人形をつくろう		新居浜高専4年	数学・社会
L-01	生活・ 暮らし	「MOTTAINAI」生活を始めよう		下山門小学校 4年	社会・国語・理 科・総合
L-02	生活・ 暮らし	暮らしを快適にするアイデア集		梅林中学校1年	社会・国語・理 科・総合
M-01	教科	数トレーニング		広島大学附属 東雲中学校 1～3年	数学・国語

プロジェクト学習とポートフォリオの成果

●岐阜県における実践

プロジェクト学習を導入、推進する岐阜市

1 教育立市をめざす岐阜市

岐阜市では教育立市を標榜し、将来社会を見越した先導的な教育をめざしている。これは、それぞれの児童生徒が、互いに個性があり、能力に違いがあるという多様性を認めた上で、身体的や社会的に弱い立場の者を支援できるような人間に育つこと、および個性の異なる児童生徒が共にいることで補完する一方、よい意味での競争の中から互いを高めることをめざすものである。また、多くの選択肢の中から主体的に選択できる力を身につけることをめざしている。

2 児童生徒が身につけてほしい力

児童生徒が今後何十年も生きていく社会は、少子高齢化、格差社会、エネルギー枯渇、環境破壊といった、さまざまな問題が山積しており、そうした社会の中では、ますます多くの負担がかかることが予想される。それらを乗り越えていくだけの力を身につけた人間を育てることは教育の責任であり、使命であると考えている。

そのために、教育を通じて次のような力をつけられるようにしたい。

- ①社会事情に関心を持ち、社会の形成者としての自覚を持つ
- ②問題を人のせいにならず、連携して解決していく姿勢
- ③人間の尊厳を重んじること、自分も他人も大切にできること

3 個人、学校、地域の連携

人間は、ある方面の能力にどんなに優れていても、ひとりでは生きていけない。互いに連携し、助け合って生きていく力を身につけていることが肝要である。

連携には、個人対個人の連携だけでなく、個人対地域、地域対地域の連携もある。地域活性化の観点からは、地域の多様性も必要であり、児童生徒の多様性を重んずることは、地域の多様性にもつながる。また、学校が地域の財産として利活用されれば、学校と地域の連携が強化され、地域の

活性化につながるであろう。

4 岐阜市の理念と合致するプロジェクト学習

以上を踏まえると、プロジェクト学習は、まさに市がめざす方針にも合致するものと考えられる。

プロジェクト学習では、チームで連携し、地域の人々に提案することをめざす。チームでの連携により、児童生徒は多様性に気づき、連携の重要性を知る。また、地域を調べ、地域の人々へ提案することにより、自分たちの地域を誇りに思い、そのすばらしさに気づくことができる。

与えられたものをこなすのではない、「意志ある学び」によって、児童生徒が大きく成長していくことは、既に多くの実績が証明している。

プロジェクト学習を実践するに当たり、その教育効果を児童生徒に求めるのであれば、まず教員の側も「意志ある学び」を実践すべきであるとの考えから、岐阜市では、教員へのプロジェクト学習研修をたびたび実施してきた。これまでの教員研修では、プロジェクト学習によって、教員自身も砂地に水がしみこむように、多くのことを吸収できていることが窺える。プロジェクト学習は、教員自身の成長をも望める学習と言えるだろう。

今、国では、課題解決のために、多くの当事者が「熟慮」と「討議」を重ねながら、その解決策を生みだしていく、いわゆる「熟議」の重要性が提唱されている。プロジェクト学習はまさにこの「熟議」に通じるものである。

岐阜市は、これまでにプロジェクト学習によって育まれた成果を土壌とし、今後とも、獲得した確かな情報を進んで他者と共有することにより、子どもにも大人にも、この「プロジェクト学習」を広げていきたいと考えている。



岐阜市教育委員会
教育長
安藤征治

全国学力テスト（活用／知識の比率）ランキング [2009年第一位 岐阜県]

順位	都道府県名	割合	偏差値
1	岐阜県	83.17%	72.29%
2	福井県	82.34%	66.26%
3	秋田県	82.04%	64.08%

文部科学省の全国学力テストの内容は知識力を問うAと知識活用力を問うBに分かれている。ここでは2007年から2009年まで3年間の公立小中学校の正答率から活用／知識の比率を計算している。数値が大きいほど知識力に比べて活用力が高いという結果になる。全国1位は岐阜県で83.17%、以下、福井県、秋田県、石川県と続いている。

プロジェクト学習を実践して

○目的意識をもって意欲的に成長

プロジェクト学習には目的意識（～のために…しよう）が明確にあるので、子どもたちは意欲的に前向きに取り組む。相手意識、目的意識をもって学習を進め、発信し、喜び（自己有用感）の得られる価値ある学習です。

○思考力、表現力、活用力、課題発見力など生きる力向上

課題発見力、判断力、思考力、表現力、活用力など様々な力がつきます。このプロジェクト学習を行った子どもたちは、どのようにすれば課題を発見し解決できるかをわかって学習を進めていくことができるようになりました。それは将来出会うであろう様々な課題を解決していく力となる

キャリア教育にも有効なプロジェクト学習

これまでの実践から、プロジェクト学習の手法は、キャリア教育の力を育てるために大変有効であることを実感しています。テーマをもちチームで協力しながらゴールをめざす学習を通して、見通しをもつ力、必要な情報を収集する力、言葉や文字、グラフ等を適切に使い表現する力が子どもたちに確実に身につけてきており、大変うれしく思っています。また、仲間のよさに気づき、多様な価値観を認め、

と考えます。

○コミュニケーション力

子どもたちは多面的に物を見たり、いろいろな考えや意見を大切したりするようになりました。チームで学習を進めていくので仲間とのコミュニケーション力や多面的にものを見たり、多様な考えを大切にしたりするようになりました。それは、他者を大切にすることにもなっていると思います。



元瑞穂市立西小学校校長
(プロジェクト学習導入時の
岐阜市立華陽小学校教頭)
横山直美



瑞穂市立西小学校
校長
馬淵郁子

周りの人々と強調しながら課題を乗り越える力や心も育てています。最高学年の6年生では、活動の出口として、一人一人が『12歳からのビジョン』を提案し、夢や目標に向かって、力強く未来へ踏み出していきます。

●愛媛県における実践

プロジェクト学習で大きな成果を収める

愛媛県・西条市では、市教育委員会が中心となり市内小学校において防災教育を実践している。その中で、子どもの「思考力・判断力・表現力」を伸ばすために、さらに、「行動力（活用力）」をつけるために、たいへん有効である「プロジェクト学習」を手法として取り入れている。2001年に、鈴木敏恵氏の指導で、小松小学校において防災教育の実践を行うとともに、市内の教職員を対象に教員研修を実施、西条市の防災方針とも合致し、プロジェクト学習が市内全域に拡大していった。平成18年から、西条市及び西条市教育委員会では、小学校6年生の思考力・判断力・社会性を育てるため、「12歳教育推進事業」を開始。この推進事業の手法としてもこのプロジェクト学習及びポートフォリオ活用により、大きな成果を収めることができた。

□1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」(平成22年度)

主催：兵庫県、毎日新聞社ほか

後援：内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省ほか
「ぼうさい大賞」(小学生の部)を受賞

□第15回防災まちづくり大賞(平成22年度)

主催：財団法人消防科学総合センターほか、「消防科学総合センター理事長賞」を受賞

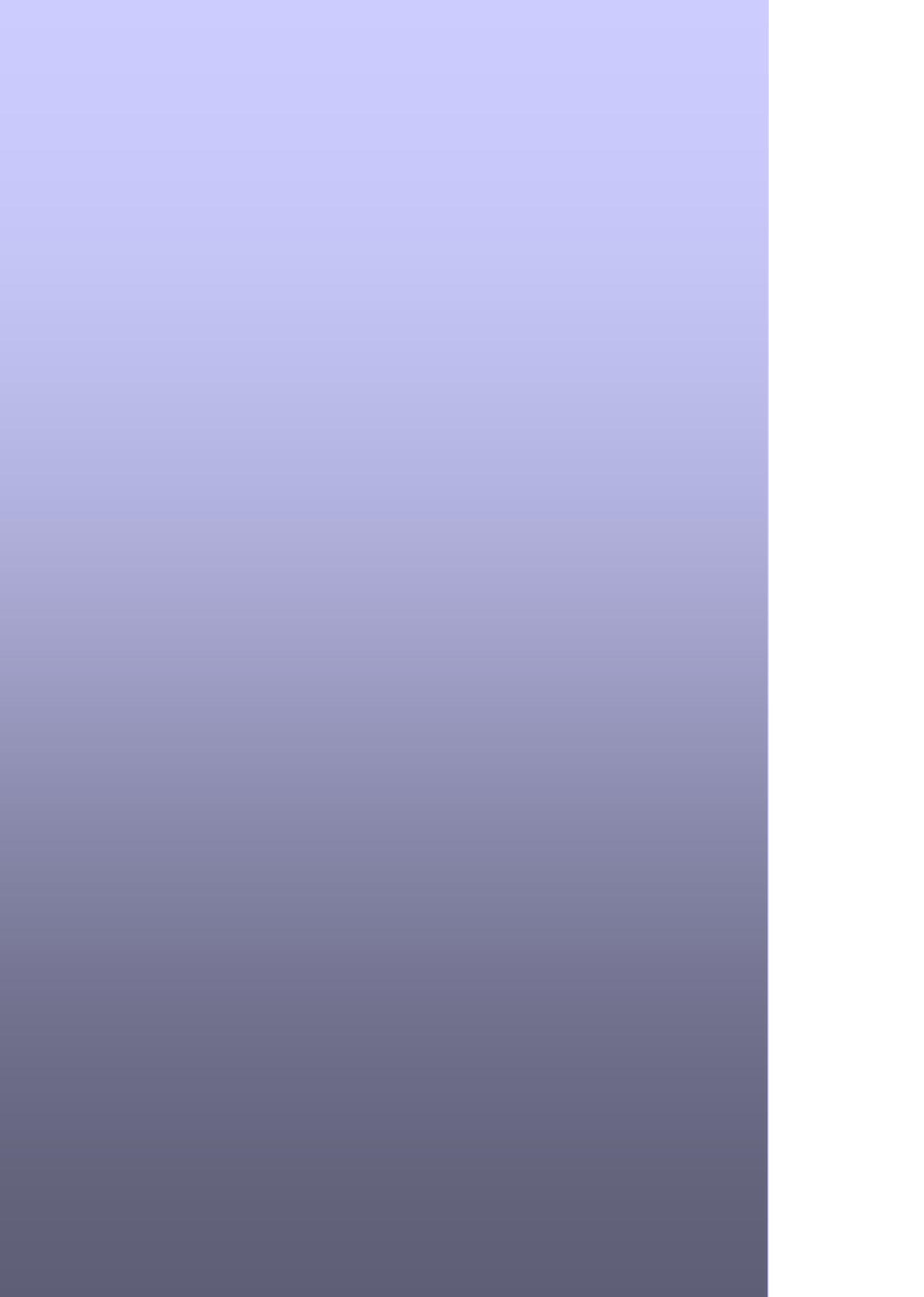
□12歳教育の内容が、2010年版国連国際防災戦略の事例集に掲載



西条市立多賀小学校校長
平成21年西条市教育委員会
学校教育課長
安藤宏幸



第Ⅱ章 各教科等で言語活動の質を上げるコーチングシートの開発



思考力を伸ばす コーチング

比較・分類

小学校5年生の社会科。2つのグラフを視覚的に比較し、捉えることで、それぞれの地域の気候の特色をつかむ。例えば、稚内と那覇の年平均気温・降水量のグラフを比較して、気候の違いに気づかせる場面。



「比べるって、どういうことだと思う？」

教師



「ちがいを見つけるとか…」

「同じところを見つけないとか…」



「この2つのグラフから何が見える？」

or

「この2つから分かることは何？」



「えーと、那覇市の方が年平均気温が高い」



「なるほど！ どこでそれがわかるの？」



「なぜなら、このグラフで3～6月の気温が、稚内の気温を大きく上回っているからです」

◆ポイント◆

“比べる”という概念を、子どもが捉えているか。

比べるということは、同じベースラインに立っているからこそできる、ということ子どもたちが理解できる場面を入れる。友だちとの身長なら、地面という情報の基準があるから比べられる。

見て発見したことに留まらず、“なぜならば…”と、根拠（数字や固有名詞）を入れて話せる、ということが大事。これをねらいとして、コーチングのセリフを考える。

しばしば、「よく見ようね！」「比べてごらん」だけで終えたり、「これを見ればわかりますよね。那覇の方が年平均気温が…」と、すべて教師が言ってしまうことがある。すると、子どもは「はい」で終わり、自分で考える必要がない状況となってしまう。

「稚内は気温が低い」のような回答に対しては、「『稚内“より”那覇が』『稚内“と”那覇とでは』のように、2つの地名が両方入るように答えてみよう」と促すことも比較する思考を誘いやすい。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

・社会科	P.36～37	第5学年	2内容	(2)～(4)
・国語科	P.22	第3学年及び第4学年	2内容	A話すこと・聞くこと(1)(2)
	P.24	第5学年及び第6学年	2内容	A話すこと・聞くこと(1)
				B書くこと(1)
				C読むこと(1)(2)
・算数科	P.43	第1学年	2内容	A数と計算(1)
				B量と測定(1)
	P.45	第2学年	2内容	A数と計算(1)
・理科	P.62	第3学年	2内容	B生命・地球
	P.65	第4学年	2内容	B生命・地球
	P.67	第5学年	2内容	B生命・地球
	P.67	第6学年	2内容	A物質・エネルギー
・総合的な学習の時間	P.110	1「目標」		

思考力を伸ばす コーチング

比較・分類

4年生が、総合的な学習の時間で、調査結果を分類する。自分の住んでいる町に対することを、住民がどう思っているかインタビューしてきた。



「何のために分類してるの？」

教師



「自分たちの町に住んでいる人がどう思ってるか知
ため」



「どういう人に聞いたの？」



「古くから地元に住んでいる人に聞きました」



「チームのゴールはなんだっけ？」



「自分たちの町に住んでる人が、どう思ってるかです」



「自分たちの町ってどういう人？」



「新しい人も、古い人もどっちもいる。あっ、そうか。
新しい人にも聞かなくちゃ！」



「たしかに！」

◆ポイント◆

どんな活動でも、先生は、改めて「何のため
に？」という目的を問う。

一部の人にしか聞いていないのであれば、
偏っている情報かもと本人が気づくことを
促す。

「何のために」調べているかを見失わせない。

情報リサーチに行く前に、何のために何を
やり遂げたいのかを考え、今日の目標とし
てしっかり紙に書き、それを見ながら活動
できるようにする。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

・社会科	P.36～37	第5学年	2内容	(2)～(4)
・国語科	P.22	第3学年及び第4学年	2内容	A話すこと・聞くこと(1)(2)
	P.24	第5学年及び第6学年	2内容	A話すこと・聞くこと(1) B書くこと(1) C読むこと(1)(2)
・算数科	P.43	第1学年	2内容	A数と計算(1) B量と測定(1)
	P.45	第2学年	2内容	A数と計算(1)
・理科	P.62	第3学年	2内容	B生命・地球
	P.65	第4学年	2内容	B生命・地球
	P.67	第5学年	2内容	B生命・地球
	P.67	第6学年	2内容	A物質・エネルギー
・総合的な学習の時間	P.110	1「目標」		

思考力を伸ばす コーチング

関連付け

中1の社会科（地理的分野）。①年齢別農業従事者数、②国内農業総生産の変動、という2つのグラフを関連づける。



「この2つのグラフから、見えるものは？」



「……………」(しばらく考えている)
「日本の農業の大変さがわかります」



「どうしてそれがわかるの？」



「ここで、生産量が減ってるってわかります」



「その理由は…、若者の農業従事者が減っているからじゃないですか」



「なるほどね、どうしてそれがわかるの？」



「だんだんにグラフの線が下がっていて、農業総生産が減っています、これでは暮らしていけないから、若者が減ってるんだと思います」



「うん！ いい発見だね！ ほかに2つの変動のグラフを並べて見えることはありますか？」

◆ポイント◆

ここで大切なことは、2つの提供されている情報の異なるグラフを見て、相互に含まれる要素全体の傾向などの関連付けや関係に気づくこと。

生徒が考えている沈黙の時間を待ってあげよう。その時に、自分の頭の中で、何かを発見しようとしているのだから。

2つのグラフを並べて、その関連付けの思考を促すためには、「①グラフから発見したことの理由が②グラフにあるんだ。それは何だろう？」と、頭の中で考えられるようになることがポイント。

生徒が発見したことは、明らかな誤解や解釈の勘違い以外は、正解、不正解と、簡単に決めつけることはできない。教師が意図している視点以外でも否定せず、根拠を問うとよい。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・社会科 P.36～37 第5学年 2内容 (1)(2)
P.39 第6学年 2内容 (1)(2)
- ・体育科 P.96 第3学年及び第4学年 2内容 G保健
P.99～100 第5学年及び第6学年 2内容 G保健

表現力を伸ばす コーチング

比喩

5年生の国語。「比喩」を使った作文を書かせた時。



「昨日1日で一番印象に残っていることは何？」



「晩ごはんを食べ過ぎて、おなかいっぱいになった」



「“一番”心に残ってることは何？」



「焼き肉で満腹！」



「満腹以外で表すとどう？」



「たらふく、シャツが破れそう」



「ビジュアル的には？」



「すもうとりのような、白鵬みたいな」



「ほかには？」



「風船のようにふくらんだおなか…」



「このような、いろいろな言い方ができるって、あなたにとって、どう？」



「そりゃ、すごくいいよ！ 相手にほくが伝えたいことが、いろんな言い方ができるから」



「どうしてそれがいいの？」



「だって、ほくの頭の中にあることが、そのまま相手に伝わるからだよ！」

◆ポイント◆

はじめから、「“比喩”を使って書きましょう」ではなく、印象、インパクトのあるその子の気持ちを表出させ、いろいろな表現を引き出すことも有効。

いろいろな表現を湧き上がらせることができるために、比喩を駆使したいというモチベーションが大事。

比喩を使って話せることの価値を本人が感じ、口にして言えるシーンは、その子にとっても、ほかの子にとっても大事な意味をもつ。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 P.25 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと
- ・国語科 P.27 第5学年及び第6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
- ・音楽科 P.79～80 第5学年及び第6学年 2内容 A表現 B鑑賞
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

表現力を伸ばす コーチング

隠喩

夏休み明けの国語の時間。夏休みの思い出をもとに、1行詩を書かせる課題。



「夏休みは、どこへ行ったの？ 一番忘れられないことは？」



「あのね、鉄道写真を撮ったんだ。初めて汽車を見たんだよ」



「どんな様子だったから忘れられないの？」



「一生懸命な感じだった！」



「どうして一生懸命だと思ったの？」



「だって、汗かいて、ぜいぜい言ってたもん！」

◆ポイント◆

隠喩、つまり、「～のような」「～みたいな」を使わずに書いてみようと言っても、子どもには難しい。

一番インパクトのあるその様子を伝えたいというモチベーションがあれば、子どもは、表現を工夫する。

うまく表現できない状況のときは…、「例えば、その物が、“人間の気持ち”を持っているとしたら…」と問いかけても、子どもは表現しやすくなる。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 P.25 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと
- ・国語科 P.27 第5学年及び第6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
- ・音楽科 P.79～80 第5学年及び第6学年 2内容 A表現 B鑑賞
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

表現力を伸ばす コーチング

非連続テキスト

社会科または総合的な学習の時間。工場見学のとまめの新聞づくり。文字ばかりになっているものを図や表、写真などの文字以外の様々な非連続テキストを必要に応じて使えるようにする。



「何のために新聞を作るの？」



「自分が発見したことを伝えたいから」



「ところで、新聞ってどんなもの？」



「情報を伝えるもの」



「どんな人に伝えたいの？」



「同じ5年生のクラスの友だち。僕だけが知っていることがあるから、一緒に行ったみんなに、それを伝えたいから」



「何を発見したの？」



「あのね。作業服の色が、仕事によってちがうんだよ。物を運んでいる人は青で、監視している人はオレンジ色で、機械を操作している人は緑だった」



「すごい発見だね。それを、最もわかりやすく伝える工夫は？」



「……………」(考えている)
「もらったパンフレットにあった見取り図に、その人たちが立っていた位置に、その色の印をつける！」



「わかりやすくていいね!!」



「先生、図や写真を添えると、文章だけでは伝えられない、それぞれの人の関係や数まで伝わるんだね」

◆ポイント◆

目的意識
新聞を作る「目的」を問う。

表現したい相手
読む相手を意識する問い

「最もわかりやすく」や「一番有効な方法は？」などのコーチングは、相手に焦点を絞る思考を促すことができる。

必然性
自分が最も伝えたいことのために、文章ではなくて、図やグラフがあるのだ！有効なんだ！という気づきを大切にす。

子ども自身が図や写真を、文章と組み合わせることが効果的な表現手法であることに気づき、ほかにも活用できるようになる。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 P.25 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと
- ・社会科 P.37 第5学年 2内容 (4)
- 第6学年 2内容 (3)
- ・算数科 各学年 1「目標」(4)
- ・生活科 目標 (4)
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

表現力を伸ばす コーチング

平易・簡潔

その内容がわかっていないと、それをわかりやすく表現することができない。下級生に委員会の仕事をわかりやすく伝える場面。



「環境委員会の仕事をわかりやすく言って」



「花だんの世話」



「具体的には？」



「毎朝やってるよ」



「5年生と6年生でやってるよ」



「ほかには？」



「水をやって、雑草を抜いているよ」

⋮



「わかりやすいよね！ どうしてだと思う？」



「時間と、人と、具体的な仕事を入れたから！」

◆ポイント◆

「相手を意識した表現にする」「ゆっくり、一つ一つ」「なるべく短い表現で」など、子どもが、そのイメージや工夫を考え、そうできる工夫を自らすることも有効だが、より大事なものは、要素の拾い上げ。それを伝えるために言わなければならない要素の拾い上げができ、それを最小限で表現できることが大切。

例えば、5W1H（いつ、どこで、だれが、何を、どのように、どうする）など。

子ども自身が、わかりやすさの普遍性を言語にし、自覚することにより、活用できるようになる。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 各学年 1目標 (1)(2) 話す能力・書く能力
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

課題を発見する

知識やスキルを活用するのは、机上ではなく、目の前の現実です。子どもが自分の目で現実を見て、そこから課題を発見できるようにする。



教師

例えば、図書館の利用状況に潜む課題を発見してほしいとき。

いろいろな表現

「“今”はどうかの？」

or

「“朝”はどうかの？」

or

「あなたから見たらどう？」

or

「あなたと反対の立場の人から見たらどうだろう？」

or

「雨の日はどんな状況だろう？」

or

「高学年にとってはどうだろう？」

◆ポイント◆

「現状」と「目標（あるべき状態）」とのギャップが「課題」。したがって、課題を発見するためには、まず「現状」を把握することが必要。

だから「“今”はどうかの？」と、現状と対座するコーチングをする。

課題は、現実の中にある。その現実に対して、子どもが多面的に状況・現状を見ることができるとよいコーチングをする。

「〇〇が問題です。課題は〇〇で、その要因は〇〇で…」と、すべて教師や教科書が与えてしまえば、子どもは自ら課題を考える機会を失う。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年 P.32 P.25 2内容 「話すこと・聞くこと」
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「事象を調べ、問題を見いだす」
- ・体育 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年
A 体づくり運動～F 表現活動 「自己の能力に適した課題を見つける」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

小学校5年生の国語の時間。図書室改造の提案をするという単元。

目標決め



「図書館、今はどうなの？」

教師



「このデータから見ると、低学年や中学年は、たくさん利用しているけれど、高学年はほとんど利用してなくて問題です」



「じゃあ、どうなったらいいの？」



「学校の全部の学年の人が、たくさん図書館を利用してくれたらいいな」



「じゃあ、そのために、具体的に何を目標にしますか？」



「えーと、5・6年生は、放課後は忙しいから…」
「高学年が、昼休みにもっと図書館を利用したくなる工夫を提案します！」



「楽しみな、いい提案ね！」

◆ポイント◆

自分（たち）の目標を明確に決めることが大事。そのためにも現実（今）と対座し、根拠ある情報を得ていること。

「目標」を決める際には目的（願い）が要る。「問題」を「願い」に昇華させる。

「あるべき像」や「願い」を言ってもらい、それが、目的（何のために）になる。

「願い」を「具体的な目標」にするコーチング。

曖昧でなく、焦点の絞れた目標となることが大事。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年 P.32 P.25 2内容 「話すこと・聞くこと」
- ・社会科 各学年 1目標（1） 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標（1） 「事象を調べ、問題を見いだす」
- ・体育 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年
A 体づくり運動～F 表現活動 「自己の能力に適した課題を見つける」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

計画を立てる

自分の決めた目標を達成するために、計画を立てて、そこへ向かうという場面。

 「えーと、とりあえず、インターネットで調べて、インタビューもするし、アンケートを100人にとる！」

 「このために使える時間はどれくらいあるの？」

教師

 「えっ！ 考えてなかった！ えーと、木曜日の3時間と…」

 「あなたの目標は何？」

 「『高学年が昼休みにもっと図書館を利用したくなる工夫を提案します』です」

 「そのために、しなければいけないことは何？」

 「えーと、今、高学年が、実際にどれくらい昼休みに図書館を使っているか調べる」

 「ほかには？」

 「何で図書館に来ないのか、インタビューする」

 「いいね。ほかには？」

 「あと…」

 「紙にどんどん書き出してみよう！」

 「目標は何だっけ？」

 「『高学年が昼休みにもっと図書館を利用したくなる工夫を提案します』です」

 (全部出尽くしたら) 「そのために、“絶対” にしなきゃいけないのは何？」

 「えーと、(と、紙に書き出したものを俯瞰して、) これです！ 図書司書の方から、高学年の利用データをもらうことです！」

◆ポイント◆

“とりあえず調べる”はダメ。限られた時間の中で、絶対にしなくてはならないものを洗い出し、優先順位を決めるという考え方を持つようにすることが大事。

目標に立ち戻らせる。

発散と収束

目標達成に必要な、すべきことをどんどん出す(発散)。

常に目標に立ち戻らせる

優先順位が考えられるようにする。

目標達成に絶対にしなければならないことにしぼりこむ(収束)。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年 2内容 A話すこと・聞くこと (2)
B書くこと (2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

情報の獲得

昼休みに高学年が図書館を利用ようになる解決策を考えるために、情報を手に入れようとするシーン。



「あなたの目標は？」



「『高学年が昼休みにもっと図書館を利用したくなる工夫を提案します』です」



「そのための情報は、どこにあるの？」



「図書司書の人を持っているかも…」



「その情報を手に入れるために、あなたが使える手段は何？」



「インターネット！」



「いいね！ ほかに？」



「6年生に実際に聞く（インタビューする）！ アンケートをとる！ あと…」



「一番有効なのは？」



「今まで図書館を自分から使ったことのない6年生にインタビューする！」

◆ポイント◆

教師から「○○で調べてみよう」と言わない。子どもが情報のありかをイメージして考え、口にするようにしよう。

インターネットだけでなく、多様な手段で情報を手に入れることが大事なんだという気づき。

自分の目的・目標のためには、一番要る情報は何かを考え出せるようにしよう。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年 2内容 A話すこと・聞くこと (2)
B書くこと (2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

情報の見極め

みんなに納得してもらえらる提案をするためには、正しい情報に基づかなければならない。そのために、正しい情報を手に入れようとしているシーン。



「情報を手に入れる時、気をつけることってある？」

教師



「正しい情報を集めるんだ！」



「正しい情報って、何？」



「うーん…」



「新聞に書いてあること！」



「新聞だって、正しいとは限らないかも…A社とB社
がちがうときがあるし…」



「あっ！ 新しい情報。古いのは、もう変わっている
かもしれないし…」



「うーん。新しければ正しいとも限らないでしょう…」

◆ポイント◆

“情報は容易に手に入る”という考え方が変わる。

「“正しい情報”って何なのか？」を考えることは大事。立場や状況によって、“正しい”はちがうという気づきは貴重。

現場の写真であったとしても、事実のほんの一部であり、ちがうとらえ方をしている自分があるかも…。

正しい情報とは何なのか、この深遠なる問いをもつこと自体に価値がある。

安易に目の前の情報を信じず、ほかの手段でも手に入れ、自分の頭で考えようとする姿勢になってほしい。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと (1) (2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

制作・再構築

テーマのもとに互いの考えを出し合い、根拠ある情報をもとに課題解決策を生みだしプレゼンテーションの制作物を作り上げる場面。
(再構築は、プレゼンテーション後に提案集などを作る場面)



「何のためにつくっているの？」



「ぼくの考えた取り組みが、役立てばいいなあと思って」



「誰のために？」



「ぼくのクラスの人たち」



「ほかには？」



「小4の弟やお母さんも聞くかもしれない」



「そのために何か制作で工夫できることはありますか？」



「難しい漢字にはフリガナをつける」



「見た人に信頼されるために工夫できることってある？」



「う～ん。使った情報に根拠を添える。ホームページのアドレスとか、日付とか、出典なんかも」



「とても安心して見てもらえそうね！」



「それを見た人がどうなってほしいの？」

「それが最も伝わるための工夫は？」



「それを見て傷つく人はいませんか？」

◆ポイント◆

プレゼンの工夫は、相手を意識し、客観的に行うことが大切。

<制作条件>

- ・提案テーマ
- ・現状・課題
- ・課題解決策
- ・具体的な提案

それぞれをかたまりで作って、そのかたまりをレイアウトする — 知の構築を紙の上でする。

提案内容は、現状をしめす「データ」「グラフ」など「根拠ある情報」を入れる。

具体的な提案には、「図やイラスト」「手順を示す矢印」「ポイント」などを含める。

<再構築の3条件>

1. 自分たちの考えであること
2. 根拠ある情報と概念図等を含むこと
3. 現実に、こうすればできるという「具体的な提案」であること

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと (1)(2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

プレゼンテーション

プレゼンテーションは、調べたことを発表することではなく、自分たちがこれまでやってきたことの成果を相手にプレゼントすること、一言で言えば「知の共有」です。



教師

いろいろな表現

「何のためにプレゼンテーションするの？」

「どんな人のためにプレゼンするの？」

「伝えたいことを一言で言うと？」



(他者のプレゼンへの評価)

「ここがよかったということを、ピンク色の付箋に書き、その箇所にはってあげましょう」

「こうしたらもっとよくなるというアイデアを、ブルーの付箋に書き、その箇所にはってあげましょう」



(プレゼン後に)

「プレゼンテーションはどうでしたか？」

「その理由は？」

「もう一度するとしたら、具体的にどこをよくなりますか？」

◆ポイント◆

「何のためにするのか」

「どんな力を身につけたいのか」

「どのような効果をもたらしたいのか」をはっきりさせる。

プレゼンテーションを見ている人も共に考える姿勢をもてる

プレゼンテーション後、次に役立つような自己評価を促す。

すべてのものは、もっとよくなる、よくしたい、という気持ちや思いをもつことが大事。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと (1) (2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

成長確認

ゴールに到達した時の自分の変化・変容を実感すると自信がわく。自分の成長や身についた力を本人が自覚できるシーンを設けよう。



教師

いろいろな表現

「成長って何？」

「その経験から得たことはなんですか？」

「それは何に使えますか？」

「その時間で成長したことは何だと思う？」

「その経験で何を学びましたか？」

「それをしてうまくいったことは何？」

「なんでうまくいったんだろう？」

「前と変わったところはどこ？」

「前よりうまくなったことは？」

「うまくいかなかったインタビューから得たことは何？」

◆ポイント◆

自分で自分の成長や身に付いた力を「自覚」するようにする。

自分の成長に気づく場面は、次へのモチベーションにつながる。

「成長したね、よかったね」で終わらず、身についた力を書きたすことで、「顕在化」できる。それを自覚することで「再現性」につながる。そして、それを使うことで、「恒常性」が生まれる。

自分で自分の成長を確認するとき、自分で自分の成長を実感することができ、さらにやる気が出る。

自分の成長を自覚する、それは確かな自信となり、次の成長へとつながる。

「未来の助走につながる成長の気づき」になるような、成長を気づかせる場面でありたいもの。

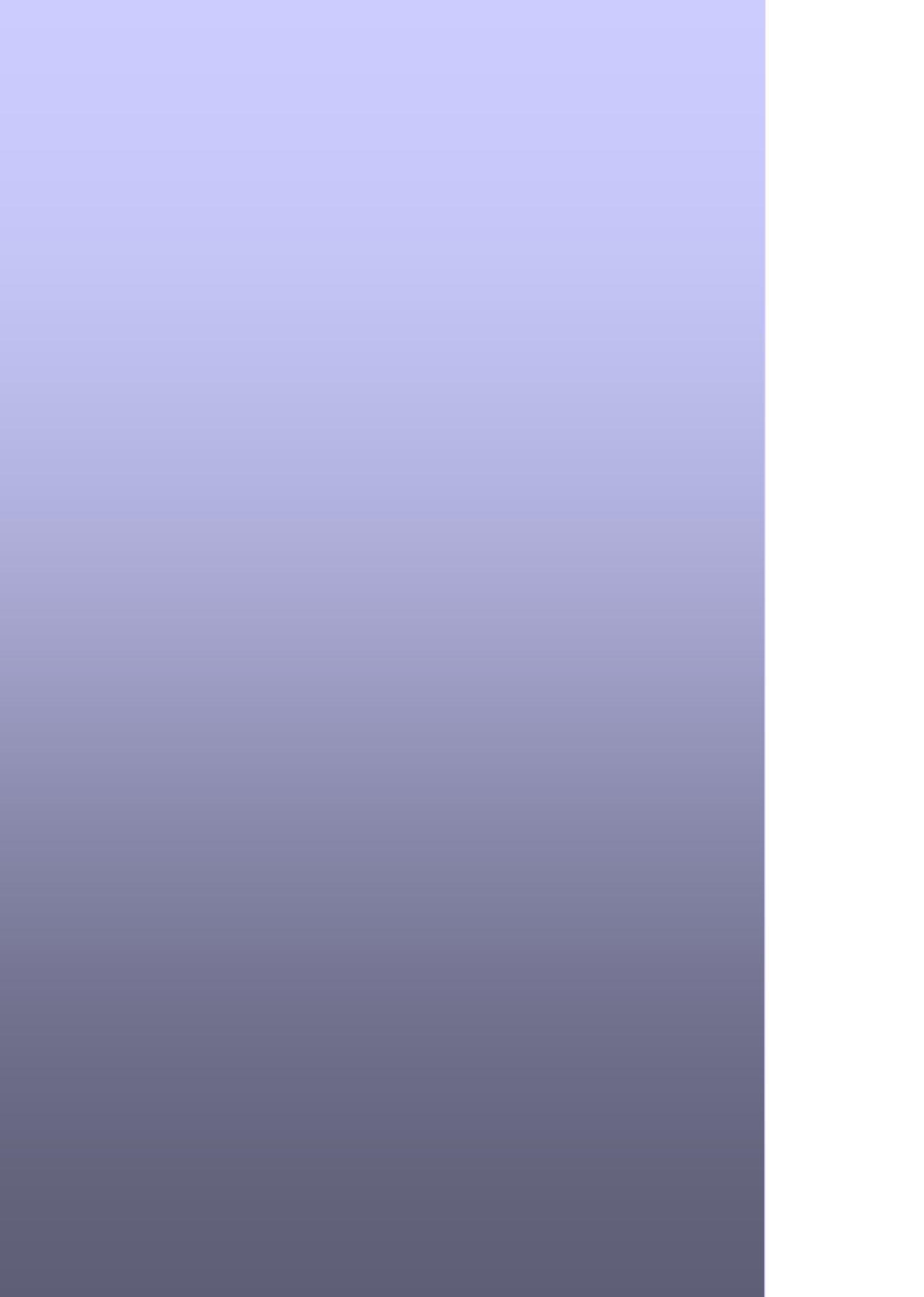
ポートフォリオは、自分の成長していくプロセスや“ここで私は深く考えるようになったんだ”など、知的、感情的な変化、変容の可視化を叶える。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・第1章「総則」 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項
 - 2 - (2) 自主的・自発的な学習を促す
 - 2 - (4) 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に
 - 2 - (11) よい点や進歩の状況を評価 指導の過程や成果を評価 指導の改善を行い学習意欲の向上を図る
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

第Ⅲ章 新学習指導要領に対応する『教員研修プログラム』

PISA 型学力-思考力・表現力・活用力の育成へ-



第Ⅲ章 新学習指導要領に対応する『教員研修プログラム』

PISA 型学力—思考力・表現力・活用力の育成へ

新学習指導要領の核ともいえる「言語活動の充実」。自らの目標を達成するために…をその意味とする「読解力」。あらためて総合的な学習の時間のねらいとされた「課題発見力、解決力・コミュニケーション力」等は、すべからず子どもたち自身が、自分がすることの意味を理解し、自分の考えをもち前向きに向かうこと、主体的であることが求められます。つまり”意志ある学び“であることがこれらの能力を向上させる鍵と言えます。

* * *

シンクタンク未来教育ビジョンでは、”意志ある学び“を理念とし、その実現手法としてプロジェクト学習、ポートフォリオ、コーチングなどを習得できるための教員研修を数年前より各地で実施していました。今回、文部科学省の採択事業を実行するにあたりあらためて新年度からの新学習指導要領に対応することを意図し「各教科等における言語活動を重視した課題解決能力の獲得（以下、採択テーマ参照）」を狙いとした教員研修を個々オリジナルな題材を扱い全国7カ所で展開しました。

そこで得られた検証や参加者、研修運営者、ファシリテーターの3つの視点からのアンケート、分析、考察などをふまえコンピテンシー育成に有効な『教員研修プログラム』をここに提供します。そのためにあらためてプロジェクト学習とPISA型学力：読解力と言語活動との関係を次に記します。

＜委託されたテーマ＞

『各教科等における言語活動を重視した課題解決能力の獲得を可能とする
プロジェクト学習とポートフォリオによる授業の実践事例の調査研究及び
教員研修プログラムの開発』

… コーチング指導による「コンピテンシー育成」を目指して …



■ プロジェクト学習と「PISA 型学力：読解力」

意志ある学びを叶える—未来教育—プロジェクト学習は、学習者が現実（社会）と対座し、そこから自ら課題を発見し、目標を明確にして、情報（知識）を手に入れ課題解決し自らの目標を達成する手法です。ポートフォリオは、目標への軌跡を一元化し可視化できるファイルであり、その存在により学習者は、自ら手に入れた根拠ある情報を俯瞰しその本質や普遍性を自らのものとしつつ（概念化）することで課題解決へと向かうことを叶えます。ポートフォリオの存在は、自らの「思考プロセス」の可視化を可能とし、目標への意志あるドライブをぶれずに行うことを叶えます。最後に、元ポートフォリオを活かし、凝縮ポートフォリオ（提案書など）に再構築する過程で、試行錯誤する価値を覚えつつ知的創造へむかいます。自らの考えを他者にわかりやすく伝えるこのフェーズで、論理的思考を身につけることができます。さらに価値あるゴールへ向かい、達成することにより自己評価の機能も果たし、自ら学ぶ力・自己有能感を高め生きる力の教育を実現します。

OECD 生徒の学習到達度調査

Programme for International Student Assessment

～2009 年調査国際結果の要約～

【内容】

- 2009 年調査では読解力を中心分野として、数学的リテラシー、科学的リテラシーの 3 分野を調査。
- PISA調査は、義務教育修了段階の15歳児が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面でどれだけ活用できるかをみるものであり、特定の学校カリキュラムをどれだけ習得しているかをみるものではない。
- 思考プロセスの習得、概念の理解、及び各分野の様々な状況でそれらを生かす力を重視。
- 読解力の定義が、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」（下線：新たに加えられた部分）となった。読解力はただ単に読む知識や技能があるというだけでなく、様々な目的のために読みを価値付けたり、用いたりする能力によっても構成されるという考え方から、「読みへの取り組み」（engaging with written texts）という要素が加えられた。つまり、読むことに対してモチベーション（動機付け）があり、読書に対する興味・関心があり、読書を楽しみと感じており、読む内容を精査したり、読書の社会的な側面に関わったり、読書を多面的にまた頻繁に行っているなどの情緒的、行動的特性を指す。

■ プロジェクト学習と「言語活動の充実」

プロジェクト学習の前半のフェーズでは、課題解決のプロセスで言語活動のポイントとされている、**思考力**（自ら獲得した知を活かし、**比較や分類、関連付け、規則性、帰納的、演繹的、類推**するなど）を高めます。後半の制作、プレゼンテーション、再構築のフェーズでは**表現力、活用力**の習得を叶えます。この手法では、学習の成果を「他者に役立つ知のアウトカム」としていることで、特に根拠ある情報を手に入れることの必然性やわかりやすく（**平易、例示、簡潔、総括**）ということとなります。さらに再構築した「他者に役立つ知のアウトカム」は「**結論と理由・論拠・証拠**」「**図、グラフ、表（非連続テキスト）**」の表現、**項目立て、順序、小見出し、制限**などそのすべての言語活動のポイントが盛り込まれています。

言語活動（記録、要約、説明、論述、討論、発表など）のポイント

- 比較や分類（差異点、相違点、共通点、類似点）
 - ・同じ点は……で、違う点は……です。
- 関連付け・関係付け
 - ・……に関連することとして……が挙げられます。
 - ・……と……は関係付けることができます。
- 規則性
 - ・……の結果から、……のような規則性を見いだせます。
- 帰納的（個々の具体的な事柄から、一般的な命題や法則を導き出すこと）な考え方
 - ・……の資料から一般的に……といえます。
 - ・……の結果から……という法則を導き出すことができます。
- 演繹的（一般的な原理から特殊な原理や事実を導くこと。理論によって、特殊な課題を説明すること）な考え方
 - ・……という考え方から、具体的には……のようなことがいえます。
 - ・……の法則から……という問題を……のように解決できます。
- 類推（似た点を基にして、他の事を推し測ること。アナロジーともいう）
 - ・……は、……モデルで考えたり説明したりできます。
- 隠喩（ことばの上では、例えの形式をとらない比喩。「…の如（ごと）し」「…ようだ」などの語を用いた比喩。メタファーともいう）
 - ・バラの微笑
 - ・りんごのほお
- 比喩（物事の説明に他の物事を借りて表現すること。例えること。その表現）
 - ・……は、（たとえると）……のようです。
- 例示（例として示すこと）
 - ・……の例として……を挙げることができます。
 - ・……は、例え……です。
- 平易
 - ・……は、易しく……です。
- 簡潔
 - ・……は、簡潔……です。
- 改善
 - ・……は、さらに良くすると……とすることができます。
- 総括
 - ・……は、まとめると……です。
- 結論と理由・論拠・証拠（はじめに結論、次に理由を述べる）
 - ・結論は……です。なぜならば……だからです。
- 図、グラフ、表（非連続型テキストという）などの利用
 - ・テキスト（ことば、文章）だけでなく、必要に応じて非連続型テキストを使って説明しましょう。
- 項目立てやその順序・小見出し
 - ・項目立てやその順序は大切です。小見出しも付け、相手にわかりやすくしましょう。
- 制限（文字数、スペース、時間など）
 - ・必要最低限度の文字数、スペース、時間で表現しましょう。

『各教科等における「言語活動の充実」とは何か』
p.30, 三省堂, 2009

思考力

}

表現力・活用力

}

■ プロジェクト手法による教員研修とは

プロジェクトとは、何かを成しとける、という意味があります。そこには未知、挑戦、創造性、チーム、夢の結実、達成感などの要素があります。研修もプロジェクト手法（以後：プロジェクト研修）で行うことで、参加者はモチベーション高くこれらをトータルで体感できます、プロジェクト学習の特徴でもある、プレゼンテーションで終わらずに、実際に「知の成果」を生み出し共有することで感動や達成感を得ることができます。自ら考え、判断、行動できる力。知識やスキルの獲得に終わらず、活用力、応用力（コンピテンシー）の修得…ここにプロジェクト学習とポートフォリオが人を成長させる両輪となりコーチング手法とともに機能します。

意志ある学びを叶える…<3つの手法と7つのキーワード>

● ビジョンとゴール

何のために何をやり遂げたいのか、ビジョンとゴールを明確にすること。基本フェーズで一つひとつ向かう、それが意志ある学びを叶えます。

● 他者に役立つ「知のアウトカム」

「体にいい食生活提案書」「みんなが助かるための地震対策アイデア集」など、他者に役立つ提案型の成果物を生み出すことが未来教育プロジェクト学習の特徴です。貢献性のあるゴールへ向かうことで自信や前向きな使命感が高まり、一層成長への意欲が湧きます。

● 知の再構築・根拠ある情報

プロジェクト学習の成果物となる凝縮ポートフォリオは、「私は〇〇を提案します、なぜならば現状に〇〇の課題があるからです、これを解決する具体的な提案は〇〇です、その手順は…」と知的で現実的な行動提案です。しっかり自分の視座をもち、根拠ある情報をもとにロジカルな思考表現ができる力が身につきます。

● 俯瞰

意志ある学びのためには、自分が向かう目標を見据え、その全体を俯瞰することが不可欠です。ポートフォリオで目標への軌跡を俯瞰できます。

● 思考プロセスの可視化

よくするためには、行動や思考を客観的に見る必要があります。そこで、手に入れた情報・思考プロセス・課題解決の手順が可視化できるポートフォリオが恋えます。人は成果や自分の成長を目で見ることができると意欲が湧きます。

● 部分知から全体知へ

世の中は教科に分かれているわけではありません。クロスカリキュラム、インテグレートで教科の部分知を全体知としてとらえることで現実に生きる教育となります。

● セルフコーチングとメタ認知

教師がコーチングスキルを身につけることは必要です。しかし真に目指すべきは、指導法やコーチングが上手な教師ではなく、目の前の学生を「セルフコーチング」できる人に育てることです。高次の自分をもち、自らを客観的に見ること（メタ認知）ができる人を育てることをゴールとしています。

■ 研修で「プロジェクト学習とコーチング」を体験する

プロジェクト手法による教員研修とは、上の特徴を大事にしながら、言語活動を重視した課題解決力：コンピテンシーを育める教育を果たせるための教員研修は、参加者である教師自らが知的かつ能動的に創造的な活動をすることでその効果をもたらします。教師自身が、現実から課題を見だし、その解決につながる「ビジョン（目的）とゴール（目標）」を明確に設定し、目標達成へ向かいます。このプロジェクト学習の流れを研修の時間に自らやって体感することで、教師である自分が各教科等のなかで、どう子どもたちの課題意識を高めるのか、どう目標達成をサポートするのか、プロセスのどこでどんなコーチングをすることで、子どもたちの言語活動が充実するのかがつかめます。

■ プロジェクト研修で<身につく力>と<コーチング>

プロジェクト手法による教員研修とは、プロジェクト学習、ポートフォリオの効果、そしてコーチングが獲得できる研修です。プロジェクト手法の研修は、プロジェクト学習の手順をシミュレーションしつつ展開しますので、言語活動を高める工夫やポイントをもりこみつつ、読解力の要ともいえる目標設定力、コンピテンシーや課題解決力などを修得することができます。

プロジェクト手法による教員研修とは、参加者である教員が未来教育プロジェクト学習の基本フェーズに添いながら、自らの課題を解決するというゴールに向かいチームで根拠ある情報をもとに現実に活用できる具体的なアイデアを生み出す研修です。目標達成、課題解決力のシミュレーション教育研修。その一連のプロセスを経験することで新しい教育に必要なFD・実践力（コンピテンシー）を獲得すると同時に教員としての実践的コーチングを身につけることができる21世紀の研修手法です。

< 基本フェーズ >	<身につく力>	<コーチング>
準備	<input type="checkbox"/> 課題発見力	現実から課題を見出せるコーチング
ビジョン・ゴール	<input type="checkbox"/> 目標設定力	課題を目標に変えるコーチング
計画	<input type="checkbox"/> 戦略力	すべき優先順位へのコーチング
情報	<input type="checkbox"/> 課題解決力	エビデンスを元にチームワークで解決策
制作	<input type="checkbox"/> わかりやすい表現力	テキストと図、表でロジカルな表現
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> コミュニケーション力	チームワークで考えを伝える工夫
再構築	<input type="checkbox"/> ロジカル思考表現力	他者からの評価を活かし改善できる
成長確認	<input type="checkbox"/> 自己評価、自己有能感	コンピテンシーを自覚

■ プロジェクト研修の基本プログラム

プロジェクト手法による「教員研修」 基本プログラム		
講義	9:30	あいさつ:新しい学力／コンピテンシーとは <input type="checkbox"/> プロジェクト学習とは <input type="checkbox"/> ポートフォリオとは <input type="checkbox"/> コーチングの基本
プロジェクト手法のワークショップ(WSS1)	10:45	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">準備</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">ビジョン・ゴール</div> ■ 意志あるチームづくり ■ チームでチーム目標を生み出す 現実から「課題」を見出せるコーチング…… <input type="checkbox"/> 課題発見力 「課題」を「目標」に変えるコーチング …… <input type="checkbox"/> 目標設定力
	11:45	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">計画</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">情報</div> ■ 全体の時間を意識し課題への情報を得る ■ チームで課題発見・課題解決を考え出す すべき優先順位へのコーチング …… <input type="checkbox"/> 戦略力 エビデンスを元にチームワークで解決策 …… <input type="checkbox"/> 課題解決力
	(昼食)	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">制作</div> ■ 模造紙2枚に「目標・現状・課題解決策」を表現する テキストと図、表での確かな表現 …… <input type="checkbox"/> わかりやすい表現力
	14:00	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">プレゼンテーション</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">再構築</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">成長確認</div> ■ プレゼンし相互評価しあう、それを活かし改善する チームワークで考えを伝える工夫 …… <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 他者からの評価を活かし改善する …… <input type="checkbox"/> ロジカル思考表現力 コンピテンシーを自覚 …… <input type="checkbox"/> 自己評価、自己有能感
講義	15:00	プロジェクト学習の導入について コンピテンシー育成コーチング手法 フィンランド・日本の新教科書
WSS2	15:45	■ 今日獲得したものを、参加者各自が教科などへの活かし方を考える ■ 上のアイデア共有のために6名程度、プレゼンしていただく
	16:20	アンケート・終了
	16:30	

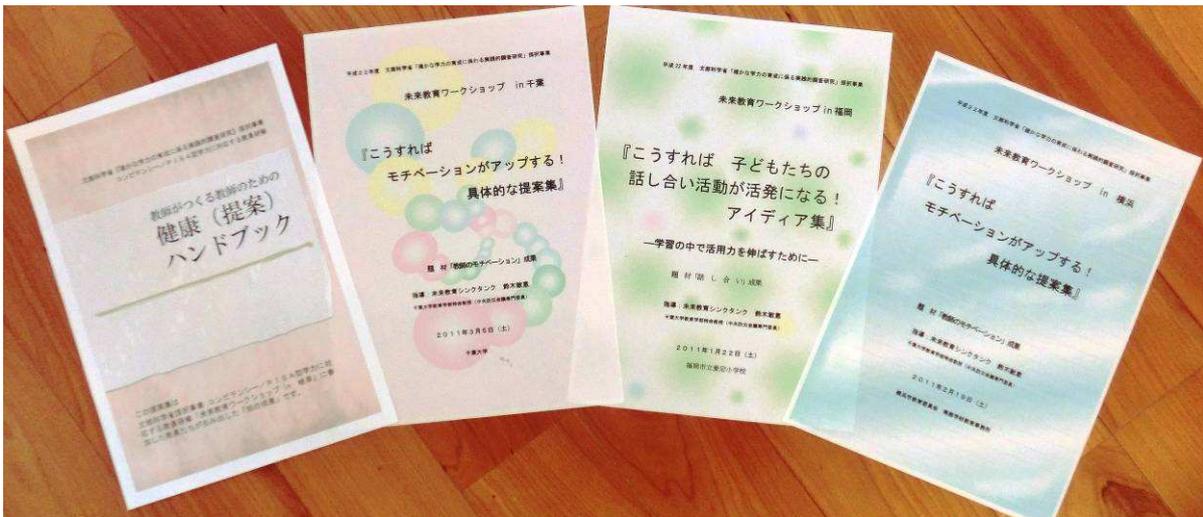
■ コンピテンシー育成への視点からみた「プロジェクト研修」

コンピテンシー育成への視点からみた「プロジェクト研修」プログラム			
講義	9:30	<p>*獲得できるコンピテンシー</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは 「意志ある学びとコンピテンシー/活用力」 「新学習要領と教科書について」 概念把握・知の構造..俯瞰 思考と表現と行動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 概念理解:意志ある学び ◆ 目的と目標の意味 ◆ 「思考プロセス」の重要性 ◆ 「俯瞰」の概念理解 ◆ 読解力のとらえかた
ワークショップ1	10:30	<p>全体の目的:ビジョン * PISA型学力とプロジェクト学習 意志あるチームづくり * 言語活動: 自分の考え・要約的表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 課題発見力 ◆ ビジョンとゴール ◆ チームで意志決定
	11:00	<p>チームテーマ(目標設定へのコーチング) * 言語活動: 目的・目標・改善・提案、要約 チームで課題発見・課題解決 * 言語活動: 帰納的・演繹的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ひらめきメモカ ◆ 触発しあい創造 ◆ 発散と収束 ◆ 思考の可視化
	昼食	<p>制作(知の再構築) * 言語活動: 図、グラフ、表(非連続型テキスト) プレゼンテーション(相互評価) プレゼン「成果」修正 * 言語活動: 結論と理由・論拠・証拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チームワークで表現力 ◆ 最も伝わる創意工夫 ◆ 使命感・自信 ◆ 役に立ち合う視点 ◆ リアクション
講義	14:30	<p>コンピテンシー育成手法 (フィンランド・日本の新しい教科書) * PISA型学力: 論理的かつ構築的 クリティカルシンキング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 読解力に有効な コーチングの理解 ◆ プロジェクト成功のコツ
ワークショップ2	15:30	<p>各自…教科などへの活かし方を考える * 言語活動: 比喩・例示・類推 アイデア共有 * PISA型学力: 一人思考、全体共有 発表</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 全体をフィードバック ◆ 今日獲得したものの確認 ◆ 明日から活かす方法 ◆ 教師同士で知の共有 (学び合い)
	16:20 16:30	アンケート・終了	

■ 研修のゴール＝役立つ「知のアウトカム」

教員研修では、講師による、理論編「講演タイム」と、参加者が実際にやってみる「ワークショップタイム」からなります。このうちワークショップタイムでプロジェクト学習を限られた時間ながら実践してみるということとなります。

ワークショップタイムでは、参加者自身の役にたつプロダクト（知の成果）を生み出すことをゴールとします。「知の成果」は、自分たちだけでなく、同様の立場や状況の人にも役立つものにします。今回、1回目から7回にわたる研修では以下のような「知の成果物」を生み出すことができました。



■ 7回の教員研修…各会場における題材と成果

岐阜研修：題材「健康」

：知の成果『教師がつくる教師のための健康ハンドブック』

札幌研修：題材「成長」

：知の成果『こうすれば教師がポジティブに成長し続けられる！アイデア集』

愛媛研修：題材「防災」

：知の成果『かつてない豪雨！（子どもたちを守るために）そのときこうする！行動提案集』

福岡研修：題材「話し合い」

：知の成果『こうすれば子どもたちの話し合い活動が活発になる！アイデア集』

山口研修：成果「コミュニケーション」

：知の成果『こうすれば子ども達のコミュニケーション力が高まる実践事例集』

横浜研修：題材「モチベーション」

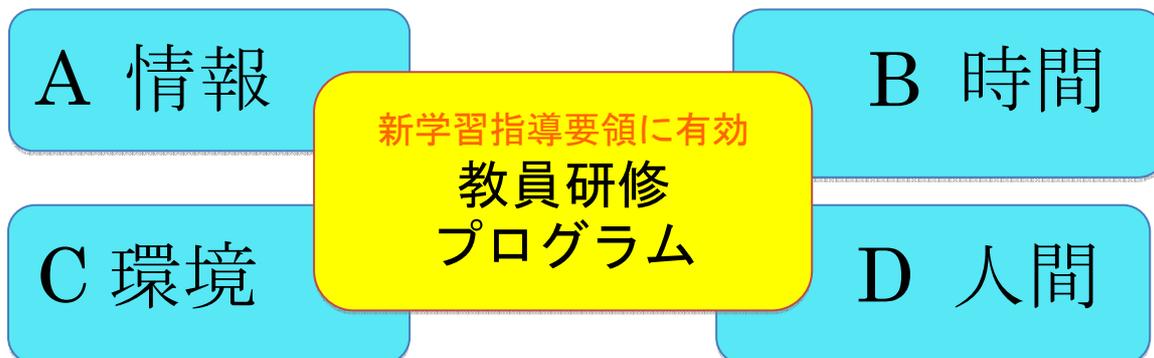
：知の成果『こうすればモチベーションがアップする！具体的な提案集』

千葉研修：題材「言葉」

：知の成果『こうすれば子どもがイメージしたものを言葉にしたいくなる！アイデア集』

■ 効果的な研修の条件

今回7箇所による教員研修で検証されたように、効果的な研修の成果をうむためには《情報》《時間》《環境》《人間》4つの要素の工夫や充実が望まれます。



《A 情報》の工夫

配布資料が何種類もある際は、はじめから机の上に順番においておき参加者が資料探しに混乱しないようにします。また会場に備えておく「新しい教科書や学習指導要領」など関連する知的資料の実物を参加者が手にふれることができるようにします。

《B 時間》の工夫

知識やスキルのみでの研修であれば、1、2時間の受講でも可能ですが、コンピテンシーが高まる研修になるためには、自らが参加し思考し「知」を生み出すことが有効なのである程度の時間が必要となる、今回研修をさまざまな条件や対象で展開した結果、昼食や休憩などの時間も含め6時間（9時半～16時半）程度は確保したいところです。

- ① 壁にタイムスケジュールを掲示しておく
- ② メリハリのある展開となるようにチンツとなる鐘を活用する

《C 環境》の工夫

研修会場の雰囲気は知的でかつ快適な環境であることは非常にたいせつです。①十分な広さ、②移動ホワイトボードなど含むメディア、IT環境の充実、とくに書画カメラの設置は、知的な資料やその場で生まれた知的成果を参加者全員が共有に不可欠です。③段差のない床、レイアウトの自在性、多目的使用ができる事。模造紙などをはれる壁面やガラス窓があること、キャンディなど甘いものの備えも長時間のワークショップには用意します。

《D 人間》の配慮

コーチング・講師をする人、ファシリテーター、その日の参加者も含めて笑顔で、いいチームワークで楽しい雰囲気で行う。できるかぎり親切に対応することも肝心です。

言語活動の充実とコンピテンシー獲得に有効な

プロジェクト手法による『教員研修プログラム』の提案

講師：鈴木敏恵（シンクタンク未来教育ビジョン代表／千葉大学教育学部特命教授）

形式：「講義とワークショップ」

手法：ポートフォリオ活用・プロジェクト学習・対話コーチング

対象：各教科等における言語活動の充実、活用力に関心のある教師（30名～50名）

● 獲得できる知…言語活動 [思考力][表現力][活用力]への新しい教育方法とコーチング手法

[思考力]…比較、分類、関連づけ、規則性、類推

[表現力]…例示、平易、簡潔、結論と理由、根拠、証拠、非連続テキスト

[活用力] プロジェクト力：チームワーク力、目標設定力、課題発見力、課題解決力、
情報を獲得、見極める力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

○ 特徴1…知的プロダクトを生む教員研修：未来教育ワークショップ（WS）

1. 「目的と目標」を明確にして「プロジェクト学習の基本フェーズ」で展開する
……ワークショップの目的と目標を決め、目標へ基本フェーズで向かう
2. 「知」を概念でとらえ、自らの思考プロセスを俯瞰することの価値を体験する
……ワークショップの題材（知）に対し、本質的、普遍的、多面的な視点でせまる
3. 研修の成果として知的プロダクト：他者に役立つ知財を生み出す。
……ワークショップの最後に社会貢献性のある知的成果物を生み出します

○ 特徴2…課題意識にもとづきチームでアイデアを生み出す

プロジェクトとは、何かを成しとげる、ということ。そこには挑戦、創造性、チームワーク、達成感などの要素があります。参加者は共通する課題意識をもつチームでアイデアを生み出しプレゼンテーション、その後「知の成果物」として提案集（アイデア）集を作る、というようにプロジェクト学習を限られた時間でシミュレーションします。

○ 特徴3…二つの立場で新しい教育手法を経験する

ワークショップはプロジェクト学習の基本フェーズで進行。各フェーズに「思考力」「表現力」「活用力」を高めるコーチングを折り込みながら進めます、参加者は、学習者の立場でプロジェクト型研修をすすめつつも、教師の立場でもこれらの新しい教育をどのようにしたら、自分が現場で実践できるのか、その教育方法やコーチングを体得する。一連のプロセスで言語活動の充実、活用力などPISA型学力を、目標設定力、課題解決力など具体的に修得することができる。

言語活動を重視した教員研修プログラム…〈全体の流れ〉

各教科等における言語活動を重視した課題解決能力の獲得を可能とするプロジェクト学習とポートフォリオ
 --- コーチング指導による「コンピテンシー育成」を目指して ---

講義 1	9:30	<ul style="list-style-type: none"> □ きょうの研修全体の「目的・目標」を確認 □ PISA 読解力・新学習指導要領と教科書の説明 □ プロジェクト学習とポートフォリオの包括的概念 □ プロジェクト学習の基本フェーズ <ul style="list-style-type: none"> * プロジェクト学習の理念と手法 * PISA 読解力・言語活動の充実ポイント * 思考力・表現力・行動力を高める教育
ワークショップ (WS1)	10:30	<ul style="list-style-type: none"> □ このワークショップの「題材」「目的・目標」共有 <ul style="list-style-type: none"> * PISA読解力: 目標設定力 □ 意志あるチームづくり <ul style="list-style-type: none"> * 言語活動: 自分の考え・要約的表現
	11:00	<ul style="list-style-type: none"> □ チームテーマ(目標設定へのコーチング) <ul style="list-style-type: none"> * 言語活動: 目的・目標・改善・提案、要約 □ チームで課題発見・課題解決 <ul style="list-style-type: none"> * 思考活動: 帰納的・演繹的 * PISA 読解力: 自らの目標を達成、行動 <ol style="list-style-type: none"> ① 目標を決定する …コーチング ② 現状から課題を見出す…コーチング ③ 課題解決策を考え出す…コーチング
	(昼食)	<ul style="list-style-type: none"> □ プレゼンテーションの制作(知の再構築) <ul style="list-style-type: none"> * 言語活動: 図、グラフ、表(非連続型テキスト) <ol style="list-style-type: none"> ④ 客観的視点を促す …コーチング ⑤ 具体的な行動化の表現…コーチング
講義 2	14:00	<ul style="list-style-type: none"> □ プレゼンテーション(相互評価) <ul style="list-style-type: none"> * 言語活動: 結論と理由・論拠・証拠／簡潔 □ プレゼンテーションの内容を改善 <ul style="list-style-type: none"> * 思考活動: 評価を活かし試行錯誤し改善
	(休憩)	
15:00	<ul style="list-style-type: none"> □ コンピテンシー育成に有効なコーチング手法 <ul style="list-style-type: none"> * PISA型学力: 論理的思考の教育方法 クリティカルシンキング 	
(WS2)	15:45	<ul style="list-style-type: none"> □ 「個人」で、教科などへの活かし方を考える <ul style="list-style-type: none"> * 言語活動: 比喩・例示・類推 □ 「全体」で、思考共有…個人知から全体知へ
	16:20 16:30	アンケート・評価 終了



新学習指導要領と教科書



全体をフィードバック

- ◆ 目標は達成できたか
- ◆ 今日、得たもの確認
- ◆ 明日から活かす方法
 - ↓
- ◆ 教師各自が知の創造
- ◆ 知の触発と知の共有
- ◆ たがいに賞賛と感謝

言語活動を重視した教員研修プログラム…＜詳細な展開＞

講義 1

PISA型学力・プロジェクト学習の基本

9:30 開始

● 獲得できる知: [読解力の定義][概念の理解]



■ 研修ビジョンの共有

- 講師はポートフォリオを活かし元気に自己紹介する
- 参加者と「意志ある学び+楽しい研修」という研修のビジョンを共有する
- タイムスケジュールを参加者へ説明する
- 今日の研修のねらいをつたえる
「新学習指導要領に有効なプロジェクト学習や対話コーチングの考え方と手法がつかめる！」



■ 講演「新学習指導要領や言語活動の充実について」

- 新学習指導要領、PISA型学力、コンピテンシー（活用力・課題解決力・言語活動の充実）を新年度からの教科書を開き対応させながら説明する。

← 会場に、「新学習指導要領」と各社の新年度「教科書」（光村、教育出版、東京書籍などの国語の教科書ほか）

■ 講演「PISA型学力に有効なプロジェクト学習」

読解力の定義

「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」

OECD 生徒の学習到達度調査。
2009年調査国際結果の要約より

- 講師は、プロジェクト学習用シート集とその解説書とポートフォリオ用ファイルの使い方を説明する。

● 獲得できる知: 「思考プロセス」を可視化する方法

← 参加者は、そのシートに実際に書き込みながらプロジェクト学習やコーチングなどを理解していく。



- 意志ある学びー未来教育プロジェクト学習とは
…シート集、シート②へ記入
- プロジェクト学習の基本フェーズ、身につける力
…シート集、シート③へ記入
- 課題発見力を引き出す手法とコーチング
…シート集、シート④へ記入
- プロジェクト学習とポートフォリオの関係

実物のプロジェクト学習の成果であるポートフォリオを示し、今日の研修でもこのようなものを生み出すことを伝える。手にとることができるよう展示しておく。

10:30

● 獲得できる知: [俯瞰を叶える視座のもち方] [意志あるチーム]づくりの方法



■ 未来教育ワークショップの展開を説明

- プロジェクト学習のフェーズで展開することを伝える。
- 事前に参加者から集めた情報をもとにワークショップの「題材」と「目的と目標」を決定する

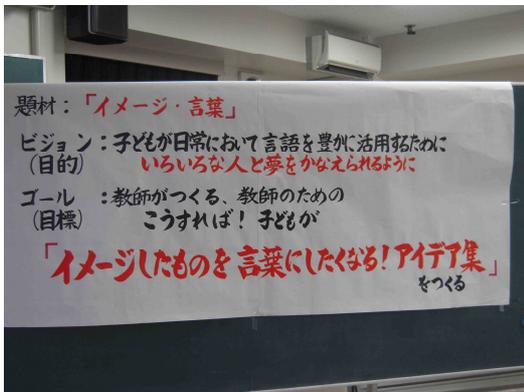
** 以後、主に千葉会場における教員研修の実践による

＜プロジェクト研修の目的と目標＞

題材『言葉』

目的『子どもが言語を豊かに使えるために』

目標『子どもがイメージしたものを、言葉にしたくなる！アイデア集をつくる』



↑
子どもが「イメージ」したものを言語化したくなる工夫を教師たちがプロジェクトチームで考えだすことを狙った。

- ポイント: 必然性のある『題材』にすること
ここでは教師にとって必然性ある「言葉」を題材とした、「健康」「リスク」などもOK
- ポイント: ビジョン (目的)、ゴール (目標) は大きな紙にかき壁に掲示していつでも目に入るようにする。



■ チームビルディング: 意志あるチームづくり

- 参加者は、自ら関心のある課題をシートに書く。
自分の関心をシート集の⑦を使う。

- 獲得できる知: [課題への意識化・課題発見力]
- 獲得できる知: [個人の意志を活かしたチーム]

- 一人ひとりの課題意識にもとづき、チームを作る。

- 壁等にカテゴリーを書いた紙を3メートル間隔に貼る。各自自分の関心のある所に集まり同じ課題意識のある人でチームをつくる。



- 言語活動を意識したチームづくりのカテゴリー例

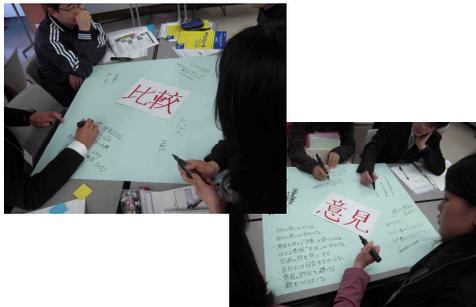
比較	改善	意見	経験	作品
よさ	文化	変化	将来	

- 獲得できる知: [題材への概念、理解]
- 言語活動の高まり: [分類・関連付け・関係付け]



11:00

● 獲得できる知：「明確な目標」へのコーチング手法



■ チームテーマ（目標）づくり

● 言語活動の高まり：[帰納的][演繹的]思考力

□ チームテーマを決めるために チームごとにブレインストーミング。一人ひとりがどんどん意見を出す。その後、このワークショップの大目標「イメージしたものを、言葉にしたくなるアイデア集」と照らし合わせて一番、あったら助かるものに決定する

□ ポイント：模造紙の中央にラフにキーワードを置き、話し合いがぶれないようにそれを見ながら現状の課題を話し合いチームテーマを決めていく。

□ ポイント：チームテーマは「〇〇の方法を提案します」と他者に行動や方法を提案する。

- 獲得できる知：概念の理解に近づける
- 獲得できる知：思考プロセスの可視化（ブレインストーミング）

■ チームテーマ（目標）の共有

□ チーム目標を明確にするために講師がコーチングする
「今はどうなの？」
「ほかには？」
「具体的には？」

講師のコーチングセリフや意図を教師たちは、メモしながら平行してチームのメンバーとして思考活動を遂行する。

各チームが決定したチーム目標を他の人たちへ伝える「明確な目標」になるよう講師がコーチングするそのコツをつかんだら、互いにコーチングしあってシャープな目標表現としていく。

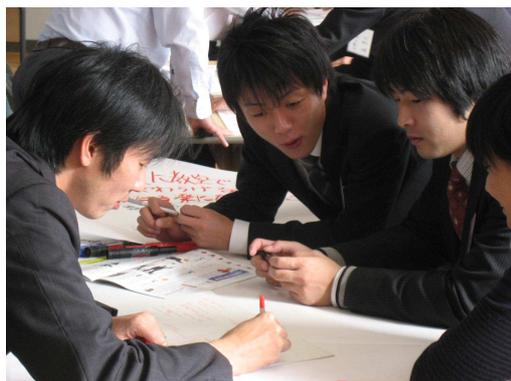
● 言語活動の高まり：[平易・簡潔]な表現力

子どもたちの言語活動を高めるための<チームテーマ例>

- 作品（絵）を比較して特徴を**的確に根拠を添えて言葉**にしたくなる方法を提案します！
- 学級での話し合いで、受け身の子も思わず**自分の考えを表現**したくなる方法の提案
- 子どもたちがラジオコマーシャルで地域の**良さを伝えたく**なるような方法を提案します！
- 卒業式のときに将来何になっていたか**を本音で話したく**なる方法を提案します！
- 1枚の写真から**たくさんの言葉で表現**したくなるアイデアを提案します
- 中3の卒業を前に“私が変化した瞬間を”**言葉にして伝えたく**なるような方法を提案します！
- 受験の面接で、困難を乗り越えた**経験を簡潔に言葉**にしたくなる方法を提案します

11:30

■ 一人思考から思考共有、知的創造へ



- 言語活動の高まり：結論と理由、根拠、証拠
- 言語活動の高まり：[帰納的][演繹的]思考力

□ テーマが決定したら互いの考えを出し合い、根拠ある情報をもとに課題解決策を生むだしプレゼンテーションの制作物を作り上げる。

＜再構築の3条件＞

- 1, 自分たちの考えであること
- 2, 根拠ある情報と概念図等を含むこと
- 3, 現実に、こうすればできるという「具体的な提案」であること



■ プレゼンテーションの内容を制作する

- 言語活動の高まり：非連続テキスト (文章、図、グラフ、表)
- 言語活動の高まり：[帰納的][演繹的]表現力

□ 制作条件
模造紙2枚サイズへ「提案テーマ・現状・課題、課題解決策・具体的な提案」をレイアウトします。

□ 提案内容は、現状をしめす「データ」「グラフ」など「根拠ある情報」を入れる。具体的な提案には、「図やイラスト」「手順を示す矢印」「ポイント」などを含める

14:00

■ チームごとにプレゼンテーション (3分)

ノンバーバルコミュニケーション (非言語的)

- 言語活動の高まり：[簡潔・平易・例示] 表現力
- 言語活動の高まり：[類推・隠喩・比喩] 表現力

□ 講師はプレゼンテーションの意図や考え方を伝えながらプレゼンテーションの仕方の説明もする

□ ロールプレイで先生役、子ども役を演じつつ、楽しくも具体的に役立つ提案をプレゼンテーション。



■ 互いの成長をかき立てる評価・賞賛

- 言語活動の高まり：意欲が湧く愛ある表現力

□ もっとよくしたくなる具体的な評価やアドバイス

■ 評価を活かしプレゼン模造紙の内容改善する

- 言語活動の高まり：具体的で簡潔な表現力

□ 模造紙にピンク付箋 (ここがよかった)、ブルー付箋 (こうしたらもっとよくなる) を互いに貼る。それを活かし、模造紙の内容をさらによくする



15:00

● 獲得できる知: 意志ある学びを叶えるプロジェクト学習とコーチング



ワークショップ

(WS 2)

研修で得た「知識や手法」の活用を参加者たちが共有する

15:45

● 獲得できる知: [思考の可視化] [知の IN と OUT の自覚] [個人知から集合知]への手法



←① ②↓



↑③ ④→



■ 研修で得たことを各教科等に活かす方法を考えだし参加者全員で共有する

- ① 一人ひとりがアクションシートに今日の研修で得たこととそれを教科などで子どもの活用力を高めるためアイデアを考え書き表す。
- ② 4名程度で記入したアクションシートを互いに見合い「これやってみよう、」や「ユニーク、使えるね!」などの視点で推薦しあい1枚決める。
- ③ 講師は、にこやかにそのアクションシートとともにその参加者の記入した内容を所がカメラでスクリーンに映し出し皆さんへ紹介する。自己紹介を促しその内容をみなさんへ話してもらう。
- ④ メモとりながらニコニコ仲間のアイデアを聞く参加者、惜しみない拍手! 講師は感謝を伝える。

感謝・実行へのビジョン

16:15 □ 最後に全体を通して写真をスライドで流す。

16:20 □ アンケート記入
□ 成長への感想

16:30 終了

■ ワークショップ(WS1)の凝縮ポートフォリオを作成する

プレゼン時の模造紙を写真に撮り、プリントアウトした用紙を綴じ提案集とします。それが研修の成果(知財)となる。



第Ⅳ章 コンピテンシー育成への試行的教員研修の実施



第Ⅳ章 コンピテンシー育成への試行的教員研修の実施

い) 試行的教育研修の意義（複数会場で実施する目的）

全国の複数カ所で試行的研修を行うことで全体性が見え、より汎用性あるプログラムを生み出せる可能性があります。

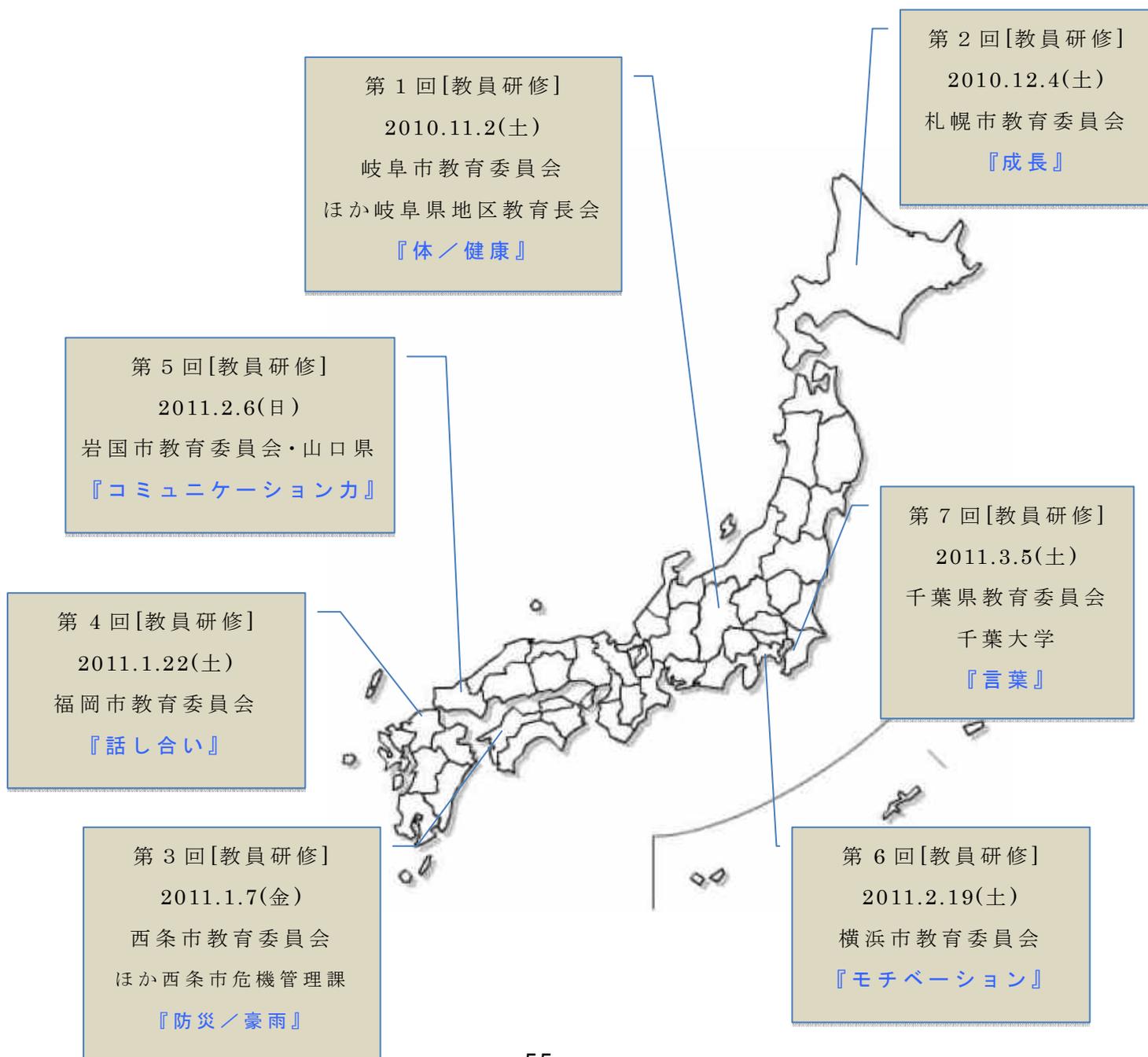
さらに各地で実施することで得られる視点は以下のとおりです。

視点1：新学習指導要領にあるいくつかの「題材」（以下青字）を柱とできる。

視点2：主催者や参加者層の違いによる展開の工夫が浮き上がる。

視点3：地域性（人口、都市部）による特徴を見出せる。

言語活動を重視・課題解決力：コンピテンシー『教員研修』全国7カ所における実施場所



ii) 教員研修リスト

■ 文部科学省 採択事業／コンピテンシー育成『教員研修』実施リスト

	地区:日時	主催・後援	会場
第1回	岐阜 11.2(土) 10:00～16:30	○主催: 岐阜市教育委員会 シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:岐阜地区教育長会	岐阜市教育研究所 80名
第2回	札幌 12.04(土)	○主催: シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:札幌市教育委員会	札幌市立厚別通小学校 30名
第3回	愛媛 01.07(金) 9:30～4:30	○主催: 西条市教育委員会 シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:西条市危機管理課	西条市中央公民館 55名
第4回	福岡 01.22 (土) 10:00～16:30	○主催: シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:福岡市教育委員会	福岡市立愛宕小学校 30名
第5回	山口 02.06(日) 9:30～4:00	○主催: 岩国市教育委員会 シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:山口県教育委員会	岩国市立麻里布小学校 25名
第6回	横浜 02.19(土) 9:30～16:30	○主催: 横浜市教育委員会 ○協力: シンクタンク未来教育ビジョン	横浜市教育委員会南部学校 教育事務所 30名
第7回	千葉 03.05(土) 9:30～16:30	○主催: シンクタンク未来教育ビジョン ○後援:千葉県教育委員会 ○協力:千葉大学 教育学部	千葉大学稲毛キャンパス 教育学部5号館 50名

	研修担当者 (ファシリテータ)	プロジェクト研修の「題材」と「知の成果」 題材: 目標等	新学習指導要領 採用教科書
	七野武稔指導主事 岐阜市教育委員会学校指導課 岐阜市教育研究所主幹 (吉川、長岡)	題材: 健やかな体 「教師がつくる教師のための健康ハンドブックをつくる！」	72P.88P.92P.102P.110P 教科書(国語): 光村
	大野睦仁 教諭 札幌市立厚別通小学校 (安藤、若槻)	題材: 成長・意欲 「こうすれば教師がポジティブに成長し続けられるアイデア集をつくる！」	72P.110P (国語: 光村)
	安藤宏幸 校長 多賀小学校 校長 (川崎、千羽)	題材: 防災(集中豪雨) 教師がつくる教師のための「かってない豪雨! そのときこうする行動提案集をつくる！」	34P.36P.67P.110P (国語: 光村)
	稲益義宏 教諭 福岡市立愛宕小学校 (若槻、大野)	題材: 「話し合い」 「こうすれば子どもたちの話し合いが活発になる! アイデア集をつくる！」	43P.110P (国語: 光村)
	長岡豊 教諭 岩国市立麻里布小学校 研修主任	題材: 「コミュニケーション」 「こうすれば子どもたちのコミュニケーション力が高まる実践活用集をつくる！」	18P.110P (国語: 光村)
	増田昌浩 指導主事 横浜市教育委員会指導企画課 (宮下)	題材: 「モチベーション」 「仕事・学校をおもしろくするために「こうすればモチベーションがアップする! 具体的な提案書をつくる！」	110P (国語: 光村)
	永島俊之 教諭 富津市立竹岡小学校 教務主任 (鴨下)	題材: 「言葉」 「教師がつくる教師のための、こうすれば子どもがイメージしたものを言葉にしたいくなる! アイデア集をつくる！」	37P 110P (国語: 教育出版)

事業の内容: 各教科等における言語活動を、課題解決能力やコミュニケーション能力、批判的な思考能力などの育成に効果的につなげるための取組事例の収集及び授業改善のあり方や教材、教員への研修手法等の研究・開発を、学校や教育委員会等と連携しつつ実施する。(文部科学省ホームページより抜粋)

iii) ワークショップ手法による「教員研修」の基本展開と結果
 《ワークショップ全体の流れ》

第1回 教員研修（ワークショップ）岐阜会場

- 日時： 2010年11月20日（土）10:00～17:00 岐阜市教育研修所
- 題材:「教員の健康」
- 参加者:岐阜市教育委員会指導主事等19名、
 一般教員61名(小学校38名、中学校15名、特別支援6名、その他2名)

講義	10:00	<p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 思考と表現と行動・俯瞰</p> <p>新しい教科書と読解力</p>		
ワークショップ1	10:40	<p>全体の目的：ビジョン 意志ある<チームづくり></p>		
	11:15	<p>チームテーマ（目標設定へのコーチング）</p>		
	11:45	<p>チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p>		
	13:30	<p>プレゼンテーション（評価：付箋）</p>		
講義	13:45	<p>事例紹介（西小学校）</p>		
	14:00	<p>コンピテンシー育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書） PISA型学力・言語活動を充実させるコーチング手法</p>		
ワークショップ2	15:40	<p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活かし方を考え出す。</p>		
	16:00	<p>アイデア共有 研修のプロダクトを生み出す活動 「子ども達の言語活動・活用力を高める方法への提案」 （参照 WS2成果）</p>		
	16:20	<p>アンケート 終了</p>		

題 材：『健康』

目 的(ビジョン)：教師として元気に仕事をするために

目 標(ゴール)：「教師がつくる教師のための健康ハンドブック」を作る！

〈チームづくり〉のカテゴリー

○ 睡 眠

○ 食 事

○ メ タ ボ

○ 運 動

○ サ プ リ

○ ダイエット

○ 腰 痛

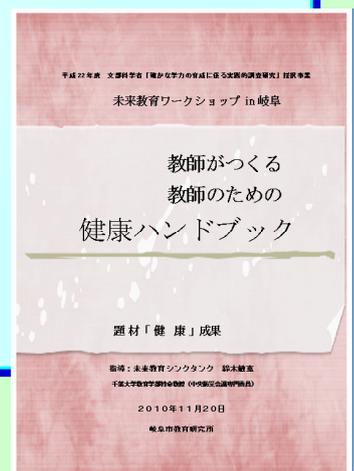
○ リラックス

○ 心 の 健 康

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 5時間でもぐっすり熟睡できる方法を提案します。
- 2 朝、布団からなかなか出れない先生のために、スッキリ目覚める方法を提案します。
- 3 雨の日の月曜日でも学校へ行きたくなくなってしまうアイデアを提案します。
- 4 勤務中の普段の行動に一工夫した運動の方法を提案します。
- 5 給食をしっかり食べても脂肪を減らす方法を提案します。
- 6 デスクワークが続いたとき、5分でできる肩こり解消法を提案します。
- 7 家族サービスが気になっているあなた、家族と共にリラックスタイムを作る方法を提案します。
- 8 学校で仕事のきりのつけ方を提案します。
- 9 放課後、教室でできる腰の痛みを和らげる方法を提案します。
～あなたも3分で楽になります～
- 10 夜遅く食事をする人のために、満腹かつヘルシーな食事のとり方を提案します。
- 11 遅い時間に食べても太らない食事のとり方を提案します。

WS1の成果物→



「ワークショップ手法による教員研修 in 岐阜」 参加者へのアンケート結果

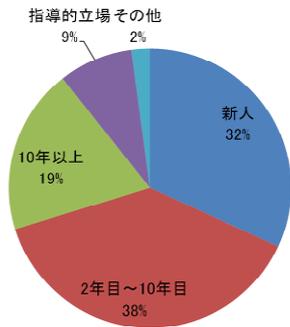


図1 研修会参加者の職位・経験年数

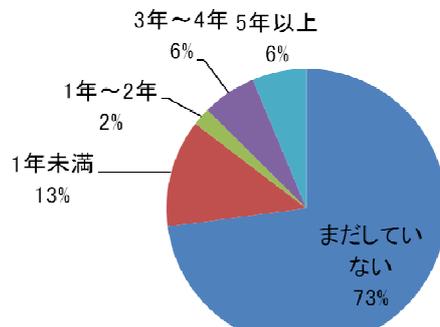


図2 ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績

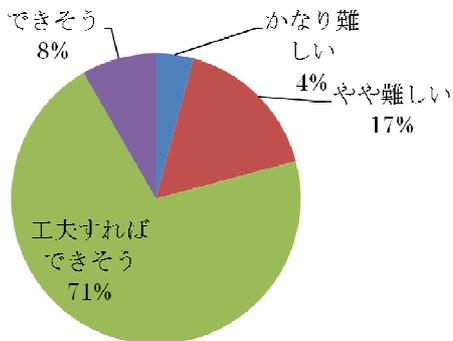


図3 ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象

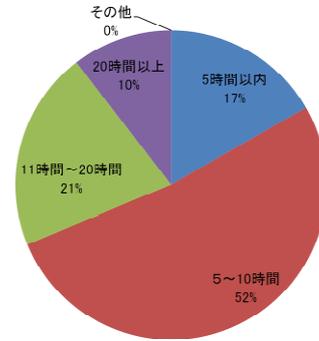


図5 ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に「必要な研修時間」

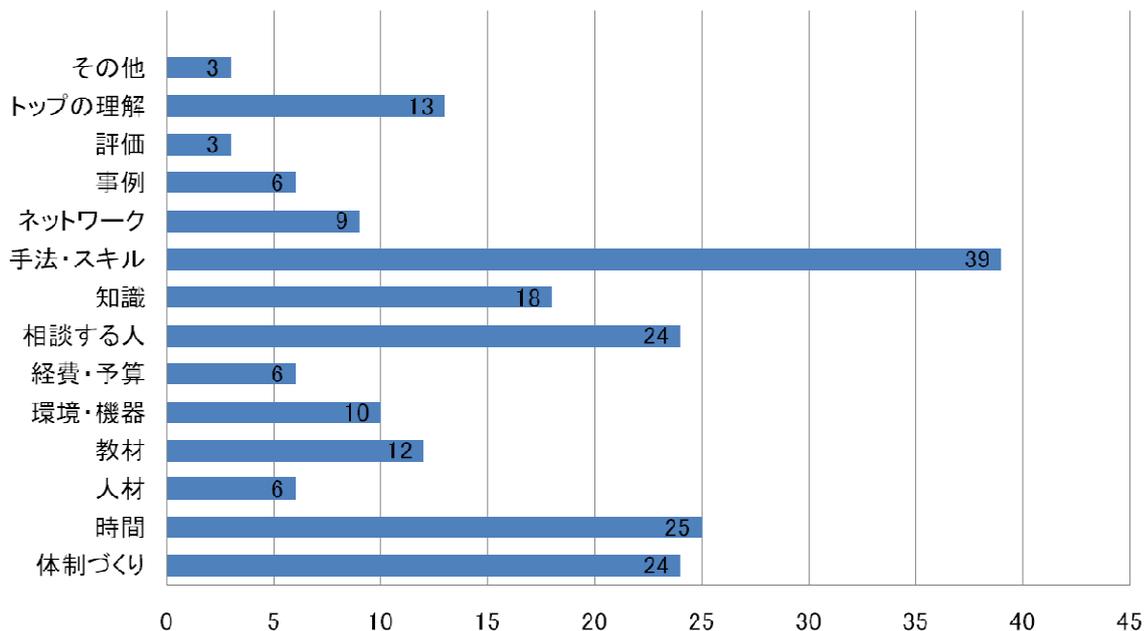


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 岐阜（自由記述）

<肯定的評価>

- 魅力的な指導法なので活用したい。
- プロジェクト学習に近い指導を行っているので、体系的に行えば実践が可能となる。
- 多様な例を知り、自分で実践することができたから。
- 生徒が目標を持つ、人のために役立つ、そのためのコーチングを学べた。
- 小学校のいろいろな教科に関連させて行うことができそう。
- 目標、身に付けたい力が明確で、わかりやすいから。
- 学級や教科の学習で使えるところは使っていきたい。
- 教師が子どもに投げかける言葉、与える視点をしっかりもっていないといけない。
- 今まで実践してきたことと発想が似ている。
- 総合的な学習の有効活用が必要。
- 言葉のかけ方や生徒に軸をおいて考えたら、見直すことがたくさんあると思った。
- 全ての教科ではなく、プロジェクト学習で何を育てるか考え、どこに取り入れるか決めていけばよい。
- 身に付けたい力をつける学習はその場面でも活用していける。
- 学習の見通しを持つ、全体を俯瞰することは教科で当てはめることができる。
- 自分がやって楽しいと思った。
- 発言の少ない子どもにも個に応じて活用していきたい。
- 子ども自身が願いを叶えるという必要性を感じてくれそうだから。
- 学びの道筋がはっきりしており、子どもが自分の成長をみつめ、やりがいをもって学習していく。
- 教師がしっかり理解して取り組めば、子どもに力を付けられる。
- どんな場面で活用できるか、今後整理していきたい。
- 教育全体で、どの場面でも、いろいろな力を引き出すことができそう。
- 子どものためになるという自分のモチベーションが高まった。
- 研修を受けてよくわかった。
- シュミレーションやアイデアの共有により具体的な方法やコツがわかった。
- 考え方やコーチングは様々な場面で活用できそうだと感じた。
- 自分の学級経営に活かしていけそう。
- 教材を使えばできそうだと感じた。
- いろいろな場面で活かせることがわかったから。

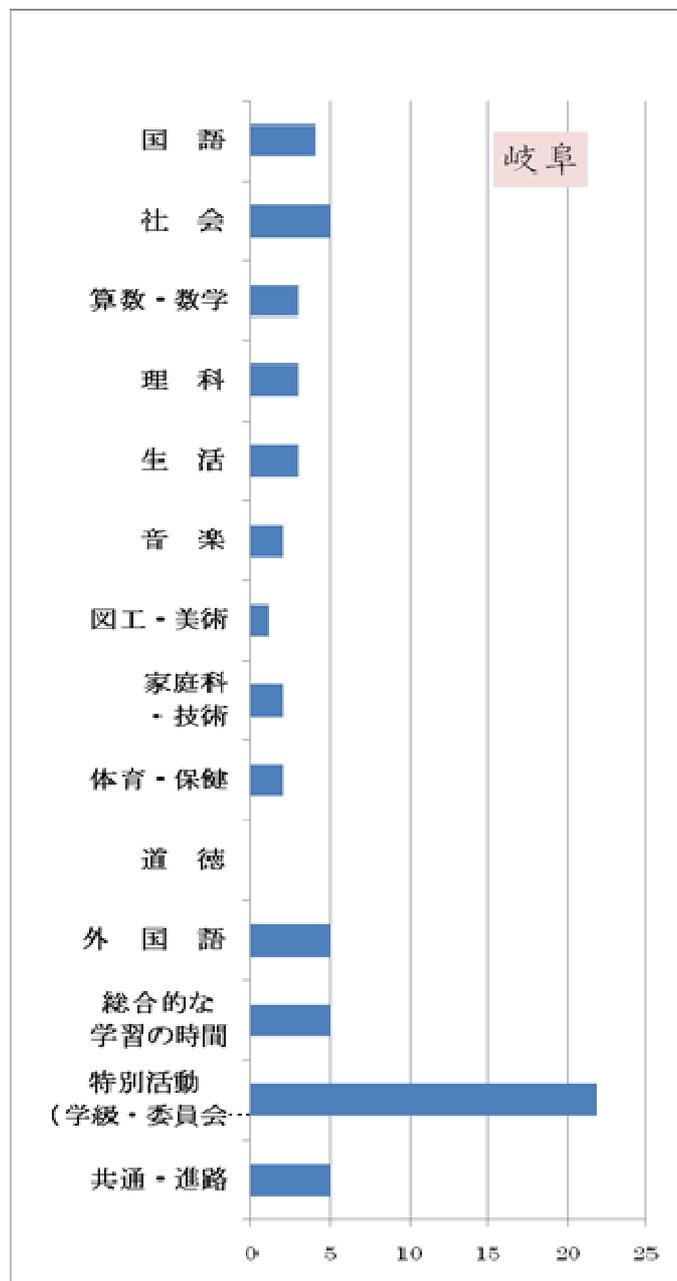
< 課題 >

- 用語が難解。小学校3・4年生には難しい。
- 子どもの考えに対して、コーチングでよい方向に導くことが難しそう。
- 何をどうしたらよいかまだよく理解できていない。
- 学校行事が多くて、時間がない。
- 教師の柔軟さが必要であると考えられるため。
- プロジェクト学習すべてを取り入れるには時間的に難しい。
- 自分の担当する教科の授業時間が少ないので、現在無の現状ではやるのがややつらい。
- 経験不足で学んだことがすぐ生かせるかわかならぬ。コーチングならできそう。
- 自分の指導力がまだ十分でない。準備が大変そう。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆国語：「発信しよう」編

- ・教材を使って学んだことを、今度は自分で課題を決め、調査し、発信していくという単元。
- 今までは教科書の題材を少し発展させたものや幾つかのこちらからの提案を子ども達が課題とすることが多かった。
- 今後は、まず自分が何を問題として捉えているのか、子ども自身が考え、その課題について調べ、提案していく。

☆英語：「Unit7 カナダの学校生活」編

- ・「カナダと比べて日本の学校はどう？」
- 「他の国はどう？」
- ・ビジョンとゴールの決定
- 「他の国々はどうなっているのだろうか」
- 「世界の学校生活が一目でわかるように紹介するパンフを作成する」
- ・計画
- ・情報を集める
- 「ALT へのインタビュー」「インターネット」「本など」
- ・制作
- 「教科書の英文を参考にして、紹介英文を作成する」
- 「図や写真も入れる」
- ・プレゼン
- 「英語で」

☆体育：「跳び箱」編

- ・「自分がどのような跳び方(技)ができるようになりたいか」
- ・「今、自分はどのような動きが出来るのか」
- ・「どのような練習をすればよいのか」
- (様々な練習方法とその効果を分かり易く伝え、上手に出来るための方法を決める)

☆社会・生活科：「おうちの人の仕事」編

- ・ゴール：「自分のためにお家の人がしてくるヒミツは何？」
- 目標：「選択、掃除、食事など家の人がいろいろな仕事によって自分が支えられえていることがわかる」
- ・今までは「洗濯調べをしましょう」だけだったけど、もっと広域にして興味・意志をもって取り組ませるために。
- ・各々が探検隊になって、いろいろなグループ(洗濯、掃除、食事など)に
- わけて一人ひとりが興味を持って活動させ、ポートフォリオを集めさせる。
- 「家でメモを取らせる」、「交流する」など

「プロジェクト学習とコーチングポイント」 題材:健康

□ 【ビジョン・ゴール】

T「健康ってなんだろう？」

T「健康について、意識していることはどんなこと？」

T「今健康について、知っていることは？」

T「今健康について、していることは？」

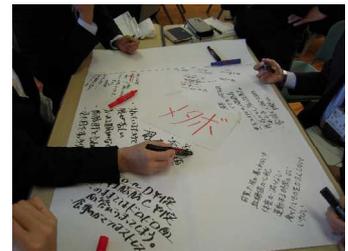
コンピテンシーは知識ではなくて、行動化とか、活用力、応用力なので自分からそれを使おうと思うためには、そのテーマや題材に価値を感じるということが学習の導入に不可欠である。

「今健康について知っていることはなに？」このように聞くことによって参加者がポートフォリオシート集の4に、今健康について自分の知っていることを書き出す。そこで、健康について無意識だったことが意識化される。意識化されるから、学習者たちは、「これが問題だ。」「あれが問題だ。」「もっとここをよくしたいなあ。」「睡眠が足りてないなあ。」「眠れてないなあ。」「メタボだ。」といったように、自分の健康について「自分ごと」として意識するからこそ課題発見ができる。課題発見ができなければ、自分のビジョン(目標)とゴール(目的)は決められない。このように、同じ関心事で集まったチームに講師がコーチングをすることで、チームテーマが明確になっていく。

T「身体のどこが不調なの？」

T「睡眠って、寝る前と、寝てる時の熟睡と寝起きの3つのシーンがあるよね。どんなシーン？」

チームの模造紙に書く目標が、誰が見ても同じ映像が浮かぶ焦点の絞れた目標になるようにコーチ役をつとめるものが、コーチングしていくことが大事である。



□ 【計 画】

T「あなたが使える時間はどれくらいあるの？」

T「そのためにすべきことはななに。」「ほかには？」

T「いいねえ。」

T「絶対にしなければいけないことはななに？」

言語活動の充実ということは、子ども達が頭の中で考えるということだけでなく、自分のすることが書き出せるということが表現力、計画力という点で非常に大事である。ここで注意することは、発散と収束である。自分のアイデアを出し切る。そして、それを可視化していく。言語活動を充実させるということは、そのような知的な手法を学習に取り入れることである。

次に、大きな紙にこれからすべきことを絞り込む必要がある。その際には、ゴール達成のために自分がしなければならないことを総て出し切り、その中から必要なことを絞り込むという事ができるようになる。発散と収束、これが計画の時に必要な行為である。

□ 【情報リサーチ】

T「根拠ある情報は、どうしたら手に入るの？」

T「それがどうして根拠ある情報だとわかるの？」

T「その情報が一番新しいってどうしてわかるの？」

情報を調べるために、「じゃあ、調べますよ。」とか「アンケート作ります。」とか言うのではなく、例えば、「あなたが今、使える手段はななに。」と情報手段を問うこと。また、「インターネット！」という答えに対して「他には？」と問う。インターネットだけではなく、健康という題材には多面的に、根拠ある情報を獲得する必要がある。ここが、健康を題材にする価値である。今回の読解力の定義が「自らの目標を達成するために、テキストから必要な情報を獲得し、熟考し、そしてそれを…」ということが書かれている。ここで、子ども達の読解力が高まるコーチングとなる。

また、健康という題材故に刻々と新しい発見が医学的にも、栄養学的にもなされている。

《ワークショップ全体の流れ》

第2回 教員研修（ワークショップ）札幌会場

- 日時： 2010年12月4日（土）9：30～16：30 札幌市立厚別通小学校
- 題材：「教員の成長」
- 参加者：一般教員30名（小学校 名、中学校 名、特別支援 名、その他 名）

講 義	<p>9：30</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 思考と表現と行動・俯瞰</p> <p>新しい教科書と読解力</p>	 
ワ ー ク シ ョ ッ プ 1	<p>10：20</p> <p>全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>10：55</p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p> <p>13：15</p> <p>プレゼテーション（評価：付箋）</p>	
講 義	<p>14：00</p> <p>コンピテンシー育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書） PISA型学力・言語活動を充実させるコーチング手法</p>	
ワ ー ク シ ョ ッ プ 2	<p>15：50</p> <p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活用、応用力</p> <p>16：00</p> <p>アイデア共有 （参照 WS2成果）</p>	
	<p>16：20</p> <p>アンケート</p> <p>16：30</p> <p>終了</p>	

題 材：『教員の成長』

目 的(ビジョン)：教師一人一人自分の可能性をフルに高められる学校にするために

目 標(ゴール)：教育学部の学生からベテラン教師に役に立つ
「こうすれば教師がポジティブに成長し続けられる！」アイデア集
をつくる！

〈チームづくり〉のカテゴリー

情報共有

学校・環境

職員研修

時間管理

生活のバランス・メリハリ

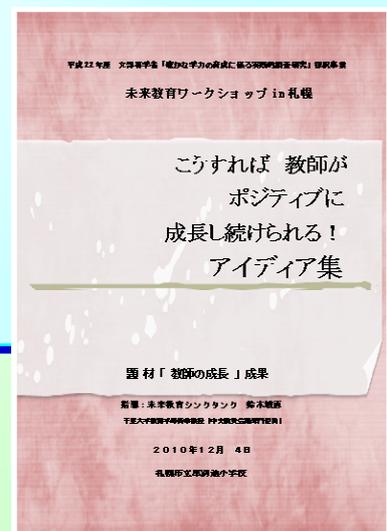
自己研鑽

気付き・感性

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 PCを活用して、1分以内に日常的に役立つ授業テクニックが手に入る方法を提案します。
- 2 教室の掲示物からその先生の学級づくりのコツのつかみ方を提案します。
- 3 ネガティブな先生もうまく巻き込んで職場全体で自己研鑽を進める方法を提案します。
- 4 全員が自分の考えをしゃべることのできる「やって元気になる」研修の作り方を提案します。
- 5 やるべき仕事を精選する方法を提案します。
～限られた時間を有効に使うために～
- 6 なごむ職員室づくりを提案します。
～意欲と効率を高める仕事しやすさのために～

WS 1 の成果物→



ワークショップ手法による教員研修 in 札幌 参加者へのアンケート結果

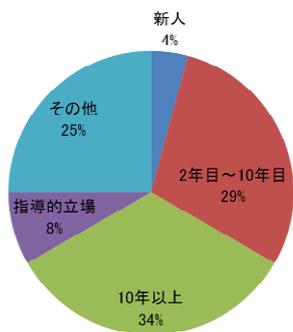


図1 講演会参加者の職位・経験年数

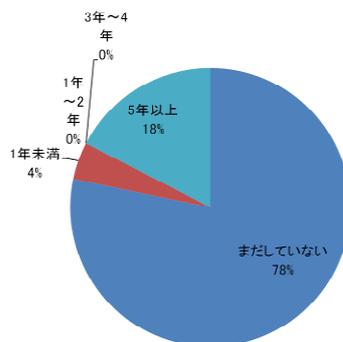


図2 ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績

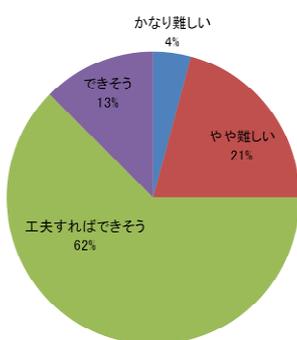


図3 ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象

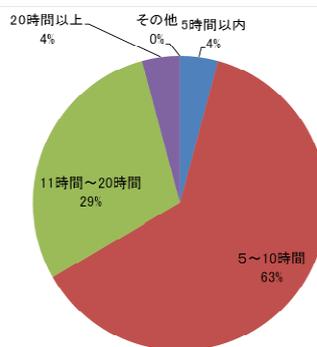


図5 ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に「必要な研修時間」

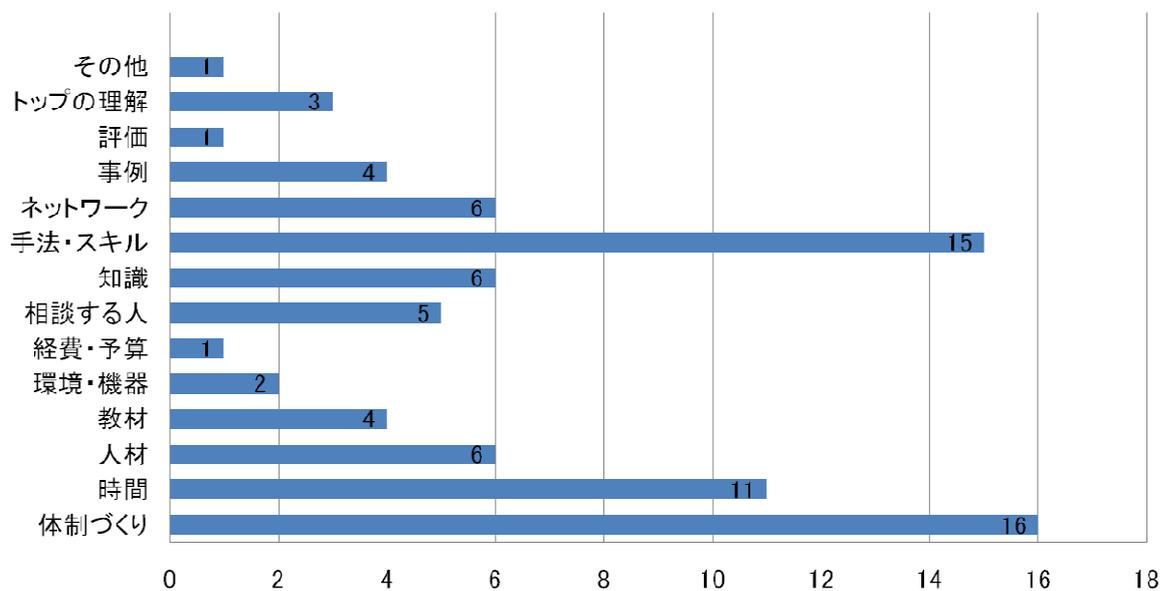


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 札幌（自由記述）

<肯定的評価>

- 教科、学年などによっては、工夫次第で色々なところで活用できる。
- これから自分も実際にやって、失敗も含めて深めていきたい。
- 子供にとって確実に必要な学習だと思った。
- 授業時数が限られているが、時数に合わせて工夫すればできそうだと感じた。
- もう少し準備、理解すれば、プロジェクト学習、できそうです。
- 工夫することによって、よくも悪くできるから。
- 総合導入以来、きちんと確立していなくても、今日はきちんと手法がわかりました。
- 仲間と題材をしっかり選ぶ準備が必要。
- まずは、自分でやってみて、理解してからやってみてほしい！
- とてもわかりやすい解説とWSで私も仕事へ生かしていきたい。何よりも楽しい時間でした！
- 1日があっという間でした。学校や職員団体等で生かせそうに思います。学びのネットワークが増えました。
- この方法は、今の自分にとっても役に立つと思いました。
- ポートフォリオは是非実践してみたいと感じました。授業だけではなく、部活動でも。
- 子供に意志ある学びを！という話、「全くだ！」と思いました。ティーチングの自分を変えたい。
- 今日は大変よい経験をさせていただきました。これからのためになったと思います。
- 本当に刺激的な時間でした。「教師は未来デザイナー」との言葉、いつまでも大切にしたいです。
- 難しいことばかりでした、今日の経験は、必ず今後には生かされると思います。
- 様々な力をつけるために、教師が意図を持ち、コーチングする大切さを感じた。
- ティーチングとコーチングの違いを意識していけないといけないと思いました。
- 「教える」一辺倒になっていました。「未来」を生きる子供たちのためという視点がなかったです。
- オートフォリオ、プロジェクト学習、コーチング、別々だと思っていましたが、全部つながっていました。
- とてもためになりました。ぜひ自分が教員になったら、使いたいです。
- 学校でも活用してみようと思いましたが、まずは自分の人生について課題と目標を決めようと思います。
- 鈴木先生の言葉、1つ1つがかんがえさせられることばかりでした。自分から手を伸ばして学んでいきたいです。
- 実際に子供たちの前に立っている時に、学んできたコーチングが本当に使えているのか？と感じた。

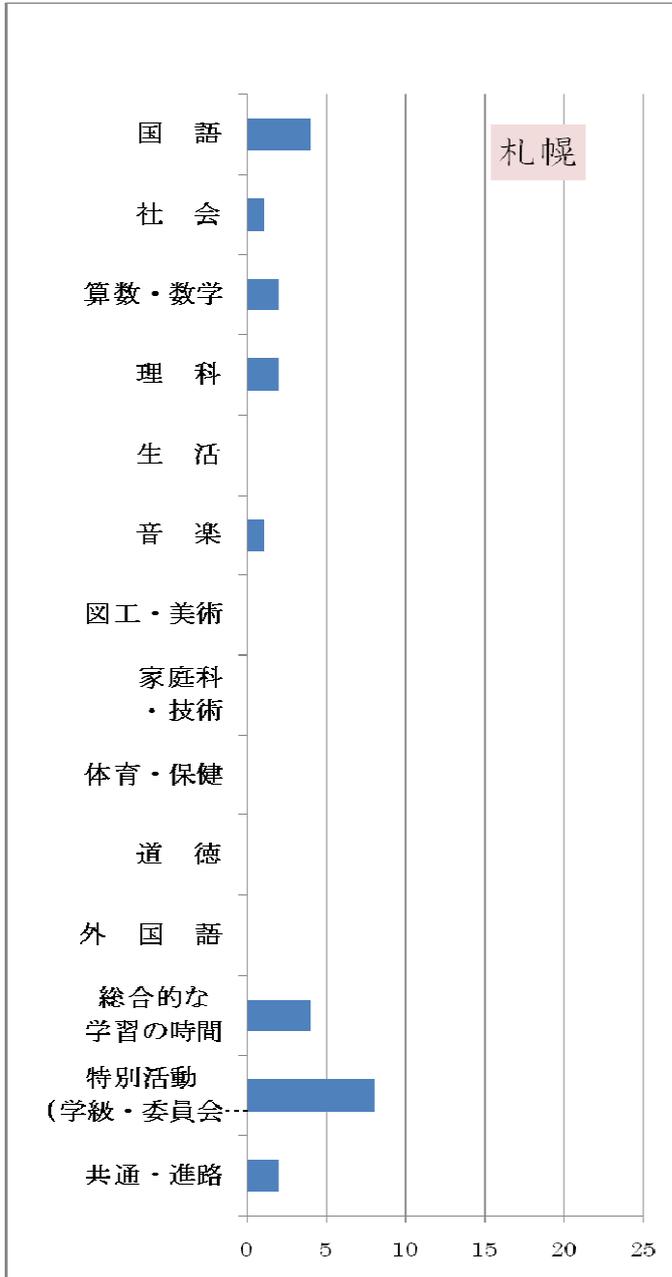
< 課 題 >

- 学習を進めていくために、教師も子供も、積み重ね(素地)が必要だと感じたから。
- ポートフォリオは少し難しく、どんな考えを持つのか？自分はまだその考えの軸がない。
- 元々知識がないので、やや難しく感じた。
- 研修を終えたばかりで、具体的な青写真を思い浮かべることができないので、難しい。
- 実際に行っている姿や内容が想像つかない。
- 全ての教科、全ての単元に対応できるとは限らないと感じたから。
- 研修を受けないと、先生は使いこなせないと思う。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆算数

- ・苦手を克服するための、計算力を高めるポートフォリオをつくる。それらから間違えた原因を探り対策を考える

☆国語

- ・自分の考えを、自分の言葉で表現する力
- ・漢字の暗記術について提案するアイデア集作り

：「物語読」編

- ・5年「4年の釘にいどむ」などドキュメントを扱う単元
テーマ「自分がなりたい理想の大人(生き方)をみつけるために！」
ゴール「自分はこの人のこんな生き方にあこがれる！紹介集を作る」

☆音楽

- ・ビジョン・ゴールの表を用いて、子どもひとりひとりの個人の願いを引き出す方法として活用したい。

☆理科：「理科実験」編

- ・各フェーズで身につく力を書く
- ・「どうしてこの実験方法を選んだの？」
- ・「実験から何がわかると思う？」

☆教員研修

- ・今回の研修で数多くのベテラン教師の学校運営の考え方や教員同士の連携の仕方など今まで考えたことのない意見がたくさん出され、このような機会が教員に必要であると強く思った。例えば、指導方法をPCに保存し、教員みんなで共有するシステムや職員室のレイアウトなど。

☆係活動

- ・4年2組がみんなにとって過ごしやすいクラスにするぞ！

「今はどうなの？」「どうなったらいいの？」
「そのためには具体的に何をするの？」等コーチングを用いて、子どもが自ら考えられるような手だて（促し）をする。

「プロジェクト学習とコーチングポイント」 題材:「成長」

□ 【ビジョン・ゴール】

- T 「成長ってなに？」
- T 「成長について、今していることは？」
- T 「実際のところ、研修にどれくらい行ってる？」
- T 「何が問題？」「何を願っている？」

それぞれの教師にライフステージがあるので、「研修に行けない時期もありますよね。」というようにフォローすることも大事である。

「それぞれのライフステージにあった研修をすればよいのですよね。」と励ましながら、しかし、空間全体としては「そうか。」と、教師も成長し続けるんだというように最初にムードアップすること。

「先生達も学び続けているんだよ。新しい時代だからね。」と子ども達の前でも言えるすてきさ。

「成長について今やっていることは？」「できない事情はなあに？」とか、成長したいけれどもできないという課題発見ができる。「何が問題？」「何を願っている？」「もっとほしいものはなあに？」と言うと、「時間がほしい。」とか「本を書く必要がある。」とか、何よりもこの研修で最も顕著だったのは「教師達が互いに学び合うチャンスが足りていない。」という発言が大変多くあった。このようにして、一人の知を全体の知として共有として沸き上がらせることが大事である。

さらに、「教師の学び合いの方法を提案します。」という提案であつたら、コーチは、「いつの？」とか具体的にそのシーンを聞く。日曜日なのか、夜なのか、昼なのか、昼休みなのか。そうすると、あるチームは職員室における学び合いということを挙げた。

そして、結果的には、学び合いしやすい職員室のレイアウトを変えるという提案をしてくれた。提案も「職員室で学び合えるような職員室の改造方法を提案します！」という〇〇チームの提案となった次第である。(つまり、真ん中に座れる場所と、授業案がすぐにファイリングとして取れるとか(注で入れる。))

□ 【情報リサーチ】

- T 「今ここにいる人にもアンケート取れるんじゃないの？」
- T 「今使える手段はなあに？」
- T 「いつするの？」

ここでは、ワークショップゆえに、具体的には広域的なアンケートなどはできない。しかし、参加者が教師であって、この札幌における提案は「教師が作る、教師のための、教師が成長し続けるためのアイデア集を作る」であるので、この場で教師達は、声を出し合ってアンケートやインタビューを仕合った次第である。そういうことをコーチが促したのである。「今ここにいる人にもアンケート取れるんじゃないの？」というように。教員研修であっても、ラフなアイデアをコーチやファシリテーターが出し合い協力する事が大切である。つまり「今使える手段はなあに？」ということである。

そうするとこの場が教師だけなので学習者たちは、「端からインタビューする。」「アンケートで挙手してもらおう。」というような計計画を口にしてくれた。

そして、すぐに情報リサーチのフェーズということで、早速に情報リサーチが始まった。

そこで、コーチは「いつするの？」と聞くと、「すぐする。」「今、する。」というように、教師たちは、いつまでも時間がないからこそ、教育に必要な瞬発力とか、スピード感の必要性を感じる。

とりあえずじゃなくて「今、する。」と言った瞬間に、〇〇チームは「先生方、5時間以上睡眠とっている人手を挙げてください。」と質問をした。(ほとんど手が挙がらず、手を挙げた人はぼつり、ぼつりであった。)

これでもう、80%の人が眠れていない、というエビデンスがこの場で取れた。つまり、教員研修の相手が教師故に、そしてターゲットが教師故に、このエビデンスをこの瞬間に得ることができたのである。

《ワークショップ全体の流れ》

第3回 教員研修（ワークショップ）愛媛会場

■ 日時： 2011年1月7日（金）10：00～16：30 西条市中央公民館

■ 題材：「豪雨」

■ 参加者：一般教員57名（小学校 名、中学校 名、特別支援 名、その他 名）

講義	10：00	<p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 思考と表現と行動・俯瞰</p> <p>新しい教科書と読解力</p>		
ワークショップ1	10：30	<p>全体の目的：ビジョン 意志ある<チームづくり></p>		
	11：00	<p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p>		
	13：30	<p>プレゼテーション（評価：付箋）</p>		
講義	14：30	<p>コンピテンシー育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書） PISA 型学力・言語活動を充実させるコーチング手法</p>		
ワークショップ2	15：30	<p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活かし方を考え出す。</p> <p>アイデア共有 （参照 WS 2 成果）</p>		
	16：20	<p>アンケート</p>		
	16：30	<p>終了</p>		

題 材：『集中豪雨』

目 的(ビジョン)：教師として子どもを守るために

目 標(ゴール)：教師が作る 教師のための
「 かつてない豪雨 その時 こうする!! 行動提案集 」を作る。

〈チームづくり〉のカテゴリー

職 員 室

プ ー ル 指 導

家 庭 訪 問

教室・生徒指導中

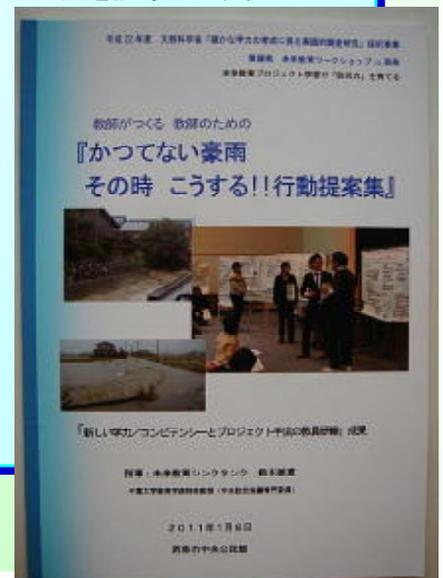
部活指導（校内）

部活指導（校外）

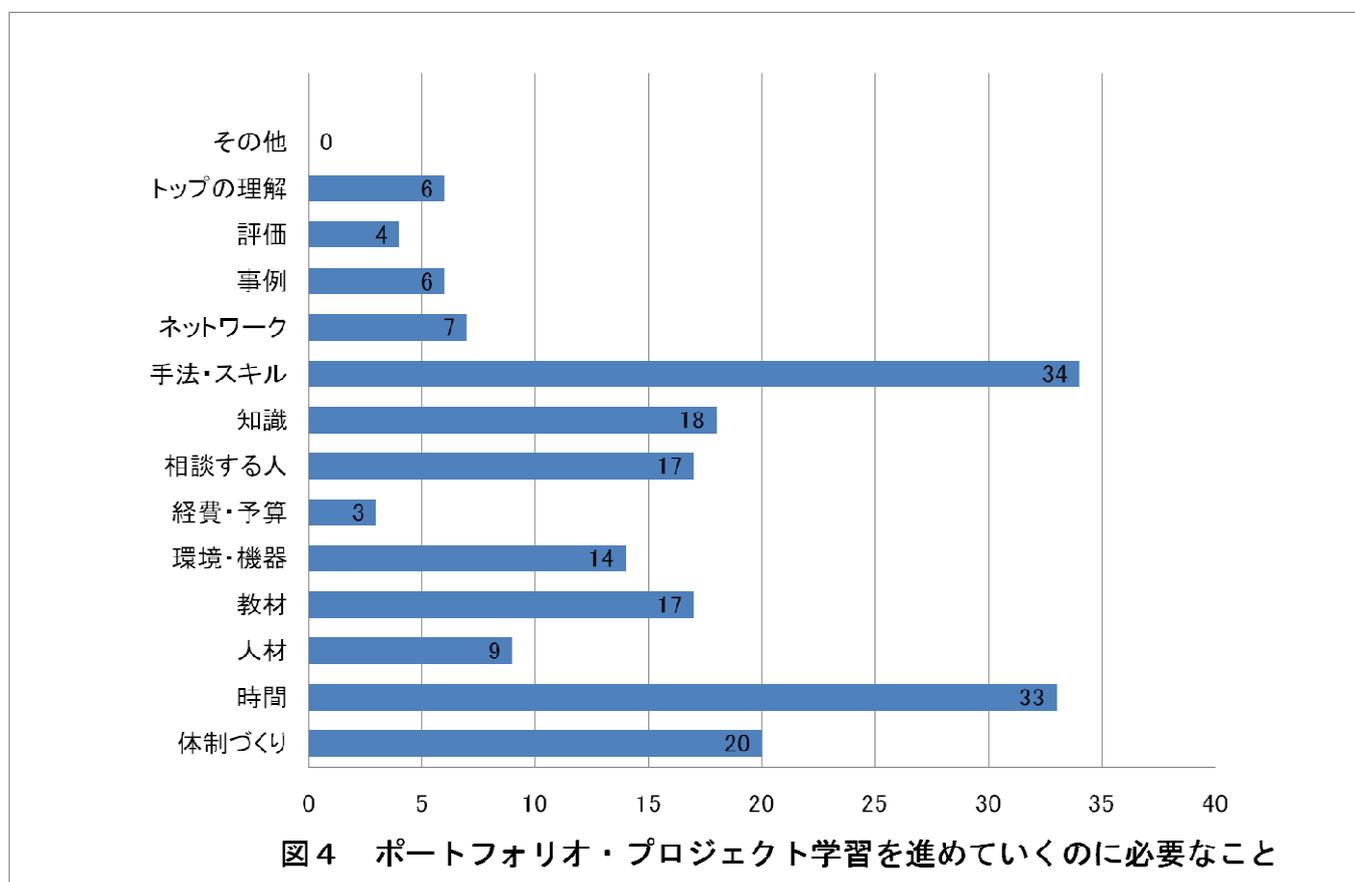
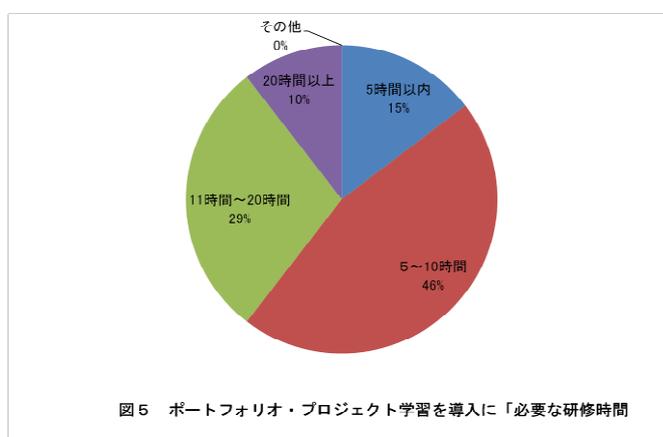
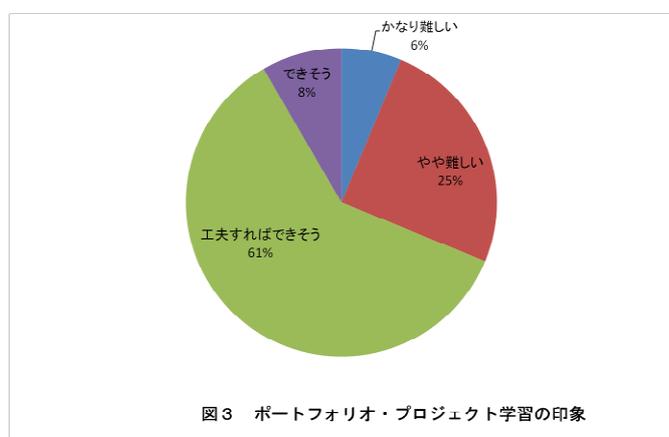
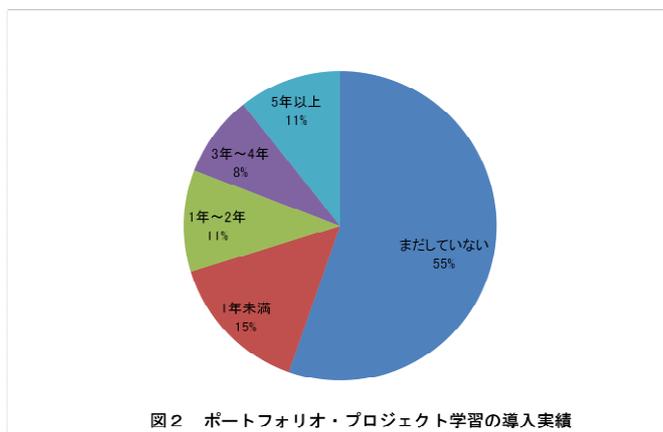
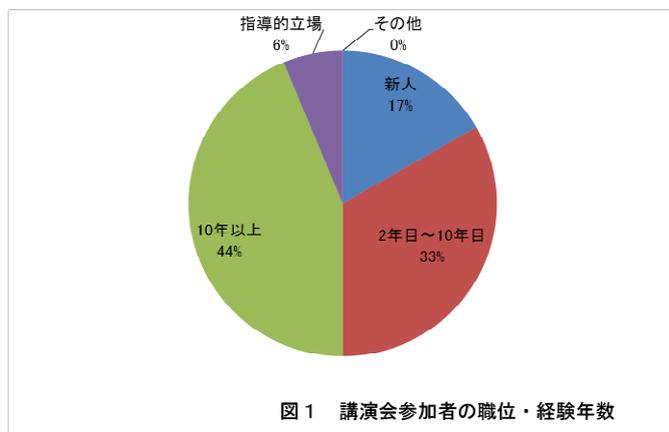
社 会 見 学

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 職員室にいる教職員10人が、組織的に動く方法を提案します。
- 2 職員室に教職員が3人のときの、初期対応の方法を提案します。
- 3 選手選考の日のプール指導を、集中豪雨のためやめるタイミングを提案します。
- 4 プールから校舎に安全に素早く避難する方法を提案します。
～ 小学4年～6年 60人、指導者 3人 ～
- 5 ひうち体育館で練習中のバスケ部女子20人、指導者2人の安全を確保するための方法を提案します。
- 6 部員40人の部活で生徒の安全を確保する方法を提案します。
— 中学1・2年生 美術部の場合 —
- 7 教室で生徒指導中の生徒の保護者と連絡が取れない場合の方法を提案します。
～ 児童 6年生 女子2人 単身家庭 ～
- 9 一人で家庭訪問移動中、下校中の2人10人が立ち往生しているときの教師の行動を提案します。
- 9 社会見学で松山駅から無事帰る方法を提案します。
～ 小学5年生 40名 特別支援学級2名 校長、担任2名 ～



ワークショップ手法による教員研修 in 愛媛 参加者へのアンケート結果



ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 愛媛（自由記述）

<肯定的評価>

- ・自分なりに納得して工夫すれば使えそうに思う。
- ・テキストなど分かりやすく、授業で使えそう。
- ・コーチングの言葉かけに慣れること
- ・一人一人の児童にあった解決方法を見つけ、情報の収集、目標に向けてたどりつくことが難しい。最初の目標に達成することが資料の寄せ集めになってしまいがちで、そこから思考して自分の考えをまとめていくのが難しい。
- ・各学年や実態に応じて、改善すべき点があるため
- ・現在行っている活動と全く違うことではないから。
- ・情報集めができることが前提だから。
- ・自分自身がコーチング手法などを習得しないといけないから。
- ・自転車操業になってしまっている自分の状況をまず改善しないと取りかかれないため。
- ・全員の生徒に興味をもたせることが難しそう。
- ・全てを最初からきっちりするのは難しそうだけれど、授業や活動の中に少しずつは取り入れていけそうと思った。
- ・子どもたちが目標を立てること、その目線に合った資料を集めることが難しいから。
- ・全体をいつもいつも意識はできないかもしれませんが、今日はここ！ノット安元ではこれこれ！と考えると、取り組めそうです。
- ・今までのやり方をより効果的により整理していきたい。
- ・声かけなど難しいなとあとと思ったけど、シート集を見ていると、それに沿ってできそうだった。
- ・自分がしっかり熟知できていないと思うから。
- ・自分がまだ十分理解できていない。
- ・初めてのことが多いので、難しく感じるが、続けていけば、どんどん理解できると思う。
- ・価値が理解できれば教職員は動くと思うから
- ・シートが活用できそう。

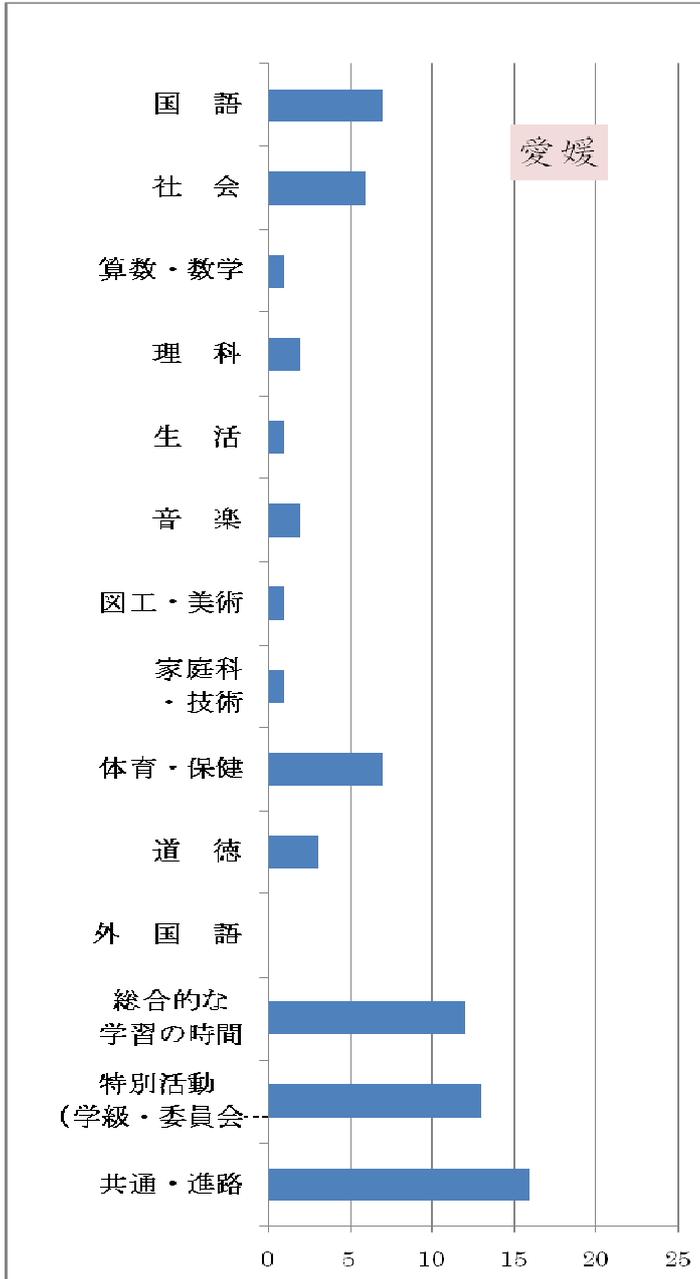
< 課題 >

- ・子どもの自発的な活動への適切な指示
- ・子どもの興味関心を持続させること、情報を取捨選択し、内容を深めさせることが難しい。
- ・プロジェクト学習、学習意欲の持ち方に個人差がある。意欲があまりない生徒にどのように取り組ませるかが重要である。
- ・児童に個人差があるので、全員に理解させるために、教員がプロジェクト学習について、もっとも理解しておかないといけない。
- ・まず自分が授業構築していくためにポートフォリオを活用してから。
- ・教師自身（自分自身）がよく理解できていない。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆算数

・面積の学習で公式を導き出す方法を子どもたちに考えさせる。

☆社会科

- ・「よりよい図書館」について、調べ、考え、改善案を提案する
- ・福祉について考える:「どうしたらいい?」知っていること、「どうしたらわかる?」、調べる、話し合う
- ・授業の中で考える時間の時。

☆体育

- ・チーム分け:課題を見つけ、改善策を考え、できる能力につなげる。
- ・持久走:与えられた練習をこなすだけでなく、「どうすれば自分の記録が伸びるのか」を考え、主体的な活動に変えていく。

☆技術・家庭科

- ・生活改善:調べ、課題を見つける

☆道徳:「いじめの問題の解決方法についてのワークショップ」編

- ・資料で場面設定をする
- ・資料を読む
- ・グループごとでその解決の方法を話し合う

☆図工:「ランチはヘルメットをかぶって鑑賞」編

- ・先に影の部分だけを隠しておいて、スプーンやフォークに部分から影がどんな形になるか、想像して書かせる時に使う

☆音楽:「合唱指導」編

- ・「どんな歌い方がいいと思う?」
- ・現状把握(現時点の課題)を知り、目標(ゴール)の意識の流れをはっきりさせる。

☆国語

- ・漢字を覚えることが苦手な子に対して。
- ・国語の読み取りにおいて、「テーマ」「話し合い」

☆総合

- ・「計画」:「使える時間は全部で何時間あるの?」——見通しを持って計画を立てる
- ・「情報収集」:「情報をどうやって手に入れるの?」——情報や知識の獲得
- ・「制作」:「一番伝えたいことは何?」

「プロジェクト学習と基本コーチング」 題材：集中豪雨

□ 【ビジョン・ゴール】

T「今はどうなの？」

T「この土地の災害の記憶は？」

T「災害ってなに？」「集中豪雨ってなに？」

T「どこに社会見学に行っているの？」「最も危険な場所に焦点を。」

今回、会場においては、西条市の防災対策課の協力により情報リサーチコーナー(写真を添える)に、集中豪雨という新しい災害をあつかったので、その災害のエビデンスを、ワークショップの環境の中に学習者の目に入るようにパネル展示もした。また、過去の災害の状況の冊子も添えるなどして、データをより濃厚に揃えるということが大きな特徴となったワークショップだった。

「今はどうなの？」と問いかけると、参加者の目がパネルに いて「いやあ、ひどかったんですよ。」と過去を思い出し、非常にモチベーションが上がる。学校で行う時も、同じようにすることが有効なんだと教師が気づくように「学校でもこのような学習環境で行いましょう。」とはっきり言う。コーチは促すだけでなく、必要なことは的確に伝える事が必要である。「災害ってなあに？」「集中豪雨ってなあに？」というように、災害においては、このワークショップで使う言葉の定義をはっきりする必要がある。教師達は、災害時にはリーダーでもあるわけなので、より災害の専門用語の定義について、資料を指し示しながら共通認識をはかる必要がある。



社会見学で町に出かける時、「どこに社会見学に行っているの？」

「最も危険な場所は？」と言う。そうすると「駅前で、電車が止まって、人があふれている。」というような状況が出てくる。このように、最もゴールの高い、ゴール達成に工夫のいるもの、提案する必然性があるものになるようにコーチは促す。これにより、ビジョンとゴールが明確に決まっていくことになる。

□ 【情報リサーチ】

T「この膝まで水が来たら？」「車に乗っている時に窓の3分の2まで水が来たら？」

T「どこからどこまで？」「範囲がわかるためにはどういう手段で示したらいいの？」

数字や固有名詞が出るように「河の側は危ない。」ではなく、「加茂川何とか地区のこの範囲」というように、この地図に印をつけるとか。ここで、会場のハザードマップが活きるようなコーチングをする。

また、「どこからどこまで？」「範囲がわかるためにはどういう手段で示したらいいの？」というようにコーチはそのリスクが最も示せるための方法を促す事が有効である。そのことによりクリアな思考や解決策となる。

□【制 作】

T「それを見て傷つく人はいませんか？」

制作の時にはコーチは、「それを見て傷つく人はいませんか？」と言う。例えば災害に遭った人の悲しんでいる顔がアップだとかいうのはやめて、事実を淡々と端的に伝えることが大事だということを伝える。

□【プレゼンテーション】

T「最も困る場面にどうしたらいいのかがわかるプレゼンテーションをお願いします。」

このコーチングによって、あるチームは多動性の児童がいる時の避難の誘導を寸劇でプレゼンテーションした。非常に役に立つプレゼントになった。

第4回 教員研修（ワークショップ）福岡会場

■ 日時： 2011年1月22日（土）10:00～16:30 福岡市立愛宕小学校

■ 題材:「話し合い」

■ 参加者:一般教員40名(小学校 名、中学校 名、特別支援 名、その他 名)

講 義	10:00	<p>あいさつ 味来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 思考と表現と行動・俯瞰</p> <p>新しい教科書と読解力</p>		
ワ ー ク シ ョ ッ プ 1	10:45	<p>全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p>		
11:45		制作（知の再構築）		
14:30		プレゼテーション(評価：付箋)		
講 義	15:30	<p>PISA 型学力（コンピテンシー）育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書） プロジェクト学習・コーチング</p>		
ワ ー ク シ ョ ッ プ 2	16:00	<p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活用、応用力</p> <p>アイデア共有 (参照 WS2 成果)</p>		
	16:20	アンケート		
	16:30	終了		

題 材：『話し合い』

目 的(ビジョン)：他者と学び合ってお互いに成長したい！

目 標(ゴール)：「こうすれば子どもたちの話し合いが活発になる！アイデア集」
を作る。
ー学習の中で活用力を伸ばすためにー

＜チームづくり＞のカテゴリー

○ 相 互 評 価

○ ペ ア 学 習

○ 友 達 ・ 失 敗

○ 発 表 ・ プ レ ゼ ン

○ グ ル ー プ ・ 話 し 合 い

○ ク ラ ス ・ 決 定

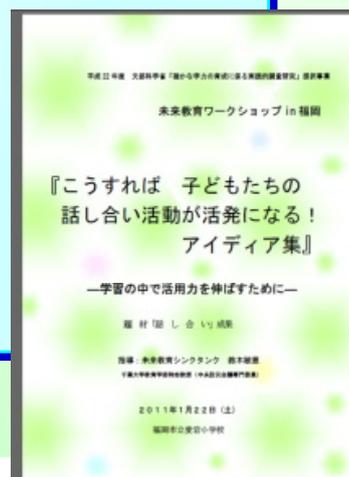
○ グ ル ー プ ・ 活 動

○ 気になる子・関わり方

＜チームテーマ 一覧＞

- 1 課題発見で子どもが活発に発言する方法を提案します。
～教師主体になりがちな総合の環境領域の単元で～
- 2 むちゃくちゃ楽しいお楽しみ会の計画をつくる話し合いを活発にする方法を提案します！
- 3 新聞を作る場面で全員がひとりひとり」活躍できる役割を決められる話し合いの方法を提案します。
～小学校6年生 修学旅行の良さを5年生に伝える～
- 4 いじめをなくすアイデアが活発に出る話し合いの方法を提案します！
- 5 漠然とほめて終わらない相互評価の話し合い活動を提案します！
～図工の鑑賞～
- 6 特別な支援が必要な子も参加できる話し合いの方法を提案します！
(国語の時間、自分の意見を言えるように)
～思いはあるが参加できない子のために～

WS 1 の成果物→



ワークショップ手法による教員研修 in 福岡 参加者へのアンケート結果

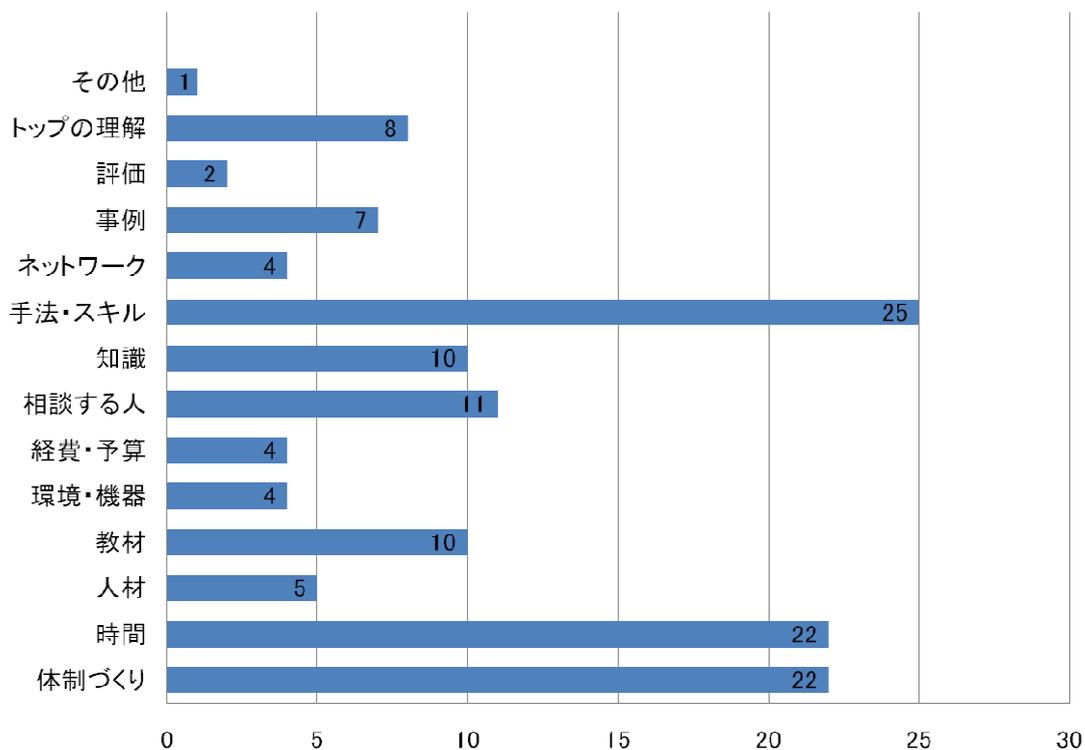
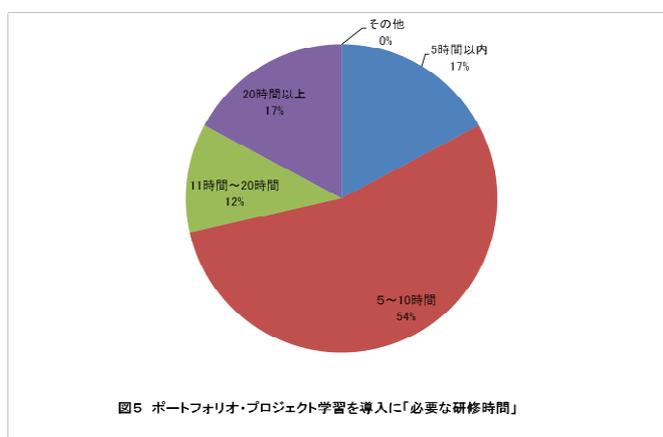
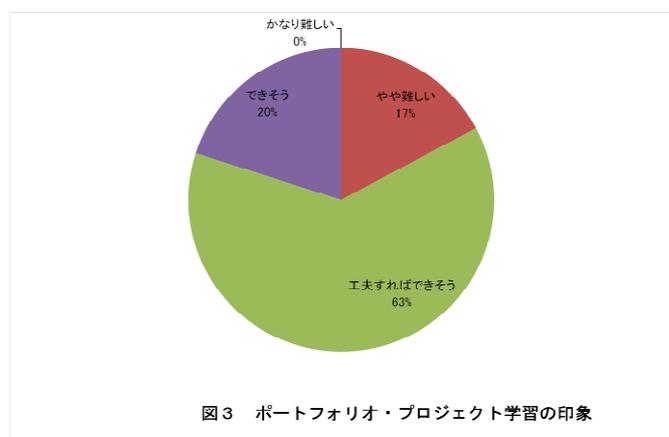
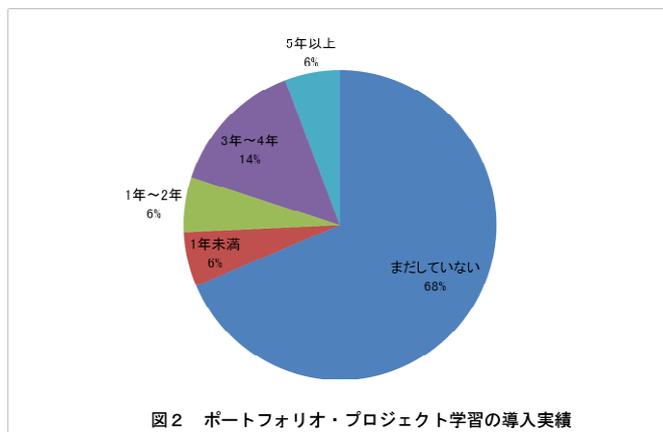
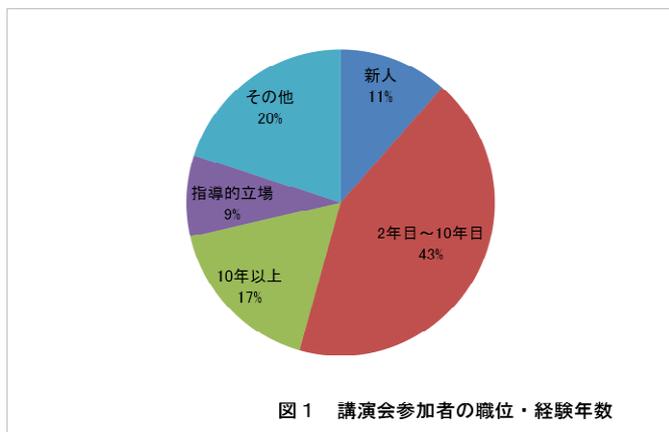


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 福岡（自由記述）

<肯定的評価>

- 子どもにしっかり考えさせる時間やコーチングを学んでいけば、取り組みそう。
- とにかくやってみて、失敗をしても、工夫改善をしていけばよいと思った。
- クラスを持つようになると活用する機会は増えそうだが、今の自分が授業に取り入れるにはもっと工夫が必要だと思った。
- どの時間を使ってするかなど計画をしっかり立てればできそう。
- 普段の学習や学級経営に活かそうだから
- 発達段階を考えながら、継続的に取り組んで行く必要がある。
- 思ったよりも簡単で、分かりやすそうだから。
- 教師もチームを組まなければならないので、他の教師を説得できればできそう。
- 担任ではないが、ヒントになった。
- とてもおもしろいし、子ども達の成長が期待できる。
- 今まではどうすれば効果的なのか全く分からなかったが、今回教えてもらったのでやってみたい。
- 総合学習では、課題設定が重視される。見通しを持って取り組むことや自分の学びを客観的にながめることは何よりも大切
- まず、教師が使い方をよく理解する、学習の段階で必ず活用することで有効につかえると思う。
- 子どもがいきいきと活動する姿が想像できそう。今回ていねいに教えてもらったから。
- 実際に試してみたら、そこから自分なりに理解していけそう。
- 今回やり方を知ったばかりなので、自分なりに学級の実態に合ったやり方に落とししていきたい。
- シート集があるのでできそうに思う。
- 自分自身がしっかり頭に入れたらできそう。
- 以前参加した研修を参考に実践したことがあるから。
- まだやってみたことがないので、分からないが、とりあえず手順通りにやってみたい。
- 教師が生徒の成長という明確なゴールを持って、ワクワクしながら取り組める内容なので、生徒もワクワクしながら取り組めると思う。
- ていねいな解説書の通りにするとうまくいくと思うから。
- 鈴木先生に細かくていねいに講義してもらったから。
- ロジックがはっきりしていて、誰にも理解できると思う。
- これから教師になるので、実際にできるかどうかイメージがわからないが、挑戦してみようと思います！
- 今回初めだったが、鈴木先生の指導が分かりやすく理解できた。目的・目標の明確化や教師のコーチングは難しそうだが、しっかり工夫すればできると思う。

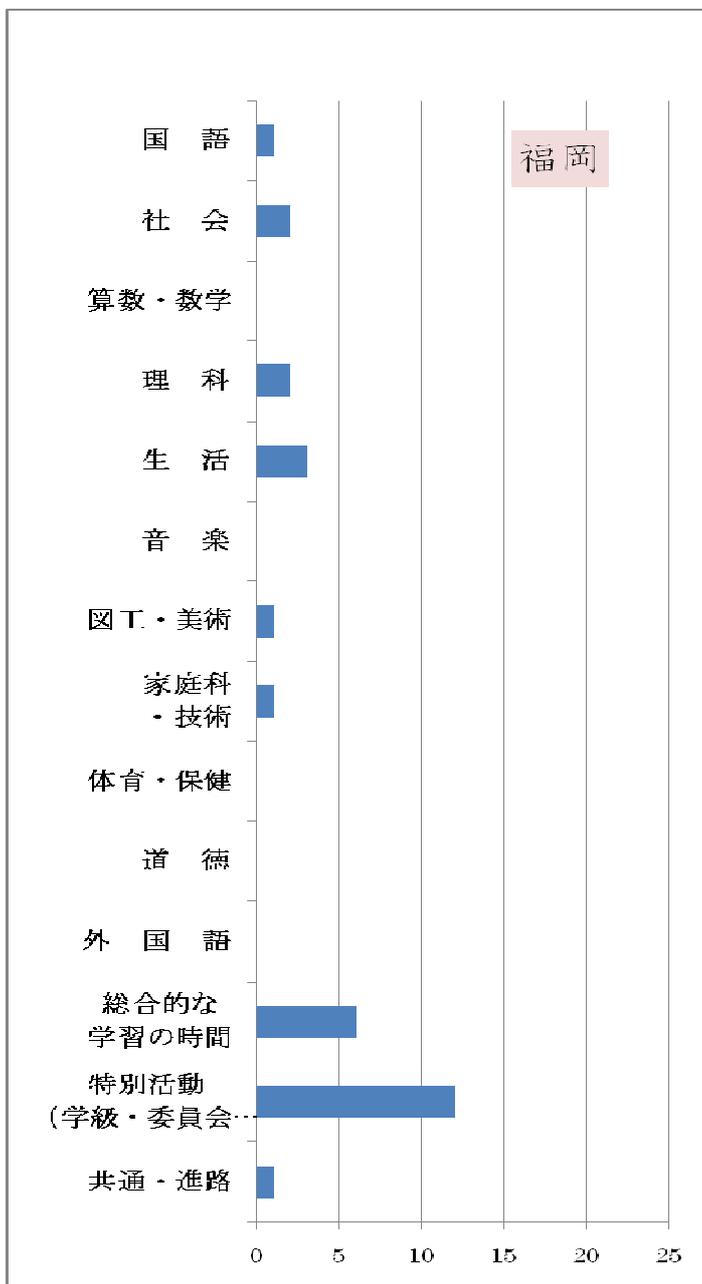
< 課 題 >

- 言葉で深めていくことが大切だが、子ども達には難しい気もした。でもやってみます！
- 自分で考える子どもを育成するということの大切さを感じながら、日々の忙しさの中では準備等ができそうにない気がする。
- まだやったことがないので、その場で応用できるか等考えたら難しいと思う。
- その場での対応がすぐにできるか不安に思い、もっと自分の中に落とし込みたい。
- まだポートフォリオに関する学習を深める必要性を感じた。
- 自分自身が行ったり、つくったりしないと（体験）、すぐに使うのは難しい。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆理科：「実験観察」編

- ・何が必要か、何をすべきか、生徒児童が目的、目標を明確にするために使える

：「生き物のくらしと環境」編

- ・本単元は「小学校理科すべてのまとめのような学習」であり、ここで、自分が6年間の学習で分かった・学んだこと・ついた力・できるようになったことを思い出し、まとめていきたい

☆技術・家庭科

- ・情報化社会を生き抜いていくためのガイドブックを子どもたちにつくらせたい

☆社会科

- ・社会科で課題を解決するときに「どうしたら、わかると思う」と声掛けして、子どもの口から言わせる

☆図工

- ・図工の鑑賞の授業で、漠然と褒めて終わらず、相互評価の七試合を取り入れていく

☆国語・社会・総合

- ・「ねがいをもって、目標を設定し、活動できるために。コーチングの手法を使用する」
：子ども自身が方法やゴールを考え、自分で目標を設定できる。その結果、自発的に活動する＝知識の活用・応用につながる

□ 【ビジョン・ゴール】

T「話し合ってるのに？」「話し合ってるっていったらどんなシーンが浮かぶ？」
T「一番子ども達の話し合いが盛り上がりにくいシーンは？」

コーチは、「皆さんの意見で決めた題材です。あらためて、話し合ってるのに？」「話し合ってるっていったらどんなシーンが浮かぶ？」など話し合いを意識するようなことをいう。

この会場である愛宕小学校は、図画工作の研究が進んでいる学校である。そのため、教師によっては「作品評価の話し合い。」という意見が出る。「鑑賞の際に子ども達の意見として「きれい。」とか浅い意見が出やすい。だから、「この話し合い活動を活発にさせたい。」といった積極的な意見が他の会場以上に活発に出た。それは、今回の言語活動ということのリンクとこの学校の特色が活かしたというプログラムの特徴だったからと考察する。

コーチングとしては、「作品鑑賞で話し合いが活発になるための方法を提案します。」という提案に対して、コーチは「何の作品？」「子ども達の絵！」「音楽」など、チーム故に、音楽とか写生の絵に対して複数の教科がイメージされてしまうことがある。そのような場合には、「一番子ども達の話し合いが盛り上がりにくいのは、どっち？」といった絞るためのコーチングをする。そうすると「やっぱり絵かなあ。」という意見が出てくる。その結果、そのチームは「子ども達が描いた写生の絵のよさについて、話し合いを促せる方法を提案します！」というテーマになった。目標は具体的で焦点がぼれていることが肝心。

□ 【計 画】

T「どこでそう思ったの？」「いいところどこですか？」

T「どうしてそうわかったの(思ったの)？指さしてみて。」

T「ここか。ここが具体的にはどうなの？」

T「本当の画家の人たちは細かいというのはどう書いているのだろう？」

T「盛り上がるってなあに？」

T「それはどんなイメージ？」「どんな意味？」「どんなニュアンス？」

A君「私の作品のよかったところ言ってください。」

B君「きれいです。」

で終わってはいけない。

T「どこでそう思ったの？」

B君「だって、全体的に色使いがきれい！」

というように、具体的に「どこが？」とか「どうして？」ということが子ども達の口から出るような、言いたくなるようなさわやかな突っ込みをすることが大切である。

あるいは、

T「いいところどこですか？」

B君「ていねい。」

T「どうしてそうわかったの(思ったの)？指さしてみて。」(言語がうまく言えない子には指さしなどの行動で示させる。)

そうすると、石垣を指さした。

T「ここか。ここが具体的にはどうなの？」

B君「石垣の石が陰で凹凸が違って見える。」

T「すごい！細かなことに気づいたね！」

このように全体の前でB君が言ってくれることによって、そこまで見るのかというように促しを全体の子ども達に理解させる。

情報リサーチの時には、例えば「ゴッホとかが点画で書いていますよね。本当の画家の人たちは細かく、どう描いているのだろう？」とか、「クラス中の話し合いが盛り上がる。」と言うことには「盛り上がるってなあに？」というようにコーチングをする。「盛り上がるというのは一部の人が話し合いをするのではなくて、ふだんあまり話さない人も話せること。」というように具体的に促す。つまり、盛り上がるという曖昧表現とか修飾語があった場合に、研修会のコーチは「それはどんなイメージ？」「どんな意味？」「どんなニュアンス？」というようにして、その人の中に持っている概念や言いたいことを具体的に言ってもらえるように促すことが重要である。

この時点で、もう、教師の中には授業のシーンが浮かんでいる。「ごんぎつねの気持ちについて話し合おう。」などのように。

その時に、「教科書のこのシーンが・・・」という具体的なことがあれば、尚有効である。

《ワークショップの全体の流れ》

第5回 教員研修（ワークショップ）山口会場

- 日時：2011年2月6日（日）9：30～16：00 岩国市立麻里布小学校
- 題材：「コミュニケーション力・理解」
- 参加者：一般教員24名（小学校24名、中学校 0名、特別支援 0名、その他 0名）

講 義	<p>9：30</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造..俯瞰 思考と表現と行動</p>	
ワ ー ク シ ョ ッ プ 1	<p>10：30</p> <p>全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>11：00</p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見・課題解決 制作（知の再構築）</p> <p>13：30</p> <p>プレゼテーション（評価：付箋）</p>	
講 義	<p>14：30</p> <p>コンピテンシー育成手法 （フィンランド・日本の新しい教科書）</p>	
ワ ー ク シ ョ ッ プ 2	<p>15：30</p> <p>子どもの活用力向上のための実践に向けて 参加者各自 教科などへの活用、応用力</p> <p>アイデア共有</p>	
	<p>15：50</p> <p>アンケート</p> <p>16：00</p> <p>終了</p>	

題 材：コミュニケーション力・理解

目 的(ビジョン)：子どもたちがコミュニケーション力を身につけてほしい！

目 標(ゴール)：こうすれば子どもたちのコミュニケーション力が高まる実践活用集
を作る！
～”理解してほしい””理解したい”という視点で～

〈チームづくりのカテゴリー〉

◇グループ学習・活動

◇ペア学習

◇気になる子との関わり方

◇グループ学習・話し合い

◇相互評価（作品・評価）

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 調べたことをまとめる前にグループ全員が意見を出し合う工夫を提案します！
～5年生の社会科見学（自動車工場）後～
- 2 互いに意見を活発に出し合うペア学習の方法を提案します！
～4年国語「ごんぎつね」のケース～
- 3 ”一人思いのままに行動してしまう子”にクラスの他の子が肯定的にかかわるための工夫を提案します！
～みんなが静かに考えないといけない時に～
- 4 一人一人が遠慮なくグループで発言するための方法を提案します！
～3年国語「サーカスのライオン」～
- 5 作品のよさを根拠をもとに語り合うようになる方法を提案します！
～高学年絵画鑑賞～

これが研修の成果物→



ワークショップ手法による教員研修 in 山口 参加者へのアンケート結果

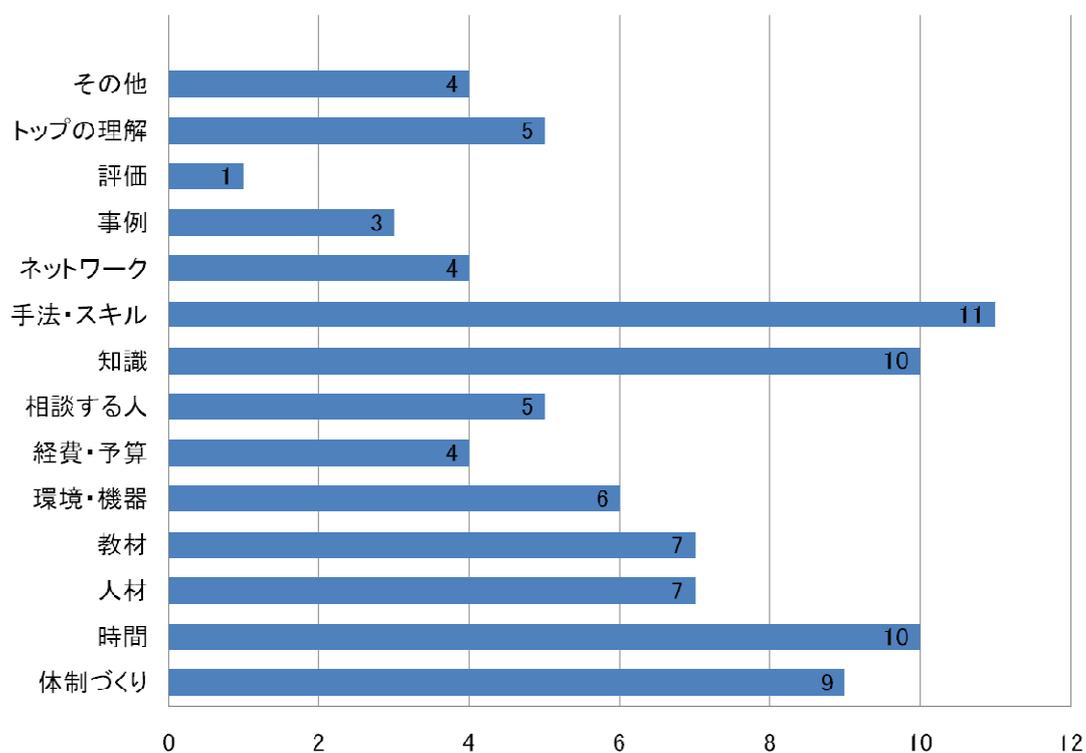
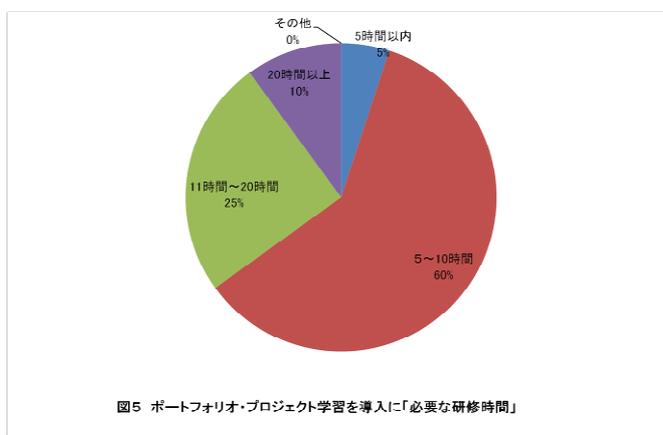
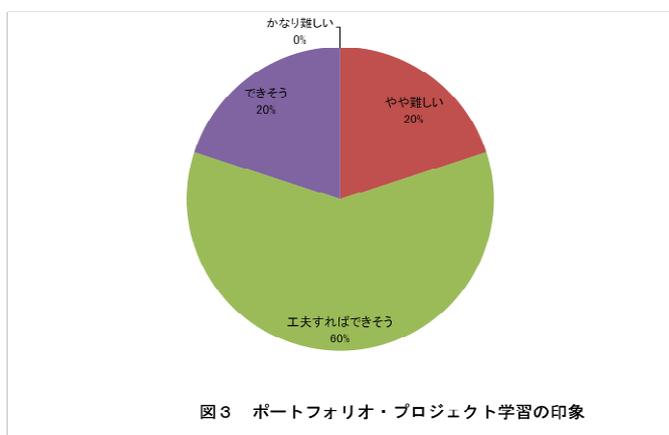
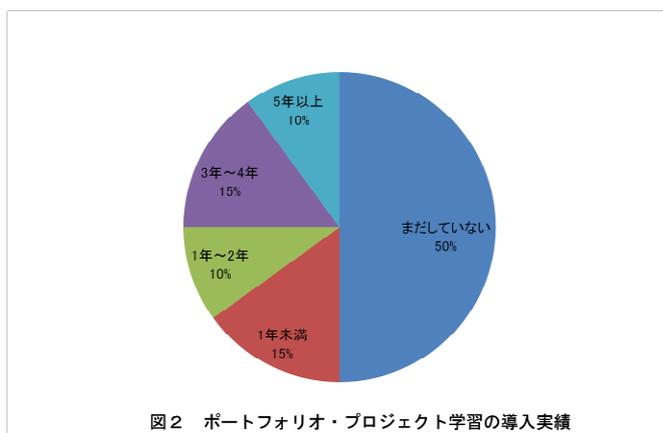
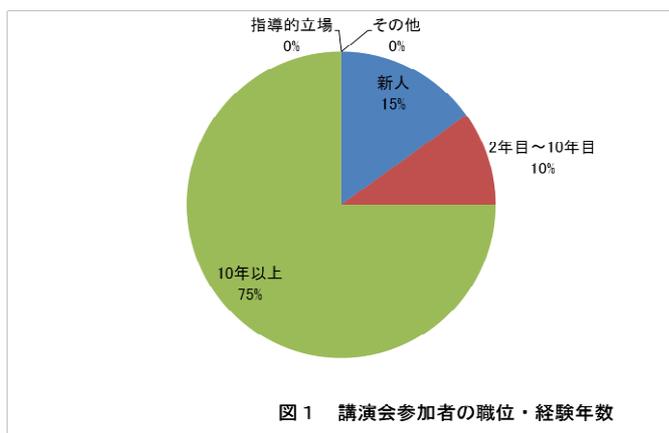


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 山口（自由記述）

<肯定的評価>

- 知識が浅いので、まだ自信がないが、とても興味深く価値を感じるのでやってみたい。
- 全体でなくグループ、個人で活動していく必要があるから。
- 手続き、ステップが複雑な印層を受けた。自分自身が分かった気にはなっているがまだよく意図を理解していない。
- 今日学んだことや冊子にくわしく書いてあるので手順に添ってやるとできるできそうであるが、難しそうなので詳しい人に聞くなどして、進められる。
- ポートフォリオシート集を使えば、手順通りに進められるから。
- 今回かなりの情報をいただき、そのよさを実感できたから
- みんなで生活していく上でいろいろな課題や問題をもって実際に解決していると思う。それを解決していいけるものがポートフォリオだと思う。
- 低学年を担当することが多いが、小さいときから自己決定し、自分の意志や学ぶ意欲や力を持たせることが大切だと考えているから
- こうすればよいという手だてが順に示してあるから
- 生かし切れていなかった。形だけのものになっているように思った。そのような工夫をすればいいか分からなかったので止まっていた。

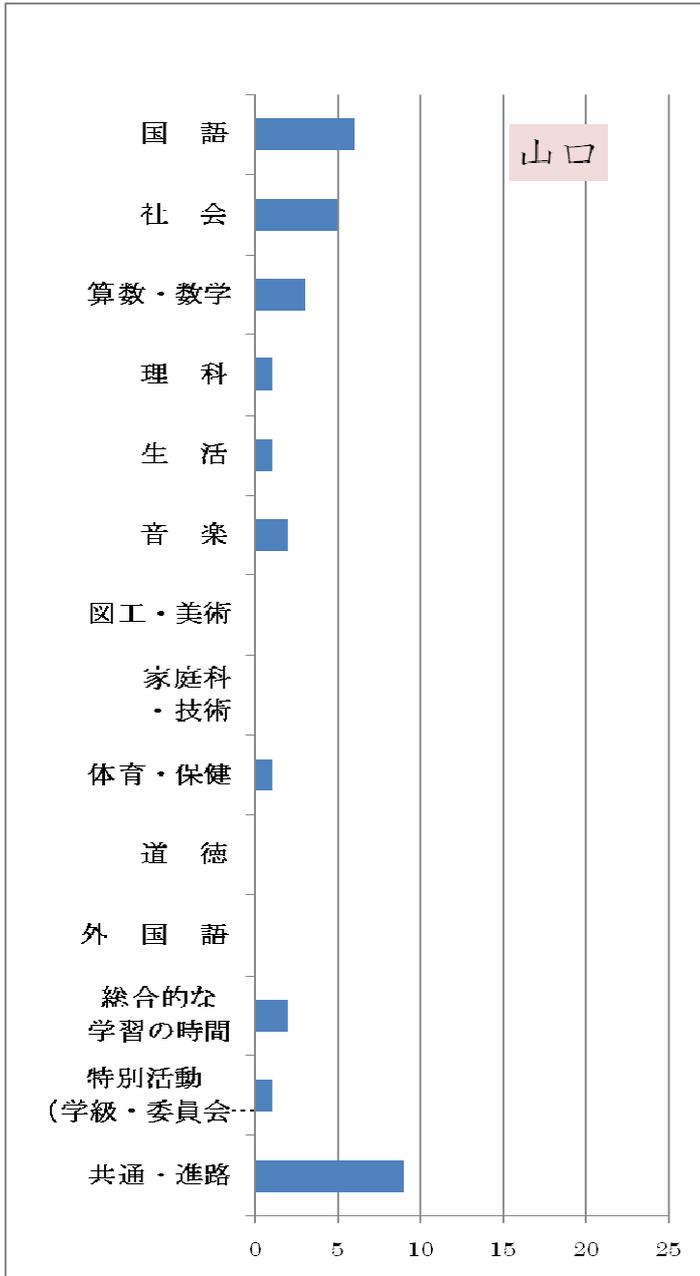
< 課 題 >

- まだ実践したことがないので、やってみないと分からないから。
- 全体でなくグループ、個人で活動していく必要があるから。
- 手続き、ステップが複雑な印層を受けた。自分自身が分かった気にはなっているがまだよく意図を理解していない。
- もっと詳しく知らないと・・・思う。
- まだ実践したことがないので、やってみないと分からないから。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について

□ 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆社会科

・社会科の調べ学習で情報の集め方、資料のとらえ方で活用できそう。

・社会科で題材を提示して

- ①はてな？を見つけようとなげかける。
- ②どうやって調べたらいいかな？ときく。
- ③調べたことをファイルに入れようと提案する。
- ④その資料を床に並べる。
- ⑤ポートフォリオを取り入れながら、プレゼンの場をつくってみたい。

☆生活科

・気づきを発言させる際のコーチングを実践したい。

☆音楽

・歌い方や演奏の仕方にコーチングを用いたい。

☆国語

・国語の読み取りで「このような活動によってみんなにどんな力がつくと思う？」のような問いかけをする。そうすることで目的意識が高まると思う。

☆総合

・総合学習で地域の歴史を調べて発表(ただ何となく、毎年やって発表しているが、何を伝えたいかわからない)
→目標をはっきりときめて、目的を持って明確化させて取り組めるようにコーチングしていく。

☆生徒指導

・生徒指導で、子どもに叱るばかり指示するばかりではなく、どう行動すればよいか自分のためになるかと伝え、考えさせたい。

□【ビジョン・ゴール】

T「コミュニケーションってなんだろう？」

T「よく見るって何？」「ちゃんと聞くとは何？」（←しばしば教師は言いがち）

T「理解するために聞くには、あなたはどんな質問を相手にしたらいいの？」

「理解するためには、どんな言葉をキーワードとして聞いたらいいの？」

子ども達が振る舞いも含めてコミュニケーションが活発になるということは、相手を理解したいという行為の結果とも言える。

さわやかなお節介をしあったりとか、力になり合ったりとかいうように、「私の考えはこんなんです。」といった、自分の考えや自分のしていることをわかりやすく理解してもらうための、自分自身の総合コミュニケーション力である。つまり、プレゼンテーション能力とか表現力というのはコミュニケーション力そのものである。

言語活動について、言語のスキルだけでなく子ども達の情感を高めよう、あるいは感性を高めようということが、新しい学習指導要領の中でも非常に高く謳われている。

つまり、理解したいというモチベーションや情感があつてこそ子ども達はシャープな聞き方になる。つまり、知性と感性である。能動性と手法を高められるようなコーチングを獲得する必要があるのである。だから、ここでは「理解し得るコミュニケーションを題材」とした。ここでも、話し合いということは、題材として上がったが、話し合うとは理解しあうことなので、よりシャープな題材となった。

□【プレゼンテーション】

T「誰と誰のペア？」「そのペア、どうつくるの？」

T「どうしたら最もわかりやすいプレゼンになるの？」

例えば、あるチームは「ペア学習の時にお互いを理解し合え、活発に話し合うための教師の促し方を提案します。」ペア活動とかグループ活動とか、クラス全体とかによって、全部コミュニケーションの手段や方法は変わってくる。以下の提案に見られるように（模造紙を貼るイラストがある）具体的な提案となるためには、ペア作りならば、「誰と誰のペア？」「そのペア、どう作るの？」というようなコーチングWPする。

例えば、国語の「ごんぎつね」を学習する場合、主人公が悲しいとかうれしいとか二手に分かれる場面がある。この場面でどうペアを作るかということ、教師がマルチテキストで図に書いて説明した。この違うもの同士でペアを組んでみる。このことによってペア活動が、ひとつのものを捉えながら真反対の人間がペアを組むことにより、お互いを理解してもらおうと思って潤沢な言語を使う。言語活動を駆使する。

このことによって自分の言語活動のボキャブラリが増えたことがある。あるいは気持ちを言い表したいという意欲があるからこそ、言語が多岐に渡る表現をすることができる。つまり表現力の工夫である。表現力の工夫の前に、自分の思いや思考を伝えたいという思考力と表現力を一体とするということ、このワークショップのプログラムの大きな特徴である。

そのようなワークショップとなるために「ペアって誰と誰のペア？」というように、コーチは具体的に言う。「どうしたら最もわかりやすいプレゼンになるの？」というようなことを言うことで有効な展開となった。

ここも、前回の福岡会場同様、言語活動とか、教師が日常ですぐ使えるコーチングであったこと、あと人数が25人ということ、そしてプロジェクト学習のコアである「意志ある学び」の大切さを会場校の教師から伝えている者たちが、チームづくりの時に各チームに入っていたので、チームの話し合いが非常にスマートにできた。そして、他の会場よりも短い時間での研修を可能とした。さらには、短い時間の研修であるにもかかわらず非常にスマートな展開になった。

《ワークショップ全体の流れ》

第6回 教員研修（ワークショップ）横浜会場

- 日時： 2011年2月19日（土）9：30～16：30 横浜市南部教育事務所研修室
- 題材：「教師のモチベーション」
- 参加者：一般教員24名、大学生・その他2名、指導主事4名 計30名

講義	<p>9：30</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 俯瞰思考と表現と行動 (フィンランド・日本の新しい教科書)</p>	
ワークショップ1	<p>10：30 全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>11：00 チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見 チームで具体的なテーマ設定</p>	
ワークショップ2	<p>14：30 制作 教師のモチベーションをアップさせるための具体的な提案作成</p> <p>15：30 プレゼンテーション チームでロールプレイをしながら発表</p> <p>アイデア共有 評価（付箋）</p>	
講義	<p>16：00 コーチング育成手法</p> <p>16：20 終了 16：30</p>	

アンケート

題 材：教師のモチベーション

目 的(ビジョン)：仕事、学校をおもしろくするために

目 標(ゴール)：「こうすればモチベーションがアップする！」
具体的な提案書をつくる！

〈チームづくりのカテゴリー〉

◇ 研修

◇ 時間

◇ 授業準備

◇ 飲み会

◇ 授業準備2

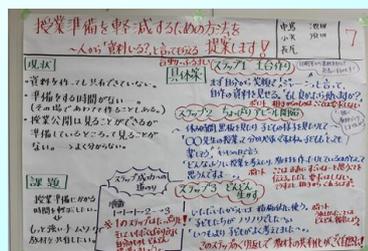
◇ 保護者

◇ 新人

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 年間3回みんなが感動するコーチングをしてくれる講師をよぶ方法を提案します。
- 2 授業準備を軽減するための方法を提案します。～人から「資料いる？」と言ってもらえる言動・ふるまい～
- 3 教師が効果的な発問ができるためのトレーニングをする方法を提案します。
～子どもたちに柔軟に対応できるために～
- 4 2年目の新人がいきいきと過ごす方法を提案します。～GW明けの1日のかかわり方～
- 5 若い先生が気持ちよく19時までには帰る方法を提案します。～充実したプライベートのために～
- 6 「明日もがんばろう！」と思う飲み会のコツを提案します。
～子どもとぶつかってへこんだときも翌日笑顔で出勤～
- 7 無関心な保護者でも来たくなるような魅力ある懇談会づくりの方法を提案します。

ワークショップの成果物→



ワークショップ手法による教員研修 in 横浜 参加者へのアンケート結果

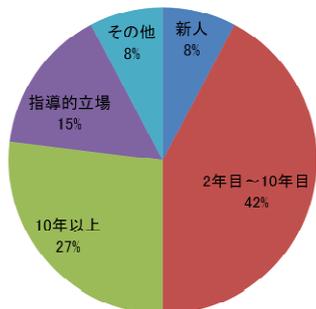


図1 講演会参加者の職位・経験年数

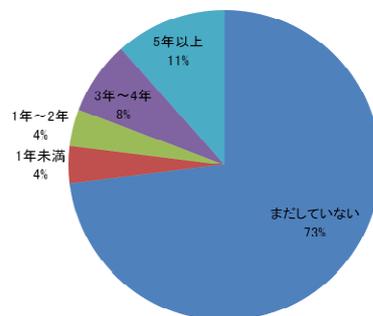


図2 ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績



図3 ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象

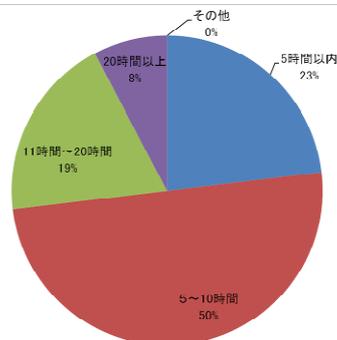


図5 ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に「必要な研修時間」

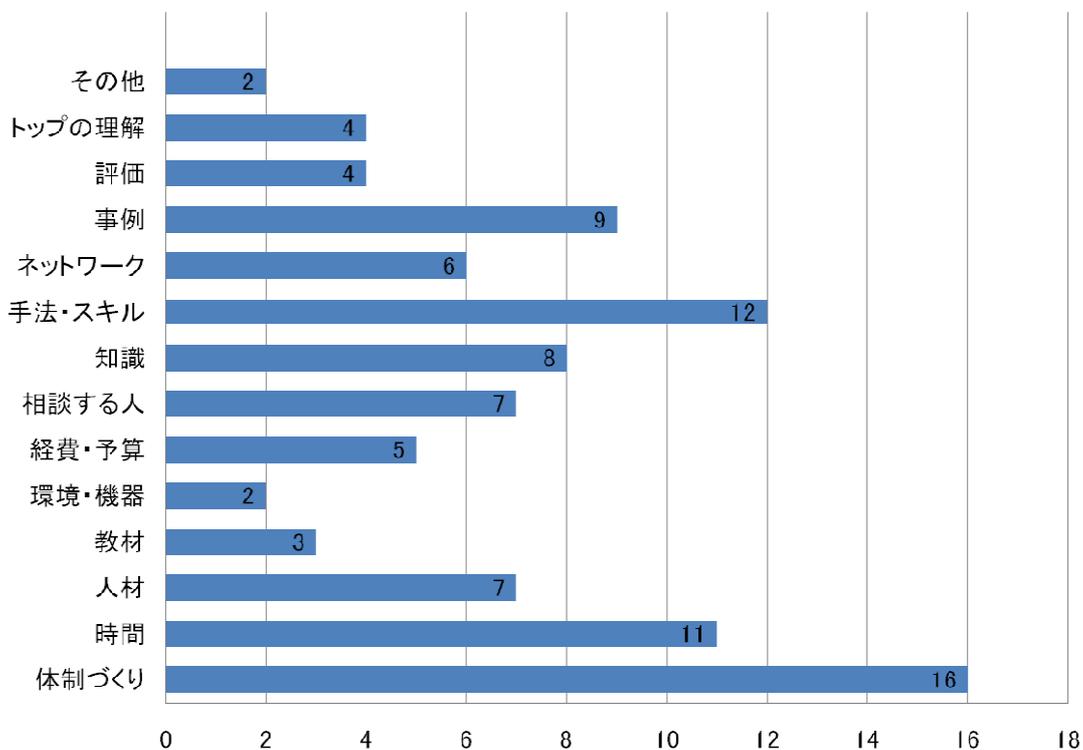


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 横浜（自由記述）

<肯定的評価>

- いろいろな学習、生活の一つ一つに活用できると思う。
- プロジェクト型にすればよいという方ではなく、その中でつけていく力や要素をこちらがはつきり持っていないと活動がよくなる。
- 計画的にやっていく必要があるから難しそうだが、子どもたちの能動的な活動ができそうだからやってみたい。
- とにかくやってみたいと思った。子どもが変わるのが想像できた。
- 鈴木先生が道標となってくださったからできそう。
- 子どもたち一人一人の段階的な訓練も必要だと感じた。
- プロセスがわかったから、実体験したから。
- 校内研究ととても近いので、すぐに取り入れてさらにより学習をつくっていききたい。
- 総合学習では、テーマにしたらよいものをなど吟味してから取り組みたい。
- 初めの勢いが続かず途中でくじけることがあっても、同僚に声をかけて全体に広めることでできそう。
- 学年や管理職の理解を得られればできそう。
- 提示の仕方次第だと感じた。今までのものでも応用でいけると考えた。
- どの教科（総合）もどこでやれるかを検討すれば、あと基本的な考え方を研修すればできそうと思った。
- まだ工夫は必要だが、続けていきたい
- ぜひ一度校内研修を行い、共通理解を分かりやすく説得力がある内容である。
- 適用範囲が広く、ロジックが通って分かりやすい

< 課 題 >

- まだ方法が理解しきれていないため
- まず自分自身が意志ある姿を見せて、他の職員に伝えていく。
- まだ方法が理解しきれていないため。

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

- 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆数学

- ・単元の最初に単元構成を提示する(教科書に目を通すなど): 俯瞰

☆保健・体育

- ・体育の学習で2時間目、自らの課題を設定する場面でコーチングの手法を使う。

「うまくなりたい」

「どんなふうに」

「どうして」と

☆生活科

- ・ヤゴを嫌がる子がヤゴに触れるようになるために

「ヤゴって何でいやなの？」

「ヤゴの魅力を教えよう。どこが魅力なの？」

「本当にそうなの？」

☆道徳

- ・子どもの本音を引き出し、価値について考えるためにコーチングの手法を使って考えをまとめていく。

☆国語・社会・総合

- ・複数の新聞で取り上げられた共有話題を挙げる。
- ・共通する内容、相違する内容を模造紙に対比して書く。
- ・相違点を挙げてそれぞれの新聞が何に重きを置いているか考えさせる。
- ・自分ならば何に重点を置くか根拠を添えて発表させる。

「プロジェクト学習と基本コーチング」 題材：「教師のモチベーション」

□【制作】

T 「今獲得したデータを表すには、どんなグラフや表が適していると思う？」

ここでもはっきりと「先生方、今獲得したデータを表すには、どんなグラフや表が適していると思う？」というようなコーチングをする。

そして、「子ども達にもそのセリフを言いましょね。」とはっきりと言う。自分たちが研修参加者としてのラーナー（学習者）であり、今自分たちが言われているコーチングを現場では、子ども達に使うんだということを、コーチは促しながら研修を進める。だから、研修参加者は、今の自分のワークショップ研修体験が明日の授業でのコーチングの場面なのであるという、研修者であり現場の実践者でありという2つのスタンスに気づかせるようにしないといけない。

研修に参加して自動的に動くだけのワークショップにしてはいけない。

しばしば、ワークショップはコーチやファシリテーターが参加者を動かすすぎである。

（対象が教師故に、）コーチングの使い所に自ら気づくような問いかけをコーチはすることが有効。

□【プレゼンテーション】

T 「最も自分が求めている所に行きましょう。」

T 「プレゼンターの意欲が上がるような、聞き手の態度をやってみよう。」

プレゼンテーションは、これは、教師が作る、教師のための、成長提案であるので、例えばITで成長したいというチームにはIT好きな教師達がオーディエンスとして集まる。このように、プレゼンターであるチームとオーディエンスが、ニーズ（提供できる者）とシーズ（欲しい者）ということで合わせられるようなプレゼンのシーンになるように「最も自分が求めていると所に行きなさい。」とアドバイスをする。つまり、単にスキルではなくて、コンテンツに対する意欲が湧くようにすることが必要であり、それを促すコーチングをする。「最もあなたに関心がある所へ行っているんだよ。」と言うと非常にプレゼンテーションが盛り上がる。そして、当然のことながらリアクションが非常に高い。

その時コーチはこのように言う。

「プレゼンターの意欲が上がるような、聞き手の態度をやってみよう。」と言う。

そうすると、頷くとか、拍手するとか、「なるほど。」と言うようなリアクションが起きる。

そして、お互いに評価を評価カードに書き合い、模造紙に貼り、さらに提案をよくしてできあがった物が資料である。（ここにも成果物を入れてもよいかもしれない…）

□【成長エントリー】

「今日あなたが身についたことは何ですか？」ということを成長エントリーの場面で必ず入れるようにする。

《ワークショップ全体の流れ》

第7回 教員研修（ワークショップ）千葉会場

- 日時： 2011年3月5日（土）9：30～16：30 千葉大学教育学部5102教室
- 題材： 「イメージ・言葉」
- 参加者： 一般教員38名、図書館司書1名、学生5名、指導主事等5名、看護師1名 計50名

講義	<p>9：30</p> <p>あいさつ 未来教育プロジェクト学習とは</p> <p>コンピテンシー・概念把握・知の構造 俯瞰思考と表現と行動 (フィンランド・日本の新しい教科書)</p>	
ワークショップ1	<p>11：00</p> <p>全体の目的：ビジョン 意志あるチームづくり</p> <p>チームテーマ（目標設定へのコーチング） チームで課題発見 チームで具体的なテーマ設定</p>	
ワークショップ2	<p>12：30</p> <p>制作</p> <p>子どもがイメージしたことを言葉にしたくなるような具体的な提案作成</p>	
講義	<p>15：30</p> <p>子どもの活用力向上のための実践に向けて コーチング育成手法 参加者各自のまとめ</p>	
	<p>16：20 アンケート</p> <p>16：30 終了</p>	

題 材：「イメージ・言葉」

目 的(ビジョン)：子どもが日常において言語を豊かに活用するために
 ～いろいろな人と夢をかなえられるように～

目 標(ゴール)：教師がつくる、教師のための
 「こうすれば子どもがイメージしたものを言葉にしたくなる！アイデア集」
 をつくる

〈チームづくりのカテゴリー〉

◇ 経 験

◇ 意 見

◇ 改 善

◇ 作 品

◇ 文 化

◇ 比 較

◇ よさ・魅力

◇ 変 化

◇ 将 来

〈チームテーマ 一覧〉

- 1 いろいろなちがいのある人のよさを見つけて言葉にしたくなる方法を提案します
 ～5年生のグループづくりのケース～
- 2 私たちができる生活の改善を言葉にしたくなる方法を提案します
 ～よりエコな生活へ～
- 3 作品を比較して特徴を的確に表現できる方法を提案します
 ～6年生の図工鑑賞のシーン～
- 4 人との関係をよくする日本の知恵を、言葉や身ぶり手ぶりで伝えたいくなるような方法を提案します
- 5 学級での話し合いで、常に受け身の子も 思わず自分の考えを発表したくなる方法の提案
- 6 子どもたちがラジオコマーシャルで地域のよさを伝えたいくなるような方法を提案します!
 ～6年生の総合のシーンで～
- 7 卒業式の時に将来何になっていたかの本音で話したくなる方法を提案します!
 ～通り一遍のことしか話せない子のために～
- 8 1枚の写真からたくさんの言葉で表現したくなるアイデアを提案します
- 9 私が変化した瞬間を言葉にして伝えたいくなる方法を提案します
 ～中3の卒業を前に～
- 10 自分にとって困難を乗り越えた経験をわかりやすく言葉にしたくなる方法を提案します

成果物の例→



ワークショップ手法による教員研修 in 千葉 参加者へのアンケート結果

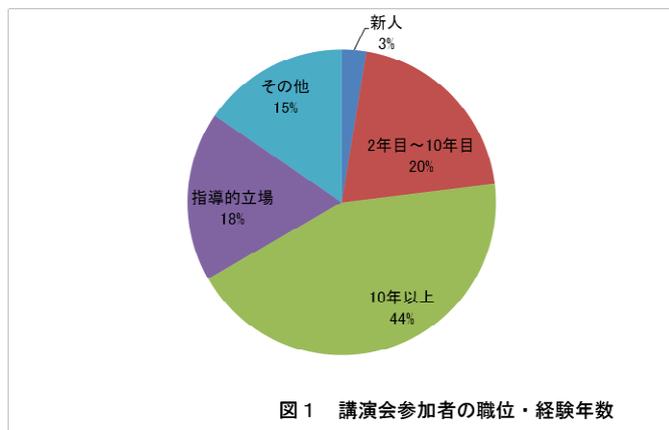


図1 講演会参加者の職位・経験年数

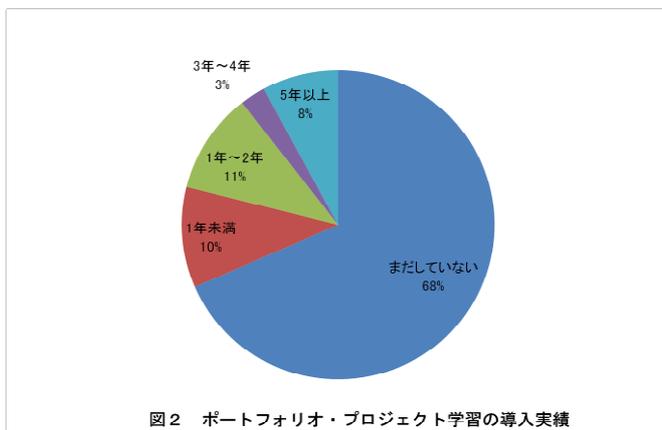


図2 ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績

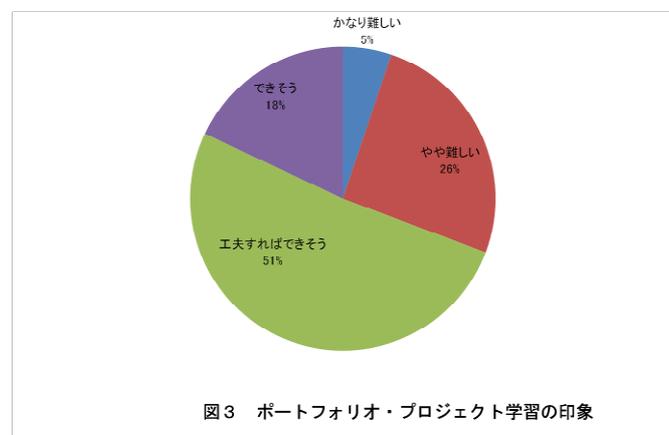


図3 ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象

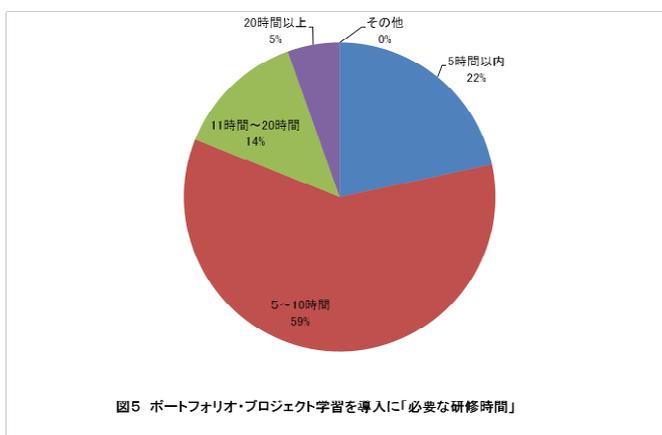


図5 ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に「必要な研修時間」

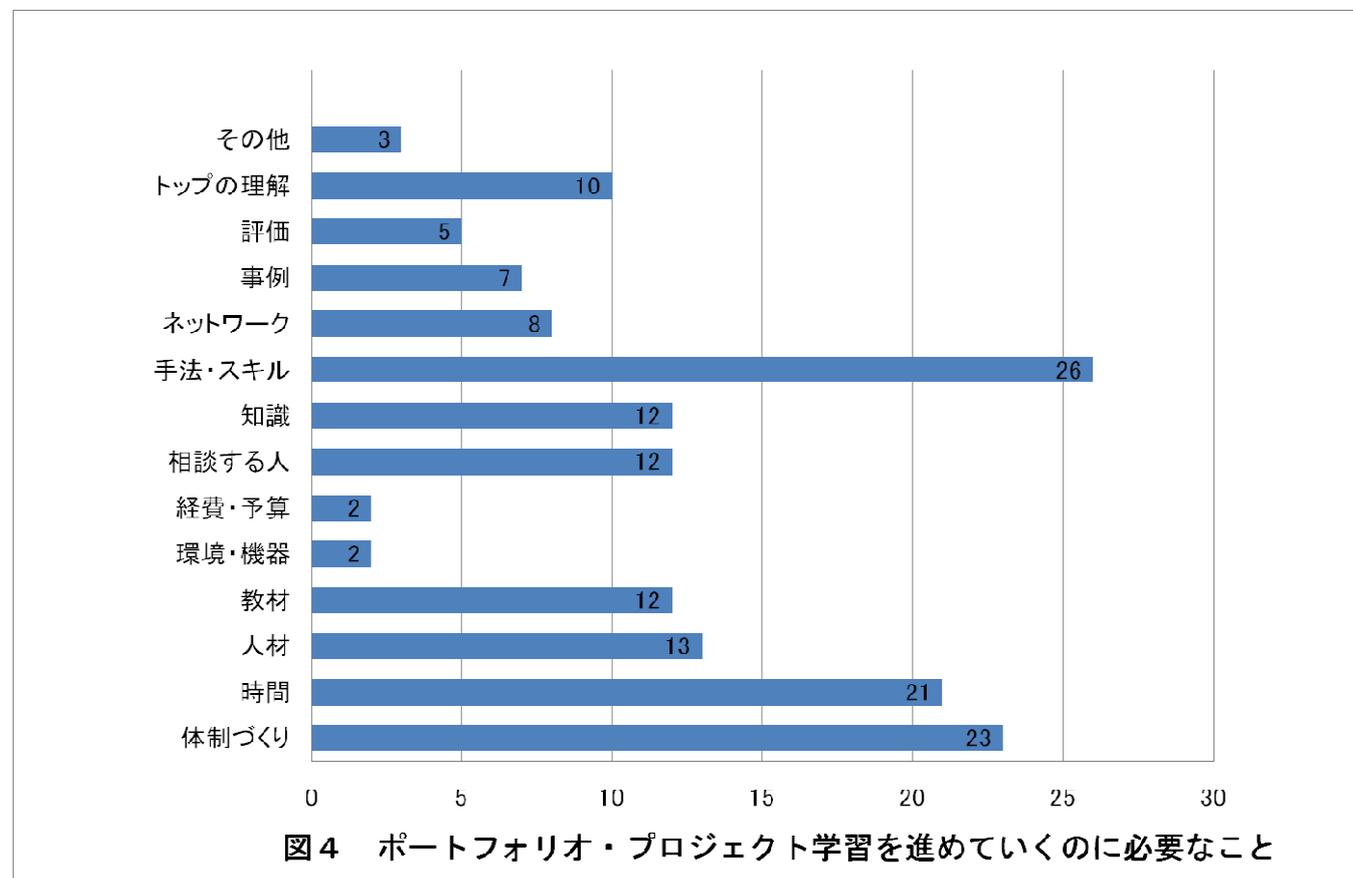


図4 ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと

ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象 in 千葉（自由記述）

<肯定的評価>

- 生徒がより楽しく力を身に付けられそう
- 今までもやってきたことを体系的にまとめてもらってある
- やってみる気はあるので、希望をもっている
- 出来具合は別にしても、子どもたちの興味関心に向いていると思うので
- 自分も子どもも楽しく力を伸ばせそうだったから
- 始めは難しいと思っていた。いろいろな方の話を聞いているうちにだんだんわかってきた。
- できないと思ったらできない。また、慣れるまでは大変かもしれないが、ぜひとも取り入れていきたい。
- 実践例を教えていただいたから
- 本日の研修がとてもよく構成されており、自信を持てたから
- 研修が充実しているから

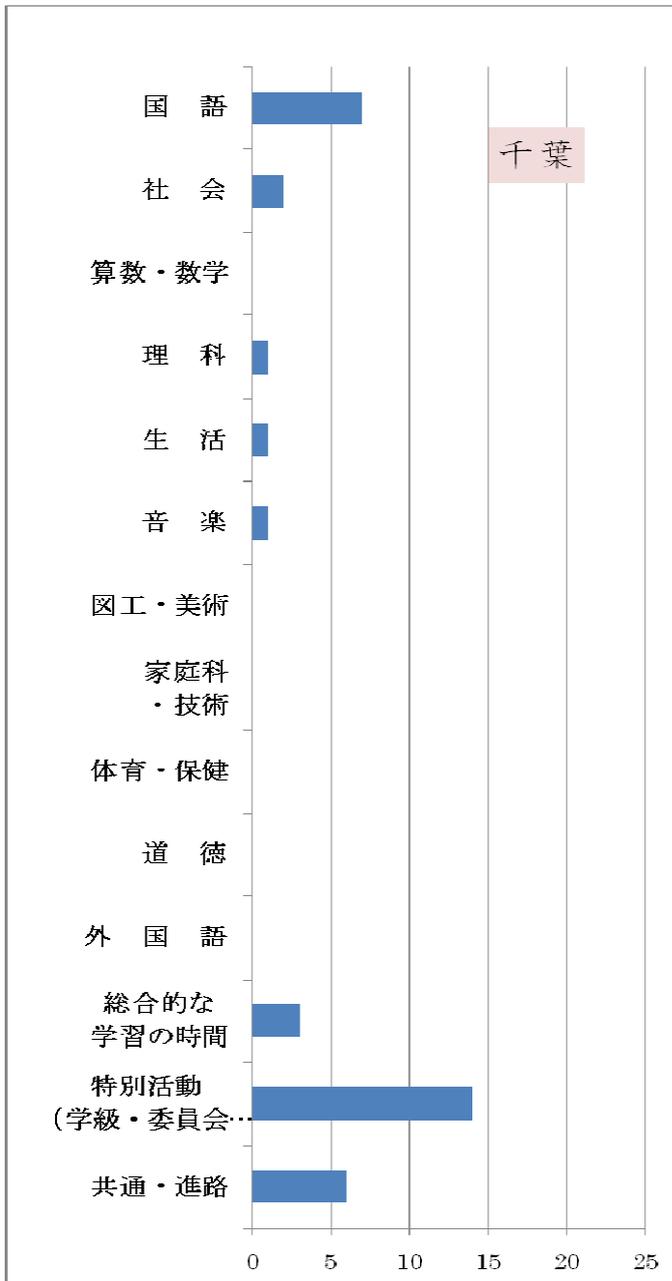
<課題>

- 単学級だと自由にできるが、4学級で組んでいるため、他の方の了承と協力を得られないと、なかなか進めることができない。
- 自分が十分に理解しているとは言えないのと、一つ一つの意味をもっとよく理解してから取り組みたいと思う。
- 心がけようとしていることに近い。ただし、もう少し消化しないといけない。
- コーチングをもっと学びたい、まだ不安があるから。
- まだ、肝心のポイントを習得できていないと感じる
- 実際に何年か使っている。ただ、まだまだ使いこなせているほどではないので、より有効に使えるようにしたい
- 児童の能力によってはとっつきにくい面もあると思われる
- 題材をどうすればよいか
- 教師自身も目的がぶれることはないか
- 1 金銭面 2 学年の継続性 3 教材研究のための時間
- フェーズをいかに意識し大切にしていくか
- ビジョン・ゴールを子どもと共有できるか
- まだ手順がよく理解できていない
- かなりの準備が必要

アンケート

言語活動を重視した科目への応用について。

□ 研修で体験したポートフォリオ・プロジェクト学習がどのようなシーンで活用・応用できるかについて質問しました。



☆音楽

・表現・創作・鑑賞の活動において自ら思いを発し、たくなるような教材・発問やコーチングの工夫に使う。

☆社会科

・グループ作業シーンで、みんなで意見等を主張できるための環境づくりに使う

☆生活科:「植物を育てよう」編

・植物の育て方などを自分たちで考えられるようにする。「考え込むのではなく、自分たちで調べたいような声掛け」に使う。「どうして?」「それから?」など

☆理科

・授業で学んだより良いエコに対する取り組みを卒業生からのメッセージとして1年生に伝えてもらうことに使える

☆国語

・単元導入のシーンで。

・国語は読む目的・目標が非常に不明確なので、後で「何を考え」「どう思ったのか」討論するとき
・読書活動を推進させる際、これまではポスターを情性的に作らせていたイメージだが、今後はポスターをより他社意識、課題意識をもって取り組ませることができそう。

:「説明文の読解」編

・思考の要素をもとに読み取らせ、表現の要素を大切にゴールにつなげる。

☆学級活動

・やる気や目的意識の高い集団作りをする時「何をしたいのか」「何で貢献したいか」

・児童会役員選挙立候補者「何をしたいのか」「それを達成するための手段を具体的に書かせる」「全校生徒に伝えるためのプレゼン準備」

☆総合的な学習

・1年:「自分自身を見つめる」、2年:「他者の生き方を知る」、3年:「自分の将来、進路を考える」という3カ年を通して実践する

ジェクト学習とコーチングポイント」

題材：言葉

□【制作】

T「あなたたちが一番伝えたいことはなに？」

T「それを的確に伝えるためにどんな表し方をしますか？」

制作というのはプレゼンテーションの制作なので、どれくらいの表現メディアなのか、ボリュームを先に言っておかなければならない。

模造紙2枚という限られた中で何を提案するかということ、相手がわかっていなければいけない。パワーポイントの制作ではなくて、是非プロジェクト学習の研修では、模造紙という全体が俯瞰できる手段の表現媒体をお勧めする。そこに、的確に表現できるようにすることで高度な言語活動になる。

チームで作業していて、意見が割れたり、ぶれたりした時には、「何のために、何をやり遂げたいの？」とゼロベースの議論に戻してあげる。そうすると、自分たちは「〇〇のために、〇〇を」と原点に戻ることができる。

つまり、「目標からぶれていないね」ということを確認するために、コーチングをすべきである。

制作のところではもう一つ、「一番伝えたいことはなに？」というコーチングに対する答えに対しては、「それを的確に伝えるためにどんな表し方をしますか？」とコーチングする。

「言語活動の充実」ということは、学習指導要領にも、非連続テキストで表現することが大事と謳われている。文字、図、表を使って表す。(それはもちろん根拠を表すためなど必然性であるが…)

棒グラフが良いのか、円グラフが良いのか、ここが算数や数学との教科の融合の場面である。

この場面で、子ども達に「どの教科で習ったことがここで使える？」というコーチングをすることによって、子ども達は、「算数！」とか「理科！」とか言うであろう。そのことによって教科に対するモチベーションも上がる。

また、教科書自体が使えるんだ、ということ子ども達(学習者)が気づくようなコーチングをすると、教科全体へのモチベーションがあがる。プロジェクト学習をすることによって、教科の中でもこのコーチングが使えることになる。(もちろん総合的な学習の時間でも使える。)

□【プレゼンテーション】

T「なんのためにプレゼンテーションするの？」

◇「ここをこうすればもっとよくなる。」という視点で評価をかわし合い改善できるようにする

プレゼンテーションというのは生身の人間を相手にするわけだから、「誰のためにプレゼンするの？」とそのターゲットを意識しているかどうかをコーチは確認したい。そして、「その内容が一番伝わる工夫は？」と言った時に、学習者(今回であれば教師)が、姿勢を示すとか、身体的表現を使うなどの、言語だけでないいわゆるノンバーバルな表現や伝達方法をプレゼンに用いるようになる。つまり、ワンパターンのプレゼンテーションスキルを高めるのではなく、思いやミッションがあるからプレゼンテーションの表現がよくなる。

プレゼンテーションの後に、互いに評価して「ここをこうすればもっとよくなる。」といった自分の考えを伝えて、成果物をよりよくしていく思考錯誤の大事さ、もっとよくなりたいという改善アイディア、比較・検討、これらは全て言語活動を充実させる時の思考力の向上につながる。

思考力の向上のためには、目の前に自分たちが考えを表したものを生かしながら、お互いに比較・検討し、改善のアイディアを出し合うことによって、非常にシャープな言語活動が展開されることになる。(分かりやすく言わないと相手に通じないから、分かりやすう衣表現力など)

□【再構築】

T「必ず情報の根拠がわかるような付け加えをしましょう。」

今回の再構築は、W1に見てもらえるように、お互いの考えをブラッシュアップした知財として、知的なものを生む研修として、中身をより良くし、他者に本当に役に立つということを体験してもらうために凝縮ポートフォリオなるものを示す。

コーチングとして「読んだ人がこうすれば言語活動が活発になるのか！」と行動化できるような表現にする。

ここで必要なのはエビデンスである。必ず根拠ある情報：固有名詞や数字など根拠が提案のなかに盛り込まれていることが、「言葉」を題材にした意味であり、価値である。

）教員研修実施後の考察と評価

研修アンケート結果からの考察

・ 図1 「講演会参加者の職位・経験年数」

各会場の講演会参加者の職位・経験年数は、非常に多様であった。

・ 図2 「ポートフォリオ・プロジェクト学習の導入実績」

各会場を通じて、「まだしていない」の回答が一番多く、50～73%と分布していた。このことから、未導入の機関のためには、本学習の研修機会を設け、学習内容や方法について理解を深める必要があると考えられた。

・ 図3 「ポートフォリオ・プロジェクト学習の印象」

各会場を通じて、「工夫すればできそう」の回答が一番多く、50～71%と分布していた。このことから、本学習実施における「工夫すべきポイント」について研修する機会を設けることで、本学習の導入が可能となることがうかがえた。

・ 図4 「ポートフォリオ・プロジェクト学習を進めていくのに必要なこと」

各会場を通じて、回答が多かったのは、「手法・スキル」「時間」「体制づくり」についての項目だった。「手法・スキル」については研修受講が、「時間」「体制づくり」については組織や上司の理解等が必要であり、本学習の推進に必要な要素が示された。

・ 図5 「ポートフォリオ・プロジェクト学習を導入に必要な研修時間」

各会場を通じて、「5～10時間」の回答が一番多く、46～63%と分布していた。すなわち、1～2日間の短期間の研修受講によって導入が図れることから、本学習実施が導入しやすいことが明らかになったと言える。

・ 自由記述意見

<肯定的評価>では、「指導者側が学習方法を理解して、工夫すれば使えそう」という意見が多く、上記の考察を裏付ける内容が、自由記述に記載されていた。一方で、<課題>としては、本学習についての「指導者側の理解」「職場や同僚の理解」が挙げられており、今回のような研修等を通じた本学習への理解を深める必要があると言えた。

・ アンケート結果のまとめ

今回、全国各地で実施した教員研修には、多様な職位や経験年数で、且つ本学習の未経験者に数多く参加してもらった。各研修会参加者からの本学習導入に関する意見は、同じような傾向が見られたことから、どの地域においても少ない研修回数で比較的容易に導入が図れる可能性があると言える。そして、本学習導入については、職場や組織の理解を併せて得ていく必要があることが明らかとなった。

ポートフォリオ・プロジェクト学習実施についての評価

取組事例の調査研究の成果

取組事例の調査研究・収集から、子どもたちの課題解決のプロセスにおける言語活動の内容が把握できることでより効果的な思考や解決策につながるコーチングを提案できる。この成果としてのコーチングカード等を提供することで子どもたちが「意志」をもって自ら学ぶことやまた、社会の変化の中で自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断できる授業を実施することができる。

試行的教員研修の成果

プロジェクト学習やポートフォリオを活かした授業ができるようになるための基本知識と、課題解決能力や同時に自信や有能感も高まり学習意欲が向上するコーチングなどをねらいとした教員研修により、課題を解決するために多様な情報から結論を導ける思考力、その考え方の根拠を示して伝えられる力、またポートフォリオを再構築することで自分の考えを分かりやすく文章にあらわせる能力などを育める指導力、コーチング力も修得できる。

また、実践者が次の講師になるため教員研修を持続的に拡大しつつ実施される波及効果も予想されるが、基本のねらいを押さえ、教員同士が情報共有でき楽しい研修のため、参加教員の継続性を持つ。

教員研修プログラムを通じて

開発した教員研修プログラムを活かして、教育委員会などの協力（主に研修会場の提供や広報）を得ながら、現場の教員や教育委員会に負担が少なく、教員研修が行えた。このことから、実施持続が容易となると言えた。

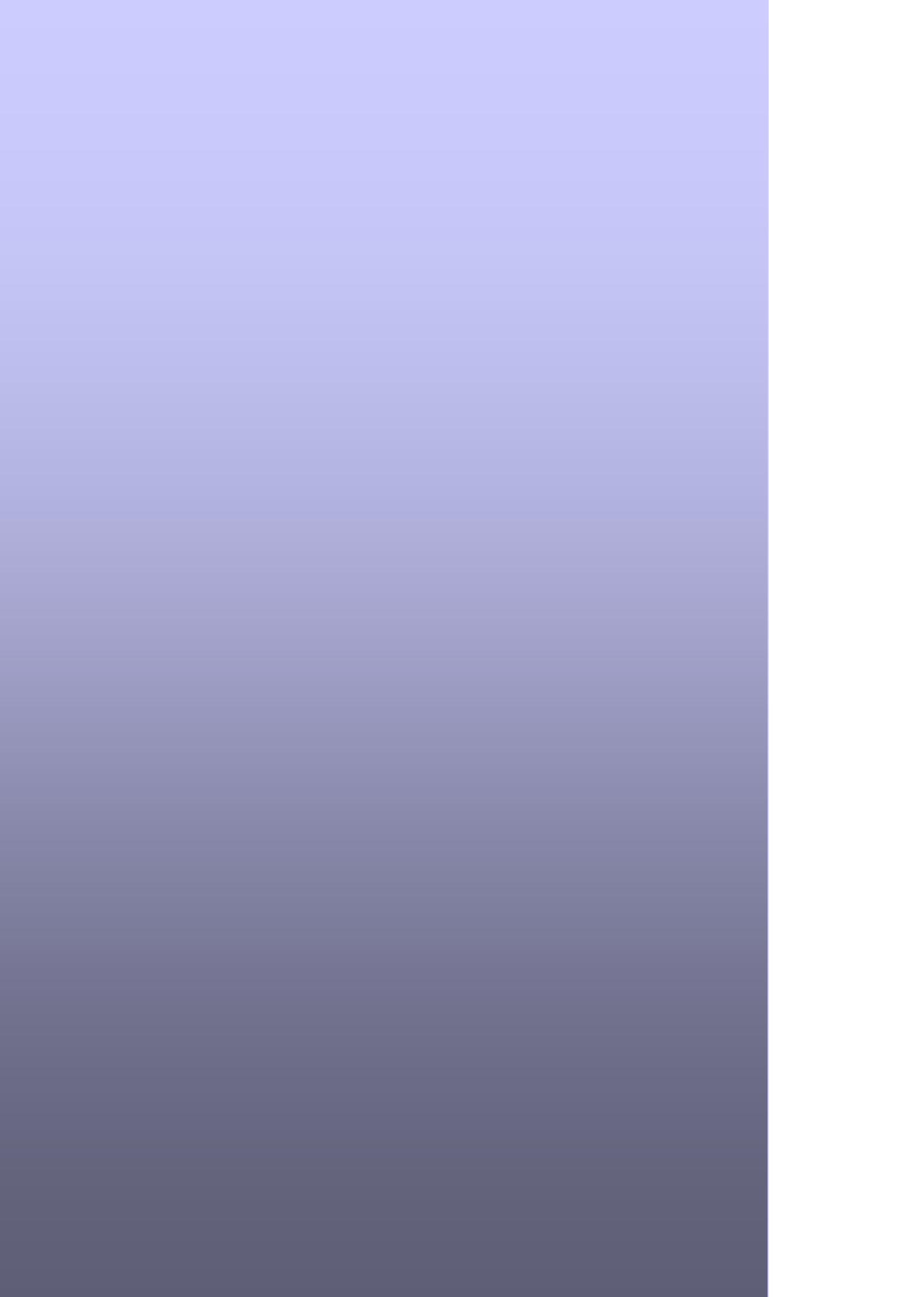
また、当プログラムは参加型の研修でもあり、教師がモチベーションをもって学べたことが報告された。そして、経験知のある教員同士が学び合うことで、総合的な学習だけでなく、各教科においても授業のマネジメントとしてプロジェクト学習方法、ポートフォリオ評価およびコーチングが使えるようになったとの意見もあった。その結果、授業と評価の一体化が確実に図られるようになり、子ども1人ひとり、かつ、全員の評価ができるようになると考えられる。

加えて、当該事業がナレッジマネジメント機能をもち、実践者が互いに協力しあい、そのネットワークを活かして教員研修を実施することで、言語活動を重視したコンピテンシーを高められる教育能力の向上を果たせると思われる。

事例集作成を通じて

作成する「実践事例集」を参考にすることで、はじめてポートフォリオやプロジェクト学習を行う教員にとって、企画計画を立てやすくなる。また、実践を進めていく上で問題(授業の進め方等での課題)が生じた場合も教員間(実践者と)のネットワークが組みやすく、子どもたちの力も伸ばしやすい。

第 V 章 プロジェクト学習手法による授業の実践事例の報告



第V章 プロジェクト学習手法による授業の実践事例の報告

「意志ある学び」を理念とする未来教育プロジェクト学習の手法は、「防災」を題材にした実践において、数々の受賞など成果をあげている愛媛県西条市をはじめ、これまでも各地で実施されていますが、本章では、シンクタンク未来教育ビジョン代表 鈴木敏恵が、プロジェクト学習やポートフォリオなどのアドバイスや教員研修の講師を継続的にしている岐阜県瑞穂市立西小学校の指導計画書を紹介します。

西小学校では、継続的に各学年において、ポートフォリオやプロジェクト学習の手法を導入しています。例えば、3年生では「運動」、4年生では「もったいない」、5年生では「防災」、6年生では「仕事」を題材に実施し、「生きる力：自分の頭で考え、判断し、行動し、課題を解決できる。自分を振り返り、自己の生き方を考えることができる」を掲げる教育目標に対し確かな効果をあげています。

* * *

ここでは6年生の「仕事」を題材にキャリア教育を展開している指導計画書をプロジェクト学習の基本フェーズごとの学習計画＝時数、学習活動、評価基準を理解しやすい形で紹介します。

瑞穂市立西小学校にプロジェクト学習を導入された横山校長先生、現在の馬淵校長先生はじめ資料の提供などおしみなくご協力いただいた先生がたに感謝いたします。

この先進的な試みをもとに日本全国でプロジェクト学習、ポートフォリオ、コーチングなどの手法を活かした「意志ある学び」が広まることを願っています。

シンクタンク未来教育ビジョン

代表 鈴木 敏 恵

西小キャリア教育学習プログラム 6年総合的な学習の時間・仕事

キャリア発達にかかわる諸能力				能力の具体内容	指導の場
領域	領域説明	能力<キーワード>	能力説明		
人間関係を築く能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	A 自己理解 他者理解	自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所や短所を自覚し、長所を生かそうとする。 仲間の気持ちを考え、理解しようとする。 自分の生活を支えている人に感謝し、応えようとする。 	<p>【総合的な学習】未来をかがやかせるハローワークをつくらう (準備)</p> <p>(成長エントリー)</p>
		B コミュニケーション 規律・マナー	多様な集団・組織の中で、規律やマナーを身に付け、適切なコミュニケーションを図って、豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力。	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の意義や効果を考え、相手の立場に合わせた挨拶をする。 目的や意図に応じ、自分の考えを、効果的に表現したり、相手の意図をつかみながら理解したりする。 思いやりの気持ちをもち、相手の立場に立って考え、行動する。 みんなで話し合っ決めてたことを守る。 	<p>【総合的な学習】未来をかがやかせるハローワークをつくらう (テーマ・ゴール)</p> <p>(計画)</p> <p>(情報・リサーチ)</p> <p>(プレゼンテーション)</p>
職業を理解する能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	C 情報活用	進路や職業、他者の生き方に関する情報を収集するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考えていく能力。	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな職業や生き方があることが分かる。 自分に必要な情報を手段を活用して集め、整理して発信し、自分の生活に生かす。 	<p>【総合的な学習】未来をかがやかせるハローワークをつくらう (制作)</p> <p>(プレゼンテーション)</p> <p>(再構築)</p>
		D 働く意義 やりがい	様々な体験等を通して、生活・仕事上の多様な役割の意義、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連、自分の果たすべき役割の意義などを理解していく能力。	<ul style="list-style-type: none"> 掃除の目的と効果を考え、自分の目標をもって主体的に活動する。 集団生活の向上のために、自分にできることを考え、積極的に取り組む。 体験等を通して、働くことの苦勞や大切さが分かる。 	<p>【総合的な学習】未来をかがやかせるハローワークをつくらう (情報リサーチ)</p>
将来を描く能力	夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	E 夢・あこがれ	自己の可能性を生かせる仕事に就きたいという夢や理想とする生き方に対する憧れを抱く能力。	<ul style="list-style-type: none"> 将来の憧れをもち、自分のよさを生かせる職業・生き方を考える。 	<p>【総合的な学習】未来をかがやかせるハローワークをつくらう (テーマ・ゴール)</p> <p>(成長エントリー)</p>
		F 自己課題	目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための課題を見つけ、計画を立て、実行していく能力。	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、目標と達成のための方策を持って学習や生活をする。 計画の重要性に気付き、事前に計画を立て実行する。 	<p>【総合的な学習】未来をかがやかせるハローワークをつくらう (テーマ・ゴール)</p> <p>(計画)</p>
自ら解決する能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	G 自己決定 自己責任	主体的に判断し、自らにふさわしい選択決定を行い、意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応する能力。	<ul style="list-style-type: none"> 願いや目的に照らし合わせて、活動を選んだり、決めたりする。 自分で選んだり決めたりして始めたことは最後までやり通す。 	<p>【総合的な学習】未来をかがやかせるハローワークをつくらう (テーマ・ゴール)</p> <p>(再構築)</p>
		H チャレンジ精神 創造力	直面する問題解決のために、よりよい方法を工夫したり、目標達成のために、新たな解決策を生み出したりする能力。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の願いや目標の実現のために、よりよい方法を工夫する。 創造的な視点をもった考えを出す。 	<p>【総合的な学習】未来をかがやかせるハローワークをつくらう (情報リサーチ)</p> <p>(プレゼンテーション)</p> <p>(再構築)</p>

指導目標	もたせたい意識	指導時期
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事について自分の知っていること、身の回りで働いている人の話・本やテレビで調べたことから自分の興味のある仕事に気づく。 ・これまでの自分や仲間の取り組みを振り返り、自分や仲間の成長に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の知らない仕事がとても多いことが分かった。仕事の内容をもっと調べたい。 ・自分や仲間の成長したこと、考えの変化、わかったこと、身についたことを具体的にふりかえることができた。自分も仲間も成長したなあ。 	<p>5月</p> <p>2月</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさをいかす仕事はなんだろうという課題を、どのように解決していくとよいかを話し合うことから全体のテーマを決めることができる。 ・仲間と自分の願いの違いを理解しながら、お互いの意見を尊重しあって計画を立てることができる。 ・場に応じた態度（言葉遣い）で、職場見学・取材・体験に臨むことができる。 ・相手が何を伝えたいのかを考えて聞き、よい点やアドバイスしたいことを伝え、受け取った側は再構築にいかすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの願いをもとに、テーマは「将来、夢の職業につくために、どのような努力をすればいいか、大切なことは何かを調べよう」で、ゴールは「未来をかがやかせるハローワークをつくらう」に決まった。自分がやりたい仕事について調べていきたい。 ・仕事の基本的なことや大切なことを伝えるためには、どんなことを調べればよいのが分かった。 ・職場見学・取材・体験に臨むには、どのような態度や言葉遣いをしたらよいのがわかった。これからの日常生活でも、意識したい。 ・相手が何を伝えたいのかを意識して聞き、よい点やアドバイスしたいことを伝えることができた。仲間からのアドバイスをこれからの再構築に生かしていこう。 	<p>7月</p> <p>9月～10月</p> <p>10月</p> <p>11月～12月</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「伝えたいことは何か」という視点で集めた情報が、必要であるか根拠ある情報であるかを考えて取捨選択し、表やグラフなども使ってまとめることができる。 ・「こんな職業にはこんな人」という、自分たちが伝えたい情報を自信をもってプレゼンテーションする。 ・ポートフォリオを俯瞰し自分のテーマに必要な情報を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝えたいことは何か」という視点で集めた情報が、必要であるか・根拠ある情報であるかを考えて、取捨選択し、表やグラフなども使ってまとめることができた。 ・基本的なことと大切なことを明確にして、プレゼンテーションすることができた。 ・ポートフォリオを見直し、自分のテーマに必要な情報を選ぶことができた。 	<p>11月</p> <p>11月～12月</p> <p>1月</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学や職場体験を通して、仕事をしている人々と交流し、働くことの意義や苦労が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしている人々が、誇りややりがいをもって働いているのがわかった。 	<p>10月</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマをもち追究していくことが、将来仕事につく自分たち6年生のためになることがわかる。 ・これまでの学習を振り返り、自分を生かせる仕事に就きたいという希望をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学習が、自分たちや他の6年生のために、役立つことがわかった。 ・学習を通して自分を生かせる仕事ははっきりした。自分を生かせる仕事に就きたい。 	<p>7月</p> <p>2月</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマをもち追究していくことが、将来仕事につく自分たち6年生のためになることがわかる。 ・課題を解決するためには、情報収集活動の日時・行くところ・役割分担の計画を立ててから実行していくことが重要であることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の願いをはっきりさせ、課題をもって追究していこう。 ・課題を解決するためには、情報収集活動の日時・行くところ・役割分担の計画を立ててから実行していくことが重要であることがわかった。 	<p>7月</p> <p>9月～10月</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が将来就きたい仕事・興味がある仕事は何かをはっきりさせて、チームを決めることができる。 ・「未来をかがやかせるハローワーク」をつくるために、今まで学習してきたことをまとめ、自分らしく考えを組み立てて根拠ある提案書をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの願いを出し合って、チームを決めることができた。 ・仕事の基本的なことや大切なことをまとめ、自分らしく考えを組み立て、自分の願いが伝わる成果物を完成させることができた。 	<p>7月</p> <p>2月</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・予想される問題や困った事態を考え、対応策を準備してから情報収集に出かけることができる。 ・伝えたいことを、分かりやすく伝えるための方法を、考えたり工夫したりすることができる。 ・「未来をかがやかせるハローワーク」をつくるために、今まで学習してきたことをまとめ、自分らしく考えを組み立てて根拠ある提案書をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最悪の事態を予想した計画をたて、最後までやりきりたい。 ・プレゼンテーションの秘訣を意識して、発表することができた。 ・興味のある仕事の基本的なことや大切なことをまとめ、自分の願いが伝わる工夫をして成果物を作りたい。 	<p>10月</p> <p>11月～12月</p> <p>1月</p>

フェーズごとの学習計画

フェーズ
準備

A：仕事について自分の知っていること・身の回りで働いている人の話・本やテレビで調べたことから、仕事について無意識だった自分を知り、興味のある仕事に気づくことができる。

D：身近な人やゲストティーチャーの働く喜びや苦労が分かる。自分の生活が無数の仕事によって支えられており、どの仕事もなくてはならないことに気づく。

月	時	おもな学習活動・体験活動	評価規準	キャリア
5	1	プロジェクト学習のねうちを確かめよう。	・プロジェクト学習の進め方をつかみ、学習に意欲をもつことができる。	E
	2	・プロジェクト学習のイメージをつかむ。 ・基本フェーズの流れを俯瞰し、学習で身につく力を考える。 ・身の回りの仕事見つけを開始する。(いつ・どこで・何をしていた。)		
	3	身近な人の仕事を知ろう。	・仕事について自分の知識や思いをシートに書いている。	A
	4	・身近な人の仕事について知っていることや普段思っていることをシートに書き、仕事調べの見通しを持つ。		
	5	身近な人の仕事を調べた感想を交流しよう。 ・仕事集めをして感じたことを交流する。 ・身近な人の仕事を調べ、思ったことを交流する。	・仲間と発言を聞きあい、考えをまとめる。	B
		自分の仕事を考えてみよう。 ・自分があこがれている仕事や、自分に向いている仕事を考える。	・なりたいと思っている仕事や自分に向いていると思う仕事をシートに書いている。	A
	6	「なぜ仕事をするのだろうか」を考えてみよう。	・働く意義をシートに書きだし、自分の考えをもつことができる。	D
	7	・何のために仕事をするのか考え、シートに書き出す。 ・考えたことを交流する。		
	8	見つけた仕事を仲間わけしよう。	・自分の考えをもち、友達と考えを交流しながら仕事をカテゴリーごとに分けることができる。	D
	9	・集めた仕事をカテゴリー(人を助ける仕事・ものを運ぶ仕事・ものを作る仕事・)ごとに分類する。 ・どの仕事にも値打ちがあり、社会の役に立っていること気づくことができる。		
10	自分のよいところを見つけ自分に自信をもつ。 ・自分の「できる」「得意」「好き」をシートに書き出す。 ・仲間の「できる」「得意」「好き」をふせんに書き出し、その人のシートに貼る。 ・もらった付箋を読み、感想を書く。	・もらった付箋を読み、自分のよさに気づくことができる。	A	
6	11	～さんの仕事の内容や仕事に対する思いをつかもう。	・仕事をすることのやりがいや喜び、たいへんさなどに気づき、感想をまとめることができる。	B C
	12	・ゲストティーチャーから仕事についての話を聞く。		
	13	アナウンサー 写真撮影業 消防士 看護師		
	14			
	15			
6		キャリアポートフォリオとは何かをつかもう。 ・キャリアポートフォリオは、何のために...個性や得意を自分で知る、人に伝える。 作り方 ...好きなもの、がんばって得たもの、楽しいなと思うもの、作ったもの、書いたもの等。 選んだ理由を書いた付箋を貼っておく。	・キャリアポートフォリオのつくり方を理解することができる。	A
		友達の助言をもらって自分が向いている分野を考えよう。 ・仲間の自己発見ポートフォリオを見て、向いている分野を付箋に書き出しシートに貼る。	・助言をもとに自分の向いている分野に気づくことができる。	A
	16	自分の～関係の具体的な仕事を探そう。 ・自分の興味ある分野について、具体的にどんな仕事があるのか10個以上見つける。	・自分の興味を生かせる仕事を具体的に思い浮かべることができる。	A

は、他教科・他領域とのクロスカリキュラムまたは、ゆとりの時間

フェーズ
テーマ・ゴール

- B : 「自分のよさを生かせる仕事は何か」という課題をどのように解決していくかを話し合い、全体のテーマを決めることができる。
- E F : 自分のテーマをもち追究していくことが、将来仕事に就く自分や他の6年生のためになることがわかる。
- G : 自分が将来就きたい仕事・興味のある仕事は何かをはっきりさせて、チームを決めることができる。

月	時	おもな学習活動・体験活動	評価規準	カリ7
7	1	仕事プロジェクトのテーマを決めよう。 ・これまでの学習を振り返って、仕事について思ったこと気づいたことを書く。	・自分を生かせる仕事を見つけないという願いをもつ。	B E
	2	仕事プロジェクトのゴールをはっきりさせよう。 ・このテーマでプロジェクト学習をする目的を確かめる。 ・プロジェクトをどんなもの(成果物)にして、世の中に伝えるのかを決める。	・小6の私たちが将来の見通しをもてるようにするという願いをもってゴールを考えることができる。	E
	3	仕事のプロジェクトのテーマに対する願いは何かをはっきりさせよう。 ・自分が興味をもっている職業と、その職業について特に調べたいことを決め、その理由をシートに書き出す。	・自分を生かせる仕事を見つけるために自分が追究したいことをはっきりさせることができる。	F
	4	同じ願いをもつ子でチームをつくろう。 ・自分がどのカテゴリーに入るかを自分で考えて分かれ、その中で1チーム4, 5人を基本にチームを作る。	・自分の願いを大切に、同じ願いの子と共通点や、相違点を明らかにしながら話し合い、チームをつくることができる。	G
	5	チームテーマを決める。 ・「 <input type="text"/> の仕事の基本的な技能と大切な心を伝える」を基本として、チームごとにテーマを考える。 <small>「基本的な技能」をその仕事に必要な内容・資格・免許・勉強・技術・学校等と捉え、「大切な心」をその仕事に必要な努力・生きがい・やりがい・人としての思い・人間性等と捉えた。</small>	・チームの一人一人が自分の願いを出し合って、具体的な提案(チームテーマ)にまとめることができる。	G
	6	提案の出口を考える。 ・今からできること、今の努力が未来につながっていることを意識させながら、提案の出口(12歳からのビジョン)をどのようにするのかを考え、見通しをもつことができる。	・なぜ、12歳からのビジョンを提案の出口とするのかの意味がわかる。	E F

フェーズ
計画

- B : 仲間と自分の願いの違いを理解しながら、お互いの意見を尊重しあって、計画を立てることができる。
- F : 課題を解決するためには、情報収集活動の日時・行くところ・役割分担の計画を立ててから実行していくことが重要であることがわかる。

月	時	おもな学習活動・体験活動	評価規準	カリ7
9	1	これから自分のチームがすべきことをイメージしよう。 ・各自がやるべきことをイメージしてシートに書き出す。	・これからやるべきことを考えシートに書き出すことができる。	F
	2	ブレインストーミングをして自分のチームのすることを決めよう。	・やるべきことの重要度を考えて選び出し、シートに書き出すことができる。	B F
	3	・模造紙に知りたいこと、やりたいこと、すべき仕事、方法、必要なことなどを書き出す。 ・同じ種類のものをゾーニングする。 ・重要だと思うものをアクションシートに書き、まとめる。		
9	4	企画書をつくろう。 ・プロジェクトのテーマを確認し、プロジェクトの目的や効果を考えシートに書く。 ・情報リサーチする内容をシートに書き出す。	・チームの提案と目的から調査すべき内容を考え、シートに書き出すことができる。	F
	5 6	情報リサーチの見通しをもとう。 ・チームごとに調べる内容を決める。 ・調べる内容ごとに、いつ・どんな方法で調べるかを工程表用紙に書き込む。 ・工程表用紙を工程表に貼る。	・いつ・どんな方法で調べるかをはっきりさせて、工程表を完成できる。	B F

フェーズ
情報リサーチ

B：場に応じた態度で、電話をかけたりインタビューをしたりすることができる。
D：職場見学や仕事をしている人々へのインタビューを通して、働くことの意義や苦労が分かる。
H：自分の知りたいことを明確にもち、足りない情報を得るための方法を考えて、さらに調べることができる。

月	時	おもな学習活動・体験活動	評価規準	カリ
10	1	情報リサーチの基本をつかもう。 ・情報リサーチの手段と特徴を知り、問題点と解決策を考える。	・情報を多面的・多角的に見ようとすることがわかる。	C
	2 3 4	それぞれの仕事の基本的なこと（仕事内容・進路）や大切なことを本やインターネットで調べよう。 ・おもにインターネットや本で調べる。	・必要な情報が分かり、分担して調べることができる。	C
	5 6	聞きたいことをはっきりさせて、質問の言葉を書き出そう。 ・インタビューで聞きたい内容を整理する。 ・知りたい内容ごとに質問の言葉を考える。 ・知りたいことが伝わるかどうか吟味する。	・知りたいことがはっきりと伝わる言葉で質問を考えることができる。	B
	7	ていねいな言葉づかいで話す練習をし、お願いの電話をかけよう。 ・アポイントメントのとり方を知る。 ・練習をする。 ・電話でアポイントメントをとる。	・アポイントメントをとる方法が分かり、電話をかけることができる。	B
	8	自分たちの知りたい情報を得てくるためには、どんなことが大切なのかを考え、それを生かしてインタビューできるようになる。 ・知りたい情報を得るためにインタビューをするときにはどんなことが大切なのかを分かり、練習する。	・相手への尊敬や感謝の気持ちを、はっきりしたあいさつや適切な言葉遣いで伝え、自分の聞きたいことを理解してもらえる話し方ができる。	B H
	9	職場で観察してくることをはっきりさせよう。 ・職場で観察してきたいことを各自 10 個ずつ考え、付箋に書き出す。 ・チームごとに、同じ内容の付箋を重ね整理する。 ・観察してくることに順位をつけ、理由をはっきりさせる。 ・観察してくることとその理由を交流する。	・職場観察の視点をはっきりさせ、主体的に観察しようという意欲をもつことができる。	F
	10 11	「インタビューをする時大切なこと」を生かしてインタビューし、知りたいことを残らず聞いてこよう。 ・おもに職場見学やインタビューをして調べる。	・知りたい情報を残らず聞き取って来ることができる。	D H
	12 13	今までで得た情報を整理しよう。 ・1 情報 1 シートに情報を整理する。 ・本やインターネットで調べた情報から大事なところを選び出してシートに整理する。 ・情報元を明記する。	・必要な情報を選び出して、項目ごとに整理することができる。	C

1 人材・見学先

チーム 保育士 小学校 科学者 命を守る 看護師 薬剤師 プロサッカー選手 プロ野球選手	西保育教育センター 西小学校 岐阜大学（上田 浩さん） 若園医院 若園医院 たなせ薬局 西脇さん 鍋屋さん（スポーツデポ）	スポーツ用品店 暮らしをよくする 料理関係 動物関連 芸能関係 写真撮影業 プロスポーツ選手	スポーツデポ ダスキン・ヨシダホーム あんず園 えさき動物病院 大夢プロダクション たなせ写真館 中島 顯さん
---	--	--	---

**フェーズ
プレゼンテーション**

B：相手が何を伝えたいのか考えて聞き、よい点やアドバイスしたいことを伝え、受け取った側は、再構築に生かすことができる。

C：自分たちが伝えたい情報を、自信をもってプレゼンテーションすることができる。

H：伝えたいことを、分かりやすく伝えるための方法を考えたり工夫したりできる。

月	時	おもな学習活動・体験活動	評価規準	キャリア
11 ~ 12	1 2	<p>「プレゼンテーション」成功の秘訣を考え出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何のためにプレゼンテーションをするのか考える。 ・プレゼンテーションを聞いてくれる人にどんな気持ちになってほしいか考える。 ・そのために何をすべきか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを分かりやすく伝えるための方法を考えたり工夫したりできる。 	H
	3 4	<p>プレゼンテーションのリハーサルをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に「なるほど」と言わせるよう秘訣を生かして練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで話し合って決めた成功の秘訣を、具体的に表現することができる。 	B
	5 6	<p>プレゼンテーションを聞き合っ、自分たちのチームの提案のよさと改善することを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のチームのプレゼンテーションを聞いて、「なるほどと思ったこと、なぜそう思えたのか」と、「よく分からなかったところ、こうすればもっとよくなる」を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な技能と大切な心」と「12才からのビジョン」の視点から、自分が伝えたいことをはっきりとさせてプレゼンテーションをし、アドバイスを聞いて、よかったことと課題を明らかにすることができる。 ・仲間が何を伝えようとしているのかを考えて聞くことができる。 	C

**フェーズ
制作**

C：「伝えたいことは何か」という視点で、集めた情報の必要性や根拠の有無を考えて、取捨選択できる。

選び出した情報を、表やグラフを使って、相手に分かりやすいようにまとめることができる。

B：集めてきた情報について一人一人が根拠ある意見を持ち、チームテーマに必要な情報を選び出すことができる。

月	時	おもな学習活動・体験活動	評価規準	キャリア
11	1	<p>プレゼンテーションのための制作物を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションのための基本情報（プレゼンテーションの持ち時間、誰にプレゼンテーションするのか、聞いてくれる人数等）確認する。 ・必要な情報を1シート1枚に書いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本情報がわかり、必要な情報を、1情報1シートに分けることができる。 	C
	2 3	<p>仕事の基本的な技能と大切な心を伝える提案を3分間でみんなにわかってもらえるように『これが大事!』という情報を選びだそう。</p> <p>チームで話し合い、必要な情報を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自のポートフォリオから情報収集活動で集めたシート（チーム全体で見られるように並べてある）から情報を選び出す。 (1)集めた情報をシートに書かれた内容で分類する。 (2)提案に対して、『これが大事』と思う情報を話し合って選び出す。 (3)選び出した情報のポイントを画用紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝えたいことは何か」をはっきりさせ、集めた情報の中で最も大切なものを選び出すことができる。 ・集めてきた情報について一人一人が根拠ある意見を持ち、テーマに必要な情報を共有することができる。 	C B
	4	<p>プレゼンテーションで、12歳からのビジョンを提案するために、自分の考えに理由をつけて伝えたり、仲間の考えを聞いたりすることを通して、これまでの情報リサーチから、「これが大事」と思う情報を選び出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに話し合い、必要な情報を選び出す。 (1)各自が考えた提案したい12歳からのビジョンに理由をつけながら伝える。 (2)チームテーマや基本的な技能・大切な心との関連を考えながら『これが大事』と思う情報を話し合って選んだり、まとめたりする。 (3)チームごとに選び出した内容を確認・決定し、画用紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「12歳からのビジョン」に必要なことは何かをはっきりさせて、集めてきた情報の中で最も大切なものを選び出すことができる。 ・集めてきた情報について一人一人が根拠ある意見を持ち、「12歳からのビジョン」を提案するために必要な情報を共有することができる。 	C B
	5	<p>選んだ情報を見やすく分かりやすくまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案の根拠を論理的に並べ、プレゼンの流れを考える。 ・グラフや表を使ってわかりやすくまとめる工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合わせて分かりやすく表現することができる。 	G
	6 7 8 9 10	<p>模造紙を使って、制作物を作成しよう。</p> <p><下書き></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすく作ったものを組み合わせ、チームの提案が一目で見てわかるか確認する。 ・基本的なことと大切なことが明確になっているか確認する。 ・12歳からのビジョンが具体的な提案かどうか確認する。 <p><清書></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チームテーマの提案のためによりよい方法を考え、相手に分かりやすいように制作物を作成することができる。 ・それぞれの仕事に就くために、小6の今、やるべきことを具体的に考え、シートに書いている。 	B C
	11	<p>説得力のある提案となるようにプレゼン原稿を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案に結びつけて話せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案に結びついた話し方を考えることができる。 	H

**フェーズ
再構築**

C : ポートフォリオを俯瞰し、自分のテーマに必要な情報を選ぶことができる。
GH : 今まで学習してきたことをまとめ、自分らしく考えたことを組み立てて根拠ある提案書をつくることができる。

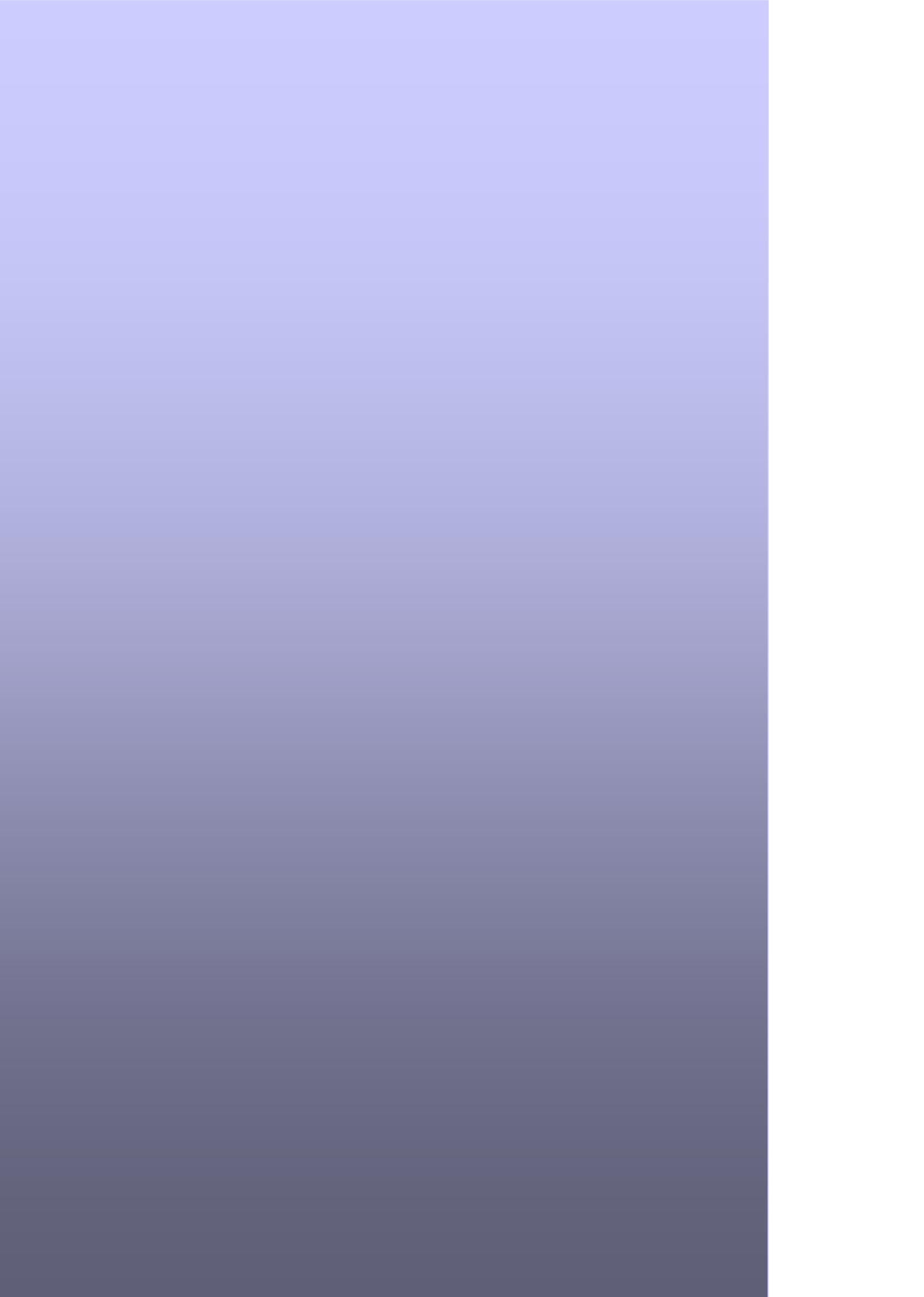
月	時	おもな学習活動・体験活動	評価規準	キャリア
1	1 2	提案集をつくるために、自分の考えを「再構築」する方法をつかもう。 ・再構築の手順を知る。 ・ポートフォリオを俯瞰し、自分はこれが伝えたいということを決める。 ・ポートフォリオを見直し、自分が伝えたいことに関する情報に付箋を貼る。	・ポートフォリオを俯瞰し、自分のテーマに必要な情報を選ぶことができる。	C
	3 4 5 6 7	提案集をつくろう。 ・付箋をつけたものを取り出し、整理する。 ・情報を組み合わせる。 ・組み立てを考えて、A 4 の紙 2 枚に再構築する。	・今まで学習してきたことをまとめ、自分らしく考えたことを組み立てて根拠ある提案集をつくることができる。	G H

**フェーズ
成長エントリー**

A : これまでの自分や仲間の取り組みを振り返り、自分や仲間の成長に気づくことができる。
D : どんな仕事も社会にとって大切であるという認識をもつことができる。
E : これまでの学習を振り返り、自分を生かしていく仕事に就きたいという希望と、将来に向けて今できることを実践しようという意欲をもつことができる。

月	時	おもな学習活動・体験活動	評価規準	キャリア
2	1	自分が「成長」したところを見つけよう。 ・「成長」とは何かを考える。 ・成長したこと、身についたことを具体的に書く。	・ポートフォリオを振り返り、自分が成長したことを見つけることができる。	A D
	2 3	仲間の成長を見つけ合おう。 ・仲間の成長したところやがんばっていたところを具体的に短冊に書いて渡す。 ・もらった短冊を読んで自分の成長を確かめる。	・活動を振り返って、仲間の成長を見つけ、伝えることができる。	A
	4	お世話になった人にお礼の手紙を書こう。 ・情報リサーチでお世話になった方々にお礼状を書く。	・お礼状の基本を守って、感謝の気持ちを表したお礼状が書ける。	E B
	5	瑞穂市内の施設や小学校や5年生に提案集を届けよう。 ・提案集を送る意図を伝える手紙を書く。	・仕事プロジェクトの願いを相手に伝える文章が書ける。	E B

参 考 资 料



プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

プロジェクト名	集中豪雨から全員が助かるプロジェクト		題材	防災・集中豪雨	
実践者名	安藤 宏幸・坂井洋子・原田臣士		所属	西条市立多賀小学校	
テーマ	集中豪雨からみんなの命を守るための方法を提案します。				
ゴール	みんなの命を守るための「集中豪雨対策知恵集」を作る。	成果物	集中豪雨対策知恵集		
ねらい	自分で考え、判断し、行動できる力を育てる。 自分の身近なことをイメージできる力を育てる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間(国語・図工・社会)				
対象	第6学年 47名		総時数	35時間	
学校名	愛媛県西条市立多賀小学校				
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> 自分でインターネットなどで、「防災・集中豪雨」について調べる。 家の人に、平成16年の台風のことなどについて聞いてくる。 市役所の危機管理課(専門家)の人の話を聞く。 西条市の平成16年の台風時の被害などのVTRや写真を視聴。 防災士と一緒に「タウンウォッチング」をして、地域の状況を知る。 			
	テーマとゴール	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの願いとこれからしなければならないことなどを考え、テーマを決める。 考えたことを「知恵集」として、みんなが助かる方法として提案する。 			
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 「場面状況」をカテゴリーとしてチーム分けをする。 地域の状況を大切に「情報リサーチ」の計画立てる。 			
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> 防災士さんにいろいろ聞く。 地域を歩いたり、調べることをする。 インターネットなどで調べる。 市のホームページ(危機管理課)の情報を活用する。 家の人や地域の人に、今までの台風や集中豪雨の様子などについてインタビューをする。 			
	制作・再構築	<ul style="list-style-type: none"> 6年生に意識調査をする。 A4・2枚に凝縮ポートフォリオとしてまとめる。 できるだけビジュアル的に表現する。 			
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 5年生に向けてプレゼンテーションをする。 「なるほど」と言ってもらえるプレゼンにする。 			
	評価(成長エントリー)	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価・相互評価をして、自己の成長に気付く。 			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

プロジェクト名	健康によいおやつプロジェクト		題材	体・健康・食	
実践者名	大山加代子、若槻徹(小学校) 吾郷美奈恵(県立大学)		所属	島根県 雲南市立加茂小学校	
テーマ	自分たちも家族も、みんなが健康を考えてお菓子を食べてほしい!				
ゴール	「小学生と家族のための健康なおやつとり方提案集」を作る!	成果物	提案集		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> おやつは親から与えられるものという意識を変え、自分の健康を守ろうとする意識を小学3年生の時期に育てる。 おやつの大切さや効能(よい点) 気を付けないといけないことを考え、家庭での日常的な食・健康に対する意識を高める。 大学生は、自分の専門性を活かし、自信を持つとともに、小学生にとっては年齢の近い大学生から教えてもらうことでより興味を持つ。 				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間				
対象	第3学年 58名		総時数	40時間	
学校名	島根県 雲南市立加茂小学校				
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな人から情報を得て、おやつ現状や問題点に気づく。 大学生から「おやつと健康の実体験、実物の提示」「味覚検査」 養護教諭「生活習慣病」、学校栄養士「栄養のバランス」 学校歯科医「虫歯と歯磨き」、学校医「栄養と骨」 おやつづくりの体験(親子活動) 			
	テーマとゴール	<ul style="list-style-type: none"> テーマ:「みんなが健康を考えておやつを食べるようにしよう!」 ゴール:「健康によいおやつとり方の提案集をつくる!」 			
	計画	<ul style="list-style-type: none"> チームを作り、活動の計画を立てる。(・計画表作成 ・役割分担) 「病気」・「カルシウム」・「虫歯」・「食べる量」・「生活習慣病」等 			
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> 本やインターネットで調べる。 インタビューやアンケートを行う。 			
	制作	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報をもとに「健康なおやつ提案集」を作る。 			
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> チームで伝えたいことをまとめ、保護者の前で発表をする。 			
	再構築	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動を振り返り、凝縮ポートフォリオにまとめる。(ポートフォリオを見返し、大切なことや伝えたいことをまとめる) 			
	評価(成長エントリー)	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。 			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

C-2

プロジェクト名	むし歯ゼロプロジェクト		題材	健康・歯	
実践者名	川崎 ひろか		所属	高知県高知市立昭和小学校	
テーマ	きれいで強い歯にして、むし歯にならないようにしましょう！				
ゴール	一人ひとりのアイデアをまとめたパンフレットを作る	成果物	むし歯にならないパンフレット		
ねらい	・自分の生活をふり返り、歯の学習を通して自分の歯の健康は自分で守ろうとする子を育てる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間・保健・国語・道徳(算数)				
対象	第3学年 140名	総時数	30(総合19、保健4、国語5、道徳2)		
学校名	高知県高知市立鴨田小学校				
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み歯磨きカレンダーの取り組み 絵本・図鑑などで歯について、まず、関心のあることから調べる。(市民図書館より一括貸し出し) 養護教諭の「歯についてのミニ指導」と染め出し体験と歯の学習(高知学園短期大学の先生と学生) 			
	テーマとゴール	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの願いをもとにテーマを決める。 考えたことをパンフレット(ゴール)にして、まとめることを確認する。 			
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 4つのカテゴリを決め、チーム分けをする。 「虫歯の予防」「歯がきれい」「歯を強く」「歯を大切にする生活」 			
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> 絵本・インターネットで調べる 好きなお菓子調べのアンケート調査 歯科技工士、歯科医師にインタビュー 養護教諭に虫歯の原因など歯の全般について 栄養士に歯によい食べ物について 			
	制作	<ul style="list-style-type: none"> 発表会用にチームで考えたことを2年生にわかるように模造紙2~3枚で書き表す。 学級の虫歯の数調べをしてグラフや表を作成 歯によい食べ物・飲み物調べ(実物を用意)など 			
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 2年生に向けて発表する。後日、保護者にも発表する。 			
	再構築	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家庭向けリーフレットを作成する。 			
	評価(成長エントリー)	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。 			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

C-3

プロジェクト名	健康な未来を作るぞ！プロジェクト		題材	体・健康・食		
実践者名	若槻徹、松本博志、梶谷朋子		所属	島根県 雲南市立加茂小学校		
テーマ	みんなの命や健康を大切にしたい未来にしよう！					
ゴール	命や健康を大切にする「健康ハンドブック」を作る！	成果物	ハンドブック			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 命あるものを大切にする心を育てる。 チームワークで問題を解決する力を育てる。 ITコミュニケーション力や表現力を育てる。 (活動の中にTV会議や掲示板等のIT活用を取り入れた)					
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間、理科、社会科、家庭科、					
対象	第5学年 65名	総時数	50時間			
学校名	島根県 雲南市立加茂小学校					
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> TV会議を通して、牛の世話をする岡山県高松農業高校の高校生からいろいろな情報を得る。 自分たちの健康がどう守られているか調べる。 地域の健康や命に関わる人の話を聞く。(食べ物、病院、福祉関係、栄養士、養護教諭) 				
	テーマとゴール	テーマ：「みんなの命や健康を大切にしたい未来にしよう！」 ゴール：「命や健康を大切にする「健康ハンドブック」を作る！」				
	計画	<ul style="list-style-type: none"> チームを作り、活動の計画を立てる。(計画表作成・役割分担) 「栄養」「カルシウム」「運動」「野菜」等 				
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> 本やインターネットで調べる。 インタビューやアンケートを行う。 				
	制作	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報をもとに「健康ハンドブック」を作る。 				
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> チームで伝えたいことをまとめ、保護者の前で発表をする。 				
	再構築	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動を振り返り、凝縮ポートフォリオにまとめる。(ポートフォリオを見返し、大切なことや伝えたいことをまとめる) 				
	評価(成長エントリー)	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。 				
	まとめ：プロジェクト学習の中で、思考場面を多く取り入れることで、子どもたちは命や健康の大切さに気づくことができた。また、ITを活用し、高校生と交流したことで、意欲を持続させて積極的に取り組むことができた。					

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

C-4

プロジェクト名	朝から元気でいようプロジェクト		題材	健康・食
実践者名	安藤 宏幸		所属	西条市立丹原小学校
テーマ	朝から元気でいられるコツ(ひみつ)を提案します。			
ゴール	みんなに役に立つ「朝から元気でいられるコツ(ひみつ)ブック」を作る。	成果物	朝から元気でいられるコツブック	
ねらい	生活における「食」と「健康」について考え、よりよい食生活をしようとする力を育てる。 いろいろな情報の中から、確かな情報を選ぶ力を育てる。			
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間(国語・保健・学級活動)			
対象	第4学年 46名	総時数	45時間	
学校名	愛媛県西条市立丹原小学校			
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭、学校栄養士の先生の話聞く。 ・野菜ソムリエさんのお話を聞く。 ・家族に「食」「健康づくり」について聞く。 ・「健康」についての情報を自分で集める。 ・4年生の「健康」についての意識調査をする。 		
	テーマ・ゴール	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の意識調査から問題点や課題をさぐり、テーマを決める。 ・同じ願いをもったチームで集まりチームを結成する。 		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール達成への「戦略」を立てるために、これからすべきことをすべて出し合う。 ・「確かな情報を手に入れる基本」を知る。 ・確かな情報を得るための計画を立てる。 		
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭、学校栄養士、学校歯科医、学校医、家族などの人からの情報を大切にする。 ・インターネットなどを活用する。 		
	制作	<ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学・前橋先生には話を聞く。 ・プレゼンのための制作物をつくる。 ・ビジュアル的なものにする。 		
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな情報」を必ず入れる。 ・保護者、専門家、先生方にプレゼンテーションをし、リターンをもらう。 ・「相手を納得させる」プレゼンテーションにする。 		
	再構築 成長エントリ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの提案をする。 ・「目に見える成長」「目に見えない成長」について、自己評価、相互評価を行い、自分の成長を確かめる。 ・友だちの成長を確かめる。 		

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

D-1

プロジェクト名	下府川の魅力PRプロジェクト		題材	環境・情報
実践者名	若槻徹・奥原章公		所属	島根県 浜田市立宇野小学校
テーマ	下府川の魅力をみんなに知ってもらいたい!			
ゴール	未来に残したい下府川の魅力集を作る!	成果物	ガイドブック	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな情報を集め、自分の考える下府川の魅力について考えることができる。 ・小学生を対象に、工夫しながら、考えや思いをわかりやすく伝えることができる。 ・チームで協力して活動したり、相手の願いや思いを大切にしたりしながら、自分5思いを伝えることができる。 			
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間			
対象	第4～6学年 11名	総時数	55時間	
学校名	島根県 浜田市立宇野小学校			
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・下府川の現状について調べ、今後の見通しを持つ。 ・下府川の実地調査 ・下府川の昔や魅力を考える。(ゲストティーチャー) 		
	テーマとゴール	テーマ:「下府川の魅力をみんなに知ってもらいたい。」 ゴール:「下府川の魅力集を作る!」		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・チームを作り、活動の計画を立てる。 (大きな計画の流れ ・計画表作成 ・役割分担) 「風景」・「サケ」・「釣り」・「川の石」・「川の生き物」・「魚」 		
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューやアンケートを行う。 (子ども達同士、地域へのインタビュー) ・実際の体験や調査 (近くの水族館職員さんの協力) ・市内の他校との共同授業やTV会議による交流(他の川との比較) 		
	制作	<ul style="list-style-type: none"> ・方法を工夫しながら魅力集を作る。 ・模造紙やPCを活用し、内容を工夫する。 		
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの準備・練習をする。 ・他校へ出かけて行き、プレゼン発表を聞く。 ・他校の小学生を招いてのプレゼンを行う。 		
	再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、自分の凝縮ポートフォリオを作る。 (ポートフォリオを見返し、大切なことや伝えたいことをまとめる) 		
	評価(成長エントリ)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。 		

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

D-2

プロジェクト名	ユニバーサルデザインの森プロジェクト		題材	環境・福祉	
実践者名	川崎 ひろか(かわさき ひろか)		所属	高知県 高知市立昭和小学校	
テーマ	ほきが峰をみんなが安心して楽しめる森にしよう！ ～ユニバーサルデザインの森づくり～				
ゴール	「ユニバーサルデザインの森づくり」提案書を作る	成果物	提案書		
ねらい	・自然とのふれあいの中で自然の大切さに気づき、だれもが楽しめる森について考えることができる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間・理科・道徳・図画工作				
対象	第4学年 4クラス 約140名	総時数	23(総合14、理科2、道徳3、図工4)		
学校名	高知県 高知市立鴨田小学校				
プロジェクトの概要	準備	・夏休みを利用し、いなかや山について調べて来る。			
	テーマとゴール	テーマ：「ほきが峰をみんなが安心して楽しめる森にしよう！ ～ユニバーサルデザインの森づくり～」 ゴール：「ユニバーサルデザインの森づくり」提案書 ・ほきが峰森林公園のよさや問題点を現地写真から読みとる。 ・活動のゴールとして提案書を書くことを決める。 ・ユニバーサルデザインとは何かを知る。			
	計画	・このプロジェクトで身につけたい力を話し合う。 ・フィールドワークの活動計画、工程表作り ・森林ボランティアとの事前打ち合わせ			
	情報リサーチ	現地 ほきが峰森林公園へのフィールドワーク(2回) ・秋の季節の植物を図鑑などで調べる。 ・アイマスク、車いす体験と障がい者の方々へのインタビュー ・間伐体験、いす、棚づくり、植樹などを協力者の方々と一緒にを行う。			
	制作	・考えたことをもとにして、みんなが安心して楽しめる森林公園への提案を模造紙数枚にまとめる。			
	プレゼンテーション	・学級や学年全体での発表会 ・森林公園関係者、森林ボランティア、保護者に向けての発表会			
	再構築	・チームの提案にまとめる。 ・提案することを再度、障がい者の方々へ問い合わせて修正する。 ・提案書を作成し、関係者や協力者の方々に送る。			
	評価(成長エントリー)	・自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

D-3

プロジェクト名	もったいないプロジェクト		題材	エコ・省エネルギー・生活	
実践者名	川崎 ひろか(かわさき ひろか)		所属	高知県 高知市立昭和小学校	
テーマ	むだづかいのない気持ちのよい生活にしよう！				
ゴール	「もったいないカレンダー」を作る		成果物	カレンダー	
ねらい	・身のまわりの「もったいない」ことについて調べ、気持ちのよい生活を送るための工夫を考え出し、家庭や学校・地域に呼びかけ、自分なりの取り組みができる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間・社会科・国語・道徳				
対象	第4学年 4クラス 約130名	総時数	26(総合12、社会科8、国語4、道徳2)		
学校名	高知県 高知市立鴨田小学校				
プロジェクトの概要	準備	・ゴミ処理や水道水などの自分の身の回りで「もったいない」と思うことについて調べ、今後の活動への意識を持たせる。			
	テーマとゴール	・子どものこんな生活にしようという「願い」をもとに学年テーマとゴールを決める。 テーマ：「むだづかいのない気持ちのよい生活にしよう！ ～もったいないプロジェクト～」 ゴール：提案したいことをまとめた「もったいないカレンダー」を作成する。			
	計画	・5つのカテゴリーを決め、各学級内でチーム分けをする。 「省エネルギー」・「食べ物」・「整理整頓」・「時間」・「環境」			
	情報リサーチ	・図鑑やインターネットで調べる。 ・インタビューやアンケートを行う。 学校栄養士との情報共有、連携 ・自然環境調査活動(NPOの協力) 鏡川・神田川などの水生生物調査 ・大学の教育研究センターとの連携(大学生との共同調査活動)			
	制作	・発表会用にチームで考えたことを模造紙2～3枚で書き表す。			
	プレゼンテーション	・学級での発表会、学年でのポスターセッション、 ・保護者や3年生に向けての全体発表会を行い、多くの子どもに発表の機会をつくる。			
	再構築	・一人ひとりが「もったいないカレンダー」を作成し、掲示することで、よりよい生活を送るための意識を高める。			
	評価(成長エントリー)	・自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。			

プロジェクト名	E M肥料活用プロジェクト		題材	環境
実践者名	木島 満子		所属	富津市立竹岡小学校
テーマ	学校や地域にE M肥料を広げ、竹岡にきれいな花とおいしい野菜を増やしたい。			
ゴール	E M肥料の作り方や、それを使った効果をプレゼンテーションし、みんなに使ってもらおう！	成果物		
ねらい	○竹岡小や竹岡の環境をより良くするために、E M肥料のよさを伝え、広げていこうという心を持つことができる。			
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間 (理科)			
対象	第4学年 13名	総時数	23	
学校名	千葉県 富津市立竹岡小学校			
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ E M肥料を使った担任の草花栽培記録や化学肥料とE M肥料使用者の感想ビデオを視聴して、E M肥料の効果や作り方などを自分たちで確かめようという課題をつかむ。 ・ 話し合いを通じて、テーマとゴールを設定する。 		
	テーマとゴールの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような植物で観察記録をとっていくのかを決定する。 		
	マイゴールの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ種類の植物でチームを作る。 		
	計画			
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ E M肥料はどの植物のどこに効果があるのかを観察し、写真やメモをとる。費用がかからなくて、手軽で効果のあるE M肥料の作り方を資料や質問の答から調べる。 		
	制作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察記録とE M肥料の効果や作り方についてのプレゼンテーション資料を作成する。 		
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト発表会でプレゼンテーションをして、サンプル肥料を配る。 		
	情報の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション資料に、自分たちや肥料を使ってくれた人たちの感想を入れて冊子にまとめる。 		
	成長エントリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冊子を読み合い、振り返りをしたり成長を認め合ったりする。 		

プロジェクト名	E M菌ビデオプロジェクト		題材	環境 メディアリテラシー
実践者名	白川 照代		所属	富津市立竹岡小学校
テーマ	竹岡小や竹岡の町をよりすこししやすい所にするために、自分たちの思いを伝え、環境にいいことをする仲間をもっと増やしたい。			
ゴール	活動を広めたい相手を決めてプロモーションビデオとブックレットを作り、上映会を開いて環境にいいことをする仲間を増やそう！	成果物		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報をもとに、「環境にいいことを自分もやってみよう」というように、相手の行動を喚起するようなプロモーションビデオ(以下、ビデオ)を作ることができる。 ブックレットを作る過程で、体験を通じた説得力のある資料をもとに意見文を書くことができる。 ○竹岡小や竹岡の環境をよりよくするために、自分にできることを考え、実行し、友だちや地域の人たちにも働きかけようとする心を持つことができる。 			
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間 (理科)			
対象	第5学年 15名	総時数	20	
学校名	千葉県 富津市立竹岡小学校			
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ E M菌の映像資料を視聴し、自分たちの活動を広める新しい方法に気づく。 		
	テーマとゴールの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いを通じて、テーマとゴールを設定する。 		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の主張を伝え、仲間になって活動を広めたい相手を決める。 ・ 活動を広めたい相手ごとにチームを作る。 		
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像資料を視聴して気がついたことを話し合い、自分の主張を伝えたい相手に合わせたビデオを作るための情報をつかむ。 		
	制作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主張を伝えたい相手に合わせたシナリオを書きビデオを作る。 		
	情報の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境についての個々の主張をまとめてブックレットを作成する。 		
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオの上映会を開いてブックレットを配り、感想を聞く。 		
	成長エントリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブックレットや感想を読み合い、よい表現や成長を認め合う。 		

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

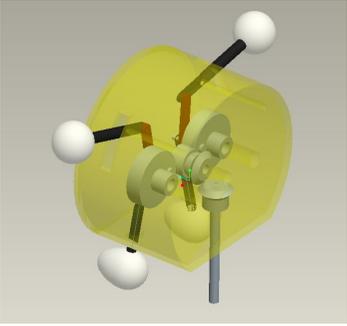
D-8

プロジェクト名	単元名：「わたしたちの地球を守ろう プロジェクト」		題材	環境教育
実践者名	菊池 健一		所属	さいたま市立東宮下小学校
テーマ	自分たちの地域がどんな人にも住みやすくするために、環境をよくする方法を提案しよう。			
ゴール	『環境問題解決提案集』をつくる。		成果物	環境問題解決提案集
ねらい	身近な環境問題について調査をしたり、考えを提案したりする活動を通して、環境を保全しようとする意識を持たせる。			
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間			
対象	第6学年 102名		総時数	30時間
学校名	埼玉県 さいたま市立鈴谷小学校			
プロジェクトの概要	1 準備	地域のごみ拾い活動を行い、身近な環境問題について関心を持たせる。 環境問題に関して関心があることから自分が取り組んでみたい課題について考える。 プロジェクト学習の進め方について知る。 ポートフォリオの使い方を知る。		
	2 テーマ・ゴール	「身近な環境問題」について自分が調べたいと考えるテーマを設定し、友だちとチームを作り、活動計画を立てる。		
	3 情報リサーチ	インターネットや本などの活用、アンケートの実施などを通して必要な情報集めを行う。 調査のための様々な実験などを行う。(水質検査・空気の汚れ検査・ゴミ分別調査など)		
	4 製作	調べてきたことをチームの仲間と協力して模造紙にまとめる。		
	5 プレゼンテーション	調べてきたことを他のクラスの友達や先生、保護者にプレゼンテーションする。		
	6 成長エントリー	活動全体を振り返り、自分やチームの仲間の成長を確認する。		

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

E-1

プロジェクト名	単元名：「すてきがいっぱいわたし たちの町プロジェクト」		題材	地域教育
実践者名	菊池 健一		所属	さいたま市立東宮下小学校
テーマ	自分たちの住んでいる地域にはどんな魅力があるかを発見して発表しよう。			
ゴール	『わたしたちのまち鈴谷のよいところ集』をつくる。		成果物	わたしたちのまち鈴谷のよいところ集
ねらい	地域の施設や人などの中から自慢できるものを選び、詳しく調べたりする活動を通して地域への愛情を持たせる。			
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間			
対象	第3学年 112名		総時数	30時間
学校名	埼玉県 さいたま市立鈴谷小学校			
プロジェクトの概要	1 準備	地域の見学を行い、どのような施設などがあるかをみて自分の住んでいる地域に関心を持たせる。 地域に関して関心があることから自分が取り組んでみたい課題について考える。 プロジェクト学習の進め方について知る。 ポートフォリオの使い方を知る。		
	2 テーマ・ゴール	自分たちの住む地域について自分が調べたいと考えるテーマを設定し、友だちとチームを作り、活動計画を立てる。		
	3 情報リサーチ	インターネットや本などの活用、アンケートの実施などを通して必要な情報集めを行う。 施設の見学を行う。(特別養護老人ホーム・芸術劇場・地域のお店など)		
	4 製作	調べてきたことをチームの仲間と協力して模造紙にまとめる。		
	5 プレゼンテーション	調べてきたことを他のクラスの友達や先生、保護者にプレゼンテーションする。		
	6 成長エントリー	活動全体を振り返り、自分やチームの仲間の成長を確認する。		

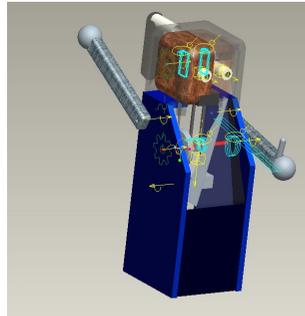
プロジェクト名	地元の和洋菓子店をPRしよう		題材	マスコットロボット作製	
実践者名			所属	新居浜高専	
テーマ	マスコットロボットの開発				
ゴール	地元の和洋菓子店のイメージロボットをつくる		成果物	マスコットロボット	
ねらい	地元に着愛を持ち、誇りを持って卒業できるように、学生生活において学んだ開発設計の能力を生かし、地域に貢献する				
教科等(関連領域)	エンジニアリングデザイン、材料力学 (設計開発)				
対象	第4学年 44名		総時数	120	
学校名	新居浜工業高等専門学校				
プロジェクトの概要	準備 4/16	アイデア創出訓練 開発設計の一連を「ペットボトルつぶし器」の開発を通じて体験する。 チーム編成			
	チームのゴール決定 5/14	チームテーマ・開発コンセプトの決定			
	計画	年間計画を立てる			
	企画プレゼン 6/18	コンセプトに基づく設計仕様の決定。 概念設計案を地元和洋菓子店へポンチ絵等でプレゼン。			
	制作	意見に基づき、修正を行い、3次元CADによる制作。設計のチェック(干渉・トルク等)。			
	再構築 2/5	プレゼンおよび設計報告書			
					

プロジェクト名	落語プロジェクト		題材	伝統文化	
実践者名	阿久津 命・永島 俊之		所属	富津市立竹岡小学校	
テーマ	竹岡小や竹岡の町を笑顔いっぱいのところにするために、落語の楽しさを伝えたい。				
ゴール			成果物		
ねらい	日本の伝統文化の一つである落語に親しみ、そのよさを実感することができる。学校の友だちや地域の人々のために、進んで活動することができる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間 (国語科からの発展)				
対象	第4学年 15名		総時数	36	
学校名	千葉県 富津市立竹岡小学校				
プロジェクトの概要	準備	・担任による落語やDVDによる落語を視聴し、感想を交流することで落語の魅力さをさらに知り、自分で演じることについての関心を高める。			
	テーマとゴールの設定 マイゴールの設定	・話し合いを通じて、テーマとゴールを設定する。 ・DVDでさまざまな演目を視聴したり、「落語のネタ帳」や「落語の教科書」を活用したりしながら、自分が演じたい演目を選ぶ。			
	計画	・プロジェクト学習の流れと付く力をつかみ学習の見通しをもつ。			
	情報リサーチ	・落語の基礎知識をつかむ			
	制作	・寄席の練習や準備をする			
	プレゼンテーション	・寄席の予告編、各学年へ向けた寄席、老人ホーム、コミュニケーションセンター、健康学園への出張寄席を開く。			
	情報の再構築	・「落語ガイドブック」を作成する。			
	成長エントリ	・自己評価やチームごとの相互評価を通じて成果をつかむ。			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

E-11

プロジェクト名	「民話の里」の紹介にロボットを登場させて地元を活性化しよう		題材	ロボットモニュメント作製	
実践者名			所属	新居浜高専	
テーマ	ロボットモニュメントの開発				
ゴール	地元の民話のロボットモニュメントをつくる		成果物	ロボットモニュメント	
ねらい	地元に着用を持ち、誇りを持って卒業できるように、学生生活において学んだ開発設計の能力を生かし、地域に貢献する				
教科等(関連領域)	エンジニアリングデザイン、材料力学 (設計開発)				
対象	第4学年 42名		総時数	120	
学校名	新居浜工業高等専門学校				
プロジェクトの概要	準備 4/15	アイデア創出訓練 開発設計の一連を「ペットボトルつぶし器」の開発を通じて体験する。地元の民話について「民話の里すみの」さんから話を聞く。 チーム編成			
	チームのゴール決定 5/12	チームテーマ・開発コンセプトの決定			
	計画	年間計画を立てる			
	企画プレゼン 6/16	コンセプトに基づく設計仕様の決定。 概念設計案を「民話の里」へポンチ絵等でプレゼン。			
	制作	意見に基づき、修正を行い、3次元CADによる制作。設計のチェック(干渉・トルク等)。			
	再構築 2/2	プレゼンおよび設計報告書			



プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

E-12

プロジェクト名	地元の民話の1場面を表すロボットモニュメントをつくりまちを活性化しよう		題材	ロボットモニュメント作製	
実践者名			所属	新居浜高専	
テーマ	ロボットモニュメントの開発				
ゴール	地元の民話のロボットモニュメントをつくる		成果物	ロボットモニュメント	
ねらい	地元に着用を持ち、誇りを持って卒業できるように、学生生活において学んだ開発設計の能力を生かし、地域に貢献する				
教科等(関連領域)	エンジニアリングデザイン、材料力学 (設計開発)				
対象	第4学年 44名		総時数	120	
学校名	新居浜工業高等専門学校				
プロジェクトの概要	準備 4/15	アイデア創出訓練 開発設計の一連を「ペットボトルつぶし器」の開発を通じて体験する。地元の民話について調べ題材を選定する。 チーム編成			
	チームのゴール決定 5/12	チームテーマ・開発コンセプトの決定			
	計画	年間計画を立てる			
	企画プレゼン 6/16	コンセプトに基づく設計仕様の決定。 概念設計案をポンチ絵等でプレゼン。			
	制作	意見に基づき、修正を行い、3次元CADによる制作。設計のチェック(干渉・トルク等)。			
	再構築 2/2	プレゼンおよび設計報告書			

プロジェクト名	竹岡むかしばなしプロジェクト		題材	地域、民話	
実践者名	鈴木 由香里		所属	富津市立竹岡小学校	
テーマ	地域に残っているお話を翻作して、たくさんの人に地域のお話のよさを知らせたい。				
ゴール	地域に残っている翻作して、たくさんの人に地域のお話のよさを知らせたい。	成果物	地域のお話マップ		
ねらい	地域のお話を本などにまとめたり、『地域のお話マップ』を作ったりして、それをお話会で伝え、たくさんの人と一緒にお話を楽しもう。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間(国語科・社会科)				
対象	第3学年 10名	総時数	26		
学校名	千葉県 富津市立竹岡小学校				
プロジェクトの概要	準備	・昨年度の3年生の活動内容を知り、自分たちの取り組む方向を考える。 ・話し合いを通じて、テーマとゴールを設定する。			
	テーマとゴールの設定 情報リサーチ	・取材の仕方(インタビューの仕方・メモの取り方)を学ぶ。 ・地域のお話を取材したり、本等の資料を読んだりして情報を集める。 (依頼状・取材メモ)			
	マイゴールの設定 計画	・気に入った話を選び、どんな形で仕上げるかを決める。 ・マイゴールをもとに、教師がチームを組織する。 (計画書)			
	制作	・再話し、推敲しながら作品を完成させる。伝え方の工夫もしながら、練習をする。 (再話原稿・作品・プログラム・紹介文・進行原稿)			
	情報の再構築	・「地域のお話マップ」を作る。 (紹介文・報告文)			
	プレゼンテーション	・お話を聞き、聞き手の様子など振り返りながら、感想を書く。 (案内状等)			
	成長エントリー	・作品やポートフォリオを互いに読んで、良い点、伸びたところを認め合う。 (エントリート)			

プロジェクト名	テレビの見方プロジェクト		題材	情報・健康	
実践者名	若槻徹・奥原章公		所属	島根県 浜田市立宇野小学校	
テーマ	TVに夢中になりすぎないで上手にTVを見るといいなあ!				
ゴール	小学生のために体と健康によいTVの見方ガイドブックを作る!	成果物	ガイドブック		
ねらい	いろいろな情報を集め、情報のウソとホントを見きわめる力を身に付け、自分の思いをわかりやすく伝えることができる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間・社会科・国語・道徳				
対象	第3～6学年 16名	総時数	50時間		
学校名	島根県 浜田市立宇野小学校				
プロジェクトの概要	準備	・テレビの見方について考え、今後の見通しを持つ ・一週間のテレビ観察 ・テレビ局の見学			
	テーマとゴール	テーマ:「TVに夢中になりすぎないで上手にTVを見るといいなあ」 ゴール:「小学生のための体と健康によいTVの見方ガイドブックを作る!」			
	計画	・チームを作り、活動の計画を立てる。 (大きな計画の流れ・計画表作成・役割分担) 「バラエティ」・「CM」・「ドラマ」・「アニメ」・「目の健康」			
	情報リサーチ	・本やインターネットで調べる。 ・インタビューやアンケートを行う。 (子ども達同士での調査、養護教諭との連携) ・実際の体験や調査			
	制作	・方法を工夫しながらガイドブックを作る。 ・模造紙2枚の制限の中で、内容を工夫する。			
	プレゼンテーション	・プレゼンの基本をつかみ、準備・練習をする。 ・他校の小学生を招いての発表の機会をつくる。			
	再構築	・活動を振り返り、自分の凝縮ポートフォリオを作る。 (ポートフォリオを見返し、大切なことや伝えたいことをまとめる)			
	評価(成長エントリー)	・自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

G-10

プロジェクト名	単元名：「ケータイプロジェクト」		題材	メディアリテラシー教育	
実践者名	菊池 健一		所属	さいたま市立東宮下小学校	
テーマ	ケータイをこれから使う人が安全に便利に使えるようにする！				
ゴール	『ケータイ安全・便利マニュアル』をつくる。		成果物	ケータイ安全・便利マニュアル	
ねらい	児童がケータイというメディアについての特性や危険性などを理解し、これから安全に使用していこうとする意識を持たせる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間(国語科・道徳)				
対象	第4学年 102名		総時数	25時間	
学校名	埼玉県 さいたま市立鈴谷小学校				
プロジェクトの概要	1 準備	「ケータイ」に関する新聞記事をスクラップし、ケータイについて関心を持つとともに、どのようなことが問題となっているのかということを知る。			
	2 テーマ・ゴール	「ケータイ」について自分が調べたいと考えるテーマを設定し、友だちとチームを作り、活動計画を立てる。			
	3 情報リサーチ	インターネットや本などの活用、ケータイ会社への取材などを通して必要な情報集めを行う。			
	4 製作	調べてきたことをチームの仲間と協力して模造紙に発表新聞としてまとめていく。			
	5 プレゼンテーション	調べてきたことを他のクラスの友達や先生、保護者にプレゼンテーションする。 学習を通して学んだことを生かして、「ケータイ」についての意見文を書く。			
	6 成長エントリー	活動全体を振り返り、自分やチームの仲間の成長を確認する。			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

I-3

プロジェクト名	単元名：「障害のある方とともにくらしプロジェクト」		題材	福祉教育	
実践者名	菊池 健一		所属	さいたま市立東宮下小学校	
テーマ	すべての人が安心して生活できる街づくりを提案する。				
ゴール	『すてきな街提案集』をつくる。		成果物	すてきな街提案集	
ねらい	児童が障害のある方の目線に立ち、自分の住んでいる地域がどんな人にも住みやすい街にしていきたいという意識を持たせる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間				
対象	第5学年 110名		総時数	20時間	
学校名	埼玉県 さいたま市立鈴谷小学校				
プロジェクトの概要	1 準備	アイマスク体験やお年寄り体験などを行い、障害のある方にとって生活の中でどのような困難があるかを知る。 自分が取り組んでみたいことについて考える。 プロジェクト学習の進め方について知る。 ポートフォリオの使い方を知る。			
	2 テーマ・ゴール	「すてきな街づくり」について自分が調べたいと考えるテーマを設定し、友だちとチームを作り、活動計画を立てる。			
	3 情報リサーチ	インターネットや本などの活用、アンケートの実施などを通して必要な情報集めを行う。 さいたま新都心のユニバーサルデザインの街づくりを見学する。			
	4 製作	調べてきたことをチームの仲間と協力して模造紙にまとめる。			
	5 プレゼンテーション	調べてきたことを他のクラスの友達や先生、保護者にプレゼンテーションする。			
	6 成長エントリー	活動全体を振り返り、自分やチームの仲間の成長を確認する。			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

J-1

プロジェクト名	ポートフォリオによる経験の棚卸し		題材	パーソナルポートフォリオ	
実践者名	矢橋佳之		所属	ガイダンス準備室	
テーマ	パーソナルポートフォリオの作成による経験の棚卸し				
ゴール	自分の言葉で自信を持って長所を語れるようにする	成果物	ポートフォリオ		
ねらい	自分の言葉で自信を持って長所を語れるようにする				
教科等(関連領域)	総合的な学習の時間(キャリア・ガイダンス)				
対象	第3学年 113名	総時数	4時間		
学校名	北海道札幌白陵高等学校				
プロジェクトの概要	5・17	卒業生進路体験交流会 ポートフォリオを作成し、進路活動に臨んだ先輩からポートフォリオの効果について学ぶ			
	5・24	ポートフォリオ作成指導 ポートフォリオの作り方を学ぶ			
	6・21	ポートフォリオ作成指導 実際にポートフォリオを作ってみる			
	7・5	自己PR道場 効果的な自己PRを考えてみる			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

J-2

プロジェクト名	単元名:「未来の自分」		題材	キャリア教育	
実践者名	長岡豊		所属	岩国市立麻里布小学校	
テーマ	ポートフォリオを作って、「未来の自分」を描こう!				
ゴール	成果物	「未来の自分」ポートフォリオ			
ねらい	12歳の段階で世の中の仕事を観察し、仕事について考え、未来の自分の姿をイメージし、これからの自分の将来に夢を持たせる。				
教科等(関連領域)	総合的な学習(国語科:物語「海の命」、詩「生きる」、道徳「ぼくの仕事は便所掃除」)				
対象	第6学年 172名	総時数	15時間		
学校名	山口県岩国市立麻里布小学校				
プロジェクトの概要	1 導入	6年生全員(172名)を集め、2学期の総合的な学習の時間は、単元名「未来の自分」を始めることを知らせる。 ・A4ファイルを配り、自分だけの情報が詰まったファイルを作る。そうすると、ポートフォリオになることを知らせる。 ・ポートフォリオは、未来を考えるための必要な情報を入れ、時系列で入れていくこと、このポートフォリオが自分の夢を叶えるすばらしいアイテムになることを話す。			
	2 展開	・最終的に「未来の自分」シートを書き込むことを知らせる。 ・学習計画を知らせる。(いつ頃、何をするのか) 「仕事探し」を行う。(仕事探しカード ポートフォリオへ) ・仕事をしている人を観察し、輝いているところ、学ばべきところを書く。(できるだけ多くの人を観察する。) 「仕事人インタビュー」を行う。(インタビューカード ポートフォリオへ) ・仕事探しの中で、興味をもった人にインタビューに出かける。ゲストティーチャーの話聞く。 ・学校に社会人の方を招き、教師主導で、インタビューを行う。自分の将来なりたい仕事について調べる。 ・本やインターネットなどで、世の中のいろいろな仕事を調べ、自分の将来の仕事を一応決める。 ・その夢を叶えるための進路や必要な資格などを調べる。 仕事調べや仕事人インタビューで学んだことをもとに、将来の夢を考える。 ・仕事探しや仕事人インタビューで学んだことを活かし、どんなになりたいのか考える。 ポートフォリオを見ながら、「未来の自分」シートになりたい自分と人生設計図を書く。			
	3 まとめ	・A3版の「未来の自分」夢シートに沿って、これまでの学習を振り返りながら、未来の自分の姿を書き込み、人生設計図を完成する。 このポートフォリオが将来、自分を知ってもらえるものになる。			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

J-8

プロジェクト名	余暇充実プロジェクト		題材	キャリア教育 ストレスマネジメント	
実践者名	長井奈月		所属	岐阜県立郡上特別支援学校	
テーマ	働く生活を充実させよう！				
ゴール	余暇生活アドバイスブックをつくる			成果物	余暇生活アドバイスブック
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・休日の過ごし方について考え、実行し、職業生活を充実させる方法を身につける。 ・余暇や趣味が充実することが、働く目的や意欲になることに気付き、自分の人生をより豊かにしたいという願いをもつ。 				
教科等(関連領域)	生活単元学習・総合的な学習の時間				
対象	高等部第3学年	6名	総時数	30時間	
学校名	岐阜県 岐阜県立郡上特別支援学校				
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・休日の生活について振り返る。 ・働く日課と学校の日課について比較し、職業生活における自分の様子を想像する。 ・教師の休日の過ごし方をリサーチする。 			
	テーマとゴール	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたり実行したりした余暇活動をアドバイスブック(ゴール)にして、まとめることを確認する。 			
	計画・情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の過ごしたい余暇活動や趣味サークル、外出先やその方法について、MYテーマを決め、計画を立て、調べる(電話調査、サークル参加、施設利用、公共交通機関の利用体験等) 			
	プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> ・A4、2枚のワークシートに、リサーチし経験した余暇活動をわかりやすくレイアウトし、まとめる。 ・一人一人が体験した余暇生活について発表し、共有する。 ・みんなで楽しめる余暇について話し合い、卒業後も仲間と一緒に活動できることや、やってみたい余暇内容(外出・遊園地)を決定する。 			
	計画・情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から公共交通機関を利用する方法について、駅で聞いたり時刻表などで調べ、外出手段をリサーチする。 ・行き先の見所やおすすめアトラクションについて、リサーチする。 ・リサーチした内容を共有し、現地へ仲間と自力で出かけ、楽しむ。 			
	プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> ・A4、2枚のワークシートに、リサーチし経験した余暇活動や公共交通機関利用のポイントをわかりやすくレイアウトし、まとめる。 ・公共交通機関の利用で大切な事柄について共有する。 ・全校集会の場で、プレゼンを行い、各々のワークシートをアドバイスブックとしてまとめる。 			
	成長エントリ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。 ・充実した職業生活にむけての目標を持つ。 			

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

J-9

プロジェクト名	自立プロジェクト		題材	キャリア教育	
実践者名	長井奈月		所属	岐阜県立郡上特別支援学校	
テーマ	安心して生活をおくろう！				
ゴール	生活していく上での不安や疑問に対処する「生活支援ブック」を作る。	成果物	生活支援ブック		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して卒業後の生活が送れるように、個々の課題について課題解決の方法を探ることができる。 ・プロジェクト学習を通して、他者からの評価を活かしたり喜びを感じたりすることによって、自分の成長に気づくことができる。 				
教科等(関連領域)	生活単元学習・総合的な学習の時間				
対象	高等部第3学年	11名	総時数	30時間	
学校名	岐阜県 岐阜県立郡上特別支援学校				
プロジェクトの概要	準備	<ul style="list-style-type: none"> 目標「卒業後の生活をイメージしよう」 ・グループホームのDVDを見て、自宅や一人暮らし以外の生活の仕方があることを知る。 ・自分の卒業後の生活をイメージする(就労先以外に、生活基盤をふくめて家族、一人暮らし、グループホーム、ケアホーム等) 			
	テーマとゴール	<ul style="list-style-type: none"> 目標「テーマとゴールを決める」 ・テーマ「学校を卒業しても安心して生活が送れるようにしよう」 ・ゴール「生活支援ブックを作る」 ・卒業後どんな生活を送りたいか、そのためにはどうしたらよいか考える ・心配なこと、最悪な事態を考え、もしそうなったらどうしたらよいか、自分がわかっていることをはっきりさせる。 ・学習のテーマとゴールを設定する ・自分の願いと理由をはっきりさせ、リサーチ・提案内容を決める。(車の事故対応、年金の受給の仕方、冠婚葬祭のマナー、障がい者手帳でうけられるサービスとその手続き、金銭トラブルの対応、相談機関の利用の仕方、職業訓練制度等) 			
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・目標「リサーチ計画をたてよう」 ・これからすべきことをイメージし、確かな情報とは何か考える。 ・今後の授業計画について知り「いつ、何をするか」計画表を作る。 			
	情報リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、ネットや新聞で調べたり、現地へ出かけたり電話等でのインタビュー、パンフレット収集を行う。 			
	制作・プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた物を活用し、「プレゼン」に向けての制作物(再構築)を作成する。 ・個の課題別に調べ学習を行った内容について、プレゼンテーションを行う。 ・話し方や態度等の相互評価を行う。 			
	成長エントリ	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習「相談機関の担当者にあいさつや心配事の相談をする。」 ・生活支援ブックを活用する自己評価、相互評価をして、自己の成長に気づく。 ・学習の振り返り、自分・友達の成長したことを見つけよう。 			

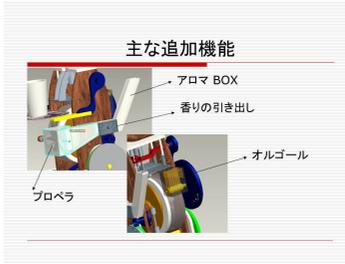
プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

K-4

プロジェクト名	“銅”物園をつくる		題材	ロボット作製
実践者名		所属	新居浜高専	
テーマ	潤いのある“銅”物園を開発			
ゴール		成果物	ロボット	
ねらい	学生生活において学んだ開発設計の能力を生かし、地域に貢献する			
教科等(関連領域)	エンジニアリングデザイン、材料力学 (設計開発)			
対象	第4学年 43名	総時数	120	
学校名	新居浜工業高等専門学校			
プロジェクトの概要	準備 4/12	アイデア創出訓練 開発設計の一連を「ペットボトルつぶし器」の開発を通じて体験する。現状の茶運び人形の構造を学ぶ。 チーム編成		
	チームのゴール決定 5/9	チームテーマ・開発コンセプトの決定		
	計画	年間計画を立てる		
	企画プレゼン 6/13	コンセプトに基づく設計仕様の決定。 概念設計案をボンチ絵等でプレゼン。		
	制作	意見に基づき、修正を行い、3次元CADによる制作。設計のチェック(干渉・トルク等)。		
	再構築 2/6	プレゼンおよび設計報告書		
				

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

K-5

プロジェクト名	からくり人形をつくる		題材	ロボット作製
実践者名		所属	新居浜高専	
テーマ	1モーター駆動で複数の動きを行う茶運び人形の開発			
ゴール	1芸を行う茶運びからくり人形をつくる		成果物	ロボット
ねらい	学生生活において学んだ開発設計の能力を生かし、地域に貢献する			
教科等(関連領域)	エンジニアリングデザイン、材料力学 (設計開発)			
対象	第4学年 43名	総時数	120	
学校名	新居浜工業高等専門学校			
プロジェクトの概要	準備 4/12	アイデア創出訓練 開発設計の一連を「ペットボトルつぶし器」の開発を通じて体験する。現状の茶運び人形の構造を学ぶ。 チーム編成		
	チームのゴール決定 5/9	チームテーマ・開発コンセプトの決定		
	計画	年間計画を立てる		
	企画プレゼン 6/13	コンセプトに基づく設計仕様の決定。 概念設計案をボンチ絵等でプレゼン。		
	制作	意見に基づき、修正を行い、3次元CADによる制作。設計のチェック(干渉・トルク等)。		
	再構築 2/6	プレゼンおよび設計報告書		
				

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

K-6

プロジェクト名	ことばあそびにこにこプロジェクト		題材	言葉遊び歌
実践者名	工藤 順子・阿久津 命・永島 俊之		所属	富津市立竹岡小学校
テーマ	竹岡の町のみんながにこにこ顔になるために、「ことばあそびうた」の楽しさを伝えたい。			
ゴール	「ことばあそびうたコンサート」を開いたり、ブックレットを配ったりして、ことばあそびうたのよさをいろいろな人たちに伝えよう！	成果物	ことばあそびうたブックレット	
ねらい	「ことばあそびうたコンサート」を開き、地域の人たちと交流することを通して、自分や友だちのよさや、地域の人たちとふれ合うことのよさに気づくことができる。（生活科） ○ブックレットを読む人に、ことばあそびうたの内容や自分の思い等、自分が紹介したいことが伝わるような文章を書くことができる。（国語科）			
教科等(関連領域)	生活科・国語科			
対象	第1・2学年 17名	総時数	25	
学校名	千葉県 富津市立竹岡小学校			
プロジェクトの概要	準備	・教師の「ミニことばあそびうたコンサート」を聴き「お話」や音読のよさに気づく。		
	テーマとゴールの設定	・話し合いを通じて、テーマとゴールを設定する。		
	情報リサーチ	・どうしたことばあそびうたがあるのか情報を集める。		
	マイゴールの設定	・自分が取り組みたいことばあそびうたを選び、マイゴールを決める。		
	計画	・「ことばあそびうたコンサート」の全体の流れや内容について決める。（計画書）		
	制作	・コンサートに向けての練習や準備を行う。（招待状・ポスター・進行原稿）		
	情報の再構築	・ブックレットを作成する。（紹介文）		
	プレゼンテーション	・「ことばあそびコンサート」を開き、ブックレットを配付する。		
	成長エントリ	・CDを聴き合ったり話し合ったりして互いの成長を確認する。（インタビュー）		

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

M-1

プロジェクト名	数学検定3級合格プロジェクト		題材	教科学習（数学）	
実践者名	神原 一之		所属	広島大学附属東雲中学校	
テーマ	苦手を楽しもう				
ゴール	数学検定3級に合格する「オリジナル東雲参考書」をつくらう		成果物	オリジナル問題集・参考書	
ねらい	問題づくり、解答・解説づくりを通して数学を主体的に学ぼうとする態度を養う。数学検定3級に合格できる学力を身につける。				
教科等(関連領域)	数学（選択数学）				
対象	中学校第2学年第3学年 20名	総時数	12時間		
学校名	広島県 広島大学附属東雲中学校				
プロジェクトの概要	4月25日 テーマ・ゴールの設定(2時間)	テーマ・ゴールの確認 参考書のコンセプトの決定と単元の決定。 1)表紙は...あたたかく、やる気の出るものに 2)内容は...教科書をもとに「ここは押さえない」ということをコンパクトにまとめ、問題演習も出来ること 3)ページ数は...各単元2時間で学習できる量に(A4で例題2枚・問題2枚、解答・解説2枚) 4)解答・解説は...もちろん丁寧に 5)親しみのわくものに...問題・解説などのコメントや難易度を記述する			
	5月2日～ 5月30日(4時間)	計画立案 過去問と教科書、問題集から情報を収集するとともに、既存の問題集・参考書の課題点を洗い出す活動。			
	計画の立案 情報収集	・共同制作者(2名または3名)のグループごとに、作成する単元・コーナーを決める。 ・教科書の例題を解き、問題解決のポイントを苦手な人に分かるように解説を記述する。			
	5月6日～ 6月27日(4時間)	問題集・参考書の1次案の作成及び検討 ・予習の仕方、復習の仕方、数学が好きになる方法を記述する。 ・例題をもとに問題を作成する。			
	課題解決	・作成した問題を解き、解説や解答に不備がないか検討する。			
	7月4日～ 7月11日(2時間)	検討した1次案に修正を加え、成果物を作成する。 ・作成したオリジナル参考書は2年生・3年生全員に配布する。 ・作成したオリジナル参考書の効果について、情報収集する。			
	成果物の作成				

プロジェクト学習・ポートフォリオ実践事例

プロジェクト名	ナイトインゲールプロジェクト		題材	健 康												
実践者名	林 美栄子		所属	兵庫県民間病院協会 神戸看護専門学校												
テーマ	ナイトインゲールのまなざしをもった信頼される看護師になりたい！															
ゴール	大切な人の健康を守るための提案集を作る！		成果物	提案集												
ねらい	人々の健康と生活への看護の視点と実践能力を得る。															
教科等(関連領域)	看護実践の基礎 ()															
対 象	第1学年 40名		総時数	30												
学校名	兵庫県民間病院協会神戸看護専門学校															
プロジェクトの概要	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>大切な人に思いを寄せて、看護の視点で、その人が健康でその人らしい生活を送るためにどうすればよいかを自ら考え提案するものである。</p> <p>プロジェクト学習を進めていくなかでナイトインゲールの視点で、自ら健康生活に関する正しい情報を手に入れ、確かな情報だけをもとにした自分の考えを社会へ発信する力(メディアリテラシー)を身につける。</p> <p>.....健康な(病気で治療している人は除く)家族のうちの一、(状況によっては友達なども可)身近で日常的に直接会って話ができる人を決める。</p> <p>.....</p> <p>4月8日 <table border="1"><tr><td>準</td><td>備</td></tr></table> プロジェクト学習の基礎知識修得</p> <p>5月18日 <table border="1"><tr><td>テーマ・ゴール</td></tr></table> 一人ひとりゴールシートを書く</p> <p>5月25日 <table border="1"><tr><td>計</td><td>画</td></tr></table> 企画書を作成し戦略を立てる</p> <p>5月~7月 <table border="1"><tr><td>情報リサーチ</td></tr></table> エビデンスに基づく確かな情報を集める</p> <p>8月 <table border="1"><tr><td>製</td><td>作</td></tr></table></p> <p>9月3日 <table border="1"><tr><td>プレゼンテーション</td></tr></table> プレゼンテーションを行う</p> <p>9月末 <table border="1"><tr><td>再</td><td>構</td><td>築</td></tr></table></p> <p>10月 「大切な人の健康を守る提案集」完成</p>				準	備	テーマ・ゴール	計	画	情報リサーチ	製	作	プレゼンテーション	再	構	築
準	備															
テーマ・ゴール																
計	画															
情報リサーチ																
製	作															
プレゼンテーション																
再	構	築														

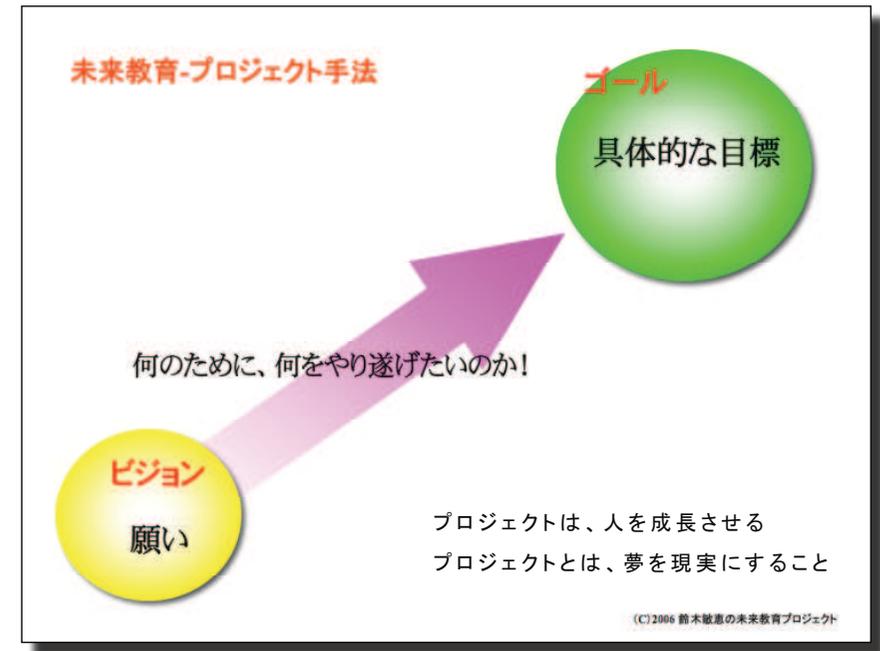
意志ある学び 未来教育
プロジェクト学習&ポートフォリオ評価

資料A
＜新しい学力とコンピテンシー＞

- 日本の新しい教科書とフィランドの教科書
- 新しい学力/コンピテンシー（知識やスキルを活かせる力）
- 未来教育プロジェクト学習
- プロジェクト学習で身につく力
- プロジェクト学習とポートフォリオとコーチング
- ポートフォリオの本質…メタ認知
- プロジェクト手法課題解決

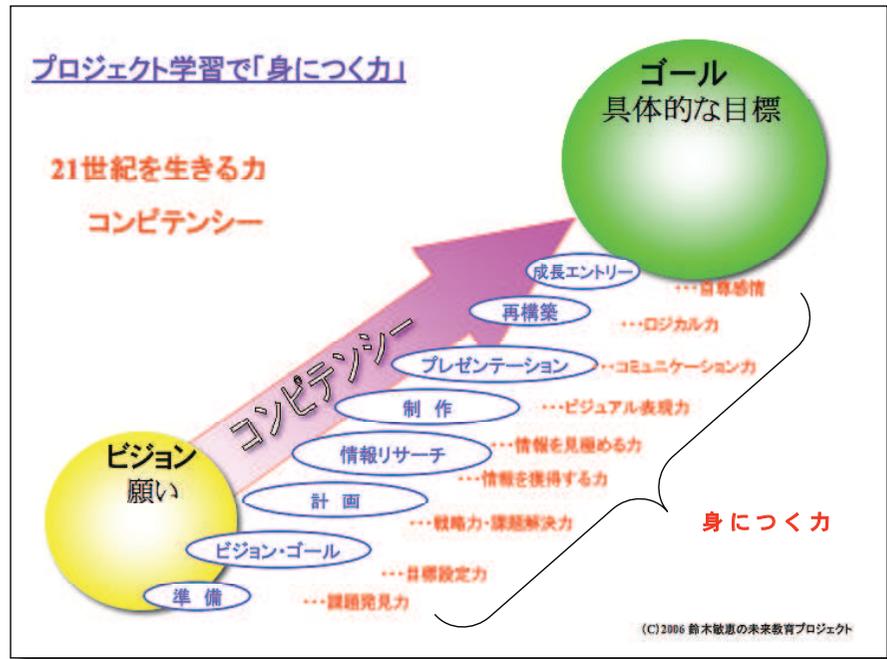
- インテグレート：部分知から全体知へ/個から複雑系へ/静から動
- クロスカリキュラム：教科
- ダブルカウント：時数

今日の目標： 未来教育プロジェクト学習（PBL）とは何か



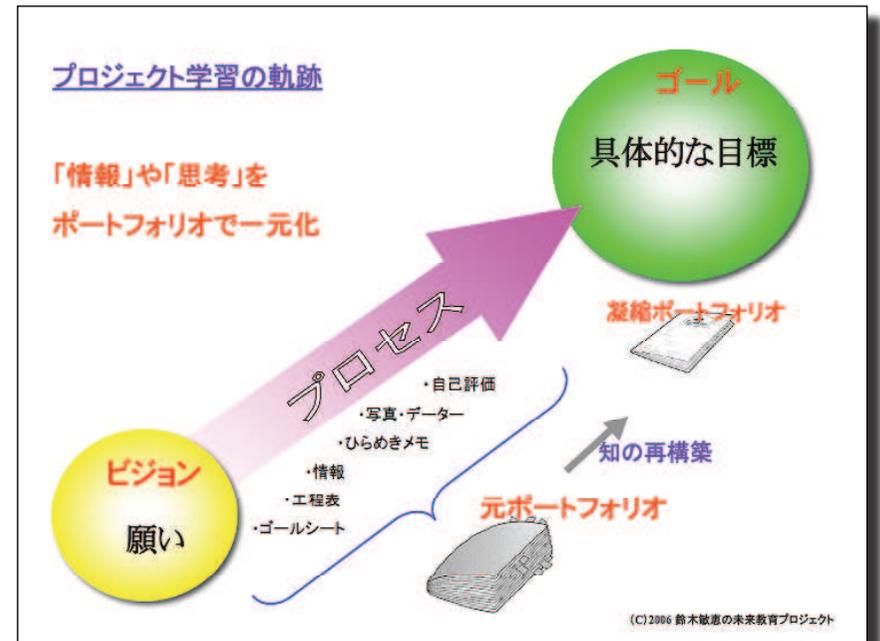
意志ある学び・明確な目標・ビジョンとゴール・目標実現のプラットフォーム

今日の目標 : プロジェクト学習の基本フェーズと身につく力



フェーズ・マイルストーン・身に付く力・意識

今日の目標 : プロジェクト学習とポートフォリオの関係



両輪・軌跡・一元化・俯瞰・凝縮ポートフォリオ・時系列・思考プロセス・可視化

今日の目標 : ポートフォリオの基本と効果

ポートフォリオとは、紙ばさみ、建築家などがもっている作品集。

■ ポートフォリオの作成

- ★ ファイル種類 : A4 サイズのクリアポケットファイル
- ★ 入れるもの : 自分が手に入れた情報、自分が生み出した考え、メモなど。

- ・ゴールシート
- ・計画表(工程表)
- ・文献資料
- ・メモ
- ・写真
- ・アンケート



・ 入れるものには必ず日付や出典を記入する

- ・ プリント
- ・ 自己評価/他者評価
- ・ 各種データ
- ・ 関連する資料(新聞、ネット)

『ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略』医学書院/著 鈴木敏恵

■ ポートフォリオが果たす効果

- | | |
|------|---|
| 目標 | ○ 確実な目標達成、クオリティーの高い成果を生み出せる |
| 評価 | ○ 自己評価、多面的評価、プロセス評価や支援ができる
○ 数値化できないコンピテンシー評価が可能 |
| 俯瞰 | ○ 自分がしていることや学び全体を俯瞰できる |
| メタ認知 | ○ 自分の成果や成長を客観的に見ることができる
○ 全体をみる意識が身につく |
| 可視化 | ○ 課題発見から課題解決の思考プロセスが可視化できる
○ 「思考特性」や「行動特性」を見出すことができる |
| 再構築 | ○ やりっ放しで終えず、確実にアウトカムを生める
○ 部分知を全体知にでき、「知」の体系化ができる |
| 自己認識 | ○ 自己管理、自尊感情、自己肯定感に有効
○ 自分のビジョンを相手に伝えることができる。 |

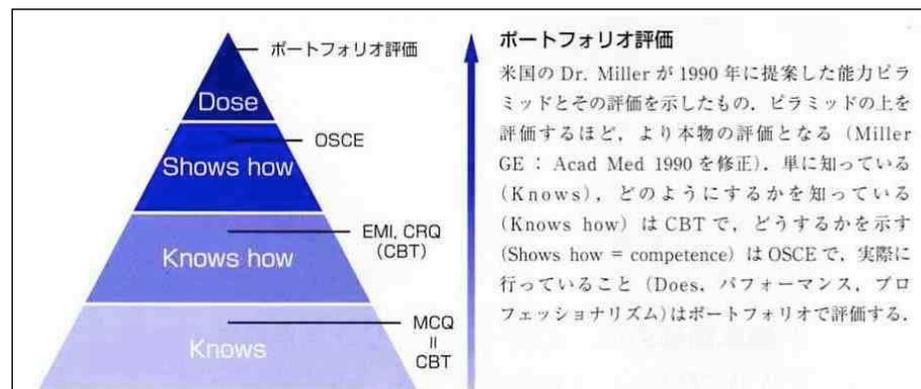
新しい教育—「能力と評価」

■ プロジェクト学習で身につく「能力」

- 「課題発見力」——身につけ前向きになる！ 感性
自分で現実と対座し「課題」に気づくことができる。問題に気づき解決するということは能動的な「もっとよくなりたい！」という気持ちが湧きあがる。
- 「目標設定力」——自分で目標をもちそこへチャレンジ！ 行動
思うだけでなく、その実現のために自分の向かうべき「目標」を決め「チャレンジ」する力が身につく。
- 「課題解決力」——情報を獲得し自分の頭で考え解決策を表現できる 創造
ひな形や正解のない問題を解決するためには、自分の頭で考えること、世の中を俯瞰し、必要な情報を獲得し「価値ある知」を創造できる能力が身につく。
- 「コミュニケーション力」「対人力」「交渉力」「戦略力」「尊敬」「感謝」 人間・社会

■ ポートフォリオ評価（「何をしたか」で評価する）

ポートフォリオ評価とは、プロジェクト学習などで得た(数値化できない)能力を評価できる新しい手法。



『世界の医学教育の流れはポートフォリオ評価の時代へ』

英国では5年間の医学部(内、3年間は臨床実習)で4年生の終わりにEMI, OSCE, CRQで評価し、卒業試験ではポートフォリオ評価を外部よりの評価者とともに施行している。そのため、医師国家試験は行っていない。米国でも医師国家試験にCBT, OSCEに引き続き、ポートフォリオ評価の導入を準備中であるという。

(医学界新聞第2530号2003年4月7日より)

抜粋/書籍名「ポートフォリオ評価とコーチング手法」医学書院

著者 鈴木敏恵 (千葉大学特命教授) s-toshie@ca2.so-net.ne.jp

■ 二つの PBL(プロジェクトベースラーニングとプロブレムベースラーニング)の違い

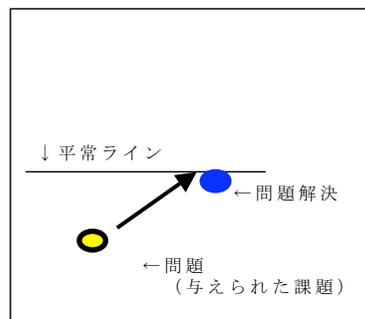
「プロジェクト学習」と「問題基盤型学習」の違い

未来教育プロジェクト学習は問題を解決する要素は盛り込まれていますが、問題を解決することが最終ゴールではなく、ビジョンを実現することがゴールです。

問題は解決しても平常(のライン)になるだけですが、ビジョンを実現することは平常にとどまらず、さらに夢や希望へ向かい上昇する高いゴールを目指すことになるのです。それは「問題を解決する」よりずっと前向きなものに学習者の心理を変えます。人はポジティブな気持ちで向かうほうが、潜在的な能力もパフォーマンスも発揮しやすくなるのです。意志をもち前向きに挑戦してほしいとおもうなら、プロジェクト学習は大変に効果を発揮する手法なのです。

問題基盤型学習

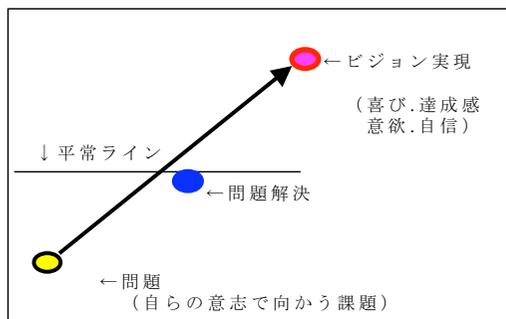
(Problem Based Learning)



PBL: Problem Based Learning とは-- 学生は与えられた課題を動機付けとして学習する。問題状況を利用して知る必要がある学習活動を行う(教師指導型)。(医学書院「PBL-判断力を高める主体的学習」より抜粋)

未来教育プロジェクト学習

(Project Based Learning)



未来教育-プロジェクト学習: Project Based Learning とは--「意志ある学び」を理念としプロジェクト手法による学習手法。ビジョンとゴールを明確にして自ら目標へ向かう学習。自分で考える力、情報を見極める力など、21世紀を生きる力が身につく。鈴木敏恵が設計、実践提唱している。現在全国の学校や医療分野などのプロフェッショナル教育に広がっている。コンピテンシー育成を実現する21世紀の学習手法。

意志ある学び 未来教育 プロジェクト学習&ポートフォリオ評価

資料 B

<コンピテンシー育成コーチング>

現実・プロセス・エビデンス・メタ認知・前向き・変化・改善・成果・成長・ポートフォリオ

- 新しい学力/コンピテンシー(知識やスキルを活かせる力)
- 自分で考え、判断し、行動できる人になる
- コマンド・ティーチング・コーチング…そしてセルフコーチング
- 課題発見、課題解決力へのコーチング
- 思考力、判断力、表現力への前に…“知”の修得
- 知の果樹園

フォーカスコーチング

- イメージ力 俯瞰 視点 発見・気づき 多面的
- 捉え方 洞察力 言葉 話す 聞く 書く
- 耳澄 間 価値観 知と知の関係 時間意識
- 手順 細部 行動 対応 思考プロセス
- 解決する柔軟な思考 未来方向性 発想 表現 ふるまい

今日の目標 : コーチングとは

概念: その人がもともと持っている能力や性能を高める力を、問いを主とするコミュニケーションで促すこと。
 目的: 考えや思いを表層に・思考を明確に、沢山の可能性、視界、いい方向、その人が目標達成するため

図1 コマンド・ティーチングから コーチングへ 未来教育コーチングの理念と手法

これまでは、
 林檎(知)を与える教育
 これからは、
 林檎(知)を自ら獲得する教育へ…

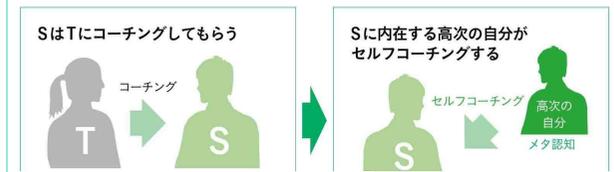
情報メディアの多様化で「知」という名の
 林檎は、誰をもが手を伸ばせるものとなり
 ました。知はあらゆる所に遍在していま
 す、成長を望む者にとってこの世は知の
 果樹園のようです。

☆ ☆ ☆
 新しい教育は、コンピテンシー(自ら獲得
 した知を現実活かせる力)を目指しま
 す。ここにプロジェクト学習、ポートフォリ
 オ、コーチングが応えます。

	行動	T: 育てたい人の言葉	S: 育てられる人の思考	成長
今までの教育 ↓ これからの未来教育	コマンド <small>命令・指導</small>	a 「この林檎を 食べなさい」	「はい、食べます」	従順性 <small>言われた通りにする</small>
	ティーチング <small>教える</small>	b 「赤い林檎は 腸をあげて、 栄養もあるよ」	「そうなんだ、 赤い林檎を 食べよう！」	知識・理解 <small>知った、「わかった」</small>
	コーチング <small>その人の思いや 考えを引き出す</small>	c 「どんな林檎を 採ったらいいと思う？」 <small>『知の果樹園』</small>	「まわりには どんな林檎が あるだろう？」 「いい林檎とは何 だろう？」	コンピテンシー <small>自ら獲得した知識を 現実活かせる能力</small>

図2 コーチングからセルフコーチングへ

内在する高次の自分が自分にコーチング。内在する高次
 の自分、自分で自分を客観的に見ることができること
 …メタ認知。



ティーチングとコーチングの違い

項目 (態度)	ティーチング (受動的)	コーチング (能動的)
高めたいもの	知識・技術	性能・能力
手法	教える・反復	誘発・対話
答え	正解がある	正解はない
評価者	指導者	自己評価
何を評価するか	結果	プロセス
質問の意図	理解したかの確認	気づきを促すため

09.1.19

「知」コンピテンシ 鈴木敏恵

●コンピテンシー（Competency）評価手法●

----- 21世紀教育ヘシフトする重要な鍵 -----

コンピテンシーを評価手法とする最大の特徴は「わかった、理解した、知識がある」ということでなく、現実はその知識を活かして『行動出来る、表現に使える、説明できる、成果をあげた』など具体的で事実主体であるということです。ここに自分の仕事や学習のアウトカムがぎっしり詰まっているポートフォリオが不可欠なアイテムとなります。

コンピテンシーを評価に活かす視点

- ×→「知った」「理解した」「わかった」「知識がある」
○→「行動」「伝達」「記述表現できる」「成果をあげる」

コンピテンシーとは

コンピテンシーとは、できる人の「行動特性」。できる人（いい成果や業績を出し続ける人）を観察するとそこには強みとも言える特徴的な行動ややり方を発見することができます、それを見だし箇条書き的にひとつひとつ明らかにすると、育成ポイントとして「身につけたい力」や「評価の観点」として活用できます。コンピテンシーは目に見える能力として客観性が明確なこともあり、先端企業の人事評価や能力開発や人材育成、採用面接などに使われています。

<コンピテンシーとは>

- 知識を行動に変えて使える能力
- 人材育成・能力開発・人事評価に活用できるもの
- 教育や研修で伸ばすことができるもの

<コンピテンシー評価の観点例>

- (知ったことを) 他の人に伝えることができる
- (自分が理解したことを) 記述して表現できる
- (その知識を活かし) いい成果をあげた

コンピテンシー手法の特徴

コンピテンシーは机上にある抽象的なものではありません。それは現実を活かすことが前提。コンピテンシーは「できた、できない」でなく「身につけるもの」ですから、ここまでできればいい、という範囲やラインはなく、より高いものを極める意識がベースにあるものなのです。

コンピテンシー育成の条件

コンピテンシー育成の鍵は、顕在化・事実・現実・行動・具体的ということ。ポートフォリオがこれらを可能とさせます。ポートフォリオにはコンピテンシーが客観的に証明できる根拠が入っていることでフェアな評価が叶いやすいです。ポートフォリオは結果や部分でなく「プロセス」や全体成果に価値をおいています。この点も長期的な人材育成をねらうコンピテンシー育成に共通するところです。

コンピテンシーを育成するための必須条件は、コンピテンシーを発揮できる場面（プレゼンテーションや論文発表等）を組み込むことです。成果を表せる全体プランの設計が大事です。

抜粋「ポートフォリオ評価とコーチング手法」医学書院 / 鈴木敏恵 著

プロジェクト学習・ポートフォリオ研修に対するアンケート

年 月 日

1. あなたの経験や立場を教えてください。
a. 新人 b. 2年目～10年目 c. 10年以上 d. 指導的立場 e. その他
()
2. あなたは何を得たいと思って研修会に参加しましたか？（目的や期待）
()
3. プロジェクト学習やポートフォリオを何年ぐらい行っていますか？
a. まだしていない b. 1年未満 c. 1年～2年 d. 3年～4年 e. 5年以上
4. プロジェクト学習やポートフォリオの印象は？
a. かなり難しい b. やや難しい c. 工夫すればできそう d. できそう
・その理由は？
()
5. プロジェクト学習やポートフォリオを進めていくのに必要なものはどんなことだと思えますか？（複数可）
a. 体制づくり b. 時間 c. 人材 d. 教材 e. 環境・機器 f. 経費・予算 g. 相談する人
h. 知識 i. 手法・スキル j. ネットワーク k. 事例 l. 評価 m. トップの理解
n. その他 ()
6. プロジェクト学習やポートフォリオを実践するまでには、研修に何時間ぐらい必要だと思えますか？
a. 5時間以下 b. 5・10時間 c. 11時間・20時間 d. 20時間以上

ご協力ありがとうございました。

シンクタンク未来教育ビジョン <http://未来教育ビジョン.net>

OECD 生徒の学習到達度調査

Programme for International Student Assessment

～2009 年調査国際結果の要約～

【内容】

- 2009 年調査では読解力を中心分野として、数学的リテラシー、科学的リテラシーの 3 分野を調査。
- PISA 調査は、義務教育修了段階の 15 歳児が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面でどれだけ活用できるかをみるものであり、特定の学校カリキュラムをどれだけ習得しているかをみるものではない。
- 思考プロセスの習得、概念の理解、及び各分野の様々な状況でそれらを生かす力を重視。
- 読解力の定義が、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」(下線: 新たに加えられた部分)となった。読解力はただ単に読む知識や技能があるというだけでなく、様々な目的のために読みを価値付けたり、用いたりする能力によっても構成されるという考え方から、「読みへの取り組み」(engaging with written texts)という要素が加えられた。つまり、読むことに対してモチベーション(動機付け)があり、読書に対する興味・関心があり、読書を楽しみと感じており、読む内容を精査したり、読書の社会的な側面に関わったり、読書を多面的にまた頻繁に行っているなどの情緒的、行動的特性を指す。

言語活動(記録、要約、説明、論述、討論、発表など)のポイント

- 比較や分類(差異点、相違点、共通点、類似点)
 - ・同じ点は……で、違う点は……です。
- 関連付け・関係付け
 - ・……に関連することとして……が挙げられます。
 - ・……と……は関係付けることができます。
- 規則性
 - ・……の結果から、……のような規則性を見いだせます。
- 帰納的(個々の具体的な事柄から、一般的な命題や法則を導き出すこと)な考え方
 - ・……の資料から、一般的に……といえます。
 - ・……の結果から、……という法則を導き出すことができます。
- 演繹的(一般的原理から特殊な原理や事実を導くこと。理論によって、特殊な課題を説明すること)な考え方
 - ・……という考え方から、具体的には……のようなことがいえます。
 - ・……の法則から、……という問題を……のように解決できます。
- 類推(似た点を基にして、他の事を推し測ること。アナロジーともいう)
 - ・……は、……モデルで考えたり説明したりできます。
- 隠喩(ことばの上では、例えの形式をとらない比喩。「…の如(ごと)し」「…ようだ」などの語を用いない比喩。メタファーともいう)
 - ・バラの微笑
 - ・りんごのほお
- 比喩(物事の説明に他の物事を借りて表現すること。例えること。その表現)
 - ・……は、(たとえと)……のようです。
- 例示(例として示すこと)
 - ・……の例として、……を挙げることができます。
 - ・……は、例えば、……です。
- 平易
 - ・……は、易しくいうと……です。
- 簡潔
 - ・……は、簡潔にいうと……です。
- 改善
 - ・……は、さらに良くすると……とすることができます。
- 総括
 - ・……は、まとめると……です。
- 結論と理由・論拠・証拠(はじめに結論、次に理由を述べる)
 - ・結論は……です。なぜならば……だからです。
- 図、グラフ、表(非連続型テキストという)などの利用
 - ・テキスト(ことば、文章)だけでなく、必要に応じて非連続型テキストを使って説明しましょう。
- 項立てやその順序・小見出し
 - ・項立てやその順序は大切です。小見出しも付け、相手にわかりやすくしましょう。
- 制限(文字数、スペース、時間など)
 - ・必要最低限度の文字数、スペース、時間で表現しましょう。

『各教科等における「言語活動の充実」とは何か』
p.30, 三省堂, 2009

『学力向上最前線』レポート

「未来教育プロジェクト学習」で 学習意欲の向上が実現

岐阜県岐阜市立梅林中学校



↑情報リサーチの結果が書かれたアクションシートに、鈴木敏恵さんがいねいにアドバイス



↑その日に使ったシートなどをポートフォリオに入れる



↑学校周辺の地図に、危険個所をポイントした防災地図（ハザードマップ）をみんなに示す

↑次々に出されるアイデアを、紙に書きこみ、クラス全員で共有していく



↑3年生の「未来教育プロジェクト学習」の題材は「防災」

「意志ある学び」を目指す未来教育

岐阜県岐阜市では、市長と市教育長の判断のもと、未来教育デザイナー鈴木敏恵さんの全面的支援により、プロジェクトの戦略やポートフォリオを最大限に活用する「未来教育プロジェクト学習」が推進されている。

その特徴は、子どもたちが自身でテーマ（願い、課題）とゴール（達成目標）を決め、計画、情報リサーチ、制作、プレゼンテーション、再構築、成長エントリーというフェーズ（段階）を追うプロセスで、目標を達成する意志や課題解決力など、21世紀を生きる力をしっかり身につけていくというもの。

岐阜市立梅林中学校は、今年度よりその未来教育プロジェクト学習の指定校として、総合的な学習の時間で実践研究に取り組んでいる。同校の小島伸夫校長は、「プロジェクト学習を進めていくことで、子どもたちと教師の意欲が向上してきました。学習の場面だけではなく、何に対しても自分の考えや意志を胸に、全体を俯瞰して見る力が必要です。意志を持ちゴールへ向かうことで、転んでも再び立ち上がれることを学ぶことが、学力向上にもつながっていくと思います」と話す。

詳しくは90ページからの記事をご覧ください

日時	平成22年11月20日(土)	時間	9:30-16:30
主催等	未来教育シンクタンク、岐阜市教育委員会	後援等	岐阜地区教育長会
会場	岐阜市教育委員会		
参加者	指導主事19名、一般教員61名 計80名		

ワークショップのプログラム

題材	「健康」… 新学習指導要領/生きる力 : 健やかな体、自律性
目的	教師として元気に仕事をするために
目標	教師のための健康ハンドブックをつくる!

1 効果・感想

(1)参加者について

- ・岐阜市内だけではなく、他の市町からも多数の小・中学校教員の参加があった。全体に若手教員が多く、新たな教育に関する知見を得ようとする心意気を感じた。
- ・すでに「プロジェクト学習」を実践している教員や、その概要を知っていて今後実践してみたいという教員の参加も多くあり、「プロジェクト学習」がかなり広がっていることを実感した。
- ・研修後「ぜひ実践したい」という若手教員の感想が多かったことから、今後、岐阜市内の小・中学校に「プロジェクト学習」が広がることが期待される。

(2)研修会の主催について

- ・岐阜市教育委員会主催としたことから、市内小・中学校に研修会案内を配布し、多数の教員の参加を促すことができた。また、岐阜地区教育長会の後援を得て、近隣市町の小・中学校にも教育委員会を通じて案内を配布したことから、他の市町からの参加もあった。
- ・希望者が多く、若干名の教員に、残念ながら参加をお断りした。
- ・次年度の岐阜市教育委員会の推進事業とすることから、岐阜市教育委員会指導主事の研修を兼ねた。

(3)題材について

- ・小学校学習指導要領解説総則編などを参考に、言語活動の充実の在り方について、研修することができた。また、フィンランドの小学校教科書などから、その具体をイメージできた。
- ・新年度から使用の教科書を題材にして、言語活動の在り方を「プロジェクト学習」との関わりから検討することができた。
- ・言語活動を促すコーチングの在り方を具体的に学ぶ機会となった。

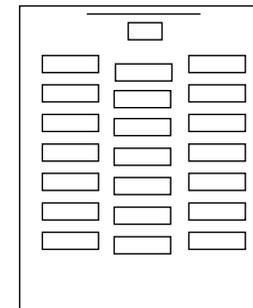
2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

- ①プロジェクト学習とは
- ②プロジェクト学習を推進するにあたって、具体的な目標を立てるためのコーチングの在り方
- ③演習(グループごとにゴール、ビジョン等を作成及び発表練習)
- ④成果発表(各グループによるプレゼンテーション)
- ⑤プロジェクト学習とは
- ⑥実践発表(瑞穂市立西小学校)
- ⑦研修のまとめ(教科指導にプロジェクト学習を取り入れるとすると…)

(2)会場・環境について

- ・参加者約80名
- ・4~5名を1グループとして構成。グループごとに長机を二つ合わせて配置。
- ・スクリーンを前に、横3列、たて7列に机を配置。
- ・前面にスクリーンと講師用レクチャーアンプを配置。
- ・講師とともに、ファシリテーター2名、ファシリテーター補助4名が、演習の際に、各グループに適宜助言をした。



(3)準備物等について

- ・研修資料
 - 資料A「新しい学力とコンピテンシー」、資料B「コンピテンシー育成コーチング」、リーフレット「課題解決能力の獲得を可能とするプロジェクト学習とポートフォリオ」、23年度版小学校教科書・国語5年生(光村出版)、小学校学習指導要領解説・総則編、ポートフォリオとプロジェクト学習(鈴木敏恵著・医学書院)
- ・その他
 - 模造紙、A4用紙(白紙)、マジック、付箋(2色分)
- ・機材等
 - パソコン、プロジェクター、実物投影機、マイク

全体の感想

- ・次年度から、岐阜市教育委員会の推進事業として、教科指導等でプロジェクト学習の手法を活用していくことを計画している。そのスタートとして今回の研修会を位置付けた。総合的な学習の時間におけるプロジェクト学習の展開はすでに実証済みであるが、本研修において、各教科においても、「プロジェクト学習」の手法が活用できる可能性を感じた。
- ・「プロジェクト学習」の取組を推進していく中で、岐阜市の児童生徒に、コミュニケーション能力や学力の向上をめざしたいと考えている。
- ・受講者から、「意志ある学び」の重要性、ティーチングとコーチングのちがいを意識した指導の在り方、応用力・活用力の育成等について、大いに学ぶ機会となったという声が多数寄せられた。また、講師である鈴木敏恵氏から「元気をもらった」「刺激を受けた」という感想も、多数あった。

日 時	平成22年11月20日(土)	時 間	9:30-16:30
主催等	未来教育シンクタンク、岐阜市教育委員会	後援等	岐阜地区教育長会
会 場	岐阜市教育委員会		
参加者	指導主事19名、一般教員61名 計80名		

ワークショップのプログラム

題 材	「健康」… <u>新学習指導要領/生きる力</u> : 健やかな体、自律性
目 的	教師として元気に仕事をするために
目 標	教師の ための健康ハンドブックをつくる!

1 効果・感想

(1) 参加者について

指導主事の方々が熱心に前向きにプロジェクト学習やコーチング力を身につけ、ようという意欲が伝わった。そのため、これまでにプロジェクト学習実践者が多いと思っていたが、アンケート結果から7割以上がプロジェクト学習未経験者であったことを知り驚いた。

(2) 研修会の主催について

指導主幹の参加が非常に多く、これからの教員研修を始め、非常に期待が持てる研修会であった。また、本研修の意図を理解し、アンケートやビデオへのメッセージ等非常に協力的であり、教育委員会との共催の意義が十二分に発揮できた。

(3) 題材について

この文部科学省採択事業における教員研修では、言語活動や課題解決力に効果のあるプロジェクト学習の手法やコーチングなどに重点をおくため、また新人から管理職にいたる参加者の多様性に応えるために「健康」という普遍的かつ共通してみなが意識のたかい題材にした。

実際、教師の心身の健康は児童・生徒にとっても学校にとってもたいせつなことから話し合いやプレゼンテーションの内容は、エビデンス(根拠ある情報)をもとに、非常に充実したものとなった。

(4) 新学習指導要領の実施にむけて

前日の打ち合わせにおいて、事前に準備いただいた来年度採用予定の新学習要領に沿って改訂された教科書について、子供目線でのわかりづらいつらいつら点などを一緒に検討、議論した。それらを通じて、新教科書はかなり広範囲で、かつ、多面的内容であり、クロスカリキュラム的運用をしなければ授業時間が足りないという結論になり、翌日の研修内容における意義と進め方についての共通認識を得ることができたので、非常に良かった。

2 研修プログラムについて

(1) 研修の流れについて

校長・指導主幹が多い中、偏ることなく新人の教員も交じたチーム作りができた。教育委員会の協力に感謝。昼休みも会場内などチームでの食事を促したが、非常に協力的であった。

(2) 会場・環境について

旧校舎内の教室が会場であり、狭い空間(参加者が多かったため)であったが、別室(隣室)に上着や荷物を管理いただき、ワークショップ中の机の配置換えなどもスムーズに行うことができた。

(3) 準備物等について

第一回目の教員研修のスタートでもあり、入念な打ち合わせをした。講師と二人のファシリテーターとも、前日15時に会場入りし、現地の教育委員会の七野指導主事はじめ各教科担当の指導主事のみなさんと、プロジェクト学習をすでに体験されている現場の先生がた3名程度、10人程度で、深夜ともいえる22時まで食事せず熱心に、打ち合わせをおこなった。そのかいあって翌日は、非常にスムーズな研修ができた。80名13チームという大人数での講義、WS、プレゼン、講義、WS(発表)と会場レイアウトを変更する際も手際よい協力を得られた。ありがとうございました。

全体の感想

現場で時間(現場での日々の諸問題)に追われながらの参加者だけでなく、一步、現場から離れた教育委員会指導主幹という「よりよい教育のために必要なもの」という視点で現場での経験をもとに俯瞰できる立場の参加者が多くあったことが、プロジェクト学習をこれまで経験されていない方が7割以上にも関わらず、今回の研修内容に対して非常に好評を得ることができたと考える。

このことから、現場の先生へは、プロジェクト学習など年度の途中では、折角体験しても、翌日から取り入れることが困難であるので、夏休み中など、次年度への向けて、じっくり計画の立てられる時間的な余裕が少しあるときに実施するのがよいと考えられる。

また、プロジェクト学習の手法(明確なビジョンとゴールの共有化)とコーチングを含む今回の研修内容が、総合的な学習などを実際に価値あるものにして(子どもたちにどのような力をつけさせるため)と日頃から考え模索されている方々から、「いろいろな教科・生活指導などのシーンで応用できる提案」に役立てたことに非常に感謝しています。

今回の教員研修(プログラム) <札幌> **A:運営担当者: 大野 睦仁**

日時	平成22年12月4日(土)	時間	9:30-16:30
主催等	未来教育シンクタンク	後援等	札幌市教育委員会
会場	札幌市立厚別通小学校		
参加者	小学校が18名。中学校が3名。高校が2名。学生が7名。 計30名		
ワークショップのプログラム			
題材	「成長」「意欲」		
目的	教師ひとりひとり自分の可能性をフルに高められる学校にするため		
目標	教育学部の学生とベテラン教師に 立つ「こうすれば教師がポジティブに成長し続けられる！」アイデア集をつくる！		

1 効果・感想

(1) 参加者について

札幌市教育委員会の後援を受けたことで、小学校を会場にすることができた。参加者は、札幌市内の小、中学校の教師が中心であったが、千歳(石狩管内)や伊達(胆振管内)、滝川(空知管内)からの参加者や教育学部系の学生の参加もあった。プロジェクト学習に知っていたり、実践したりしていた方は、参加者の2割ほど。プロジェクト学習に初めて触れるという参加者が多かったため、大変有意義な研修となった。学生と現場の教師との間で、刺激し合う場面が多くみられ、大変よかった。

(2) 研修会の主催について

学びたいという気持ちを強くもった先生たちが自分のアンテナを通して、参加していたので、大変意欲的に研修になった。札幌市教育委員会の後援を受けたことで、市内の小、中学校教員が参加しやすくなった。運営者の勤務する小学校であったため、様々な点で融通がきいたが、最低限の会場借用にとどめることで、会場の学校側に負担をかけずに済んだ。また、会場校の先生方が今回4人も参加したり、会場校の学校長や教頭とパイプが作れたり、会場校としてのメリットがあった。

(3) 題材について

今回の題材は、「成長」「意欲」。目的は、「教師ひとりひとり自分の可能性をフルに高められる学校にするため」。目標は、「教育学部の学生とベテラン教師に役立つ『こうすれば教師がポジティブに成長し続けられる！』アイデア集をつくる！」。新学習指導要領の答申には、今回の改訂の具体的ポイントとして次の6点を挙げ、そのうちの「⑤学習意欲の向上や学習習慣の確立」は、キャリア教育との関連性を指摘し、「子どもたちが自らの将来について夢やあこがれをもったり、学ぶ意義を認識したりすることが必要である。」としている。また、道徳の目標には、

「自己の生き方についての考えを深め」とある。総合的な学習の時間の目標には、「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。」とある。他にも、特別活動の目標でも、「個性(3)題材についての伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」とある。

自分の成長について振り返り、自分を成長させるために、意欲的に実践に取り組んでいくことは、重要なテーマだと考える。

2 研修プログラムについて (1)研修の流れについては別紙。)

(2)会場・環境について

現地スタッフ2名が誘導係。玄関で受付を用意し2名担当。他、2名が講座の開かれるランチルーム(2教室よほどの広さ)で待機。前半の講義の際には、スクール形式で長机を並べ、後半のワークショップでは、長机をくっつけて、アイランド形式にし、動的な活動ができるようにした。また、前方には、2つの長机を横にくっつけ、講義資料や教科書、ポートフォリオの実物などを並べた。スクリーンとプロジェクター、書画カメラを用意。PC 画面や資料を拡大し見えやすいようにした。ホワイトボードも3枚用意。

(3)準備物等について

研修資料以外に、A4の紙に、あらかじめ想定しておいたテーマを書いておいたもの。セロテープなどの事務用品。各アイランド(アイランドが6つ。つまり想定チームが6つ)には、模造紙1枚(ブレインストーミングを記録するためのもの)。模造紙2枚を横に貼りつけたもの(プロジェクト成果をまとめるためのもの)。水性カラーペン1セット。

全体の感想

前半の講義形式の研修では、これからの時代に必要な力は何か。そして、それをつけるために、プロジェクト学習がいかに有効かを理解できた。それは、新学習指導要領や新しい教科書、フィンランドの教科書、PISA 型学力の分析など、豊富な資料と鈴木敏恵氏の鋭い視座をもった話がしっかりリンクしたからである。

前半の研修を受けて、理論だけではなく、後半のプロジェクト学習を実際に体験してみるという研修構成がとても機能的に働いていた。理論は、実践することで、より理解が深まるし、実践しようと思っていた参加者のモデリングにもなった。鈴木敏恵氏がその中で行ったコーチングも素晴らしく、参加者自身がコーチングを受けることで、実際に教室で児童・生徒たちがどんな感じで受けているのかを実感することができていた。また、鈴木敏恵氏は、コーチングするだけではなく、その意図、背景も、その場で説明していた。そのため、参加者が実際に教室で、コーチングするイメージをもつことができた。

また、成果物を途中で終わらせるのではなく、最後まで作り上げ、シェアすることで、参加者の学びが達成感をもつことができた。

今回は、学校ごとの参加(一つの学校からたくさん先生が参加する)という形になっていなかった。見ず知らずの先生たちが自分たちの関心のあることで、チームとして集まり、高まっていく様子が一層ひしひしと伝わってきた。参加者からも、「いろんな先生たちと一緒にやれたことが楽しかった。」「これを機に、連絡先を交換しました。」というような声も聞かれた。

鈴木敏恵氏と同行された若槻徹氏、安藤宏幸氏のサポートもとても重要であった。講座のサポートや各チームが動き出した時のかかわり方が、参加者の研修の成果にかなり大きく寄与し、大変充実した1日になった。

日時	平成22年12月4日(土)	時間	9:30~16:30
主催等	未来教育シンクタンク	後援等	札幌市教育委員会
会場	札幌市立厚別通小学校		
参加者	一般教員23名、学生7名 計30名		

ワークショップのプログラム

題材	「成長」「意欲」
目的	教師ひとりひとり自分の可能性をフルに高められる学校にするため
目標	教育学部の学生とベテラン教師のための「こうすれば教師がポジティブに成長し続けられる！」アイデア集をつくる！

1 効果・感想

(1)参加者について

- ・学生も参加できたことはとてもよかった。現在教師となっている者と教育学部生が互いに刺激あいながらの研修であった。
- ・プロジェクト学習について、初めて知ったという人が大半であったので、研修内容がある程度しぼれたのでよかったのではないかとと思われる。
- ・お互いアイデアを出し合う場面がたくさんあり、積極的な参加の様子が見られた。プレゼンテーションまでもっていく作業等は、初めての人が多いがスムーズにもっていくことができた。普段の仕事の様子がうかがわれる。
- ・プレゼンテーションは、たいへん工夫されたものとなり、再構築されたものについては、たいへん参考となるものが多かった。

(2)研修会の主催について

- ・主催を「未来教育シンクタンク」にしていたので、ある程度主催者側の意図通りに研修会が進行できた。また、教育委員会に後援をしてもらっていたので、会場やその他で便宜をはかっていたので、たいへんよかった。
- ・会場校の先生方がかなり協力的であったことが助かった。また、その学校を中心として研修内容を広めていくことができるであろう。

(3)題材について

- ・「成長」「意欲」ということであったが、教職員の資質の向上が最も大切であり、そういったことから適した題材であった。
- ・「教師がポジティブに成長し続けられる」という目標であり、普段の仕事のことを活かすことのできる内容であり、また、今後自分に活かしていけるものであるため、有効な題材及び目標であったと思う。
- ・新学習指導要領の改訂の内容の6点の中にも、「成長」「意欲」といったことは含まれている。子どもにとっては「学習意欲」、教職員にとっては「資質の向上」ということから、目標を変えればいろいろな研修に使うことができる。応用できる研修内容であった。

2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

- ・研修内容について初めて触れるといった参加者がほとんどであったが、スムーズに研修を進行させることができたと思われる。むしろ、初心者が多かったので、研修内容もそちらの方向でしぼることができたからだと考えられる。
- ・教科書の活かし方等の内容を入れることにより、より質の高い研修内容となった。来年度から小学校で新教科書が使われるといった時期であり、タイミングがよかった。
- ・新学習指導要領の内容を活かした研修内容になっているので、たいへん好評であった。

(2)会場・環境について

- ・学校を借りられることができたので、たいへん便利であった。何かを準備することにおいても好都合であり、会場としてはたいへんよかった。
- ・書画カメラは必需品であり、たいへん有効であった。
- ・学校の管理職や先生方の協力を得られたということは、たいへんよかった。学校としての研修の場となったのではないかと考えられる。

(3)準備物等について

- ・会場が学校であったので、準備物等がそろいやすかった。
- ・あらかじめかなり準備してくれていたため、たいへん助かった。
- ・当日の配布資料はたいへん参考となるものであった。

全体の感想

- ・最初の講義がたいへん有効的であった。「これからの時代に必要な力」「新学習指導要領について」「新しい教科書」「フィンランド教育について」「PISA型学力」とプロジェクト学習や未来教育との関連など、今まさに時代にフィットした内容であった。これらのとらえ方や活かし方がふんだんに盛り込まれた講義であったと思う。この講義内容を聞くだけでも価値があるように思う。
- ・理論的なことを受講して、その具体的な実践方法の研修をしたので、たいへんわかりやすかったのではないだろうか。講義した内容と実践方法とがよくマッチしていた。
- ・コーチングの内容がすばらしく、実践に活かすことができる。また、コーチング抜きにしてはこの研修内容は実践として効果がないようである。
- ・「成果物を作る」ということがたいへん有効であり、研修の成果として残せる。こういう研修は教職員たちには、たいへん好まれるものであり、今後の広がりが期待できる。
- ・鈴木敏恵先生と他の先生方の協力が必要であり、そのことによってより研修の効果が高まると思う。

日 時	平成23年1月7日(金)	時 間	9:30-16:30
主催等	シンクタンク未来教育ビジョン、 西条市教育委員会	後援等	西条市危機管理課
会 場	西条市中央公民館		
参加者	一般教員57名		
ワークショップのプログラム			
題 材	「集中豪雨」…新学習指導要領/生きる力		
目 的	教師として子どもを守るために		
目 標	教師が作る 教師のための「かつてない豪雨 その時 こうする行動提案集」		

1 効果・感想

(1)参加者について

- ・主催を「シンクタンク未来教育ビジョン」とともに、「西条市教育委員会」も主催となっていたので、各校の協力をえることができた。そのため、参加者を確保することができた。
- ・「題材」が「防災・集中豪雨」であったので、西条市危機管理課の協力を得ることができた。
- ・小学校、中学校からの参加があり、ほぼ西条市の全校から各校2名以上の参加があった。

(2)研修会の主催について

- ・「市教育委員会」が主催となっていたので、案内等を各校にスムーズに配布できた。
- ・各校からの参加者が多く、参加に対する協力を得ることが容易であった。
- ・各校から数名の参加があったので、研修内容等の周知や伝達などが容易であることが予想される。各校での実践が期待できる。

(3)題材について

- ・防災教育について題材とした。特に、平成16年の台風被害があった西条市であるので、「集中豪雨」を題材として、教師の行動提案集を作ることを目標とした。
- ・集中豪雨を想定して「考える」場面があり、参加者は、教師はどう行動すればよいかについて行動提案集を作るため真剣に取り組んでいた。特に、プレゼンテーションの場面では、リアリティがあり、たいへん参考となるが多かった。
- ・「言語活動」についての指導方法等についての研修内容であり、新年度からの指導に生かせる研修であった。特に、「コンピテンシー」「PISA型学力」「コーチング」「新学習指導要領と教科書」についてなど、プロジェクト学習とポートフォリオ活用が、今後の教育において有効であることを理解してもらう内容であった。

2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

- ・講義の中にワークショップを取り入れていたので、自分がすることによって学ぶことができた。
- ・ワークショップにおいて、成果物(別紙)を生むことができた。たいへん参考になるものである。講義だけであると、9:30から16:30までの研修はたいへんであるが、自分たちが知を生む活動を通しての研修であったので、積極的に参加することができた。
- ・この研修を通して、自分たちは何を学ぶことができるか明確であったので、今後の実践に活かことができると考える。ただ、豊富な内容であったので整理が必要である。

(2)会場・環境について

- ・ホールでの研修であったので、自由な空間があり、ゆったりと研修できた。
- ・照明がやや暗い感じはあった。もう少し明るいといいのではないか。
- ・駐車場も広く、車等で来る場合は、たいへん便利である。

(3)準備物等について

- ・研修資料がたいへん豊富であり、役に立つものであった。持ち帰って伝達する上で、たいへん役に立つと考えられる。
- ・シート集や解説書等が添付されており、実践可能な研修資料であった。

全体の感想

(参加者の意見から)

- ・10年以上経験されている教職員の参加が多かったが、研修内容について初めて聞く内容であったという声があった。しかし、たいへん参考になったという意見がほとんどであり、今後の実践に活かせるという声が多かった。
- ・プロジェクト学習の実践をしていないという人が半数であったが、この学習が有効であるという感想が100%であった。
- ・プロジェクト学習を導入するためには、10時間程度の研修が必要であるという意見が多く、今後、西条市でこのような研修を継続できることが必要である。
- ・コーチングの内容について、参加者からかなり興味のある意見が多かった。普段から実践していることではあるが、この研修によって価値付けされたのではないかと考える。
- ・プロジェクト学習、ポートフォリオの活用について、ほとんどの参加者が価値を感じており、今後導入したいという希望を持っている。できれば、その指導について継続できるような体制ができるとうい考える。
- ・今後、各校が実践を交流できるようにしていければよいのではないかと考えている。

(その他)

- ・防災教育におけるプロジェクト学習の実践を継続していくことが必要である。現在の12歳教育の基盤は、このプロジェクト学習を導入している。成果は上がっているので、できれば防災教育をプロジェクト学習で推進していくことが大切であるとする。

今回の教員研修<西条市>

B:ファシリテーター: 川崎 弘佳

日時	平成 23 年1月 7日(金)	時間	9:30-16:30
主催等	シンクタンク未来教育ビジョン、 西条市教育委員会	後援等	西条市危機管理課
会場	西条市中央公民館		
参加者	一般教員57名		

ワークショップのプログラム

題材	「集中豪雨」…新学習指導要領/生きる力
目的	教師として子どもを守るために
目標	教師が作る 教師のための「かつてない豪雨 その時 こうする行動提案集」

1 効果・感想

(1)参加者について

・小学校、中学校から各校2名以上の参加があったので、若手から中堅・ベテラン教師までの様々な年代の教師が集まり、教師のニーズを反映する研修になった。

(2)研修会の主催について

・主催を「シンクタンク未来教育ビジョン」とともに「西条市教育委員会」様、後援として「西条市危機管理課」様のご協力を得ることができ、広く西条市から参加者が集まった。

(3)題材について

・題材を「集中豪雨」とし、地元と関連がある事柄にしたことで、新年度からの実際の学習に生かすことができる研修となった。

・ワークショップ形式で研修することでプロジェクト学習は「言語活動」全般にかかわるものであることを掴めるようにした。会場からは「プロジェクト学習とは、を学んで授業に生かしたい。」という声もあった。

2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

・プロジェクト学習やポートフォリオについては鈴木先生の新教育課程を押さえた講義で、また実際の手法はワークショップ形式でポイントを押さえて学べるようになっており、全体像がつかめる研修となった。

・会場アンケートでは「児童に個人差があるので、全員に理解させるために、教員がプロジェクト学習について、もっとも理解しておかないといけない。」などの声があった。手法の詳細やコーチング関係は今後も研修会を行ったり、未来教育シンクタンクのホームページを活用したりして、参加者のフォローを行いたい。

(2)会場・環境について

- ・ホールが平面で広く使用できたので、作成物もひろげることができ、話し合っても隣のチームの音が気にならなかった。
- ・照明がやや暗かった。
- ・地元の先生方が進んで受付などの協力をしてくださり、大変有難かった。

(3)準備物等について

- ・ファイルの配布は研修会の資料が散逸せず、整理され、自校に持ち帰って説明する時にも有効である。
- ・筆記用具やマジック、模造紙など十分用意されており、参加者も使いやすかった。

全体の感想

・教育長の深い理解と教育委員会の呼びかけなどで教師も今後、実践をしやすくなったと思われる。

・たくさんの資料を西条市危機管理課より提供していただき、研修会では有効に活用させていただいた。このような連携が研修会の質のポイントとなると思われる。

・プロジェクト学習の実行のためのシート集や解説書は各学校で取り組むときに必要な資料である。それらが参加者全員に配布されたので各校の実践を期待したい。

今回の研修会も盛況に終わることができました。
運営の方々の準備やご配慮に心から感謝申し上げます。

今回の教員研修<福岡>

A:運営担当者: 稲益 義宏

日時	平成23年1月22日(土)	時間	10:00-16:30
主催等	シンクタンク未来教育ビジョン	後援等	福岡市教育委員会
会場	福岡市立愛宕小学校		
参加者	指導主事1名, 教師33名, 大学生5名, 一般3名		

ワークショップのプログラム

題材	「話し合い」… 新学習指導要領/生きる力 :自律性
目的	他者と学び合ってお互いに成長したい!
目標	こうすれば子どもたちの話し合い活動が活発になるアイデア集を作る! -学習の中で勝つ揚力を伸ばすために-

1 効果・感想

(1) 参加者について

- ・福岡市教育委員会の後援をいただき開催。会場は、愛宕小学校の図書室を借りて実施。市教委の施設課に使用申請を行い使用料として700円を支払った。
- ・参加者は、福岡市内の小中学校の教師を中心に、市外の教師、教職を志す大学生など40名。福岡市内の学校連絡での呼びかけや大学生の教職サークルネットワークからも情報を発信してもらい、参加者を募集した。
- ・当日は、福岡市教育委員会からも主任指導主事に参加いただいた。

(2) 研修会の主催について

- ・シンクタンク未来教育ビジョンの主催とし、地元実行委員会を組織して行った。
- ・教育委員会から後援をいただいたことで、市内の学校連絡を使用することができ、参加者の募集に有効であった。

(3) 題材について

- ・新学習指導要領に沿った内容として、子どもたちの活用力をどのようにつけていくかを研修課題とした。具体的な姿として、子どもたちの話し合い活動が活発に行えるようになる方法のアイデア集を作ることとした。

2 研修プログラムについて

(1) 研修の流れについて

- ・鈴木敏恵先生の「新学習指導要領の解説から会が始まり、新学習指導要領の具現化へ向けた研修であること」を、参加者全体で共通理解した。
- ・子どもたちが活用力を身につけるために、プロジェクト学習の有効性と、同時にポートフォリオ評価とコーチングを組み合わせていくことによって効果が高まることをお話しいただいた。
- ・実際のワークショップでは、参加者自らの意志で考えてみたい話し合いの方法をチームに分かれ、解決策を話し合った。それぞれのチームのテーマは、次のようなものだった。

- 「課題発見で子どもが活発に発言する方法」を提案します。教師主体になりがちな総合の環境領域の単元で
- 漠然とほめて終わらない相互評価の話し合い活動を提案します! ~図工の鑑賞~
- 特別な支援が必要な子も参加できる話し合い方法を提案します!(国語の時間、自分の意見を言えるように~思いはあるが、参加できない子のために~
- 新聞を作る場面で全員がひとりひとり活躍できる役割を決められる話し合いの方法を提案します。~小学校6年生、修学旅行の良さを5年生の伝える~
- いじめをなくすアイデアが活発に出る話し合いの方法を提案します!
- むちゃくちゃ楽しいお楽しみ会の計画をつくる話し合い活発にする方法を提案します!
- ・それぞれのチームの発表に対して、鈴木先生から改善点の指摘をいただき、その具体的な進め方が授業に直接生かせるものであった。

(2) 会場・環境について

- ・愛宕小学校の図書室を使用した。閲覧用の机は、模造紙を広げるにはちょうど良く、また会場の広さ的に40名の参加者は適当な人数であった。
- ・学校を使用したことで、視聴覚機材等の準備も簡単にでき、研修を行うにはいい環境であった。

(3) 準備物等について

- ・視聴覚機器等は、愛宕小学校から借りることができた。ワークショップに必要な模造紙等は購入した。

全体の感想

- ・これまで過去3度、福岡で鈴木敏恵先生のワークショップを開催した。その経験が、準備や集客、教育委員会への後援依頼等で役に立った。
- ・今回は小学校の図書室を使用した。実際の学校を使うことで、ワークショップの具体的な流し方のイメージがつかみやすかったかもしれない。
- ・どのような研修でも言えることだが、参加してみたらとても良かったという感想を多くいただいた。特に、今回は若い先生方が、新しい教育技術に触れ、子どもたちに対する向かい方や立ち位置について考えるきっかけをつかまれたようだ。研修の有効性を事前にわかりやすく情報発信することで、参加者も増えていくのではないかと感じた。

日 時	平成23年1月22日(土)	時 間	10:00~16:30
主催等	未来教育シンクタンク	後援等	福岡市教育委員会
会 場	福岡市立愛宕小学校		
参加者	一般教員28名、学生6名、その他3 計30名		
ワークショップのプログラム			
題 材	「話し合い」		
目 的	他者と学び合って、お互いに成長したい！		
目 標	こうすれば子どもたちの話し合い活動が活発になるアイデア集をつくる！ ー学習の中で活用力を伸ばすためにー		

1 効果・感想

(1)参加者について

- ・教育系の大学生が6名参加しており、学生にとっても現場の教師と交流できる貴重な機会となった。教員の方も学生と一緒に活動でお互いに刺激し合っって積極的な研修を行うことができた。
- ・教員も半数以上が経験年数10年目以下で、学生も含め全体として年齢層が若い研修会であった。
- ・プロジェクト学習やポートフォリオの経験がまだない参加者が2/3で、初めて触れる研修内容やワークショップの経験に新鮮な気持ちで参加できたと思う。
- ・参加者のアンケートによると、研修の参加理由としては、「実践にすぐに役立つものを得たい」「プロジェクト学習やポートフォリオ、コーチングについて学びたい」「言語活動の充実について知りたい」といった内容で、新しいことを学びたいという前向きな姿勢で参加している。

(2)研修会の主催について

- ・主催を「未来教育シンクタンク」とし、福岡市教育委員会の後援を得て、福岡市内を始め、各地域から参加者を集めることができた。
- ・参加の募集案内の中に、以前の福岡での研修会の参加者の感想を載せるなどの工夫や会場校の先生から市内の先生方への個人的な呼びかけもあり、熱心な参加者が集まった。

(3)題材について

- ・「話し合い」をテーマとし、新学習指導要領で重視している言語活動に関わりの強いテーマであるとともに、日頃の授業をしている教師にとって関心の高いものであったので、有効な題材、目標であったと思う。
- ・学生を含め、比較的若い教員とベテランと一緒にチームをつくり、課題を絞って、提案を作り上げていく活動は、チームでの「話し合い」自体が、テーマに関わってくる。話し合い活動が活発にできたチームの提案がより説得性をもって来る。そういう意味で非常に興味深い題

材であった。

2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

- ・経験の少ない参加者が多かったことから、前半の未来教育プロジェクト学習の講義の部分や課題設定、チームづくりの部分に時間をかけた。新学習指導要領や新しい教科書、フィンランドの教科書との比較等、参加者にとって関心の高い内容もそこに盛り込むことができた。
- ・ワークショップのチームテーマの決定の場面で、話し合いに時間をかけ、テーマの絞り込みについてのコーチングを全体の場で行うことで、後のチームでの制作やプレゼンテーションの活動がスムーズにいったと思う。
- ・参加者の感想「子どもにしっかり考えさせる時間やコーチングを学んでいけば取り組むことができそう。」にあるように、前半の講義やワークショップのていねいに行っていくことで、参加者は研修での体験を通して、実践でのイメージをつかむことができると考えられる。

(2)会場・環境について

- ・学校の図書館での実施で、参加人数からすると研修会場としては狭く感じられたが、本に囲まれた中で、落ち着いて研修できる雰囲気であった。
- ・小学校の図書室であったので、会場の机・椅子が子ども用で低いことや書棚があって模造紙等を掲示するのに工夫が必要であった。
- ・会場の後ろにお菓子類やお土産が置いてあり、和やかな雰囲気での研修が行われた。

(3)準備物等について

- ・会場が学校であったので、急遽必要なもの等の準備がしやすかった。
- ・会場が学校だったので、会場設営が前日の夕方となり、机椅子の移動や資料の印刷、配布の作業が夜までかかってしまった。
- ・配布物を事前に机の上に置いておくことで、当日の受付がスムーズにいった。

全体の感想

- ・経験の少ない参加者が多かったが、アンケートで「ポートフォリオ・プロジェクト学習は工夫すればできそう」の回答が8割を超え、肯定的なイメージをもち、実践への意欲を高めることができた。理論の部分をしていねいに行い、ワークショップで成果物を作る具体的な活動が、参加者にとって分かりやすかったのではないかと考えられる。
- ・新しいものを得たいという明確な目標を持って参加した方が多かったが、研修後のアンケートで、実践への意欲が高まり、満足した研修成果であったと答えている。研修内容が他の場面でもいろいろ活用できると感じた参加者が多かった。
- ・プレゼンテーションでは、各チームがロールプレイを取り入れて効果的な発表を行うことができた。演技のうまい先生たちが多く、楽しい雰囲気の中での意欲的な発表に感心させられた。
- ・研修担当者が受付後も会場の一角で掲示物等の準備の準備をしている姿や昼食も同じ会場で食べて懇談する姿を見て、参加者は、研修会に対する担当者の熱意や親近感を感じたと思う。研修全体の雰囲気を高めていく上で大切な点を運営者(ファシリテーター)として自分自身も学ぶことができた。
- ・会場校の先生たちには運営等で大変お世話になった。この研修の成果がこの学校での実践の広がりにつながっていくことを願いたい。

日 時	平成23年2月6日(日)	時 間	9:30-16:00
主催等	未来教育シンクタンク	後援等	岩国市教育委員会
会 場	岩国市立麻里布小学校		
参加者	一般教員24名		

ワークショップのプログラム

題 材	コミュニケーション力・理解
目 的	子どもたちがコミュニケーション力を身につけてほしい!
目 標	こうすれば子どもたちのコミュニケーション力が高まる実践活用集をつくる! ~“理解してほしい”“理解したい”という視点で!

1 効果・感想

(1)参加者について

- ・参加者は、24名であったが、研修熱心な中堅教員が集まった。
- ・今まで未来教育の研修経験者が1/3程度おり、これからも参加したいという希望者が多かった。
- ・インフルエンザが一番流行している時期で、来られない人もけっこういたのが残念だった。

(2)研修会の主催について

- ・岩国市教育委員会が後援で、山口県教育委員会の協力があり、案内などは配布しやすかった。
- ・主催は、「シンクタンク未来教育ビジョン」で、後援は、「岩国市教育委員会」であったが、山口県教育委員会にも協力を依頼したおかげで、遠い所からも参加者があった。

(3)題材について

- ・題材については、開催場所の教員の思い取り入れた題材にすることが中身の濃い研修のできる秘訣であると考え、今回は、岩国市内でも校内研修のテーマに多く掲げられている「コミュニケーション力を題材とした。
- ・「コミュニケーション力・理解」と理解をつけたのは、聞く・話すのスキル面だけの向上を目指すのではなく、相手のことを考え、いかに伝えるのか、また、相手の言おうとしていることを理解しようといかに聞くかという、自分の都合だけでなく、他者を意識したコミュニケーション力の高まりでないと本当のコミュニケーション力の高まりにはならないと考えたからである。
- ・開催場所のニーズに応じた題材であったため、参加者の反応もよく、研修内容も深まることができた。

2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

- ・一人ひとりが参加したと実感できるワークショップと理論を学べる講義があり、参観者の満足度を得られた研修内容であり、流れであったように思う。
- ・ワークショップの内容は、参加者一人ひとりの思いや願いを活かし、課題に沿って率直にやわらかい雰囲気で行うことができ、ニーズに応じた深まりのあるワークショップになったように思う。
- ・ワークショップと講義で、学ぶことが多く時間的に心配したが、おおよそプログラム通りに行うことができた。ただ、今回学んだことを現場で自分でどう活かすかを書いてもらうだけで、発表する時間を取ることができなかったのは、少し残念であった。

(2)会場・環境について

- ・岩国市内の中心地の学校であったので、交通の便はよく、駐車場も十分確保できた。
- ・参加人数が24名であったため、講義を聴く場所とプレゼンの場所名を分けて使うことができ、全体的にゆったりと会場を使うことができた。
- ・学校が会場であり、準備物などがそろえやすかった。

(3)準備物等について

- ・研修資料は、内容があるものであり、今後にも活用する資料として役立つものとなりそうである。
- ・参加できなかった方から、資料がほしいという要望もいくつかあった。
- ・シート集や解説書、ファイルなどが配布され、プロジェクト学習やポートフォリオの活用の際には大変役だった。

全体の感想

(参加者の意見から)

- ・今日は、本当に情報の果樹園を体験させていただき、ありがとうございました。目標をしっかりともつことの大切さを改めて実感しました。また、自分自身ももっと多面的な考えができるようになりたいと思いました。
- ・プロジェクト学習・ポートフォリオは、「総合的な学習で使う」というイメージでした。しかし、同じような原理を活用すれば、どんな教科、生活場面でも活かせると分かりました。自ら考え、活用できる子ども(人)を育てること、そして、育てるための大切なことや具体的な方法を知ることができてよかったです。
- ・プロジェクト学習に来年度は、本格的に取り組んでいきたいと心から思いました。実際にプレゼンテーションをするための話し合いをしたり、実際に作ったりすることで、より深くプロジェクト学習のおもしろさや意義を実感できたように思います。思わず熱中して取り組んでいる自分がありました。横浜(未来教育全国大会)まで行きたいなーとずっと思っていたのですが、山口で鈴木先生の話聞いてとてもありがたかったです。
- ・前回の山口の研修にも参加させていただきました。その時にも新鮮な学びがあり、プロジェクト学習だけでなく、自分の生き方を振り返り、今後にも活かそうと思えた気がします。今回は、ワークショップで実際に自分が考え、実践してみることで理解が深まりました。ありがとうございました。

日時	平成23年2月19日(土)	時間	9:30-16:30
主催等	未来教育シンクタンク、横浜市教育委員会	後援等	
会場	横浜市教育委員会事務局南部学校教育事務所		
参加者	一般教員24名、学生・その他2名、指導主事4名 計30名		

ワークショップのプログラム

題材	教師のモチベーション
目的	仕事・学校をおもしろくするために
目標	「こうすればモチベーションがアップする！」具体的な提案書をつくる!

1 効果・感想

(1) 参加者について

- ・主催を「未来教育シンクタンク」と「横浜市教育委員会」で行ったことで、市立学校職員への周知はスムーズに行え、参加者の中心は学校の教員が対象となった。
- ・横浜市の教員の中には、鈴木先生を通して「未来教育シンクタンク」に関わりのある教員もいて、当日の研修進行がスムーズに行えた。
- ・参加者は、学校の管理職(校長・副校長)、リーダー(主幹教諭)、経験の浅い教諭と、幅の広い立場の集団構成であった。「未来教育シンクタンク」への関心から、学生の参加も見られ、よりよい研修ができたと感じている。

(2) 研修会の主催について

- ・横浜市教育委員会が主催したことで、学校への周知がスムーズに行き、結果として、学校における様々な立場の人の参加が見られた。
- ・休日の研修開催については、教育委員会が主催することで教職員の労務に係わる問題が発生することに課題があった。
- ・教育委員会が主催に係わることで、教員は安心して研修会に参加できた。

(3) 題材について

- ・研修会の意義や参加者の構成を考え、題材を「教師のモチベーション」としたことは、よかった。視点が複数持てること、アイデアも出し易く、研修会のモチベーションを上げたと感じた。
- ・研修での、「コンピテンシー育成手法コーチング」は、これからの学習指導要領が目指す、「思考力・判断力・表現力等の育成」に強く結びつくものであり、教員が指導方法として身に付けることでおおきな効果が期待できる。
- ・実際の教科書を使い、「言語活動」における子どもたちの表現部分を具体的にどう指導するのか、どう引き出すのか、大変参考になった。

2 研修プログラムについて

(1) 研修の流れについて

- ・1日研修であったが、参加者は時間を忘れるぐらいに集中できた。オープニングでの雰囲気作り、講義、ワークショップ(グループ討議)、講義、ワークショップ(プレゼン)、講義、まとめの流れがよかった。また、参加者を「グッ」と引きつける鈴木先生の指導力の影響も大きい。
- ・ポートフォリオを活用したプロジェクト学習について、参加者は実際に体験することで、その効果やよさについて身をもって経験したことが大きい。プロジェクト学習そのものが目標に向かって計画的、順序よく構築していくことから、研修スタートから、研修最後のアウトプットをイメージして研修を進められたことがよかった。

(2) 会場・環境について

- ・今回の参加人数と会場の広さは適当であった。グループ活動の場、プレゼンの場と適切に確保できた。
- ・研修会場は、横浜市中心部のやや南部方面に位置している。交通の便はいいが、横浜市全域から集まる場所としては、考える余地がある。
- ・研修当日は、年度末であり、近隣校でも1年間の報告を兼ねた公開授業等が開かれていた。より多くのかたに参加して頂く研修を開催するには、長期休業を上手く利用することが考えられる。

(3) 準備物等について

- ・前日に研修会場に入り、会場の下見とセッティングをしていただき、スムーズに研修を実施することができた。
- ・資料については、非常に多くの種類を多数準備していただいた。特に、講演資料をはじめ、参加者が持ち帰れる資料の多さに驚いた。ワークシートとその活用のための解説書等は、明日からの授業に即使える有効なものであった。
- ・研修の内容的には1日でも時間が足りないぐらいのものであった。時間短縮に、他都市や県での研修資料も取り入れて進めてもらうことで、研修がスムーズに行うことができた。

【全体の感想】

研修が進むにつれて、参加者の表情が明らかに変わってきた。顔色伺いから、共通のテーマで時間を共にしている共同者(意思あるチーム)となり、明るい雰囲気の中で、参加者が楽しみながら研修を行うことができた。

参加者は、プロジェクト学習についてたくさん学ぶことができ、充実感や達成感を味わっていた。

研修の成果は、研修終了後に多くの方が鈴木先生を囲んで、質問や意見交換している姿に現われている。さらに、翌々日の月曜日には、委員会へ研修開催のお礼の連絡者もいた。その中で、「プロジェクト学習に驚嘆し、来年度の学校の研修で採用したい。3月の鈴木教授の研修に職員7名で申し込んだ」とのこと。

研修の効果については、今すぐどうのこうのということではなく、受講者が自分なりに解釈し、自分の教育観、指導の中でどう活用していくのか、更に学習を進め広げていくのか、時間と共に状況を見ていく必要があると思う。

最後に、「言語活動」について、もっと学習したかった受講者もいたことを加えておく。

日 時	平成23年2月19日(土)	時 間	9:30~16:30
主催等	未来教育シンクタンク、横浜市教育委員会	後援等	
会 場	横浜市教育委員会南部教育事務所研修室		
参加者	一般教員24名、学生・その他2名、指導主事4名 計30名		
ワークショップのプログラム			
題 材	「教師のモチベーション」		
目 的	仕事、学校をおもしろくするために		
目 標	「こうすればモチベーションがアップする！」具体的な提案書をつくる！		

1 効果・感想

(1)参加者について

- ・現場の教職員が多く、それぞれが課題意識をもって参加したのでたいへん刺激的であった。
- ・管理職が参加し、また年代も多岐にわたっていたので、視点に広がりがあった。
- ・鈴木敏恵先生やプロジェクト学習に対して強い関心をもって参加しているの、心地よい緊張感の中、研修することができた。
- ・パフォーマンス能力に長けた人材が多くいて、ねらっていたものが想定以上に達成できていた。
- ・今後の鈴木敏恵先生とのつながりやプロジェクト学習への取り組みを望んで終わることができていてまさに未来へつながるプロジェクトの始まりを感じることができた。

(2)研修会の主催について

- ・主催に横浜市教育委員会も加わってもらったことで、市内に広くPRすることができた。会場その他でも便宜を図っていただいたので、たいへん助かった。
- ・教育委員会も主催になり準備を手伝ってもらうことができ、研修内容に集中することができてよかった。実質「未来教育シンクタンク」のリードで研修は進めることができた。

(3)題材について

- ・「教師のモチベーション」という、学校教育のほぼすべてを包括できるような、なおかつパーソナルな部分に迫れる題材だったので取り組みやすかった。
- ・現在の課題にストレートにアクセスし、その解決方法を考えることができる題材で、翌日から即使える財産を多く身につけられるものだった。
- ・新学習指導要領の重点項目である「言語活動の充実」にリンクする形でコーチングの手法育成が取り入れられており、研修成果を実感することで大きなモチベーションアップにつながった。

2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

- ・始めに未来教育プロジェクト学習についての講義があり、全体を「俯瞰」することができた。
- ・ワークショップを間にはさみ、最後に「コーチング」について解説があったので、参加者が実践をつんでからの学びになり、有意義であった。
- ・ワークショップのはじまりに、「意思あるチーム作り」の実践場面を観察することができたのはすばらしい経験だった。
- ・ワークショップに入る前のビジョンやゴールの確認等、全体を「俯瞰」することが講師のリードによりできていたので、ワークショップがスムーズに流れた。
- ・講師によるコーチングが適切でその手法を学びながら、参加者が自分たちの話し合いそのものも深められた。
- ・新しい教科書やフィンランドの教科書全体から「俯瞰」することの価値の高さを学ぶことができた。

(2)会場・環境について

- ・駅に近い施設だったので、たいへん便利であった。
- ・近くに昼食を入手できる場所があってよかった。
- ・ほどよい広さで、静かな部屋だったので、リラックスしながら集中できた。

(3)準備物等について

- ・会場が教育事務所であったので、準備物(模造紙・ペン・付箋等)がそろいやすかった。
- ・あらかじめかなり準備してくれていたの、たいへん助かった。
- ・当日の配布資料はたいへん参考となるものであった。

全体の感想

- ・「未来」を描くということの魅力に引き込まれた。「鈴木敏恵」という「講師」というカテゴリーを超えた存在の大きさ、熱さによるものだ。しかしながら、その存在が決してプレッシャーにならないのは、彼女の持ち前の明るさや絶妙な「ゆるさ」からくるものだろう。立場をとっばらい、参加者全員が「ひと」として向き合える「空間」作りを目の当たりにしたが、それこそがプロフェッショナルの「コーチング」の「成果物」なのだ。
- ・学びを俯瞰することは、自分の生き方を俯瞰することに他ならなかった。そのことで今、直面している人生の課題の解決方法までが見えてきたようだ。これからの「教育」の、「人生」のキーワードは「俯瞰」であると思われた。そういう意味で「プロジェクト学習」は子どもや教育関係者だけではなく、すべての人々に貢献できる「生きるスタイル」なのだと思う。
- ・まさに現代の子どもたちをとりまくキーワードである「これからの時代に必要な力」「新学習指導要領」「新しい教科書」「フィンランド教育」「PISA型学力」等を網羅していて多くの人が待ち望んだ研修になっていたと思う。
- ・学校現場では「総合的な学習の時間」だけではなく、ほぼすべての教科領域および学校生活全般に「プロジェクト学習」や「コーチング」は活用できる。その点で今後の広がりが望まれるところであるが、研修終了後には多くの教職員たちがその意欲を強くもっていることがうかがわれ、たいへんたのしかった。

日時	平成23年3月5日(土)	時間	9:30-16:30
主催等	シンクタンク未来教育ビジョン	後援等	千葉県教育委員会 千葉大学(協力)
会場	千葉大学教育学部 5号館5102教室		
参加者	指導主事等5名、一般教員38名、図書司書1名、看護師1名、学生5名 計50名		
ワークショップのプログラム			
題材	「イメージ・言葉」		
目的	子どもが日常において言語を豊かに活用するために —いろいろな人と夢をかなえられるように		
目標	教師がつくる、教師のための 「こうすれば子どもがイメージしたものを言葉にしたいくなる! アイデア集」 をつくる		

1 効果・感想

(1)参加者について

- ・3月という年度末の多用な時期であるにもかかわらず、千葉県内だけではなく、大分県、広島県京都府、石川県、三重県等県外からも多数の小・中学校教員の参加があった。県外からの参加は実に6割を占めた。このことは、新学習指導要領完全実施を控え、新たな教育方法についての関心の高まりを意味していると思われる。
- ・千葉大学が会場と言うこともあり、年齢構成や立場もバラエティに富み、学生、一般教員、校長や教頭、指導主事等が交流し合いながら学ぶ姿はほほえましいものがあった。
- ・横浜市や富津市の2校の小学校では、校長を筆頭に学校ぐるみで参加した。プロジェクト学習の取り組みの上で、このことは大変望ましいことである。

(2)研修会の開催に当たって

- ・主催は、シンクタンク未来教育ビジョンである。文部科学省の委嘱事業であることもあり、千葉県教育委員会の後援を得ることができた。また、平成22年度千葉県視聴覚教育研究大会で、君津地区の富津市立竹岡小学校がプロジェクト学習の授業を公開したこともあって、袖ヶ浦市、木更津市、君津市、富津市全校に案内を配付することができた。さらに、シンクタンク未来ビジョン全国大会の過去の会員への案内や、教科書会社等のサイトに案内を掲載することで、全国に告知することができた。
- ・会場の関係で50名以上は厳しいと思われたが、ちょうどよい人数の50名でおさまった。

(3)題材について

- ・新学習指導要領の改訂の大きな観点である、言語活動の充実に直接結びつく題材として「言語・イメージ」を取り上げた。
- ・目的は、言語の活用力育成、そして自律性と共生を意識して設定した。
- ・目標は、各教師のこれまでの経験と財産を活かすことの可能なものであり、多くの教科領域にわたる互いの実践から学ぶ貴重な機会ともなった。特に学生にとっては、現場の実践者に直接触れるよい機会となった。

- ・プロジェクト学習のフェーズに沿ったワークショップにおいて、言語活動を促すコーチングの在り方を具体的に学ぶ機会となった。
- ・講師の講義からは、コンピテンシー、プロジェクト学習、ポートフォリオ、コーチングの基礎理論を学ぶことができた。また、国語科教科書や、フィンランドの教科書等を駆使した講義から、言語活動の充実への取り組みの具体的なイメージを知ることができた。

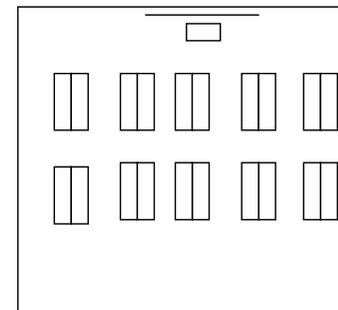
2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

- ①講義1:コンピテンシー、プロジェクト学習、ポートフォリオ、コーチング
- ②演習1:ビジョンとゴールに従って、チームを結成し、チームテーマを決定
- ③演習2:アイデア集を制作し、プレゼンテーションの実施と相互評価
- ④講義2:情報の再構築等の在り方、活用力向上の実践にkに向けて
- ⑤研修のまとめ:得たことの共有

(2)会場・環境について

- ・3~7名を1チームとして構成。チームごとに長机を二つ合わせて配置。
- ・スクリーンを前に、横3列、たて7列に机を配置。
- ・前面左にスクリーンと講師用レクチャーアンプを配置。
- ・講師とともに、ファシリテーター2名が、演習の際に各チームに適宜助言をした。



(3)準備物等について

- ・研修資料
 - 資料A「新しい学力とコンピテンシー」、資料B「コンピテンシー育成コーチング」、資料Mその他資料集
 - リーフレット「課題解決能力の獲得を可能とするプロジェクト学習とポートフォリオ」等
- ・その他
 - 模造紙、A4リサイクルペーパー、水性マジック、付箋(2色分)、セロテープ等
- ・機材等
 - パソコン、プロジェクター、実物投影機、マイク

全体の感想

- ・運営者としては、新学習指導要領完全実施の直前の時期に、全国各地から多くの教員が参加していただき、大変熱心な取り組みぶりを目の当たりにして、未来教育への期待を感じることができ、大変有り難く感じた。運営面においてはマイクの性能、エアコンの調整、PCの管理不足等いくつか不手際があり、講師並びに参加者に迷惑をかけたことを反省した。力不足をお詫びしたい。
- ・受講者からは、コンピテンシーと従来の学力、プロジェクト学習と従来の調べ学習、コーチングとティーチング等それぞれの違いを理解しながら、実際にワークショップを展開したことにより、多くのことを学んだという声が多数寄せられた。

日 時	平成23年3月5日(土)	時 間	9:30~16:30
主催等	未来教育シンクタンク	後援等	千葉県教育委員会 千葉大学(協力)
会 場	千葉大学教育学部 5号館5102教室		
参加者	指導主事等5名、一般教員38名、図書司書1名、看護師1名、学生5名 計50名		
ワークショップのプログラム			
題 材	「イメージ・言葉」		
目 的	子どもが日常において言語を豊かに活用するために — いろいろな人と夢をかなえられるように		
目 標	教師がつくる、教師のための 「こうすれば子どもがイメージしたものを言葉にしたいくなる！アイデア集」 をつくる		

1 効果・感想

(1)参加者について

- ・来年度からの新学習指導要領完全実施を直前に控え、千葉県内だけでなく、他県の教職員や教職関係者が多く参加した。それぞれが課題意識をもって参加したのでたいへん有意義なものになった。
- ・横浜市、富津市の2校の小学校は管理職を含めて学校ぐるみで参加した。このことは、プロジェクト学習に対して強い関心を示していることの現れである。
- ・指導主事や教育委員会関係者の参加もあり、今後の鈴木敏恵先生とのつながりやプロジェクト学習への取り組みを望んで終わることができた。新学習指導要領の完全実施に先立ち、未来へつながるプロジェクトの始まりを感じることができた。

(2)研修会の主催について

- ・主催に千葉県教育委員会も加わってもらったことで、広くPRすることができた。
- また、平成22年度千葉県視聴覚教育研究大会で、君津地区の富津市立竹岡小学校がプロジェクト学習の授業を公開したこともあって、袖ヶ浦市、木更津市、君津市、富津市全校に案内を配付することができた。さらに、シンクタンク未来ビジョン全国大会の過去の会員への案内や、教科書会社等のサイトに案内を掲載することで、全国に告知することができた。
- ・主催は、シンクタンク未来教育ビジョンが行い、研修はシンクタンク未来教育ビジョンがリードして進めた。

(3)題材について

- ・新学習指導要領の改訂の大きな観点である、言語活動の充実に直接結びつく題材として「言語・イメージ」を取り上げた。
- ・目標を「こうすれば子どもがイメージしたものを言葉にしたいくなる！アイデア集」としたので、各教師のこれまでの経験と財産を活かすことの可能なものであり、互いの実践を振り返るよい機会となった。

- ・学生にとっては、現場の実践者に直接触れるよい機会となり、教職に就くモチベーションアップにつながった。
- ・言語活動という新学習指導要領の重点を取り上げたので、翌日から現場での実践に使える財産を得ることができた。

2 研修プログラムについて

(1)研修の流れについて

- ・始めに未来教育プロジェクト学習についての講義があった。コンピテンシーとは何か、ポートフォリオの良さ、新しい学力観との関わり、プロジェクト学習の概要や流れについて講義を受け、全体を「俯瞰」した。
- ・ワークショップに入る前のビジョンやゴールの確認等、全体を「俯瞰」することが講師のリードによりできていたので、ワークショップがスムーズに流れた。
- ・ワークショップのはじまりに、「意思あるチーム作り」の実践場面を観察することができたのはすばらしい経験だった。
- ・ワークショップの最中も鈴木先生のコーチングや手法の解説が入り、実際に指導する立場を考えながら、研修できた。また、参加者が自分たちの話し合いそのものを深めることができた。

(2)会場・環境について

- ・駅に近い施設だったので、たいへん便利であった。
- ・大学が春休み中だったので、学内で昼食を準備することができなかったが、落ち着いた雰囲気の中で研修できた。ほどよい広さで、静かな教室だったので、リラックスしながら集中して取り組めた。

(3)準備物等について

- ・運営事務局が、準備物(模造紙・ペン・付箋等)を事前に用意しており、スムーズに会場準備を行うことができた。
- ・当日の配布資料はたいへん参考となるものであった。

全体の感想

- ・今回の研修では、学校教育を取り巻くキーワードである「これからの時代に必要な力」、「新学習指導要領」、「PISA 型学力」、「新しい教科書」、「活用力」、等が取り上げられ、新学習指導要領完全実施を直前に控えた今、多くの教職員が望んでいた研修であったと思う。
- ・ワークショップでは、参加した教職員からも、学校現場にプロジェクト学習やコーチングの手法を取り入れることの必要性を強く感じ、何とか少しでも持ち帰ってすぐに実践したいという気迫が伝わってきた。
- ・学習指導要領の改訂によって学校現場で求められている「学力」を高めるためのカギとなるのが「プロジェクト学習」や「コーチング」ではないかと強く感じた。そして、学習指導要領が目指す「生きる力の育成」をはかるためにはプロジェクト学習が不可欠ではないかと思う。また、「未来を描く」ということや全体を俯瞰してから目的と目標を明確にするということは、「人がよりよく生きる」点においても、大切にしたいことである。
- ・多くの教職員が多忙感を感じ、若手教員の育成が急務とされる今、「未来を描く」という発想は、人を元気にする魅力的な物である。決して飾らず、その場にいる人全員が同じゴールに向かって知を結集し、ともにゴールを目指すという研修スタンスからは、プロフェッショナルとしての聡明で一途な想いを感じさせられた。

シンクタンク未来教育ビジョン メンバーリスト



<代表者>
鈴木 敏恵

◇当該委託事業における統括責任者
千葉大学教育学部特命教授
中央防災会議専門委員（内閣府）
メディアキッチン 代表取締役
横浜建築研究所 取締役

オフィシャル HP <http://www.suzuki-toshie.net/>

<スタッフ>



安藤 宏幸（副代表）

◇当該委託事業における / 副代表（債務責任継承者）
愛媛県西条市多賀小学校校長
平成 21 年西条市教育委員会学校教育課長



若槻 徹

◇当該委託事業における予算及び情報管理 / 総合責任者
島根県教育委員会義務教育課指導主事



川崎 弘佳

高知市立昭和小学校教頭（副代表）



吉川 貴士

◇当該委託事業における研修データ処理及び成果編集 / 責任者
（独）国立工業高等専門学校機構
新居浜工業高等専門学校機械工学科教授 博士(工学)



千羽 達也

◇当該委託事業における研修プログラム編集 / 責任者
愛媛県西条市立大町小学校研修主任



神原 一之

広島大学附属東雲中学校副校長



永島 俊之

千葉県富津市立竹岡小学校教務主任



長岡 豊

山口県岩国市立麻里布小学校
（平成 22 年度山口県優秀教員表彰）



入野 了士

◇当該委託事業における統計分析 / 責任者
高知大学医学部医学系研究科社会医学系専攻



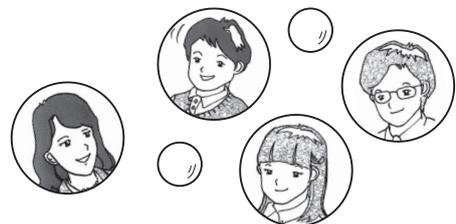
大野 睦仁

札幌市厚別通小学校
（平成 19 年度文部科学大臣優秀教員表彰）
（平成 18 年度第 5 回札幌市教育実践功績表彰）



加藤 由美

◇当該委託事業におけるコーチングイラスト / 責任者



<ネットワーク協力メンバー>

安藤 征治 岐阜市教育委員会教育長
南雲 成二 横浜市立西寺尾第二小学校校長
渡辺 保子 横浜市立三保小学校校長
宮下 章 横浜市立三保小学校教諭
井田 善之 横浜市立新田小学校教諭
菊池 健一 さいたま市立東宮下小学校教諭
秋山 晴人 札幌市立厚別通小学校校長
藤本 洋則 新潟市立総合教育センター
馬淵 郁子 岐阜県瑞穂市立西小学校校長
横山 直美 元瑞穂市立西小学校校長・
元岐阜市立華陽小学校教頭
篠田 邦江 岐阜県瑞穂市立西小学校教諭
松原 輝雄 岐阜県瑞穂市立西小学校教諭

長井 奈月 岐阜県立郡上特別支援学校教諭
服部 和也 岐阜教育事務所学校職員課課長補佐
安田 幸典 岐阜市立岩小学校
歳藤 幸弘 岐阜市科学館
野村 慎一 岐阜市立長森北小学校
反町 京子 千葉県四街道市立みそら小学校教頭
鴨下 隆 千葉県我孫子市教育委員会指導主事
稲益 義宏 福岡市立愛宕小学校教諭
鹿島 幸宏 東京都小平市役所職員（元教育委員会）
豊田 勇知 早稲田大学教育学部 2 年

特別顧問：関根 秀昭

本事業報告書について

文部科学省「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」採択事業

事業名：

平成22年度「民間やNPO法人の発想・手法を活用して、新しい授業の在り方や指導方法を構築するための調査研究」

事業の趣旨：

本事業は、子どもたちの学力向上のための諸課題について、メニューを設定し、民間団体等がその専門的な知見やネットワークを活用して学校や教育委員会等と連携しつつ先導的な取組を行うことを支援し、その取組を収集・普及することで子どもたちの確かな学力の育成を図るものである。

事業の内容：

各教科等における言語活動を、課題解決能力やコミュニケーション能力、批判的な思考能力などの育成に効果的につなげるための取組事例の収集及び授業改善のあり方や教材、教員への研修手法等の研究・開発を、学校や教育委員会等と連携しつつ実施する。（文部科学省ホームページより抜粋）

採択されたテーマ：

『各教科等における言語活動を重視した課題解決能力の獲得を可能とするプロジェクト学習とポートフォリオによる授業の実践事例の調査研究及び教員研修プログラムの開発』

--- コーチング指導による「コンピテンシー育成」を目指して ---

- | | |
|-------|-------------------------|
| ■発行 | 行：2011年3月 |
| ■編集 | 集：シンクタンク未来教育ビジョン |
| ■発行責任 | ：シンクタンク未来教育ビジョン代表 鈴木 敏恵 |
| ■印刷所 | ：江森印刷所 |

無断複写・転載を禁じます。

知性と感性を育てるシンクタンク

未来教育ビジョン